

**福岡県立大学中期計画に関わる
自己点検・評価報告書**

平成27年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 <p>1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6 評価及び情報公開:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	<ol style="list-style-type: none"> 1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員
の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成24年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	渡 橋 正 博	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和45年 6月 文部省入省 昭和61年 9月 九州大学人事課長 平成16年 6月 国立大学法人名古屋大学理事事務局長 平成17年 4月 学校法人産業医科大学常務理事 平成26年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	武 田 清 一	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和43年 5月 福岡県採用 平成15年 4月 教育庁財務課長 平成18年 4月 私学振興課長 平成20年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻 生 泰	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和54年12月 麻生セメント(株)取締役社長 昭和56年 4月 (社)経済団体連合会理事 昭和59年 4月 (社)セメント協会副会長 平成 2年 4月 (社)経済団体連合会評議員 平成 8年12月 飯塚商工会議所会頭 平成11年 1月 慶應義塾監事 平成13年 8月 新・麻生セメント(株)代表取締役社長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年 6月 (株)麻生 代表取締役会長 平成25年 6月 (一社)九州経済連合会会長
理事(学外)	芳 賀 晟 壽	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	石崎龍二	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成5年3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成6年4月 福岡県立大学助手 平成12年4月 福岡県立大学助教授 平成25年4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松浦賢長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	古本栄一	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成6年4月 弁護士開業 平成21年2月 古本法律事務所開設 平成24年4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	本田征洋	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和44年9月 昭和監査法人入所 昭和53年7月 監査法人中央会計事務所入所 昭和54年4月 公認会計士・税理士本田征洋事務所開業 平成18年4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
教員数	常勤(正規)	105人	109人	110人	110人	110人	102人	
	内訳	教授	31人	30人	28人	26人	28人	23人
		准教授	30人	31人	28人	34人	32人	31人
		講師	16人	19人	25人	20人	20人	22人
		助教	6人	12人	15人	17人	19人	21人
		助手	22人	17人	14人	13人	11人	5人
	非常勤講師	65人	115人	109人	125人	134人	123人	
合計	170人	224人	219人	235人	244人	225人		

教員数増減の主な理由

常勤(正規)教員数が減少しているのは、平成25年度で退職した教員の補充ができなかったことによる。
非常勤講師数が減少しているのは、大学院看護学研究科において未開講科目があったこと等による。

(3)職員			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	21人	20人	20人	18人	15人	13人
		プロパー	0人	0人	0人	2人	5人	7人
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		計	21人	20人	20人	20人	20人	20人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	7人	8人	8人	10人	11人	11人	
	合計	29人	29人	29人	31人	32人	32人	

職員数増減の主な理由

(4)法人の組織構成

別紙のとおり

3. 学生に関する情報

関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a) × 100	定員充足率の推移 (%)					
					21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人間社会学	計	630名	714名	113%	117	117	118	116	115	113
内訳	人間社会学部	600名	687名	115%	117	116	118	117	116	115
	公共社会学科	200名	232名	116%	113	116	118	118	119	116
	社会福祉学科	200名	235名	118%	119	116	116	117	116	118
	人間形成学科	200名	220名	110%	119	118	120	116	115	110
	大学院 人間社会学研究科	30名	27名	90%	110	130	120	90	90	90
看護学部	計	364名	365名	100%	102	102	99	100	102	100
内訳	看護学部	340名	343名	101%	102	104	101	99	102	101
	看護学科	340名	343名	101%	102	104	101	99	102	101
	大学院 看護学研究科	24名	22名	92%	108	83	79	108	104	92

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

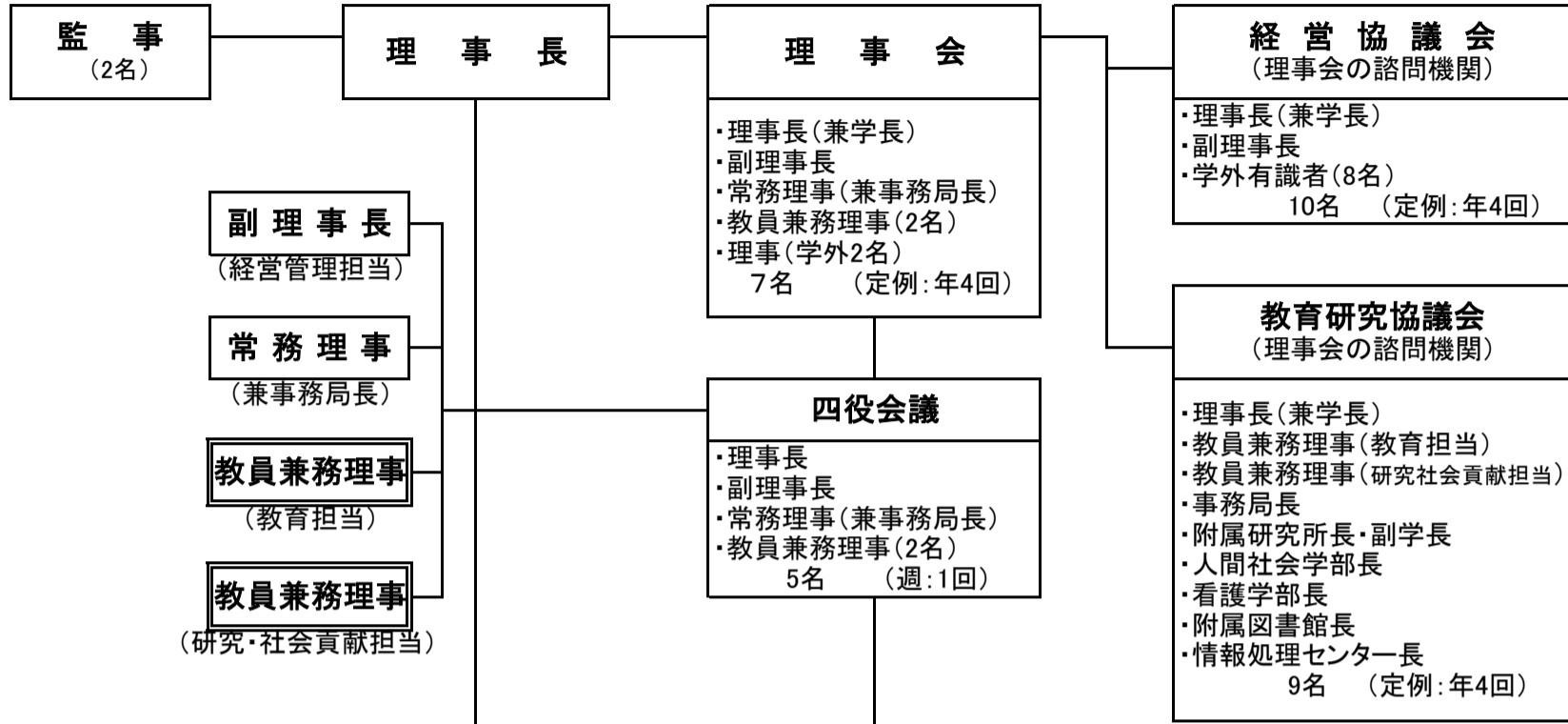
4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田洋三郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	渡橋正博	平成26年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉一明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	伊藤信勝	平成26年4月1日～平成28年3月31日	田川市長
	川上鉄夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原守	平成26年4月1日～平成28年3月31日	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 法人顧問
	清澤亨	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋藤明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	独立行政法人大学入試センター 監事
	佐渡文夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	田川商工会議所 会頭
	吉村恭幸	平成26年4月1日～平成28年3月31日	(一財)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田洋三郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	理事長
学部長	田中哲也	平成26年4月1日～平成28年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	永嶋由理子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	石崎龍二	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事
	武田清一	平成26年4月1日～平成28年3月31日	事務局長
	田中美智子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	情報処理センター長
	福田恭介	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属研究所長
	細井勇	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属図書館長
	松浦賢長	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事

公立大学法人福岡県立大学組織図

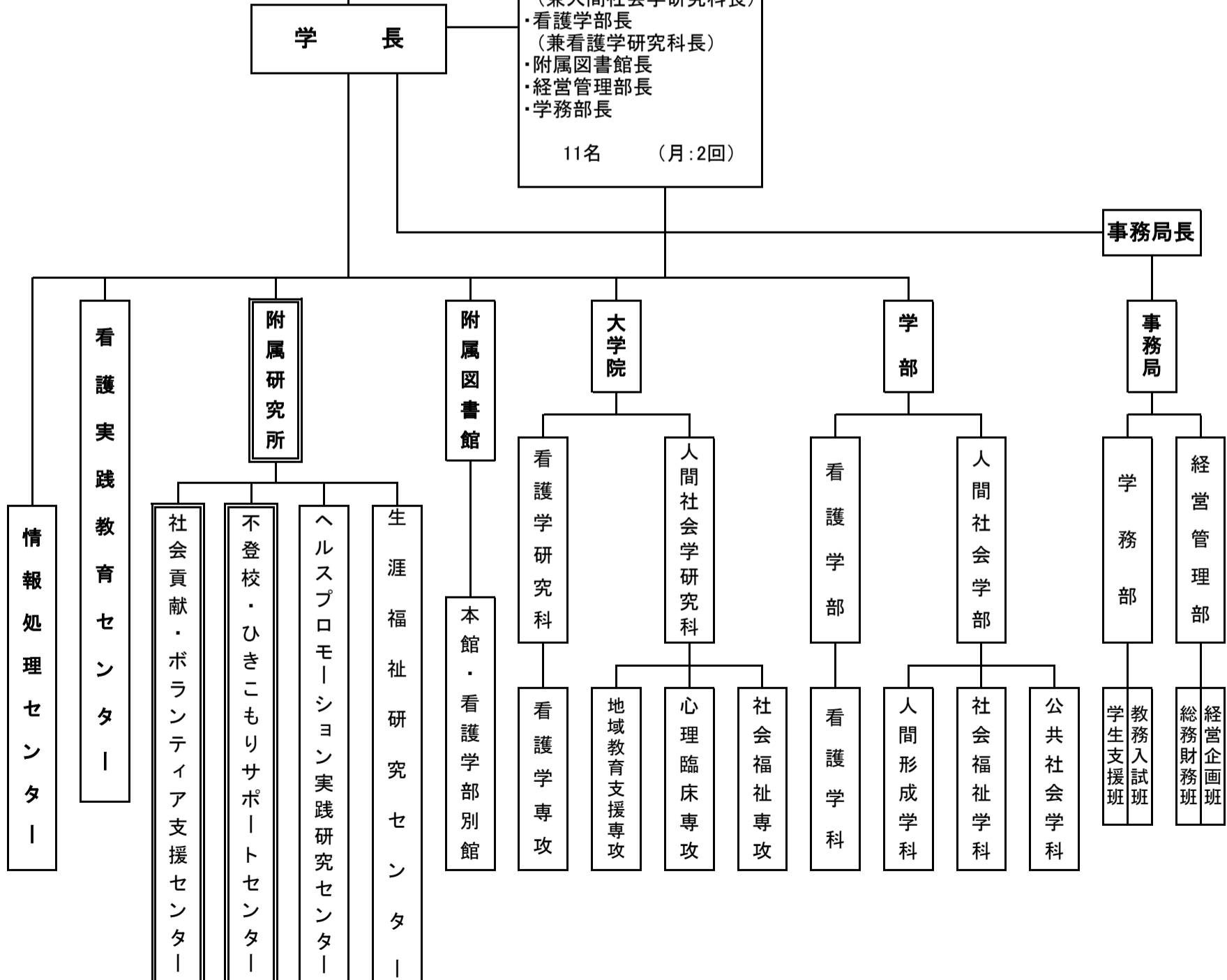
平成26年4月1日現在

 : 理事長指名の役職者

法人



大学



全体評価

法人自己評価

I 全体

学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。ガバナンス改革として、全部会を主要5委員会の下に位置づけ、意志決定のプロセスを明確にし、委員会・部会を活性化しました。教員個人業績評価における学長裁量枠を確保し、新たな評価方法によって個人業績評価を行いました。

入口管理は、質の高い学生確保のために、入試広報活動をホームページ改革を中心に積極的に行い、オープンキャンパス(3回)、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。さらに、高校教員との情報交換会を2回実施しました。その結果、平成26年度のオープンキャンパスの参加者は目標の140%に達し、平成26年度入学者選抜試験における学部実質倍率は3.3倍となり、辞退率については20.9%という低率を達成しました。

出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は98.7%、助産師100%、保健師100%、社会福祉士78.9%、精神保健福祉士88.5%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有をはかり、その結果、就職率は97.8%と高い水準を達成しました。

教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部の専門領域を学ぶプログラム(4回授業)などを継続して実施しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、119コースを開設し、学生の利用率は88.1%となりました。教員の教育能力向上のFD活動を推進し、大学院FDの充実をはかる共に、学部では5回のFDセミナーを開催し、教育の質の向上に取り組みました。その結果、FD研修会等への教員参加率は94.9%となりました。学生の成績評価では引き続きシラバスの改善とGPA制度を実施し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰し、一方、GPA低得点の学生全員を面接指導しました。

研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は64,732千円、平成27年度科学研究費応募率は92.1%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターからなる調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。査読付き論文数は49件、招待講演等の学会発表数は6件となっています。

研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)と交流協定を締結している海外の5大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究奨励交付金制度を導入・開始し、さらに大学院生の研究助成及び学会発表支援についても開始するなど、研究を積極的に推進してきました。「教員免許状更新講習」は継続して実施しました。

公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動であります。地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。

国際交流は、南京(ナンキン)師範大学、大邱(テグ)韓医大、北京中医薬大学(中国)、三育大(韓国)、コンケン大(タイ)と学生交流を中心に積極的に実施し、受入留学生は16名となりました。また、短期研修制度(学生派遣)を大邱韓医大において初めて実施することができ、本学学生15名が参加しました。

総合的には、法人化中期計画第2期の3年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。

II 中期目標項目別

1 教育

1. 教養教育の充実については、教養科目の新たな区分を検討・決定しました。また、スキルアップゼミについては4コースを開講しました。教養演習英語クラスを後期に開講しました。看護学部2年生の英語クラスを後期より能力別編成に変更しました。また、27年度より看護学部・オールコミュニケーションII(英語)を、これまでの2クラスから3クラスに再編成して実施することを決定しました。
2. 両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では、教員組織を学科制からコース制へと再編し、専門性を重視した人的配置を決定するとともに、必要な採用人事を行いました。看護学部では、新カリキュラム3年目の前期・後期新科目と変更科目について、担当教員から聞き取りを行いました。また、学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、次年度の授業改善について検討しました。東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムである「東洋看護学演習(正規授業)」を開講し、これを踏まえ来年度に向けた体制を学系調整会議等で検討・決定しました。実習教育の充実のため、人間社会学部では実習教育の現状を再検討し、問題を改善しました。事前事後指導を全ての実習に関して開講しました。看護学部では実習指導者連絡会議の開催や事後指導の充実などに取り組みました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、両学部で学ぶ専門的連携科目の実施及び他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラムの実施を進めました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学部研究科ではカリキュラムの見直しに入り、科目担当者の変更等を行いました。看護学研究科では専門看護師コースの充実の一環として、「老年看護コース」「助産学コース」の申請を行い、それぞれ認可を得ました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では高度なインターンシップ活動について、連携8大学を中心として新たなモデルプログラムの開発を行いました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、予定を早めて8大学の単位互換制度を導入しました。
3. 学生による授業評価アンケートによる授業改善について、学部FD部会と教務部会による合同会議を開催し、授業評価アンケートの活用について協議しました。FDセミナーを開催し、授業評価アンケートにおいて総体的に評価が低い項目を補強するための教員研修を行いました。学生座談会を開催し学生のニーズ把握を行い、教員間で共有しました。
4. アウトカム評価システムに従って、卒業生アンケート及び就職先アンケートを実施し、結果の分析を通して、教育に反映させる点を明らかにしました。人間社会学部では、就職先アンケートの結果を分析し、次年度の実施に向けてアンケート項目の修正や拡充等を検討しました。また、卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートについて、毎月結果分析を行い、学内組織を通じて情報共有を行うとともに、キャリア支援を進めました。看護学部では、卒業生アンケートを実施し、結果の分析から課題と修正点を明らかにしました。その上で、国家試験模擬試験の結果を分析し、試験対策の集中補講を実施しました。また、成績低迷者等に対して、強化プログラムを実施し、ゼミ担当教員と協力し、学生の精神面のサポートを行いました。その結果、両学部とも国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。

5. 教員の教育能力の向上については、両学部でFDセミナーを開催しました。授業参観および公開授業を実施しました。両研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。大学院FD活動には全教員が取り組みました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部では合同研修会、研究大会を行いました。看護学部では合同講習会、研修会を開催しました。
6. 優秀な学生の確保については、入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行いました。新たな高大連携事業の一つとして、高校教諭との情報交換会を2回実施しました。人間社会学部改革に基づいた人間社会学部アドミッションポリシー(再訂版)を作成しました。大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、入試説明会や高校訪問の改善について検討しました。大学紹介パンフレットの内容を、全学横断的プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善しました。
7. 学生支援の充実については、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深め、きめ細かなキャリア形成支援を行うために、これまでの部会を改組して学生委員会の下に進路・生活支援部会を新設しました。大学間の学生コンソーシアムを構築して学生間の交流を促進することに取り組みました。大学院生への支援として、研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を構築し、実施しました。
8. 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。社会人が学びやすい学習環境の充実のため、博多サテライト教室の利用を中止し、同等の利便性のある(公財)九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」の利用を開始しました。図書館看護学部分館に設置されたラーニング commons の運用を開始しました。また、機関リポジット導入のための、指針を定めました。
9. 人間社会学部の改革としては、「全学横断型教育プログラム」を通した新履修コースを開設するために、平成27年度より教員組織の学科制(3学科及び一般教育等)を廃止するとともに生涯福祉研究センターの人事枠を無くし、「人間社会学系」の1組織として運用することを決定しました。また、平成27年度より、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、上記のプログラムを通した新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設することとし、そのための人員配置を決定し、プログラムのために必要な教員確保のための採用人事を行いました。
10. 両学部連携の大学院博士課程の新設については、選択と集中という考えをもとに本学における博士課程開設の妥当性を再度議論する必要があるとの観点から、改革推進委員会等で議論を重ねました。

実施事項別評価は、Aは2項目、Bは22項目とします。

2 研究

1. 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討するため、各センターが学内外の取組状況の確認を行いました。産学官連携のニュースを学内メールで公報するとともに、田川地域包括連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施するため、福岡県立大学・田川連携推進協議会を開催し、各市町村からの確認をとりました。協定校等と研究者等の交流促進については、北京中医薬大学の教員2名が集中講義のため来学した際に、共同研究の可能性と担当教員について検討しました。学際的研究プロジェクト数が5件、産学官連携契約件数が2件、学際的研究プロジェクト成果発表会が4回となりました。また、提携協定校との共同研究数は2件、招聘件数は1件(2名)となりました。
 - ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が92.1%、科研費獲得件数38件、金額が64,732千円となり、目標を大きく上回りました。
 - ③ 研究倫理の徹底については、研究倫理委員会では委員1名が学外研修に参加しました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では、災害等における緊急時対応マニュアルを作成しました。

実施事項別評価は、Aは1項目、Bは2項目とします。

3 社会貢献

1. 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、研究奨励交付金によって共同研究を促進しました。後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。国際交流センターを開設しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が15名交流し、文化交流プログラムを3回実施しました。
 - ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、予定より早めて、三育大学校と大邱韓医大学にて実施しました(学生15名参加)。韓国の威徳大学との短期研修プログラム(派遣・受入)の調整を行いました。受入留学生数は16名でした。
 - ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、県立大学に所蔵されている世界記憶遺産登録絵画4点について英文翻訳を行いました。
2. 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく共同研究(3件)が実施されました。福岡県立飯塚研究開発センターと連携しながら本学教員と民間企業とのマッチングを図りました。ふくおか医療福祉関連機器・実証ネットワークに参加しました。県立三大学連携による公開講座を行い、131人の参加を得ました。
 - ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。健康教室は57件開催しました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。延べ2,788人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ1,856人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は67%と高い水準でした。横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を終えた学生(県大子どもサポーター)の対人援助職への就職率は86%、子ども対象施設に限ってみると36%であり、他の学生と比較して高い割合となりました。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が148件、活動学生数が延べ414人となりました。

- ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行ったスキルアップ講座は、直方市との共催事業として実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を9事業行いました。リカレント教育については、両学部合わせて60人の卒業生が参加しました。
- ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、公開講座を3コース、計9回実施し、実受講者数は94名でした。山本作兵衛コレクションについては、田川市と連携して保存管理計画(日本語版)を作成しました。山本作兵衛コレクションの展示については、4回行いました。
- ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行い、165人の参加を得ました。リカレント研修会の参加人数は400人、認定看護師コースの入学試験倍率は0.78倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、Aは2項目、Bは9項目とします。

4 業務運営

1 運営体制の改善については、以下の取組を行いました。

- ① 事務局機能の強化については、プロパー職員2名を採用し、経営企画班、学生支援班に配置するとともに、平成27年度プロパー職員採用試験を三大学合同で実施し、経験者1名の採用予定を決定しました。また、業務マニュアルについて、記載内容を整理するとともに、データ交換などにファイル共有システムを活用しました。さらに、事務職員の資質・意識の向上を図るため、公立大学協会の研修・セミナーに2名の職員を参加させるとともに、学内においても、26年度新規採用プロパー職員のSD研修を開催しました。
- ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、教員表彰(ベストティーチャー)の公募を行いました。該当者はありませんでした。また、平成27年度の実施に向け、平成25年度の常勤教員の授業担当科目数の実態調査をもとに、年間担当科目数の上限を制定し、担当科目数の平準化を行いました。
- ③ 教員の個人業績評価システムの改善については、平成25年度に見直した教員個人業績評価基準について、平成26年度分(27年度実施)からの導入に向けた周知を行いました。
- ④ リスクマネジメント体制の整備については、基本指針、危機管理規定を策定するとともに、自然災害や情報流出等、洗い出した28項目のリスクについて、リスク別の対応方法を整理しました。

実施事項別評価は、Bは4項目とします。

5 財務

1 自己収入の積極的な確保については、科研費申請繁忙期に臨時職員を雇用し事務処理を支援するとともに、外部研究資金公募情報をホームページに随時掲載しました。

また、科研費応募率向上のための研修会を開催するなどの取組により、外部研究資金等の獲得については科学研究費等の外部研究資金に加え、大型の教育等に関する外部資金の獲得により、目標数値を大幅に上回る事ができました。さらに、寄附金等を増加させるため、福岡県立大学基金の紹介文を「大学広報」に掲載するとともに、受託研究費の基金化について検討を行いました。

2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組を行いました。

- ① 業務改善による経費の削減については、物品購入等の発注方法の見直しにより、トナーなどの消耗品を発注し経費を削減しました。また、授業評価アンケート等大量の集中作業等についてアウトソーシング化を検討しました。
さらに、空調管理の徹底、証明の間引き、エレベータ稼働台数の削減、昼休みの消灯等を実施し、電気使用量を前年度比で6.8%削減しました。
- ② 人件費の抑制については、教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員(教授)1名の後任として、若手教員(講師)の採用を行うとともに、時間外勤務縮減の取組を実施し、事務局職員を対象に定時退庁日を設定し、実施しました。平成26年度時間外勤務時間数は、看護学部において前年度を上回ったため、前年度実績を下回ることができませんでした。

実施事項別評価は、A+は1項目、Bは2項目とします。

6 評価及び情報公開

- 1 自己評価の効率的な実施については、県評価委員会の評価結果を学内において審議し大学運営に反映しました。また、教員の実績報告書をホームページに掲載するとともに、認証評価受審のためのW.G.設置を検討し、27年度に設置することとしました。
- 2 広報活動の充実・強化については、ホームページの更新体制の充実と内容の掲載ページの検討を行いました。紙媒体の大学案内と大学広報を計4号発刊しました。出前講義は31回実施しました。メディアに取り上げられた回数は地方版が22件、全国版が2件でした。

実施事項別評価は、2項目ともBとします。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

- ・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、引き続き「両学部で学ぶ専門的連携科目」を開講し、「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」を実施しました。
- ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進め、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。海外提携協定校との共同研究2件、教員交流数15名の成果を得ました。
- ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を2名採用し、さらに翌年度1名の採用を決定しました。
- ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、山本作兵衛コレクション展をテーマ別に4回開催し、認知度アップに貢献しました。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
----------------------	---

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。	1 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。	1-1 【平成26年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、強化すべき教養科目のカリキュラムや科目内容を継続して検討する。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目開設を検討する。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善を実施する。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績： 教養科目全てを対象として C以上80%	1	【平成26年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、全教養科目（特に常勤教員担当科目）のうち、資格取得に関係しない科目を中心に、カリキュラムや科目内容を見直し中。また、教養科目の三区分けを決定。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目開設を検討した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースは以下のとおり開催した。 「スタートダッシュのための就活入門」(7月、受講者24名) 「スピーキングクリニック」(12月、受講者6名) 「初級日本語教授法講習会」(1月、受講者6名)(新規) 「くじけないための就活塾」(1月、受講者23名) また、就活塾受講者を対象にメールマガジンを週1回配信。(新規) ○目標実績 ・スキルアップゼミ4コースを開設 ・学生の成績：教養科目全てを対象として C以上 93.4%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		1

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 教養教育の充実の続き	<p>2【教養演習・総合科目の改善】 <両学部<の教養演習、総合科目></p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善</p> <p>②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・韓国語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> :全学の教養演習及び総合科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 :2科目増設</p>	<p>2-1【平成26年度計画】 【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成25年度教養テキストの内容・イラストを改善し、改訂版を作成する。 ○共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について継続して検討する。</p> <p><語学教育の充実> ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施する。 ○教養演習英語クラスを開講する。 ○平成24年度購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等を韓国語教育に積極的に活用する。同様に、中国語クラスにおいても異文化理解のためのDVD等を購入し、中国語教育、異文化理解の取組を本格的に実施する。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討を開始する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> 全学の教養演習及び総合科目において C以上80%</p>	1	<p>【平成26年度の実施状況】 【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の人間社会学部(人間形成学科)と看護学部の混合クラスを検討した。また、「教養演習担当者会議」を2回開催した。 ○学生編集委員会を中心に、平成26年度教養テキストの内容・イラストを改善し、改訂版を作成した。 ○共通テキストの大幅な見直しに関しては、前年度の案に沿って執筆者、ならびに依頼様式を検討した。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について継続して検討した。</p> <p><語学教育の充実> ○英語外部テストを、各学部・学科の1,2年生対象に1年生は年2回(4月, 1月)、2年生は年1回(1月)実施した。 ○教養演習英語クラスを後期に開講した。(受講者4名) ○平成24年度購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等を韓国語教育に積極的に活用。中国語クラスにおいても異文化理解のためのDVD等の物品購入を終了し、教育に活用。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討 26年度後期より看護学部2年生の英語クラスを能力別編成に変更した。また、27年度より看護学部・オーラルコミュニケーションII(英語)を、これまでの2クラスから3クラスに再編成して実施することを決定した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績: 全学の教養演習及び総合科目において C以上 98.9%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		2

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 専門教育の充実 専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。 看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。	1【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上 80%	1-1【平成26年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・二つのコースの専門科目の改善・充実を検討する。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実を検討する。 ＜人間形成学科＞ ・三つの「履修コース」の専門科目と資格免許科目の精選・充実を検討する。 ＜看護学部＞ ○3年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・カリキュラム検証委員会及び教務部会で、3年目の新たな科目と変更科目について担当教員から学習内容・課題の聞き取りを実施する。 ・学生からの意見聴取(前期・後期各1回)を行い、その意見をカリキュラムの授業内容に反映させる。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において：C以上 80%	1	【平成26年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 教員組織を学科制からコース制へと再編し、専門性を重視した人的配置を決定するとともに、必要な採用人事を行った。 ＜公共社会学科＞ ・二つのコースにおいて現在開講している科目の見直しと、国際理解のために必要な新設科目、他学科開設科目との調整について検討を行うとともに、卒業論文の評価基準の見直し、卒論指導シラバスの統一、卒論発表会指導の強化を行った。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実について検討した。 ＜人間形成学科＞ ・「心理コース」と「こどもコース」の専門科目と資格免許科目の精選・充実案を作成するとともに、来年度以降のコース専門科目・共通科目、廃止科目、新設必要科目等について検証し、新カリキュラムへの移行に伴う経過措置を検討した。 ＜看護学部＞ ○3年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・新カリキュラム3年目の前期・後期新科目と変更科目について、担当教員から聞き取りを行った。 ・学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、次年度の授業改善について検討した。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション及び、前期の1年生・3年生・4年生の実習前オリエンテーションにおいて強化を図った。また、後期の実習においても倫理意識の強化を図った。 ・1年生～4年生の前期科目において、倫理に関する(法律も含め)講義を実施した。また、外部講師による倫理講義についても実施した(12月10日)。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上 88.4%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3
	2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	2-1【平成26年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの実施とその評価・修正を行う。 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	1	【平成26年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムである「東洋看護学演習(正規授業)」を8/18-21に開講した。これを踏まえ、来年度に向けた体制を学系調整会議等で検討し、決定した。 ○目標実績 ・学生の成績：教育プログラム C以上 98.9%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		4

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。	3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目C以上80%	3-1【平成26年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 ○実習指導体制の実施を継続する。 ・臨床教授等の称号付与の実施、臨床助教の称号を運用する。 ・実習打ち合わせの充実(臨床との共同会議開催) ○看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ○実習の事前事後指導充実の検討 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・教育実習の事前・事後指導の内容について検討 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・実習指導の新体制の見直し開始する ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習の種類(保育所・施設・幼稚園)毎の問題点の検討 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%	1	【平成26年度の実施状況】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、従来の領域別の懇談ではなく「よりよい実習にするために」というテーマで全体ディスカッションを行った。(9月16日) ○実習指導体制の実施を継続する。 ・称号付与は従来通り実施、臨床助教の称号を追加して要綱を改正した。(平成27年度から施行) ・実習打ち合わせは各領域で臨床と随時実施した。 ○学びのカルテを利用し各領域で確認しながら実施するよう実習運営会から再度教授会等で通知。領域毎に内容の見直しを通知した。 学びのカルテをeラーニングに移行した(3月)。H27年度4月から稼働予定。 ○7月に3年生全体に対し、実習事前オリエンテーションを実施。事後指導は各領域で実習毎に実施した。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定した。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・学生の実態に即して担当者、学科長、担当助手で協議をすすめ、教育実習事前事後指導、模擬授業対策を重点的に実施し、現場を意識した教育を徹底した。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・新たに教員1名を配置し、実習指導体制の強化を図るとともに、社会福祉士、精神保健福祉士、学校ソーシャルワークの各実習において、「実習の手引き」の改訂・作成、新たな実習先の開拓、実習教育プログラムの見直しなどを行い、最終的に学科でその内容を確認した。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・学生の実習への意識を高めるために、後期末の実習の説明会を7/31に行った。また、実習の種類(保育所・施設・幼稚園)毎の実際の理解を深めるために、異学年合同授業を12/18に実施した。 ○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 1回開催 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目4科目 100% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上 94.4%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		5

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。</p> <p>②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。</p> <p>③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。</p> <p>④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%</p>	<p>4-1【平成26年度計画】</p> <p>【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」4講義の実施と平成27年度からの単位化案の作成</p> <p>○「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)を充実を図りながら実施</p> <p>○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施</p> <p>○社会貢献論演習における成果の社会貢献フォーラムにおける発表</p> <p>○公開卒論発表会の実施</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%</p>	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」4講義を実施した。</p> <p>「スクールソーシャルワーカーの仕事」(11/26, 50名)</p> <p>「子供と関わる時」(12/3, 42名)</p> <p>「医療現場における倫理－患者の人権と医療従事者の役割」(12/10, 50名)</p> <p>「子宮頸がんや乳幼児の予防接種－被害と現状－」(12/10, 33名)</p> <p>平成27年度から開講する科目「専門職連携入門」の単位化に向けた実施案を作成した。</p> <p>○「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」受講者115名、「社会貢献論演習」受講者5名、「不登校・ひきこもり援助論」受講者177名、「不登校・ひきこもり援助応用演習」受講者11名)の充実を図りながら講義を行った。</p> <p>○「海外語学実習事前指導」と「海外語学実習」(受講者23名)を実施した。</p> <p>○社会貢献論演習における成果を社会貢献フォーラムで発表した。(1/27, 参加者:学生17人, 教職員10人, 学外者3人)</p> <p>○公開卒論発表会(人間社会学部)を実施した。(2/3, 外部参加者17人)</p> <p>○目標実績 ・学生の成績: C以上 100%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		6

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	5 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率 (入学者数) / (入学定員) : 100%	5-1 【平成26年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・人間社会学部の改革方針を踏まえ、中期的なカリキュラム充実案の検討を開始する。 心理臨床専攻 ・資格認定協会の実地視察の結果を踏まえて施設の改善を検討する。 ・資格認定協会の実地視察の結果を踏まえて必修科目の担当者分担を協議する。 ・アンケート調査の結果に基づき、開講科目の検討を行う(新設、科目名・講義内容の変更など)。 社会福祉専攻 ・「障害者福祉研究」「子ども家庭福祉研究」「福祉制度比較研究」を開講し、教育内容の充実を図る。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 : 100% 心理臨床専攻 : 100% 地域教育支援専攻 : 100%	1	【平成26年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・人間社会学部の改革方針を踏まえ、中期的なカリキュラム充実案の検討を行った。 心理臨床専攻 ・資格認定協会に、施設改善に関する変更案を提出し了承された。変更案に基づき、心理学実験棟全体を心理教育相談室とし、心理学実験施設を他に移設する計画を来年度より実施することを決定した。 ・資格認定協会の実地視察の結果を踏まえて、必修科目「臨床心理学特論」の分担担当者を決定した。 ・アンケート調査の結果に基づき、「臨床心理査定演習」「臨床心理面接特論」の担当者を変更する。変更時期は、国家資格化の動向を踏まえて判断することを決定した。 社会福祉専攻 ・「障害者福祉研究」「子ども家庭福祉研究」「福祉制度比較研究」を開講した。 ○目標実績 ・充足率 (入学者数) / (入学定員) 社会福祉専攻 : 66.7% (4人/6人) 心理臨床専攻 : 133.3% (8人/6人) 地域教育支援専攻 : 0% (0人/3人)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻、地域教育支援専攻において定員に満たなかった。土日開講の実施など、社会人にも学びやすい環境の整備に向けた検討を行っている。		7

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	6 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築 ○達成目標 ・充足率（入学者数）／（入学定員）：100%	6-1 【平成26年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・精神看護専門看護師コース開講 平成27年度に臨床看護学領域専門看護師コース(精神看護専門看護師)(38単位)教育課程の認定申請を行う為、その準備を行う ・老年看護専門看護師コースの認定審査申請：申請書類を準備し、平成26年7月に申請書類提出を行う。 ・がん看護専門看護師コースの充実(継続)：臨地実習に関する申し合わせやルール作りを充実する。38単位コース申請に向けた情報収集を行う。 ・助産学コースの設置申請：平成27年度開講に向け、5月文科省申請など開講準備や教育環境の整備を行う。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド参加継続 ・eラーニングクラウド開講科目受講(1科目以上/学生1人) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 ○修士修了生の支援について、平成27年度実施に向け検討する。 ○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催(5回/年以上) ・充足率(入学者数)/(入学定員):100%	1	【平成26年度の実施状況】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・精神看護専門看護師コース(38単位)の認定審査申請について、準備を進めた。 ・老年看護専門看護師コースの認定審査申請については、1月31日付けで承認された。27年度開設へ向けて準備を行った。 ・がん看護専門看護師コースについては、臨地実習に関する申し合わせやルール作りを実施。38単位コース申請へ向けて情報収集を行った。 ・助産学コースの設置については、8月29日付けで承認を受け、27年度開設へ向けて準備を行った。院生室等の環境整備を実施した。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続) 研究支援他16件実施 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド参加を継続した。 ・eラーニングクラウド開講科目受講については、該当者なし(1年次科目のため。本年度は入学者無し) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加については、テレビ会議2回、西日本がんプロシンポジウム参加(10月18日、福岡市)、及び第二期がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン中間シンポジウム参加及び発表(2月2日、九州大学)を行った。 ○修士修了生の支援について、平成27年度実施に向け検討する。 現在、CNSコース修了生に対して行っている専門看護師認定申請の支援をさらに3コース(がん、精神、老年)に広げるとともに、研究コースに関しても継続的な支援内容に関して検討を行った。 ○目標実績 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催：5回実施 ・充足率(入学者数)/(入学定員)：83.3%(10人/12人)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 志願倍率や充足率を高めるための検討資料として教員から意見を募り、その分析等を行い今後の方向性を検討する部会を大学院学務部会と共同で設置した。助産学コース及び老年看護専門看護師コースの開設に伴い、志願者・入学者は増加したが、定員を充足するまでには至らなかった。	No.1 「②入学者選抜試験(大学院)」	8

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>7【他大学との連携による教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> <p>①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。</p> <p>②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 ・テレビ会議 2回以上/年 	<p>7-1【平成26年度計画】</p> <p>【他大学との連携による教育の充実】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について、23大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムの検討を行う。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページを更新し、ニューズレターを発行する。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う ・キャリア像確立講義を段階的に実施する ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を実施する。 ○単位互換を担当する統一コード化部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う ・連携大学での講義の相互受講を平成27年度実施に向け検討する。(国際協力看護領域及び災害看護領域で段階的に実施) ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるようコンテンツ化する。 ・新規付加価値コース授業群を検討する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を試験的に実施する ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を検討する。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 ・テレビ会議 2回以上 /年 	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」連携23大学の中のインターンシップグループ校8大学を中心として「効果的かつ持続可能なインターンシップモデルプログラム」の開発を行った。この成果報告会を11月29日(土)に開催した。学生が長期休暇を利用したインターンシップを郷里で実施する体制作りの足掛かりとして、下関市立大学との連携によるインターンシップの取組を実施した(9月)。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を5回、学長会議を1回開催した。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページは随時更新し、ニューズレターを2号発行した。 ・外部評価委員会による事業評価を1回実施した。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義 I、II のコンテンツを完成させ、3月より受講受付を開始した。 ・ナーシングキャリアカフェを21回開催した。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査について、平成24年度離職率調査を実施した。回収率は51.3%(152病院中78病院)。 ・就職先調査は3月に調査を開始した。締め切りは27年度4月である。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会(旧:統一コード化部会)を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での講義の相互受講を開始した。 ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部についてコンテンツ化した。 ・新規付加価値コース授業群が完成し、内容を反映した特別聴講学生募集要項が完成した。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修をそれぞれ1回ずつ実施した。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修として、島嶼保健看護研修を実施した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :3科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 6回/年 ・テレビ会議 2回/年 	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8大学の単位互換制度を年度を早めて実施することができた。 ・連携大学での講義の相互受講については、10月に単位互換協定を締結した。11月より国際協力看護領域の授業のVOD収録を開始し、12月から2月にかけて配信を実施した。受講生は6名で、本学より1名の学生が参加した。 ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信にコンテンツを完成させた。 ・新規付加価値コース授業群が完成し、内容を反映した特別聴講学生募集要項が完成した。平成27年度より単位互換・相互受講を開始するため、3月より受講生募集を開始した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	9	

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 教育効果を検証するシステムの構築	1 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 ：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上	1-1 【平成26年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ・授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価の利用に関するFDセミナーの開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施する。 ○学生による授業評価をFDにつなぐ「評価システム」の一部としてのFDセミナーを実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価アンケートを前期と後期に実施した。 ・授業評価アンケートによる授業改善目標の設定等について、3月3日に学部FD部会と教務部会で合同会議を開催して協議した。 ○授業評価アンケートのなかで、相対的に評価が低い項目を補強するためのFDセミナーを、以下のとおり開催した。 学生相談室共催FDセミナー(11/26) 「学生支援のための連携」講師：本学教員2名 学部FDセミナー(2/26) 「〈新しい能力〉とその形成・評価をめぐって」講師：外部講師1名 ○学生による授業評価アンケートや授業のあり方に関する意見を聴取するため、学生座談会等を全学科で実施した。 ○学生による授業評価アンケートと教員自己評価を表裏一体としたものを「評価システム」としてとらえ、学部FDセミナーにて議論した。 ○目標実績 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催：1回 ・学生による授業評価の回収率：各授業科目の回収率 86.1%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		10

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 教育効果を検証するシステムの構築の続き	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 ○数値目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上	2-1【平成26年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムを実施する。 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを継続的に実施する。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度の実施に向けて結果を反映させる(アンケート項目の修正や拡充)。 ・各学科及びキャリアサポートセンター間でキャリア支援に関する情報を共有するとともに、効率的な役割分担を進める。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートを早期に実施する。 その結果に基づきキャリアサポートセンター等と連携して学生への情報提供や個別指導を行う。 ・卒業生アンケートの実施・修正を行う。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケート等により教育ニーズを把握するとともにきめ細かな国家試験対策を行う。 ・就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握する。 ・国家試験不合格者に対して、定期的に(6月・11月)連絡をとり、個々に応じた支援を行う。 ・ゼミ担当教員と連携し、病院・施設の情報提供や就職相談を実施する。 ・国家試験対策として定期模試を実施する。 ・模試の結果を分析し、強化すべき領域の補講を全体および個別に実施する。 ・成績低迷者向けの強化プログラムを実施する。 ・ゼミ担当教員と連携し、精神面のサポートを行う。 ・卒業生アンケートの実施・修正を行う。 ○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上	1	【平成26年度の実施状況】 ○アウトカム評価システムを実施する。 ・アウトカム評価システムに従って、卒業生アンケート及び就職先アンケートを実施し、結果の分析を通して、教育に反映させる点を明らかにした。 ＜人間社会学部＞ ・就職先アンケートの結果を分析し、次年度の実施に向けてアンケート項目の修正や拡充等を検討した。 ・卒業予定者の就職活動状況について、ゼミ担当教員が各学生の状況を把握し、キャリアサポートセンターや学生支援班で情報集約を行い、学内組織等を通じるにより、情報の共有を図った。その後、各学科の就職活動時期に照らし合わせ、支援が必要と考えられる学生にはコンタクトを取り、情報提供や個別指導をキャリアサポートセンター等で行った。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートについて、毎月結果分析を行い、学内組織を通じて情報共有を行うとともに、効果的なキャリア支援を進めた。また、就職先の区分を進路・生活支援部会内で検討し、修正案を作成した。来年度から修正した区分で集計をする予定である。 ・卒業生アンケートについて、前回の結果を踏まえ、進路・生活支援部会内で項目の見直しを行った上で、平成24・25年度の卒業生に対してアンケートを送付し、結果を集計した。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケート等により教育ニーズを把握するとともにきめ細やかな国家試験対策を行う。 ・病院就職説明会(4月30日)で、就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した。 ・国家試験不合格者に連絡を取り、看護師国家試験受験希望者2名に対して個別指導を行った結果、2名とも合格した。 ・病院・施設の情報をメール・掲示で提供し就職相談を随時行った。 ・国家試験模擬試験を看護師6回、保健師6回、助産師5回実施した。 ・模試の結果を分析し、試験対策の集中補講を9月・11月・12月に実施した。 ・成績低迷者に対して、強化プログラムを11月より実施した。 ・ゼミ担当教員と協力し、学生の精神面のサポートを行った。 ・卒業生アンケートを実施、結果の分析から課題と修正点を明らかにした。 ○目標実績 ・アンケートの見直し：1回 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：97.8% (人間社会 96.6%、看護 100%) ・国家試験合格率 看護師：98.7% 保健師：100% 助産師：100% 社会福祉士：78.9% 精神保健福祉士：88.5%	A	【高く評価する点】 就職率及び国家試験合格率がいずれも達成目標を上回った。中でも社会福祉士については、全国平均27.0%に対して、78.9%を達成できた。 【実施(達成)できなかった点】	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」	11

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育能力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 ：教員間の授業参観を実施 年1回以上	1-1【平成26年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観システムのフォーム作成と試行・実施 ○公開授業の方法や効果的な実施に向けた課題の整理及び実施 ○教員の授業自己評価の実施・修正 ○達成目標 ・FD研修会等教員参加率：95% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	【平成26年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナーを5回にわたり実施し、各セミナーにおいてアンケートをとり、授業改善に活かされるか検証した。 ①学生相談室共催FDセミナー(11/26) 「学生支援のための連携」講師：本学教員1名 ②授業参観兼FDセミナー(12/18) 「発達障害を持ちながら生きていくこと」講師：外部講師1名 ③大学院FDセミナー(2/4共催) 「参加教員による報告会」講師：本学教員2名 ④大学院FDセミナー(2/6共催) 「大学院生を伸ばす教育技術とは何かー技術と技能の観点からー」講師：学部講師1名 ⑤学部FDセミナー(2/26) 「〈新しい能力〉とその形成・評価をめぐって」講師：外部講師1名 ○昨年度作成した教員間の授業参観システムのフォームをさらに改訂し、授業参観の実施に用いた。延べ16名が授業を参観した。 ○公開授業を2回実施し、参加者からのアンケートをもとに事前周知方法等の課題について改善策を学部FD部会で議論した。 ○前期・後期分の教員の授業自己評価を実施し、今後の進め方について学部FD部会にて検討した。 ○目標実績 ・FD研修会等教員参加率：94.9% ・学生の成績：両学部の常勤教員の全教科において C以上90.8% ・教員間の授業参観：延べ16回実施	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「FD」	12
		1-2【平成26年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催(各専攻1回以上) E学外の講師によるFDセミナーの開催(1回) E学外で開催されるFDセミナーへの参加(延べ2回以上) E学内の講師によるFDセミナーの開催(1回) ・大学院生へのアンケート実施(1回) カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催(1回) ・大学院生参画FD会議をもとにした関係機関への提案 EFD活動の整理と記録 ○達成目標 E大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：95% E大学院生の満足度：「中」以上：75%		【平成26年度の実施状況】 ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議を人間社会学研究科 各専攻1回、看護学研究科 2回 開催した。 E学外の講師によるFDセミナーを2月6日に開催した。参加者35名。 E学外で開催されるFDセミナーに延べ2回参加した。 E学内の講師によるFDセミナーを2月4日に開催した。参加者35名。 ・大学院生へのアンケートを1回実施した。 ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議を2月17日に開催した。 参加者 院生：人間社会学研究科3名、看護学研究科3名、教員：5名 ・大学院生参画FD会議をもとに関係部署へ提案し、検討結果を回収して今後の改善につなげることとした。 EFD活動の整理と記録をまとめ、FD活動報告書をまとめた。 ○目標実績 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：100% 大学院生の満足度：「中」以上：96.2%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数：年に1回以上	2-1【平成26年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施 ・教員と臨床教授等の合同講習会実施年1回以上 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を平成27年度実施に向け検討する。 ・臨床教授制(助教)を再整備して実施 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施(1件以上/年)	1	【平成26年度の実施状況】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの研修企画会議に参画し、研修担当校として、研修(9月15日、12月7日開催)及び研究大会(2月19、20日開催)を実施した。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 フィリピンの子供を支援するNGOの代表であるソル・バルベロ氏を招聘し、「フィリピンにおける児童家庭福祉とソーシャルワーク教育について」をテーマとしたブラッシュアップセミナーを社会福祉学科教員等に対して開催した。(7月31日、参加者11名) ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究は16件実施した ・教員と臨床教授等の合同講習会は、『『教える』コミュニケーション』というタイトルで、教員・実習指導者研修会を1回実施(9月16日)した。 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を平成27年度実施に向け検討を行った。 ・臨床教授制(助教)を再整備し、規程を改正した。(27年度から施行) ○目標実績 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究実施：16件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		14

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5 優秀な学生の確保 大学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定められた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 社会福祉学科 6.0倍以上 人間形成学科 7.5倍以上 看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上	1-1 【平成26年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について、平成27年度からの本格実施に向け分析を行う。 ・新たな高大連携事業を試行する。 ・人間社会学部改革案に基づき、アドミッションポリシーの変更を検討する。 <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討する。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科に新たに設置する助産学コースの入試説明会の実施 ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行った。 ・入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行った。 ・新たな高大連携事業の一つとして、以下の内容について、高校教諭との情報交換会を2回実施(8月18日、25日 計10校参加) ①高校生向けサマーセミナー(福岡県立大学での体験学習)について ②高等学校でのキャリア教育の取組について ③高等学校での「話す力・聞く力」を高める取組について 情報交換会で把握したニーズを踏まえ、ワーキンググループを設置し、平成27年度に行う「高校生向けサマーセミナー」に関する検討を開始 ・人間社会学部改革案に基づき、人間社会学部アドミッションポリシー(再訂版)作成 <大学院> ○大学院入試部会を4回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科に新たに設置する助産学コースの入試説明会を4回実施した。 (7/3(2年生)、7/31(全学年)、8/9(オープンキャンパス)、11/8(秋興祭)) ○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共社会学科 8.6倍、社会福祉学科 7.2倍、人間形成学科 8.1倍、看護学科 5.7倍 ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)): 20.9% ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員) :大学院における充足率 81.5%(22/27) ・出前講義数及びアンケート: 回数31回、良好評価94.5%	B	【高く評価する点】 ・充足率 看護学研究科においては、志願倍率や充足率を高めるための検討資料として教員から意見を募り、その分析等を行い今後の方向性を検討する部会を大学院学務部会と共同で設置した。助産学コース及び老年看護専門看護師コースの開設に伴い、志願者・入学者は増加したが、定員を充足するまでには至らなかった。 人間社会学研究科においては、土日開講の実施など、社会人にも学びやすい環境の整備に向けた検討を行っている。	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※5 優秀な学生の確保の続き	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	2-1【平成26年度計画】 【積極的な広報活動】 ○広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法の再検討を継続して行う。 ・受験生等の知りたい入試情報を提供するとの視点に立ち、高校訪問の実施方法の再検討を継続する。 ○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの作成・改善 ・メール配信について具体策を検討する。 ・ホームページの入試ページの内容を工夫し、情報アップロードの時期等を継続して改善する ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【積極的な広報活動】 ○広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法の再検討を継続実施した(11件, 199名参加 良好評価98.7%) ・受験生等の知りたい入試情報を提供するとの視点に立ち、高校訪問の実施方法を再検討し、継続実施した(32件, 276名参加 良好評価97.8%)。 ○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの内容を、全学横断的プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善した。 ・オープンキャンパスの開催日程を昨年より早めに掲載、シャトルバス時刻表の掲載など具体的な内容に変更した。 夏のオープンキャンパス(8/9)当日が台風の影響があったため、別途プチオープンキャンパスを実施した(8/23)。 ・アドミッションポリシーを変更し、入試ページの内容を盛り込んだ。 ○目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :参加者数 1,402名、良好評価95.5% ・入試説明会参加者数及びアンケート :11会場、良好評価98.7% ・訪問高校数及びアンケート :32校、良好評価97.8%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」 No.6 「オープンキャンパス」	16

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 :表彰の実施(年1回)	1-1【平成26年度計画】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人のカウンセラーと学生支援班で事例検討を実施する。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、教員とセンターの情報の共有化を図り、学生一人ひとりに対応したきめ細かなキャリア形成支援を行う。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1年次から2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過についてキャリア形成支援を実施する。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 :表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 ：利用者実数:250人以上、延べ1100件以上	2	【平成26年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人の外部カウンセラーと学生支援班で事例検討会を3回実施した。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深め、きめ細かなキャリア形成支援を行うために、これまでの部会を改組して進路・生活支援部会を新設した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を下記のように実施した。 1年次生:キャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ(4月開催、232名受講) 2年次生:キャリア形成支援講座Ⅲ(4月開催、173名受講) 3年次生:就職ガイダンス(10月から全16回開催) 4年次生:大学連携・若年者スタート応援事業(1月開催) ○プレ・インターンシップの充実に関しては、部署の異なる担当者の連携会議の開催(7回)、3年次のインターンシップ参加学生に対する事前指導の実施(2名)、プレ・インターンシップとインターンシップに関する協定書、自己紹介書等、受入先への提出書類様式を統一した。また、プレ・インターンシップ中間報告会(参加学生34名)、ポスターセッション(参加者66名)を実施した。プレ・インターンシップからインターンシップ(中長期を含む)につながった学生は8名。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を全学年の693名に配布するとともに、就業力に必要な8つの力を調べるアンケートを実施。プレ・インターンシップの履修学生は33名。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対するサービスとして、学生支援班から既卒者向けの求人情報や就職に向けたインターンシップの案内などをメール等で情報提供した。また、キャリアサポートセンターで既卒者向けの求人コーナーを設置し、既卒者支援の充実を図った。 ○優秀学生の表彰制度を実施した。GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施した。 ○目標実績 ・インターンシップ後のアンケート結果: 良好100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート: 良好評価 80.7% ・GPA制度の活用状況調査: GPA2.0未満の学生面接実施率 100% ・表彰制度の実施: 表彰を実施。 ・キャリアサポートセンター利用数: 利用者実数:203人、延べ889件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・キャリアサポートセンター利用数 就職活動スケジュールの後ろ倒しの影響等があると考えられる。	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
※6 学生支援の充実の続き	2	<p>【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。</p> <p>○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議 2回以上/年</p>	2-1	<p>【平成26年度計画】</p> <p>【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり</p> <p>○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催</p> <p>○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年、学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議年2回</p>	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり 12大学から13人の教員が学生コンソーシアム担当者として参加した。本学からは6名の教員が大学コンソーシアムに関わり、うち1名を学生コンソーシアム担当者とした。</p> <p>○学生コンソーシアム会議については、12回開催した。 ○学生フェスティバルは、3月22日に日本赤十字九州国際看護大学にて開催した。</p> <p>○目標実績 ・学生フェスティバルの開催: 1回 学生参加数: 県立大学から準備段階を含め延べ24名 ・学生コンソーシアム会議の開催: 対面会議 年12回</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		18
		3	<p>【大学院生支援の充実】</p> <p>①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。</p> <p>○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年</p>	3-1	<p>【平成26年度計画】</p> <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・長期履修生の履修計画等を踏まえ、相談体制を改善する。 ＜心理臨床専攻＞ ・H25年度実施したアンケートの結果を踏まえ改善点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・現在、各担当教員は学生のニーズや希望する開講・相談時間について合わせられるように調整している。今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。</p> <p>○研究助成金制度の検討 ・制度導入の課題について検討する。</p> <p>○卒業生の大学院入学減免措置の実施に向けた検討 ・一部実施に向けた検討を行う。</p> <p>○国内学会参加費補助金制度の検討 ・制度の実施に向けた課題を整理する。</p>	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・相談体制を改善するために、長期履修生の履修計画等を確認した。 ＜心理臨床専攻＞ ・H25年度実施したアンケートの結果を踏まえ、修士論文中間発表会以前に副査2名を決め、中間発表会時及びそれ以降に修士論文作成に向けて副査に相談できる体制を実施した。 ＜社会福祉専攻＞ ・学生の要望に沿った開講時間の変更や相談時間を設けることができるよう、担当教員単位で調整を行った。</p> <p>＜看護学研究科＞ ・学習環境・連絡体制・個別問題等、昨年度整えた体制の課題点について学務部会及びFD部会からの情報をもとに検討し、改善を図った。特に学習環境では、院生講義室及び院生室の再整備を行った。また博多サテライト教室で使用するビズコリの使用マニュアルの作成を行い体制を整えた。</p> <p>○研究助成金制度の検討 ・研究助成金制度を導入した。</p> <p>○卒業生の大学院入学減免措置の実施に向けた検討 ・一部実施に向け検討を行った。</p> <p>○国内学会参加補助金制度の検討 ・国内学会参加補助金制度を導入した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率：70%以上(平成26年度以降)	1-1【平成26年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会の実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 ○コース開設数調査の実施 数値目標 100コース開設 ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率の達成目標を前倒しで設定 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100コース ・学生の利用率：70%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討した。 ・教員向け講習会を2回実施(7/30, 参加者21名, 11/12, 参加者18名)し、動画コンテンツ作成のための手引きを作成、配布した。 ○eラーニングシステムの改善について検討した。 要望のあったアンケート機能の改変を行った、学生や教員にアンケートを実施し、動画の容量を10MBから100MBに変更した。 ○コース開設数調査の実施 前期53コース(他に学外2コース)、後期66コース(他に学外3コース)、全体で119コース(他に学外5コース)を開設した。 ○学生の利用率調査を実施した。 ・通年で全体901名/1023名(88%)、人間社会学部565名/683名(83%)、看護学部336名/340名(99%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数：119コース(他に学外5コース) ・学生の利用率： 通年で全体901名(88%)、人間社会学部565名(83%)、看護学部336名(99%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20
	2【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度：参加した社会人のアンケート調査における良好評価 70%以上	2-1【平成26年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数を平成25年度よりも増加させるための、研究科委員会でのディスカッションの実施。 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ○現在の博多サテライト教室と同等の利便性で、より低コストの施設の検討 ○両研究科の新入生及び在学生のオリエンテーションで博多サテライト教室利用マニュアルを周知 ○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトップページに掲載している「社会人が学びやすい学習環境の整備」の内容のインフォメーションを実施 ○研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数 2件以上 ・博多サテライト教室での授業参加者の全体満足度：普通以上70%、 両研究科学生の認知度：普通以上50%	1	【平成26年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数を平成25年度よりも増加させるための、研究科委員会でのディスカッションの実施。 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備について検討を行った。 ○現在の博多サテライト教室と同等の利便性で、より低コストの施設の検討に関しては、26年8月から(公財)九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」の利用を開始した。 ○両研究科の新入生及び在学生のオリエンテーションでの博多サテライト教室利用マニュアル周知に関しては、4月のオリエンテーションで旧サテライトについて実施した。新博多サテライトに関しては、27年度から実施の予定。 ○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトップページに掲載している「社会人が学びやすい学習環境の整備」の内容のインフォメーションを実施した。 ○研究生制度の積極的活用に関し、26年度研究生入学は無かった。次年度に向けて、HPなどでのインフォメーションの検討を行った。 ○目標実績 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数：4件 ・博多サテライト教室での授業参加者の全体満足度、両研究科学生の認知度：旧サテライト使用中止(契約解除)のため未実施	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※7 学習環境の充実の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニングコモンズの設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数：新規登録数年30件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数：月200名以上	3-1【平成26年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの導入 ○ラーニングコモンズの利用開始 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数：新規登録数年10件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数：月200名以上	1	【平成26年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの導入のため、紀要に掲載された全ての成果物(修士論文要旨を除く)を登録対象とする内容で「学術リポジトリ運用指針」を定めた。(8月1日施行) 今年度の人間社会学部及び看護学部の紀要掲載の成果物計21件を登録した。 ○看護学部分館において、4月よりラーニングコモンズの利用を開始した。 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館を実施した。 ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数：新規登録数21件 ・ラーニングコモンズ利用者数：月259名(平均) ・開館延長時間内の利用者数：月202名(実施月における平均)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・ラーニングコモンズ利用者数 9月、3月の利用者が少なかった(121名、47名)ことから、目標を下回った。 休暇期間中の利用促進について検討ををやっていく。	No.11 「図書館」	22

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
8人間社会学部の改革	1【改革案の検討・作成】 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間で大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	1-1【平成26年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革案の文科省申請に向けた手続きに取り組む。	2	【平成26年度の実施状況】 【改革案の検討・作成】 ○昨年度作成した学部将来構想に基づき、以下のような作業を行った。 既存の専門教育、資格関係教育をより充実させるとともに、現在のニーズに対応するための「全学横断型教育プログラム」を通じた新履修コースを開設するために、平成27年度より教員組織の学科制(3学科及び一般教育等)を廃止するとともに生涯福祉研究センターの人事枠を無くし、「人間社会学系」の1組織として運用することを決定した。 平成27年度より、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、上記のプログラムを通じた新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設することとし、そのための人員配置を決定し、プログラムのために必要な教員確保のための採用人事を行った。 平成28年度新入生からの5履修コースへの移行に向け、既存コースのカリキュラムの改編を進めるとともに、同年度より総合人間社会コース内に卒業に至る新履修コースの一つとして「保健福祉情報教育プログラム」を開設することを決定した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		23

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成26年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・博士課程構築にあたり、学部改革及び大学院修士課程の現状との整合性を協議する。	1	【平成26年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・博士課程に関しては、9月理事会において、本学の修士課程からは、既に定評を得ている他大学の博士課程に進学するという道筋を考慮すべき状況となっており、選択と集中という考えをもとに本学における博士課程開設の妥当性を再度議論する必要があるとの意見が出された。これを踏まえ、改革推進委員会等で再度議論を重ねた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		ウェイト総計	26年度 26			項目数計		26年度 24

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

年度計画項目別評価

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

項目	実施事項	平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等)	1-1【平成26年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと、どのような協働事業が可能かを検討する。 ○協定校(大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担任や戦略について国際学術交流部会と協議し、検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催し、関係機関を視察する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :1回	2	【平成26年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討するため、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターが学内外の取組状況の確認を行った。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、社会貢献・ボランティア支援センターが中心となって、他公立大学に関して資料収集を行った。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携のニュースを学内メールで公報するとともに、田川地域包括連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施するため、福岡県立大学・田川連携推進協議会を1回開催し、各市町村からの確認をとった(6/5)。 ○北京中医薬大学の教員2名による集中講義「東洋看護学演習」を実施した。(8月18日～21日) ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催していく上での予算を確認した。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数 : 5件/年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 15回 ・研究シーズ発表会への参加 4名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 14件 看護学部年間 35件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 5件 看護学部年間 1件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件 招聘件数 1件 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 : 4回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・論文数、学会発表数 外部研究費等の獲得においては成果が得られていることから、これらを基にした研究成果の外部への発信を推進する仕組みについて、学内紀要等のあり方の見直しを含め、検討していく。	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号	
項目	実施事項				評価	理由			
	<ul style="list-style-type: none"> 論文数(査読付き、学術掲載文) <ul style="list-style-type: none"> 人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) <ul style="list-style-type: none"> 人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 提携協定校との共同研究数・招聘件数 <ul style="list-style-type: none"> 共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 提携協定校との共同研究の応募状況 <ul style="list-style-type: none"> 共同研究応募件数 3件以上/年 								
2	<p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。</p> <p>②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金獲得件数、金額 <ul style="list-style-type: none"> 年間30件以上、年間4,000万円以上 科学研究費応募率 <ul style="list-style-type: none"> 80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く) 	2-1	<p>【平成26年度計画】</p> <p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 <ul style="list-style-type: none"> 不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 <ul style="list-style-type: none"> 年間30件、年間4,000万円以上 科学研究費応募率 <ul style="list-style-type: none"> 80%以上 (現在科研費による研究課題をもっている教員は除く) 	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費申請繁忙期に事務局機能を強化・充実した。また、ホームページの内容を充実し、速報性を高めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 <ul style="list-style-type: none"> 不採択となったがA評価だった教員の申請者に対し助成を行った。(100千円×5名) ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金(科研費)獲得件数、金額: 38件、64,732千円 科研費応募率: 92.1% 	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>科研費獲得件数、金額がそれぞれ目標の126%、162%に達した。応募率も目標の115%で、いずれも上回った。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.19 「研究」	26

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	3-1【平成26年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制を検討する。 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)年2回以上	1	【平成26年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバー1名が東京大学における研修会に参加した。 ・学外者を含めた審査体制については、委員会にて検討を重ねた。文部科学省における「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正を受けて、公的研究費の不正防止に係る規則の改正及び不正使用に係る通報に係る規則の新規制定を行った。 ○動物実験に関する委員会(倫理審査含む)を3回開催した。また、動物実験に関する実施ガイドラインの取組として、動物実験や実験動物に対する災害等における緊急時対応マニュアルを作成した上、年度ごとの動物実験の実施報告書を作成した。 ○若手研究者に対するセミナーを3/17に開催し、倫理指針の徹底を図った。 ○目標実績 ・学外での研修参加：年1人(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年3回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27
		ウェイト総計	26年度 4			項目数計		26年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 3 社会貢献</p>	<p>「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。</p>
------------------------	--

項目	実施事項	平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	<p>1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】</p> <p>①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。</p> <p>○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年</p>	1-1	1	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】</p> <p>○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大、三育大、北京中医薬大、南京師範大、コンケン大との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを開始する。 モデル事業として後藤寺小学校への派遣を開始する。 ○国際交流センターの開設</p> <p>○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		28

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実：短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援：派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1【平成26年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 期間：3週間のコースを設定 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、派遣留学生の募集方法(説明会の時期、事前の情報提供、経験者との交流等)を見直しする。 ・前年度に作成した危機管理マニュアルに沿った体制整備を行う ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先確保の継続 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 アンケート調査等で受入留学生支援体制の問題点を整理し体制の充実を図る。 ・短期留学(受入)プログラムの検討・実施 ○交流協定校への短期派遣留学生(長期休暇時1～2ヶ月派遣)の検討 ・短期留学(受入)と合わせて、協定校と具体的な実施案を検討する。 ・奨学金・交換留学協定締結に向けた調整を行う。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：11名以上(私費留学生含む)	1	【平成26年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修は、希望者が催行最少人数を満たさなかったため中止 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)を9月に実施した。(23名参加) 本プログラムは福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択(1,292,958円) ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、必修授業等で派遣留学の説明を行った。 ・危機管理マニュアルをPDFにし教職員全員に配布した。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先を確保した。 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 アンケート調査等で受入留学生支援体制の問題点を整理し体制の充実を図った。 ・大邱韓医大学からの申し出により、短期留学(受入)プログラムを27年度夏に実施予定である。 ○交流協定校への短期派遣学生の検討 ・大邱韓医大学および三育大学への短期研修プログラムを実施した。(3月24日-28日、学生15名参加) また、短期留学に係る奨学金制度を創設した。 ・威徳大学と短期研修プログラム(派遣・受入)について調整を行った。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会：3回 ・受入留学生数：16名(私費留学生含む)	A	【高く評価する点】 福岡県の補助金は、大学から申請のあった23プログラムから8件採択された中の1つである。また、短期研修プログラム(派遣)については、予定した年度を早めて実施することができた。 【実施(達成)できなかった点】		29

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 :平成27年度までに作成	3-1【平成26年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有者との協議 ・県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用について、翻訳資料の公開方法も含めて、所有者を交えた会議を開催して資料公開の検討を行う。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・前年度に確定した絵画4枚分について英文翻訳を行う。 ○達成目標 ・県立大学所蔵のコレクションの翻訳(4枚分) ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催	1	【平成26年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有者との協議 ・作兵衛(作たん)事務所にて、2回検討会議を開催し、所有者と協議した。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・前年度に確定した絵画4枚分について英文翻訳を行うため、翻訳対象を現代語に訳し、世界記憶遺産に登録された絵画4枚の解説文について英文翻訳を行った。翻訳物については、山本作兵衛コレクション保存管理計画(英語版)に盛り込んだ。 ○目標実績 ・県立大学所蔵のコレクションの翻訳(4枚分) : 実施した ・地域の方々との日記現代語訳作業部会 開催回数30回 4年間分(昭和41~44年)の日記を解読し活字化、研究報告叢書第14巻として発行した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1-1【平成26年度計画】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・田川市郡包括連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施し、点検する。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡1市6町1村と福岡県立大学との包括連携協定のもと事業実施に向け協議し、締結した内容を点検する。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議し、三大学連携県民公開講座を実施する。 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1	【平成26年度の実施状況】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・田川市郡包括連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施するため、福岡県立大学・田川連携推進協議会を1回開催し(6/5)、事務折衝を終え、来年度の福岡県立大学・田川地域包括連携協議会設置に向け承諾を得た。また、福岡県立飯塚研究開発センターと連携しながら本学教員と民間企業とのマッチングを図った。ふくおか医療福祉関連機器・実証ネットワークに参加した。飯塚市経済部産学振興課主催の医工学連携推進フォーラム(1/29)に本学のブースを設置しアピールを行った。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡1市6町1村との包括連携協定に係る田川市との協議を行い、連携取組の推進における情報交換を行った(7/28)。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議し(6/27)、今年度は本学が主管校として、三大学連携県民公開講座を実施した。 テーマは、「食べる・噛む・生きる」であった。良好評価98.7% 第1回(10/17, 本学)「お口の健康で明るい家族」131名参加 第2回(11/12, 北九州)「変わりゆく家族のかたちと食育」113名参加 第3回(12/12, 福岡)「子どもの成長のはぐみと家族への支援」42名参加 第4回(1/23, 筑後)「子どもと家族の健康を守るために冬の感染症について学びましょう」112名参加 ○目標実績 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :4件/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :3件/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「産学官連携」	31

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3	地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1-1 【平成26年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 〈生涯福祉研究センター〉 ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・お父さんお母さんの学習室の運営 ・「足と靴の相談室」の運営他2事業の実施 ○地域活動の強化 ・福祉の実践に関するセミナー他3事業の実施 ・ボランティア養成ワークショップ継続の是非について検討 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(隔月1回:6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-2 【平成26年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 毎週水曜日実施 年間300名 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 年間 6回 ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 :高齢者宅訪問:年間 30件 ○個人技術 ・パパママは名医だぞ 年間 3回 ・保育看護学習会(保育士対象) 年間 6回 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 年間 6回 ○健康大使制度の運用 継続実施 ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 年間 4日 ○性の健康に関する事業(布ナプキン作成、マンスリービクス、月経何でも相談、性教育) ○多職種協働がんセミナー 2ヶ所 ○達成目標 ・健康教室等:20件 ・参加者数:延べ 800名 ・参加者アンケート:良好評価 75%以上	1	【平成26年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 〈ヘルスプロモーション実践研究センター〉 ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 担当者不在のため未実施 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 6回実施、39名参加 ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 :高齢者宅訪問 14件実施、47名参加。残りについては担当教員異動のため未実施 ○個人技術 ・パパママは名医だぞ 3回実施、24名参加 ・保育看護学習会(保育士対象) 10回実施、467名参加 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 6回実施、54名参加 ○健康大使制度の運用 継続実施 実施済み(パスポート・任命証書の作成、配布) ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 4回実施、22名参加 ○性の健康に関する事業(布ナプキン作成、マンスリービクス、月経何でも相談、性教育) 12回実施、143名参加 ○多職種協働がんセミナー 2か所(苅田町、2会場で実施)、164名参加 ○目標実績 ・健康教室等: 11件 ・参加者数: 延べ 1,933名 ・参加者アンケート: 良好評価 99.0%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施については、担当していた教員が退職し、後任者の補充ができなかったため未実施となった。	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33

福岡県立大学(社会貢献)

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-3 【平成26年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○達成目標 ・サポーター派遣人数：140名以上 ・教員対象研修回数：10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名以上 ・登校開始率：37% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	【平成26年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数217名、延べ2,788名が活動した。 ○教員対象研修事業は、72回の研修を5,983名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数24名、延べ1,856名が通級した。 「キャンパス・スクール・夏」では実人数1名、延べ1名が通級した。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数：217名 ・教員対象研修回数：72回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：24名(キャンパス・スクール・夏は1名) ・登校開始率：66.7% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	A	【高く評価する点】 ・登校開始率 全国の適応指導教室・小中学校等による取組の30.4%と比較しても高い成果となっている。 ・県大子どもサポーターの平成26年度における対人援助職への就職率は86.4%(38/44人)、子ども対象施設に限ってみると36.4%(16/44人)で、県大子どもサポーター以外の学生と比較していずれも高率であった(71.5%、11.1%)。 【実施(達成)できなかった点】	No.38 「不登校・ひきこもりサポートセンター」	34

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-4 【平成26年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を開催する(年2回以上)。 ・学生グループの活動の場(研修、会議、作業等)を提供する。 ・学生サークルの課題を把握し、自らが解決できるように支援する。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・地元商店街や地域の活性化、小・中学校の学習支援、防災等の課題に地域と連携して取り組む学生活動に対して地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行う。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を企画・実施する(年1回以上)。 ・学生提案による研修会の実施を支援する。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献フォーラムの開催 年1回	1	【平成26年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・外部団体の登録件数は148件となり、70件のボランティア依頼情報を学生に提供した。 ・延86人の学生の相談に応じ、コーディネートにより延414人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施した。 ・延538人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。 ・12グループに対して、相談対応やアドバイス等の支援を行った。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・6件の活動に対して、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行った。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・「社会貢献フォーラム」など、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会を3件実施した。 ・また、正課授業「社会貢献論」、「社会貢献論演習」の運営支援を行った。 ・学生提案による研修会を2件実施した。 ○目標実績 ・外部団体・機関登録件数 148件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 414人(延) ・社会貢献フォーラムの開催 1回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.16 「学生サークル」	35

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 :年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	2-1【平成26年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施 ・直方市と「保育士・教師のためのペアレントスキルアッププログラム」の共催 他2件 ○教育研修活動の実施 ・「山本作兵衛さんをく読む>会」の実施・運営と情報公開について再検討 ・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営(月1～2回) 他7件の活動実施 ・リカレントセミナーの開催 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の検討・実施 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 ・身体感覚活性化<世にも珍しい>マザークラス医療者向けセミナーの開催 他4教育を実施 ・看護技術の追跡調査の検討と実施 ・追跡調査結果のリカレント教育への反映 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・助産師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・保健師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	1	【平成26年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」5回開催、のべ79名参加 ・直方市と「保育士・教師のためのペアレントスキルアッププログラム」の共催 他2件 ①直方市と「保育士・教師のためのペアレントスキルアッププログラム」の共催(1月～2月) ②「筑豊市民大学」5コース及び公開講演会(5月～3月) ③「介護技術セミナー」(6月14-15日、7月26日、8月30日、9月19～21日) ○教育研修活動の実施 ・「山本作兵衛さんをく読む>会」 運営のあり方:山本作兵衛事務所と適宜協議を行った。 情報公開のあり方:原則として電子媒体で行うことを決定した。 ・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営(月1～2回)他7件の活動実施 ①「筑豊英語教員フォーラム」4月～10月、月2回、のべ90名参加 ②「山本作兵衛さんをく読む>会」48回開催、のべ816名参加 ③「保健・医療・福祉職対象 足と靴の健康・実践講座」12月13～14日、のべ17名参加 ④「直方市保育所連盟統合部会研修会」7～9月、3回、のべ36名参加 ⑤「福祉用具体験講習」7月2日、23名参加 ⑥「PCスキル養成講座」13月3日、7名参加 ⑦「さわやかな自己表現塾」2月26～27日、のべ41名参加 ⑧「生命保険実学講座」3月3日、20名参加 ・リカレントセミナーの開催 ①「教職員向けPCスキル養成講座」3月3日、3名参加 ②「教職員向け生命保険実学講座」3月3日、4名参加 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の検討・実施 ①「福岡県立大学リカレントセミナー フィリピンにおける児童家庭福祉」8月2日、24名参加 ②「福岡県立大学リカレントセミナー 福祉を実践するものの価値」3月7日、124名参加 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 ・身体感覚活性化<世にも珍しい>マザークラス医療者向けセミナーの開催 1回実施(一般3名、看護師3名、保健師1名、助産師37名、うち卒業生2名) ・看護技術の追跡調査の検討と実施 福岡ヘルシーエイジング研究会 11回実施(看護師101名) ・追跡調査結果のリカレント教育への反映 ①(外来看護師さんの井戸端会議) 1回実施(看護師26名、うち卒業生1名) ②母乳育児支援者のための20時間ベーシックコース(同名) 8回実施(一般31名、看護師4名、助産師43名、うち卒業生9名) ③健康支援教室(地域住民の感染症予防スキルアップ事業) 3回実施、363名(保健師1名) ④保健師リカレント教育 2回実施(一般25名、保健師13名) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 ・看護師対象のリカレント教育 4事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 2事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 3事業実施 ・卒業生参加数: 人間社会学部 年間48名、看護学部 年間12名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36

中期計画		平成26年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 ：年5回以上 ・公開講座の実施回数：年3回以上開催	3-1【平成26年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ・全国モデルとしての展開を各センター、調整部会で検討し、発信する。 ○公開講座の実施 ・公開講座を学内外に発信し、3講座を実施する。 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ・保存・管理及び公開のための目録を作成する。 ・報道関係者の取材に協力し、他の公文書館等と活用・公開について連携する。 ・山本作兵衛関連資料のデータベース化 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・関連研究分野の全国ネットワーク組織を検討・実施する。 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数：年5回以上 ・公開講座の実施回数：年3回以上開催		【平成26年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ・全国モデルとしての展開を各センター、調整部会で検討し、発信した。 ○公開講座の実施 ・公開講座3講座及び県立3大学連携県民公開講座を、以下のとおり実施し、報告書(79頁)を作成した。三講座を通して良好評価は78.6%であった。 (1)公開講座Ⅰ「いじめと不登校を考える」(全3回、実受講者40名) (2)公開講座Ⅱ「在宅医療・介護の今…を考える」(全3回、実受講者24名) (3)公開講座Ⅲ「年齢なんかに負けないぞ!!」(全3回、実受講者30名) (4)県立3大学連携県民公開講座 食べる・噛む・生きる～お口の健康で明るい家族～ (10/17開催、131名参加 良好評価98.7%) ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ・保存・管理及び公開のための目録を作成中であり、保存数(記録画)については、世界記憶遺産(MOW)登録分(4点)、寄贈分(1点)、寄託分(146点)の合計151点であることが確認された。また、福岡県立大学が保管する山本作兵衛関係資料等管理規則、寄託契約書を作成した。田川市と連携して保存管理計画(日本語版)を作成した。 ・報道関係者の取材に協力した。また、九州歴史資料館等と活用・公開についての連携を行った。その結果、湿度のコントロールが必要なことが示唆された。 (1)第1回展示「子どもたち」(5/17～18) 来場者数177名 良好評価93.0% 報道関係者(西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞)の取材に協力。 (2)第2回展示「子どもたち」(8/9) 来場者数163名 良好評価88.0% 報道関係者(西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞)の取材に協力。 (3)第3回展示「家族」(11/8～9) 来場者数143名 良好評価94.0% (4)第4回展示「家族」(3/19) 来場者数44名 良好評価96.0% ・山本作兵衛関連資料のデータベース化については、紙類の分が終了。今後は紙類外の分を行っていくこととなった。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・関連研究分野の全国ネットワーク組織を検討・実施するため、各センターにおいて調査、情報収集を行い、一覧表を作成した。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数：年12回 ・公開講座の実施回数：年4回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率:(志願者数/募集人員):1.5倍以上 ・認定合格率:90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催:年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会:年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催:年1回以上 参加者アンケート:良好評価75%以上 ・健康教室:年3回以上開催	4-1【平成26年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催:年4回以上 ・同窓生によるフォローアップ研修会:年1回以上 ・リクルートのためのリカレントセミナーの開催:年1回以上 ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義:年3回以上 ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応 ○積極的広報活動 ・ホームページの充実 ・健康教育活動の告知・募集の実施 ・本センター修了生への試験関連情報提供(ポスター送付) ○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 1.5倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 20名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義)開催回数3回以上、参加者アンケート 良好評価75%以上		【平成26年度の実施状況】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催(9回実施) ・同窓生によるフォローアップ研修会の実施(1回実施、参加者数35人) ・リクルートのためのリカレントセミナーの実施(第2回糖尿病看護実践力開発セミナー7/13開催、参加者数400人) ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義 田川市周辺、北九州地域で計3回実施(参加者合計165名) ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応 近隣の介護事業所等の職員からの相談対応(合計3件) ○積極的広報活動 ・学内行事、入試情報、セミナー開催について、随時ホームページを更新 ・健康教育展示活動についてパンフレットを用いた告知を実施 ・本センター修了生への入試案内ポスター送付福岡県内の各糖尿病療養指導士会HPへの試験情報掲載依頼 ○目標実績 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数): 0.78倍 ・認定審査合格率: 100% ・患者教育研究会延べ参加者数: 73人 ・セミナー参加者数: 400名、アンケートにおける良好評価 97.5% ・糖尿病予防教育(出前講義等): 開催回数3回、参加者アンケート良好評価 100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 受験者リクルートのためのセミナーを実施し目標参加者数の8倍の参加を得たものの、入学試験志願倍率は目標に達しなかった。(本センターを含めた全国の糖尿病看護認定看護師教育機関全てで受験者数が定員数を満たしていない)リカレント教育等、計画を上回って実施したものもあるためB評価とする。		38
		ウェイト総計	26年度 11			項目数計		26年度 11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	2-1【平成26年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%枠確保する。 ○常勤教員の授業担当科目数の実態調査に基づき、担当科目平準化の実施案を作成 ・平成27年度の実施に向け本年度一部実施して検討を進める。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 :30%	1	【平成26年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰(ベストティーチャー)については公募を行ったが、審査の結果、該当者なし。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%枠確保し、研究奨励交付金の公募・採択を行った。 ○常勤教員の授業担当科目数の実態調査に基づき、担当科目平準化の実施案を作成 ・平成27年度の実施に向け、平成25年度の常勤教員の授業担当科目数の実態調査をもとに、年間担当科目数の上限を申し合わせ事項として教務入試委員会にて制定した。 ○目標実績 ・教員表彰: ベストティーチャー公募に対する該当者なし ・研究費に占める研究奨励交付金の割合: 30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40
	3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1【平成26年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準の周知を図る。	1	【平成26年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準について、平成26年度分(平成27年度実施)からの導入に向けた周知を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41
	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1【平成26年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○基本指針の作成と危機管理規定を策定して体制を整備する ○洗い出したリスク別の対応方法の整理	1	【平成26年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○基本指針、危機管理規定を策定した ○自然災害や情報流出等、洗い出した28項目のリスクについて、リスク別の対応方法を整理した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		42
		ウェイト総計	26年度 4			項目数計		26年度 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
----------------------	--

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>1 自己収入の積極的確保</p> <p>外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。</p>	<p>1 【外部研究資金等の積極的確保】</p> <p>①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。</p> <p>○達成目標 ・外部研究資金等獲得額：年間5,000万円以上</p>	<p>1-1 【平成26年度計画】</p> <p>【外部研究資金等の積極的確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費申請繁忙期の事務局機能支援の強化 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○科研費申請者に係る教員への個別の働きかけ ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金スキームの平成27年度実施に向けた検討 <p>○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上</p>	<p>2</p>	<p>【平成26年度の実施状況】</p> <p>【外部研究資金等の積極的確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費申請繁忙期に臨時職員を雇用し、事務処理を支援した。 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載を、随時実施した。 ○科研費応募率向上のための研修会を10月3日に開催した。 ○科研費申請者に係る教員への個別の働きかけを実施した。 ○9月発行の「大学広報」に県大基金の紹介文を掲載した。 ○受託研究費の基金化について検討を行った。 <p>○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額： 111,682千円 (科研費 64,732千円、文科省補助金等 46,950千円)</p>	<p>A⁺</p>	<p>【高く評価する点】 獲得金額が目標比で223%と大幅に上回った。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.19 「研究」</p>	<p>43</p>

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成26年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年	1	【平成26年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○トナーなどの消耗品を集中発注し経費を節減した。 ○授業評価アンケート等大量の集計作業等についてアウトソーシング化を検討した。 ○空調管理の徹底、照明の間引き、エレベーター稼働台数の削減、昼休み消灯等を実施し、電気使用量を前年度比で6.8%削減した。 ○目標実績 ・業務改善件数 2件(電話交換士、博多サテライトの廃止)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44
	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1【平成26年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成26年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H26年度新規事業分を除く)	1	【平成26年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教授(1名)の後任として、講師を採用 ○時間外勤務縮減施策として、事務局職員を対象に定時退庁日を設定、実施 ○目標実績 ・平成26年度時間外勤務時間数 前年度比 +3.8% (25年度13,392H → 26年度 13,904H)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 看護学部において、時間外勤務時間数が前年度を上回った。	No.31 「経費削減」	45
		ウェイト総計	26年度 4			項目数計		26年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

中期計画		平成26年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 広報活動の充実・強化	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1【平成26年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報における更新について、定期的にチェック ○HPの全面的リニューアルについての具体的検討 ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行 ・高校への出前講義によるPR活動 ・福岡県広報の積極的活用 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	【平成26年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報における更新について、9月にチェックを実施した。 ○HPのリニューアルについては、費用の問題等を勘案し、トップページのフラッシュを定期的に変更するなどの改訂を実施した。 ○ディプロマポリシーをHPの教育情報欄に掲載した。また、「全学横断型教育プログラム」をHP内にバナー掲載し、容易にアクセスできるようにした。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」を7月に作成。「大学広報」を26年9月、27年3月の2回発行 ・高校への出前講義によるPR活動 24回実施 ・プロパー職員採用試験の周知に福岡県広報を活用した。 ○情報発信体制の整備 ・ブラッシュアップセミナー(7月)について、記者資料を提供した。 県立三大学連携公開講座(10月)について、記者資料を提供した。 人間社会学部卒論公開発表会(2月)について、記者資料を提供した。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成: 2種類 ・広報誌の作成: 2回/年 ・出前講義及びアンケート: 回数31回 良好評価94.5% ・教育プログラム紹介の広報活動実績: 3件 ・メディアに取り上げられた件数: 地方版22件 全国版2件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」	47
		ウェイト総計	26年度 2			項目数計	26年度 2	

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

特記事項(自由記載)

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれず、各大学が特徴として打ち出している重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項を記載してください。
 なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項	関連する通し番号
<p>○今年度より、両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。</p> <p>○11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。</p> <p>○情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。</p> <p>○ガバナンス改革の一環として、学内委員会・部会を抜本的に再編し、全部会を主要5委員会の下に位置づけた。これにより、意思決定の枠組みが明確となり、委員会・部会の活性化が図られた。</p> <p>○西鉄バス筑豊(株)との協議により、平成27年3月21日から「筑豊特急」線(福岡～田川伊田)が本学構内への乗り入れ(始発・終着)を開始し、本学学生・教職員のみならず、地域住民の利便性向上が図られた。</p>	

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		費用の部	1,817	1,759	▲ 58	
		経常費用	1,816	1,757	▲ 59	
		業務費	1,564	1,534	▲ 30	
		教育研究経費	325	334	9	
		受託研究費等	33	2	▲ 31	
		人件費	1,205	1,197	▲ 8	
		一般管理経費	252	221	▲ 31	
		(減価償却費 再掲)	(83)	(87)	▲ 4	
		財務費用	-	1	1	
		臨時損失	-	1	1	
		収益の部	1,817	1,821	4	
		経常収益	1,817	1,820	3	
		運営費交付金収益	956	971	15	
		授業料収益	581	557	▲ 24	
		入学金収益	118	111	▲ 7	
		検定料収益	24	26	2	
		その他業務収益	-	0	0	
		受託研究等収益	-	2	2	
		受託事業等収益	-	-	-	
		補助金等収益	33	46	13	
		寄付金収益	0	1	1	
		資産見返物品受贈額戻入	43	44	1	
		資産見返運営費交付金等戻入	4	3	▲ 1	
		資産見返寄附金戻入	2	2	0	
		資産見返補助金戻入	12	11	▲ 1	
		資産見返補償金戻入	0	0	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	39	39	0	
		臨時利益	-	1	0	
		純利益	-	62	62	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	0	
		目的積立金取崩額	-	-	0	
		総利益	-	62	62	

2. 資金計画予算

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
資金支出	1,873	1,869	▲ 4
業務活動による支出	1,726	1,642	▲ 84
投資活動による支出	11	42	31
財務活動による支出	16	21	5
翌年度への繰越金	118	164	46
資金収入	1,873	1,869	▲ 4
業務活動による収入	1,754	1,750	▲ 4
運営費交付金による収入	956	974	18
授業料等による収入	724	682	▲ 42
受託研究等による収入	-	2	2
補助金等による収入	33	46	13
寄附金等による収入	-	4	4
その他収入	39	39	0
投資活動による収入	-	0	0
財務活動による収入	0	-	-
前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	-
前年度からの繰越金	118	118	0

II 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額
3億円

2 想定される理由

運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

該当なし

-

III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

該当なし

該当なし

-

IV 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。

該当なし

-

V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

該当なし

該当なし

-

2014（平成 26）年度

福岡県立大学

教育・研究・社会貢献活動一覽

福岡県立大学

凡 例

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2014（平成26）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2015（平成27）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2012（平成24）年度～2014（平成26）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2014（平成26）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2014（平成26）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2014（平成26）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2014（平成26）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2014（平成26）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2014（平成26）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2014（平成26）年度の状況を記載している。
- (11) 記載事項は、以上の9項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

<目 次>

凡 例

【掲載順】

人間社会学部については、学科ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

人間社会学部

➤ 一般教育等

● 教授	上野 行良	1
● 教授	神谷 英二	3
● 教授	田中 哲也	5
● 教授	郝 曉卿	7
● 准教授	Ian Stuart Gale	9
● 准教授	森脇 敦史	13
● 講師	柴田 雅博	15

➤ 公共社会学科

● 教授	石崎 龍二	18
● 教授	田代 英美	21
● 教授	文屋 俊子	23
● 准教授	岡本 雅享	25
● 准教授	佐野 麻由子	27
● 准教授	堤 圭史郎	29
● 准教授	許 棟翰	32
● 助手	佐藤 繁美	35

➤ 社会福祉学科

● 教授	住友 雄資	37
● 教授	細井 勇	39
● 教授	本郷 秀和	42
● 准教授	奥村 賢一	45
● 准教授	平部 康子	49
● 准教授	村山 浩一郎	51
● 講師	河野 高志	53
● 講師	寺島 正博	55
● 講師	平林 恵美	57
● 講師	松岡 佐智	59
● 助教	畑 香理	61

➤ 人間形成学科

● 教授	池田 孝博	6 3
● 教授	小嶋 秀幹	6 5
● 教授	秦 和彦	6 8
● 教授	福田 恭介	7 0
● 准教授	岩橋 宗哉	7 4
● 准教授	櫻井 国芳	7 6
● 准教授	藤澤 健一	7 8
● 准教授	麦島 剛	8 0
● 准教授	吉岡 和子	8 2
● 講師	池 志保	8 5
● 講師	伊勢 慎	8 7
● 講師	鷺野 彰子	8 9

➤ 附属研究所生涯福祉研究センター

● 准教授	中村 晋介	9 2
● 助教	二見 妙子	9 5
● 助手	中藤 広美	9 6

看護学部

➤ 基盤看護学系

● 教授	田中 美智子	9 8
● 教授	永嶋 由理子	1 0 0
● 教授	森 礼子	1 0 2
● 教授	田中 洋子	1 0 3
● 准教授	石田 智恵美	1 0 5
● 准教授	芋川 浩	1 0 7
● 准教授	江上 千代美	1 0 9
● 准教授	四戸 智昭	1 1 1
● 准教授	杉野 浩幸	1 1 4
● 准教授	津田 智子	1 1 7
● 講師	加藤 法子	1 1 9
● 講師	小出 昭太郎	1 2 1
● 講師	淵野 由夏	1 2 2
● 講師	増満 誠	1 2 4
● 助教	於久 比呂美	1 2 8
● 助教	近藤 美幸	1 2 9
● 助教	清水 夏子	1 3 1
● 助教	藤野 靖博	1 3 3

➤ 臨床看護学系

● 教授	赤司 千波	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3 5
● 教授	佐藤 香代	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3 7
● 教授	村田 節子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4 6
● 准教授	櫛 直美	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4 9
● 准教授	鳥越 郁代	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5 2
● 准教授	古田 祐子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5 5
● 准教授	松枝 美智子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5 8
● 准教授	宮城 由美子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6 0
● 准教授	宮園 真美	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6 2
● 准教授	渡邊 智子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6 6
● 講師	石村 美由紀	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6 9
● 講師	大島 操	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 1
● 講師	田中 美樹	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 2
● 講師	中井 裕子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 5
● 講師	安河内 静子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 7
● 助教	江上 史子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8 0
● 助教	小林 絵里子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8 2
● 助教	坂田 志保路	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8 5
● 助教	佐藤 繭子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8 7
● 助教	廣瀬 理絵	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 0
● 助教	政時 和美	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 2
● 助教	吉川 未桜	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 3
● 助教	吉田 静	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 5
● 助手	青野 広子	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 8
● 助手	松井 聡子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 0

➤ ヘルスプロモーション看護学系

● 教授	尾形 由起子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 2
● 教授	松浦 賢長	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 5
● 准教授	山下 清香	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 7
● 特任講師	阿部 眞理子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 9
● 講師	原田 直樹	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 1 1
● 講師	吉田 恭子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 1 4
● 助教	梶原 由紀子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 1 6
● 助教	手島 聖子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 1 8
● 助教	檜橋 明子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2 0
● 助教	吉村 美奈子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2 2
● 助手	杉本 みぎわ	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2 3
● 助手	中村 美穂子	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2 4

所属	人間社会学部・一般教育	職名	教授	氏名	上野 行良
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良 (2014) 「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'13」福岡県立大学)

〈論文〉

大神瑞穂・杉本頼己・上野行良・吳雯鈺・星子友里恵・鎌倉摩伊子・権静香・湊義弘・中窪典子・野口英絵・塚本紀子・山村美由紀(2012)「人との距離」のとり方と人間関係の良好感との関連」福岡県立大学心理臨床研究, 4.

②その他の業績

〈雑誌〉

上野行良 (2013) 「人はまだ臨床心理学を知らない」福岡県立大学心理臨床研究, 4.

上野行良 (2012) 「ユーモアをもって生きるということ」TASC MONTHLY, 442.

③過去の主要業績

上野行良 (2006) 「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)

上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006)「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.

上野行良 (2003) 「ユーモアの心理学ー人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

4. 担当授業科目

〈学部〉

コミュニケーション論・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、心理学・2単位・1年・後期、心の科学の現在・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、人間関係の科学・2単位・3年・前期、演習(人間形成学科)・2単位・3~4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、人間関係特論・2単位・修士1年・後期、特別研究・4単位・修士1~2年・通年

5. 学外講義・講演

- ・福祉関連団体(中津市介護援助専門協議会など)
- ・幼児教育関連(全国保育士協議会など)
- ・行政機関関連(大分県庁、直方市など)

- 医療関連施設・団体（国立病院機構九州ブロック、久留米大学病院、岡山医療センター、日本精神科看護技術協会など）
- その他（北九州看護学校教員協議会、大分労働衛生管理センター、大分県警察署など）

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	神谷 英二
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な専門分野としています。現在取り組んでいる研究テーマは、以下の通りです。

- a. 現象学的他者論および相互主観性論研究
- b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
- c. 「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
- d. 大学・教養・記憶を巡る思想史的研究
- e. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理学的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
- f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

(単著)「幼年時代の記憶と集合的記憶(3)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2013年、35-46

(単著)「固有名と記憶(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2014年、63-76

②その他最近の業績

<学会発表>

(共同) 新木真理子・東玲子・神谷英二「要介護高齢女性の祖父母的ジェネラティヴィティの語り—介護施設入所者の『世話する・世話される』世界—」日本老年看護学会第18回学術集会、2013年6月5日、大阪国際会議場

(共同) 新木真理子・東玲子・神谷英二「関節リウマチ高齢女性の祖父母的ジェネラティヴィティの様相」日本老年行動科学学会第16回大会、2013年9月1日、愛媛大学

(共同) 新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の『気遣い』に着目した介入研究の可能性を探る—ハイデガーの解釈学的現象学を基盤として」日本看護科学学会第34回学術集会・交流集会、2014年11月30日、名古屋国際会議場

<教科書>

(共著) 田中哲也編『旅する大学生のガイドブッケーレポートの書き方—2013年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2013年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

(共著) 田中哲也編『旅する大学生のガイドブッケーレポートの書き方—2014年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2014年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

③過去の主要業績

<著書>

(共著) 千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フッサールまで—』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者—」、255-277)

<学術論文>

(単著)「規範の生成—世代発生的現象学に基づく倫理学の可能性—」、『西日本哲学会年報』第9号、西日本哲学会、2001年、107-120

(共著) 神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理—患者の権利とインフォームド・コンセント—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2005年、75-94

(単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『パッセージ論』による記憶論構築のため

に一)、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 卷第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2009 年、67-79

<翻訳>

(単著) A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

<書評>

(単著)「武内大著『現象学と形而上学—フッサール・フィンク・ハイデガー』の書評」、実存思想協会編『思想としての仏教』実存思想論集26、理想社、2011年、179-182

3. 外部研究資金

日本学術振興会・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)、研究課題名:「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究(研究代表者:神谷英二、課題番号:25370024)、2014(平成26)年度分直接経費500,000円、間接経費150,000円、研究期間:2013(平成25)~2016(平成28)年度

5. 所属学会

日本現象学・社会科学会委員、日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

6. 担当授業科目

哲学Ⅰ・2単位・1年・前期	教養演習・1単位・1年・前期
生命倫理・2単位・1年・前期	哲学Ⅱ・2単位・1年・後期
論理学・2単位・2年・前期	倫理学・2単位・2-3年・前期
哲学要論・2単位・3年・後期	
看護倫理・1単位・看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程	
スキルアップゼミ:スタートダッシュのための就活入門・単位外・3年・前期	
スキルアップゼミ:くじけないための就活塾・単位外・3年・後期	

7. 社会貢献活動

福岡県田川市経営評価改革推進委員会委員長、田川市新中学校のあり方に関する審議会会長、福岡県直方市行政改革推進委員会会長、直方市事務事業の外部評価会議委員長、福岡県田川郡香春町情報公開審査会会長、香春町個人情報保護審査会会長、香春町政治倫理審査会会長、香春町行政改革推進委員会会長、福岡県直方市消防本部職員採用試験員、株式会社麻生飯塚病院倫理委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県市町村職員研修所「ディベート研修」(2014年9月1日~2日)、「文書添削力向上研修」(2014年10月6日~2015年2月2日・計4回)、「政策課題研究<四王寺塾>プレゼンテーション・パワーポイント活用研修」(2014年11月18日)
- ・福岡県直方市職員政策研修(2014年6月10日~10月15日・計8回)、福岡県田川市職員研修「スキルアップ神谷塾」(2014年6月10日~12月22日・計17回)、福岡県京都郡みやこ町職員人材育成研修(2014年8月29日~2015年2月23日・計8回)、福岡県田川郡添田町職員研修「添田町を創るプロフェッショナル育成研修」(2014年8月29日~9月26日・計4回)、株式会社麻生飯塚病院生命倫理セミナー、筑豊市民大学など

9. 附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター長
生涯福祉研究センター地域支援員(筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当)

所属	人間社会学部 一般教育等	職名	教授	氏名	田中 哲也
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1978年九州大学大学院文学研究科修士課程修了、カイロ大学、カイロ・アメリカ大学留学、在シリア日本大使館専門調査員勤務後、同大学院博士後期課程中退。九州大学文学部助手を経て、1992年、本学助教授に着任、1997年より教授。2002-03年、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長。現在、人間社会学部長兼人間社会学部研究科長

主として中東アラブ・イスラム地域を主な対象領域として、宗教社会学的フィールド・ワーク研究から宗教史的研究、在シリア日本大使館付専門調査員として行った同地の宗派問題の研究を行ってきた。また、中東地域に加えて、西アフリカ、インド、インドネシア近年は、近代教育の導入と拡大という観点から、イスラム世界の近代化にともなう社会・文化変容を、エジプトを事例として研究している。19世紀初頭以来の西洋式教育制度や教育内容がイスラム社会やイスラム文化をどのように変化させてきたのかについて分析してきた。現在、これまで行ってきたエジプトへの西洋式近代教育制度の導入と展開についての教育史・教育社会学的研究を出版のためにまとめる作業とともに、グローバル化・市場経済化にともなう現在エジプト高等教育の総合的研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・「イギリス占領時代末期におけるアッワル学校と民衆初等教育制度」
『福岡県立大学人間社会学部紀要』第20巻第2号、2012年。

②その他最近の業績

<発表>

- ・「エジプト高等教育の拡大と市場化について」
ワークショップ「ポスト・グローバル化期の教育：高等教育の再編と教育の新しい役割」（京都大学地域研究統合情報センター）

<テキスト>

- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門』15年版—福岡県立大学教養演習テキスト』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2014年（担当箇所「序章」）
- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門』14年版—福岡県立大学教養演習テキスト』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2013年（担当箇所「序章」）
- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門』13年版—福岡県立大学教養演習テキスト』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2012年（担当箇所「序章」）

③過去の主要業績

- ・「近代教育制度とイスラーム社会の変容」『比較文明』第24巻（2009）
- ・「イギリス占領下におけるエジプト教育再考」『アジア教育』第4巻（2010）
- ・「革命前エジプト近代教育における宗教とメリトクラシー」
『福岡県立大学紀要』第13巻第1号、2004年（『教育学論説資料』第24号再録）

3. 外部研究資金

- ・日本学術振興会、一般研究(C)「エジプト高等教育の拡大と市場化に関する総合的研究」、91万円、2013-15年度

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本宗教学会、日本イスラム学会（評議員）、日本中東学会、比較文明学会（幹事）、日本比較教育学会、日本教育史学会、日本教育社会学会、アジア教育学会

6. 担当授業科目

比較文化論・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期（2クラス）、宗教学・2単位・2年・後期、外書講読Ⅰ・1単位・3年・前期、外書講読Ⅱ・1単位・3年・後期、地域文化演習・1単位・院1・2年・前期、地域文化研究・1単位・院1・2年・後期、日本事情B・留学生・前期（責任者、分担）、日本事情A・留学生・後期（責任者、分担）

7. 社会貢献活動

- ・福智町マスコットキャラクター・キャラクター名選考委員長
- ・田川市立図書館協議会委員

8. 学外講義・講演

出前授業「世界の見え方」熊本市東稜高等学校

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	郝 晓 卿
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、1、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、2、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、1の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、50～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢に及ぼしたかを明らかにしようとしている。2については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で、世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

論文

- ・「文化大革命と国際環境」(5) 単著 2011年7月 『福岡県立大学紀要』第20巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(6) 単著 2013年1月 『福岡県立大学紀要』第21巻第2号
- ・「『黄帝内経』の叡智」単著 2014年1月 『福岡県立大学紀要』第22巻第2号

②その他最近の業績

③過去の主要業績

著書

- ・『転換期の東アジア』、共著、ナカニシヤ出版、佐々木武夫 豊田謙二編、1998年5月、第4章「過渡期における中国の労働問題」担当
- ・『社会主義の世紀』、共著、法律文化社、熊野直樹 星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」担当

論文

- ・「中国の環境問題と国際協力」単著 2006年11月 『福岡県立大学紀要』第15巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(4) 単著 2007年11月 『福岡県立大学紀要』第16巻第1号
- ・「中国文化における中医学」単著、2009年7月 『福岡県立大学紀要』第18巻第1号

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本国際政治学会

6. 担当授業科目

- ・中国語Ⅰ－(1)・中国語Ⅰ－(2)・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－(1)・中国語Ⅱ－(2)・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－(1)・中国語Ⅲ－(2)・2単位・通年・3年、国際関係論・1単位・前期・1年、中国の社会と文化・1単位・前期・2年、教養演習・1単位・前期・1年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学公開講座「導引養生法入門」、2014年11月

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	准教授	氏名	Stuart Gale
----	--------------	----	-----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University and Kyushu University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

His research activities are currently focused upon two distinct areas. The first concerns the development of a student-specific study-abroad programme. The objective of this research is to provide students (and specifically those studying at FPU) with a study-abroad programme more relevant to their study majors. This involves the development of a two-module accredited course—the first module being conducted pre-trip and in-house at FPU with a view to orientating students to the experience of living and studying abroad. The second module is based on the research conducted by each student abroad. Aside from developing these modules, Stuart Gale has also co-authored a textbook (to be published in 2015) to accompany the entire the course.

His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into an academic writing textbook (published in 2012), the virtual learning website, and writing classes and academic writing seminars at FPU. Stuart Gale was invited as a guest speaker to present on the teaching of writing and critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012, 2013 and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014.

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S., Fukuhara, S. & Cross, T. (2012). *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever*. Tokyo: Nan'un-do.

Gale, S. (2011, July). L1, consensus nil: Factors affecting the erratic application of oral translation as an EFL vocabulary teaching techniques at Japanese universities. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.

②その他最近の業績

- Designer and teacher, UK-study abroad programme.
- Designer and author, Fukuoka Prefectural University's online *Virtual Language Laboratory*.
- Designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English*

Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers.

- Author, *Fukuoka Prefectural University's Entrance Exam (English)*.
- Author, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website*.

③過去の主要業績

Gale, S. (2010) “編著, 楽しみながら英語力アップ 大学生になったら洋書を読もう!”, アルク.

Mori, R. and Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 5.

University Journals

Gale, S. (Sept. 2002). Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan's hidden curriculum. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 34, No. 2 (No. 133), pp. 733-747.

Gale, S. (Dec. 2002). A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 1, pp. 17-22.

Gale, S. (Sept. 2003). A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 2 (No. 137), pp. 611-621.

Gale, S. (Dec. 2003). Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 2, pp. 17-24.

Gale, S. (Dec. 2003). Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 3 (No. 138), pp. 1137-1145.

Gale, S. (June 2004). No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 1 (No. 140), pp. 175-186.

Gale, S. (Dec. 2004). Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 3, pp. 29-36.

Gale, S. (March 2005). The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 4 (No. 143), pp. 1081-1097.

Gale, S. (June 2005). Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 37, No. 1 (No. 144), pp. 83-96.

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus

student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Former member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

6. 担当授業科目

英語 I 1単位 1年 前期 後期 (3 classes per semester)

英語Ⅲ 1単位 2年 前期 後期 (3 classes per semester)

海外語学実習事前指導 (UK programme preparation course, first semester only)

海外語学実習 (UK programme, second semester only)

Introduction to studying in English (英語で学ぶ ; 入門編) (教養演習, second semester only)

In addition, I have also taught the following 4-part skill-up seminars:

The basic essentials of academic essay writing

International languages: Reading about and listening to music in English

Data analysis and discussion on social issues

7. 社会貢献活動

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28th, 2012.

8. 学外講義・講演

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the 2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11, 2006.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28, 2012.

Gale, S. (2012) How to teach writing. JTE/ALT training presentation at the 2012 ALT Skills Development

Conference, Fukuoka Prefectural Education Center, December 3, 2012.

Gale, S. (2013) Teaching critical thinking skills. JTE/ALT training presentation at the *2013 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, November 25, 2013.

Gale, S. (2014) Developing critical thinking skills among Japanese junior high and high school students. JTE/ALT training presentation at the *2014 ALT Skills Development Conference*, Oita Prefectural Board of Education, November 20, 2014.

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	准教授	氏名	森脇 敦史
----	--------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、憲法上の権利である表現の自由という観点から、個別の事例においてどのような解決を図るべきなのか、さらには、どのような制度設計を行うことが、最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということ考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景についても研究を進めている。合衆国憲法において表現の自由が一定の保護を受けるようになったのは1940年代頃からであるが、無制限の保護が不可能である以上、規制されうる言論と規制され得ない言論の線引きが必要となる。個人・社会の多様化が進む日本において、あるべき言論の自由法理を提示するため、そのような線引きをいかなる理論的枠組みにより行おうとしたのかを検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・森脇敦史「象徴的言論—象徴への態度が示すもの」、駒村圭吾、奈須祐二、金井光生、宍戸常寿、曾我部真裕、川岸令和、中林暁生、森脇敦史、鈴木秀美、西土彰一郎、小倉一志、平地秀哉、横大道聡、蟻川恒正、小谷順子、上村都、志田陽子、山本龍彦、阪口正二郎『表現の自由 I』、尚学社、2011年5月

・君塚正臣、河野良継、片山智彦、福岡久美子、早瀬勝明、丸山敦裕、合原理恵、福島力洋、森脇敦史、前田正義、中村孝一郎、森口佳樹、青田テル子、今田浩之、上石圭一、中曾久雄『ベーシックテキスト憲法 第2版』第7章VI（信教の自由）、第15章IV～VII（司法以外の裁判所の権能、司法権の独立、違憲審査制、憲法訴訟）、法律文化社、2011年9月

・大隈義和、大江正昭、井田洋子、井上禎男、植木淳、近藤敦、森脇敦史、湯浅塾道、奈須祐治、太田周二朗、日野田浩行『憲法学へのいざない 第2版』第8章（経済的自由）、第15章（内閣・行政組織）、青林書院、2012年4月

・森脇敦史「立って国歌を歌わなければいけませんか？—学校と日の丸・君が代」、村上英明、井上亜紀、大谷美咲、池田宏子、森脇敦史、中村英樹、西村枝美、相沢直子、茂木康俊、小原清信、松塚晋輔、吉井秀樹、山下義昭『新・なるほど公法入門』、法律文化社、2012年6月

・君塚正臣、上田健介、大林啓吾、森脇敦史、川又信彦、松原光宏、佐藤修一郎、遠藤美奈、蛭原健介、松井直之、國分典子『比較憲法』第8章～第14章（アメリカ・人権部分担当）、ミネルヴァ書房、2012年10月

②その他最近の業績

<教材開発>

・鈴木秀美、山田健太（編著）『よくわかるメディア法』（ミネルヴァ書房）、2011年7月

<判例研究>

・森脇敦史「市議会議員の議会質問が市長の名誉を毀損するとして謝罪広告の掲載を命じた事例」新・判例解説 Watch Vol.13、2013年9月

<用語解説>

・確認憲法用語（成文堂、2014年9月）

③過去の主要業績

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様－CDA、COPA、CIPAの事例から－」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』127-150頁、ミネルヴァ書房、2004年

森脇敦史「キャス・サンステイン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾、大林圭吾、葛西まゆこ、平地秀哉、奈須祐治、尾形健、大江一平、大河内美紀、中川律、山本龍彦、森脇敦史、横大道聡『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255-274頁、尚学社、2010年1月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会

6. 担当授業科目

（在外研修のため、本年度の担当なし）

7. 社会貢献活動

（在外研修のため、本年度の活動なし）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	柴田 雅博
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。1年間財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータ（HTMLやPDFなど）を利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。

① 近の著書・論文

- 田中省作, 柴田雅博, 富浦洋一: Web を源とした質情報付き英語科学論文コーパスの構築法, 英語コーパス研究, No.18, pp.61-71,(2011.6).
- M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: “Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

②その他最近の業績

- 田中省作, 小林雄一郎, 徳見道夫, 後藤一章, 富浦洋一, 柴田雅博: 学校英文法の学参例文データベースとその応用, 情報処理学会研究報告 2012-CH-093, pp.1-8, (2012.1) .
- 内田奈津子, 柴田雅博, 春木良且: フェリス女学院大学における新入生の情報教育に関する実態調査とその対応, 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会, F3D-4, (2013.12).
- 柴田雅博, 内田奈津子, 春木良且: ICT スキルの可視化と対策 ～初年次から卒業までのスキルアップ計画～, 教育改革 ICT 戦略大会, D-15, (2014.9)
- 内田奈津子, 柴田雅博, 春木良且: 新入生 ICT 活用能力に関する実態調査とその対応, 大学 ICT 推進協議会 2014 年度年次大会, W3E-1, (2014.12).

② 過去の主要業績

(論文)

- 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作: Web 上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- 行野顕正, 田中省作, 富浦洋一, 柴田雅博: 統計的アプローチによる英語スラッシュ・リーディング教材の自動生成, 情報処理学会論文誌, Vol.48, No.1, pp.365-374, (2007.1).
- 富浦洋一, 青木さやか, 柴田雅博, 行野顕正: 仮説検定に基づく英文書の母語話者性の判別, 自然言語処理, Vol.16, No.1, pp.25-46, (2009.1).
- 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美: 雑談自由対話を実現するための WWW 上の文書からの妥当な候補文選択手法, 人工知能学会論文誌, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: “Dialog System for Open-Ended Conversation Using Web Documents”, Informatica, Vol.33, No.3, pp.277-284, (2009.10).

(国際会議)

- M. Shibata, Y. Tomiura, S. Tanaka: “A Method for Retrieving Translation of Collocation in Web Data”, Asian Symposium on Natural Language Processing to Overcome Language Barriers, pp.1-8, (2004.3).

- T. Ienaga, M. Matsumoto, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, M. Shibata, T. Yasukouchi: “Travel Aid System with Auditory-map and Video Phone for the Visually Impaired”, The 21st Annual International Technology and Persons with Disabilities Conference, (2006.3).
- T. Ienaga, M. Matsumoto, M. Shibata, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, T. Yasukouchi: “A Study and Development of the Auditory Route Map Providing System for the Visually Impaired”, 10th International Conference on Computers Helping People with Special Needs (ICCHP2006) , LNCS 4061, pp.1265-1272, (2006.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, H. Matsumoto, T. Nishiguchi, K. Yukino, A. Hino: “Developing a Dialog System for New Idea Generation Support”, 21st International Conference on the Computer Processing of Oriental Languages, pp.490-497, (2006.12).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: “A Method for Automatically Generating Proper Responses to User’s Utterances in Open-ended Conversation by Retrieving Documents on the Web”, The 2008 IEEE International Conference on Information Reuse and Integration (IEEE-IRI 2008), pp.268-273, (2008.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, T. Mizuta: “Identification among Similar Languages Using Statistical Hypothesis Testing”, PACLING2009, pp.47-52, (2009.9).

(国内発表)

- 柴田雅博, 富浦洋一, 日高達: 翻訳文法を用いた変換主導型機械翻訳, 火の国情報シンポジウム 2001 公演論文集 pp.31-38, (2001.3).
- 富浦洋一, 柴田雅博, 田中省作: WWW ドキュメントからの日本語共起に対する英訳候補の検出, 言語処理学会第 10 回年次大会, pp.616-619 , (2004.3).
- 家永貴史, 松本三千人, 豊田信之, 木村陽子, 後藤拓志, 柴田雅博: 視覚障害者用音声地図の生成規則と有用性の検討, 第 4 回情報科学技術フォーラム(FIT 2005)講演論文集, pp.525-527, (2005.9).
- 木村陽子, 豊田信之, 後藤拓志, 安河内尊士, 松本三千人, 家永貴史, 柴田雅博: 音声地図 (オーディトリーマップ) の一考察, 第 31 回感覚代行シンポジウム講演論文集, pp.51-55, (2005.12).
- 家永貴史, 松本三千人, 豊田信之, 木村陽子, 後藤拓志, 柴田雅博, 安河内尊士: 遠隔からの支援と音声地図を併用した視覚障害者用歩行支援システム, 第 31 回感覚代行シンポジウム講演論文集, pp.57-60, (2005.12).
- 富浦洋一, 柴田雅博, 西口友美: 対話における応答文の候補文検索型生成法, 言語処理学会第 13 回年次大会発表論文集, pp.927-930, (2007.3).
- 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美: Web 文書を言語資源とする情報検索型対話システム, 人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会 (第 50 回) pp.71-76, (2007.7).
- 西口友美, 富浦洋一, 柴田雅博: 話題の遷移と意味的関連性を利用した対話システムの開発, JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 青木さやか, 富浦洋一, 柴田雅博: Web 上からの母語話者英論文・非母語話者英論文の自動収集システム, JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 水田貴章, 柴田雅博, 富浦洋一: 仮説検定に基づいた言語識別, 情報処理学会研究報告, 2012-NL-188, pp.91-98, (2008.11).

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

2009年 PACLING2009 the Best Paper Award

5. 所属学会

情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、言語処理学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年、情報処理の基礎と演習・2単位・1年

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 自然言語処理に関する研究
2. 情報教育に関する研究

（保有学位）

博士（工学）

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	石崎 龍二
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用、②散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析、③異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果(2012年)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第1号, pp.69-94, 福岡県立大学, 2013年7月.
- ・ Ryuji Ishizaki and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of foreign exchange rates using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.392, pp. 3344-3350, 2013.
- ・ Ryuji Ishizaki, Hiroki Hata, Tatsuo Shoji, and Yosuke Furuta, “Statistical properties of fluctuation of charged fine particles in an AC trap”, Procedia IUTAM(IUTAM Symposium on 50 Years of Chaos: Applied and Theoretical), Vol. 5, pp.234-239, 2012.
- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部新入生に対するコンピュータリテラシー教育の教育効果(2011年)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第1号, pp.41-63, 福岡県立大学, 2012年7月.

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの複数時系列のパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺」, 2015年3月掲載予定.
- ・ 石崎龍二, 佐藤 繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2014年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第23巻第2号, 福岡県立大学, 2015年3月掲載予定.
- ・ 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果(2013年)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号, pp.31-57, 福岡県立大学, 2014年7月.
- ・ 石崎龍二「外国為替レートの変動におけるパターン・エントロピーのパラメータ依存性」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺(10)」, 第311巻, pp.73-81, 2014年3月.
- ・ 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2013年)」福岡県立大学人間社会学部紀要 第22巻第2号, pp.117-132, 福岡県立大学, 2014年1月.
- ・ 石崎龍二「複数の為替レート時系列のパターン・エントロピーによる分析」統計数理

研究所共同研究レポート「経済物理とその周辺(9)」, 第 292 巻, pp.125-130, 2013 年 3 月.

- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果 (2012 年)」福岡県立大学人間社会学部紀要 第 21 巻第 2 号, pp.79-93, 福岡県立大学, 2013 年 1 月.

<学会報告>

- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎ」, 第 120 回日本物理学会九州支部例会 (崇城大学), 2014 年 12 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎの統計的性質」, 第 78 回形の科学シンポジウム「こころのかたち・こころのゆらぎ」 (佐賀大学), 2014 年 11 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの変動間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H26 度第 1 回研究会 (キヤノングローバル戦略研究所), 2014 年 9 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の間欠的運動の統計的性質」, 日本物理学会 2014 年秋季大会 (中部大学), 2014 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート変動間の相関とエントロピー」, 日本物理学会第 69 回年次大会 (東海大学), 2014 年 3 月.
- 石崎龍二「外国為替レートの変動間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H25 度第 2 回研究会 (統計数理研究所), 2014 年 3 月
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の配置構造の安定性」, 第 119 回日本物理学会九州支部例会 (久留米工業大学), 2013 年 11 月.
- 石崎龍二, 井上政義「為替レート変動の不安定性とパターン・エントロピー」, 日本物理学会 2013 年秋季大会 (徳島大学), 2013 年 9 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の秩序構造と安定性」, 日本物理学会 2013 年秋季大会 (徳島大学), 2013 年 9 月.
- 石崎龍二「外国為替レート時系列の変動の不安定性とパターン・エントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H25 年度第 1 回研究会 (キヤノングローバル戦略研究所), 2013 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「複数为替レートの変動におけるパターン・エントロピーのパラメータ依存性」日本物理学会 第 68 回年次大会 (広島大), 2013 年 3 月.
- 石崎龍二「外国為替レートにおけるパターン・エントロピーのパラメータ依存性」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H24 度第 2 回研究会 (統計数理研究所), 2013 年 3 月
- 石崎龍二「保存力学系のカオスと輸送現象」, 森肇先生記念研究集会 - 非線形・非平衡系の統計力学 - (九州大学筑紫キャンパス), 2012 年 11 月.
- 石崎龍二, 井上政義「複数为替レートの変動の統計的性質とパターン・エントロピー」, 日本物理学会 2012 年秋季大会 (横浜国立大学), 2012 年 9 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 古田洋輔「AC トラップにおける少数帯電微粒子の運動と配置構造」, 日本物理学会 2012 年秋季大会 (横浜国立大学), 2012 年 9 月.
- 石崎龍二「複数の為替レートのパターン・エントロピーによる分析」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H24 年度第 1 回研究会 (キヤノングローバル戦略研究所), 2012 年 8 月.

③過去の主要業績

- Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.

- ・ 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』，朝倉書店，1998年．
- ・ Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, "Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map", Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省 平成 26 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大」取組名称「中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築」（幹事校）、交付金額 10,268 千円（本学）、事業推進責任者．
- ・ 文部科学省 平成 24 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」取組名称「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」（連携校）、交付金額 9,506 千円（平成 26 年度、本学）、取組担当者．

4. 受賞

5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会 (APS)、日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

プレ・インターンシップ・2 単位・1・2 年・通年、情報科学・2 単位・1 年・後期、情報数学・2 単位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・ 「中長期・実践型インターンシップ推進の取組について」，平成26年度第2回筑豊地域インターンシップ推進協議会（於：飯塚研究開発機構），2015年2月20日．
- ・ 「福岡県立大学における初年次から取り組むインターンシップ」，インターンシップ等実務者研修会（九州地区）（於：九州大学医学部百年講堂、主催：独立行政法人 日本学生支援機構），2014年7月28日．

9. 附属研究所の活動等

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用
2. 散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析
3. カオスや乱流における拡散現象の解析

（保有学位）

博士（理学）

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの共同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、地域社会の構成や人々の生活様式等が大きく変化している。その中で、私たちの生活の拠点としての地域社会、そして、ともに生きていく拠り所となる共同性や公共性が改めて問われている。これに関わる具体的な研究テーマとして、公共社会学科・文屋俊子教授とともに、地域における公共交通を取り上げて調査研究を行っている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための公共交通整備の課題を明らかにしたいと考えている。もう一つの具体的なテーマは市町村合併に伴う問題の分析である。分権化政策と市町村合併によって地域社会の枠組みと運営の仕方、合意形成過程がどのように変化しているのか、どのような問題が生じているのか、実証的な研究が必要であると考えている。

理論的な側面では、都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討することが課題である。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、2015。（印刷中）

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門「公共性研究A（公共性の社会学）」テキスト』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2014。

田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、63-75、2013。

田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、65-77、2013。

②その他最近の業績

<書評>

田代英美「書評 山下祐介・市村高志・佐藤彰彦『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐる』（2013、明石書店、336頁。）」、『社会分析』42号、2015。（印刷中）

<学会発表>

田代英美「分権化政策のもとでのコミュニティの機能変化と自治体政策の位置」、日本都市社会学会第31回大会（熊本大学）、2013年9月15日。

<学会テーマ部会>

田代英美「テーマ部会 東日本大震災と都市社会学」討論者、日本都市社会学会第32回大会（専修大学）、2014年9月11日。

<調査研究報告書>

田代英美・石出千里・江川美紗・上種あゆみ・工藤夏美・杉元綾・中村汐里・早川怜香・松尾綾華・山内一成「彦山川調査第一次報告」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、2015。(印刷中)

田代英美「原発避難・移住者への新たな支援活動の可能性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号、13-21、2014。

③過去の主要業績

田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、77頁、2011。

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、51-70、2010。

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書、2005。

3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究(B)「交通インパクトの社会的効果に関する研究——量と質とビジュアルの混合研究法——」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性研究A(公共性の社会学)・2単位・1年・前期、社会学概論・2単位・2年・前期、地域社会研究Ⅰ・1単位・2年、地域社会研究Ⅱ・1単位・2年、社会調査実習・2単位・3年・通年、地域社会分析法A(地域と生活)・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、環境社会学・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

直方市都市計画審議会委員

川崎町地域公共交通会議委員

田川市地域公共交通会議委員

田川市経営評価改革推進委員会委員

添田「英峰塾」(添田町教育委員会主催の中学生対象の学習支援事業)顧問

小竹町庁舎建設設計業務プロポーザル選定委員会委員

8. 学外講義・講演

<出前講義>

佐賀西高等学校「『公共』とはなにか」2014年8月5日

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	文屋 俊子
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程満期退学。専門：都市社会学。

1993年に本学に着任。

<研究分野>

①地域における社会関係

研究分野である都市社会学、地域社会学は、地域に起きるさまざまな現象を科学的にとらえ分析することです。この過程を通じて、地域問題の解決に指針を与えることができたなら、という願いを込めて研究しています。

②イタリアの地域社会研究

地方の小さな街がどうやれば自立的に存在可能なのか、この点からイタリアの地域社会の事例に学ぶものが多いと思ひ、2001年から継続的に短期間の参与観察を行いました。

③地域交通や災害に関する研究

ここ数年、筑豊地域の交通研究をしていました。2004年に平成筑豊鉄道調査を行い、2007～2008年度の福岡県産炭地域振興センターの受託研究として筑豊地域の交通体系研究会を主宰していました。受託終了後も田川地域の地域交通ネットワークと地域社会の振興をテーマに継続して活動しています。

また、調査実習のテーマとして2011年の東日本大震災に関する本学学生対象調査、福岡県からの派遣職員対象調査などを実施し、記録に努めています。

④研究分野とはいいいがたいですが、2004年以来、本学のFD部会に所属し、全国の大学FDの動向や考え方、授業改善の進め方等を学ばせていただいています。また、福岡県公益認定等審議会を通じ、社会貢献を行う団体の動向を学んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

文屋俊子、他4名。「被災自治体の行政機能支援」福岡県立大学人間社会学部紀要22-1、2013年7月

②その他最近の業績

学会発表：文屋俊子。「被災自治体の行政機能支援」日本都市社会学学会大会、報告者、2013年9月15日、熊本大学。

③過去の主要業績

文屋俊子、田代英美、福田忠昭、「筑豊地域の交通体系検討事業研究報告書」2009年3月。

文屋俊子「イタリア地方都市の地域社会と地縁組織(2)ーシエナ市民のアイデンティティー」『福岡県立大学紀要』14(1), 77-86、2005年。

文屋俊子「団地の近所づきあい」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア 2 生活・関係・文化』121-151頁、日本評論社、1992年。

文屋俊子「大都市周辺地域の都市化」『社会学評論』148号、37-4、1987年。

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会

日本都市社会学会

西日本社会学会
社会分析学会

6. 担当授業科目

(学部)

都市社会学・2単位・1年・後期、
コミュニティ論・2単位・2年・後期、
地域社会研究Ⅰ・1単位・2年・前期、
社会調査実習・2単位・3年・通年、
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、
卒業論文・10単位・4年・通年

地域社会学Ⅰ・2単位・1年・前期、
地域社会学Ⅱ・2単位・3年・前期、
地域社会研究Ⅱ・1単位・2年・後期、
データ分析の基礎・2単位・3年・前期、
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、

(大学院)

地域社会研究・2単位・1,2年・前期、
地域社会演習・2単位・1,2年後期

7. 社会貢献活動

福岡県公益認定等審議会 委員 (平成20年12月～)
福岡県国土利用計画審議会 委員 (平成23年11月～)
公益財団法人飯塚研究開発機構 理事 (平成24年7月～)
田川市都市計画審議会 委員
田川市地域公共交通会議
田川市の子ども達の学力向上に関する有識者会議 (平成26年9月～平成27年3月)
福智町男女共同参画審議会 委員長 (平成22年1月～平成26年10月辞任)
苅田町都市計画審議会 委員 (平成24年～)

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	岡本 雅享
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

2. 研究業績

①著書・論文（2012～2014年度）

<著書>

- ・『レイシズムと外国人嫌悪』（共著）明石書店、2013年
- ・『なぜ、いまヘイト・スピーチなのか』（共著）三一書房、2013年
- ・『民族の創出』（単著）岩波書店、2014年

<論文>

- ・「海の道のフロンティアとしての出雲」『現代思想』41巻16号、2013年
- ・「多元社会日本」別冊環20『なぜ今、移民問題か』藤原書店、2014年

②その他の業績（2012～2014年度）

- ・新聞連載「出雲を原郷とする人たち」『山陰中央新報』2011年4月～連載中能登国編9回、越中編4回、伊予・讃岐編11回、安芸・備後編4回、紀伊編3回、越後佐渡編20回、信濃国編8回、武蔵国編5回、岩代国編6回、上野国編2回
- ・書評『琉球諸語の復興』（沖縄大学地域研究所編）『週間読書人』2013年11月22日
- ・書評『日本型排外主義』（樋口直人著）『大原社会問題研究所雑誌』675号、2015年1月
- ・週刊誌「神話と日本の民族意識」『週刊金曜日』23巻5号、2015年2月6日
- ・招聘報告「出雲からみた日本のネーションビルディング」関西学院大学先端社会学研究所定期研究会、2013年11月29日

③過去の主要業績（2012年度以前、3点）

- ・『中国の少数民族教育と言語政策（増補改定版）』社会評論社、2008年（単著）。
- ・『日本の民族差別一人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著）。
- ・「中国のマイノリティ政策と国際規準」叢書「現代中国の構造変動」第7巻・毛里和子編著『中華世界——アイデンティティの再編』東京大学出版社、2001年。

3. 外部研究資金（今年度）

4. 受賞（今年度）

5. 所属学会（今年度）

- ・日本平和学会、エミシ学会

6. 担当授業科目（今年度）

国際政治学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、政治学Ⅰ・2単位・2年・前期、政治学Ⅱ・2単位・2年・後期、国際共生研究・4単位・2年・通年、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動（今年度）

- ・移住労働者と連帯する全国ネットワーク 事務局次長

8. 学外講義・講演（今年度）

- ・出雲崎総合大学「越と出雲のゆかり」2014年9月9日、新潟県出雲崎町
- ・王塚装飾古墳館ふるさと講座「筑前の土師郷と出雲」2015年2月28日、福岡県桂川町

9. 附属研究所の活動等（今年度）

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	佐野 麻由子
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年立教大学社会学部社会学科を卒業。2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、社会運動（変動）。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパール地域をフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」という研究テーマで「失われた女性たち（男児選好による選択的中絶、少女売買、女兒の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

佐野麻由子, 2015, 「途上社会の貧困、開発、公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』、査読無、有斐閣, 148-165.

佐野麻由子, 2013, 「身体経験にみるジェンダー秩序とその変容」鈴木紀・滝村卓司編『みんなく実践人類学8巻 国際開発と協働・NGOの役割とジェンダーの視点』明石書店, 157-192.

佐野麻由子, 2013, 「北の女性と南の女性—相対化と判断停止」伊藤陽一他編『グローバル・コミュニケーション—キーワードで読み解く生命・文化・社会』ミネルヴァ書房, 105-122.

佐野麻由子, 2012, 「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは』人文書院, 240-258.

<論文>

佐野麻由子, 2015 「ネパールにおける男児選好とその要因」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、査読有、第23巻第2号、17-32.

佐野麻由子, 2012, 「開発援助プロジェクトとサステナビリティ—社会学的制度論からのサステナビリティの検討」『国際開発研究』第21巻1/2号, 47-57.

②その他最近の業績

Mayuko SANO, 13 July 2014, *Economic, Social Change and Son-Preference in Nepal* (oral presentation), RC06 (Committee on Family Research) programme of XVIII ISA (International Sociological Association) World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama.

佐野麻由子, 「開発教育手法の社会学専門教育との接合—その効果と課題」, 2013年12月1日, 第24回国際開発学会大会, 大阪大学吹田キャンパス.

佐野麻由子, 「ネパールにおける性比問題へのアプローチ」, 2013年9月7日, 国際ジェンダー学会 2013年大会, 和洋女子大学.

③過去の主要業績

<著書>

小川（西秋）葉子・川崎賢一・佐野麻由子共編著, 2010, 『〈グローバル化〉の社会学：循

環するメディアと生命』恒星社厚生閣。

佐野麻由子，2007，「平和とジェンダー」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ』明石書店140-162.

<論文>

佐野麻由子，2010，「社会学的制度論の開発プロジェクトへの応用可能性—「組織・制度づくり」の評価項目に向けて」『国際開発研究』第19巻第1号，13-22.

佐野麻由子，2011，「ネパールの社会運動組織の資源動員源にみる社会構造—予備的考察」『立教大学社会学部・応用社会学研究』第53号，227—236.

3. 外部研究資金

・文部科学省科学研費補助金・若手研究B、研究課題名「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」（課題番号24730443）、3770,000、研究期間平成24～26年度、研究代表者。

・文部科学省科学研費補助金・基盤研究C、研究課題名「近代変圧器」としての開発援助～開発社会学の定位を目指して～」（課題番号24530611-1）、研究期間平成24～26年度、研究分担者（研究代表者・佐藤寛・アジア経済研究所）。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会

6. 担当授業科目

国際社会学Ⅰ・2単位・1年・前期、国際社会学Ⅱ・2単位・1年・後期、国際共生研究Ⅰ・1単位・2年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、国際共生研究Ⅱ・1単位・2年・後期、社会調査実習・2単位・3年・通年、公共社会学研究・2単位・3年・前期、公共社会学研究・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

2013年度国際開発学会『開発と社会学』研究部会・副代表

8. 学外講義・講演

佐野麻由子「アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）主催アジア研究者ネットワークセミナー「ネパールの失われた女性たち」（2014年7月25日18：30～20：00於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ小セミナールーム）。

9. 附属研究所の活動等

なし

（研究内容）

1. 途上社会における発展、開発についての社会学的研究
2. 男児選好の促進要因についての社会学的研究

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。愛知文教大学・追手門学院大学・大阪樟蔭女子大学・金城学院大学・神戸女学院大学・四天王寺大学・佛教大学・龍谷大学非常勤講師、大阪市立大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、大阪市立大学において博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は生活困窮者支援モデルに関する研究、多重債務世帯への生活再生支援等について研究している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

〈論文〉

鯉坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・徳田剛, 2014, 『『都心回帰』時代の東京都心部のマンション住民と地域生活— 東京都中央区での調査を通じて』同志社大学社会学部『評論・社会科学』111:1-112.

鯉坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013, 「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（下）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』106:1-69.

鯉坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013, 「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（上）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』105:1-78.

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入— 『伴走型支援』を通じた当事者の主観的意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

堤圭史郎, 2012, 「多重債務を経験した世帯への生活再生貸付支援— 『グリーンコープ生活再生相談室』利用者への調査研究より」『貧困研究』9:116-125.

堤圭史郎, 2012, 「国勢調査小地域集計から見る丹波市 N 地区の変化と現状」『部落解放研究』195:18-29.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

妻木進吾・西田芳正・堤圭史郎・内田龍史, 「被差別部落の現在（1）— 2010年国勢調査から見る大阪府の部落の実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

内田龍史・西田芳正・斎藤直子・妻木進吾・堤圭史郎, 「被差別部落の現在（2）— 部落青年の雇用・生活実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

堤圭史郎, 「『都心回帰』時代の地域コミュニティの動態—福岡市におけるマンション住民と行政の対応」地域社会学会第38回大会, 立命館大学, 2013年5月.

内田龍史・西田芳正・妻木進吾・堤圭史郎, 「児童自立支援施設と社会的排除—ケース記録調査から」日本社会学会第86回大会, 慶應義塾大学, 2013年10月.

堤圭史郎, 「多重債務経験者の生活問題の諸相—生活再生貸付事業の社会的意義」日本社会病理学会第28回大会, 大阪市立大学, 2012年10月.

〈研究報告書等〉

- 特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『若年生活困窮者に対する社会的就労提供事業』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書. (第1章第1節、第2章を執筆)
- 特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『生活困窮者に対する生活自立を基盤とした就労準備のための伴走型支援事業の実施・運営、推進に関する調査研究事業報告書』厚生労働省平成25年度社会福祉推進事業報告書. (第3章第1節・第2節を執筆)
- 特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2013, 『孤立状態にある若年困窮者に対して社会参加および生活自立・社会的自立・就労自立を促す総合的伴走型支援に関する研究事業報告書』厚生労働省平成24年度社会福祉推進事業報告書. (第3章、第4章第1節・第2節・第3節を執筆)
- 妻木進吾・堤圭史郎・内田龍史, 2012, 『国勢調査を活用した被差別部落の実態把握(兵庫県編)』(2011~13年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書)部落解放人権研究所.
- 一般財団法人都市のしくみとくらし研究所, 2012, 『「都心回帰」時代の大都市における地域コミュニティの再形成に関する社会学的実証研究- マンション住民を焦点として』. (鯨坂学・上野淳子・丸山真央・堤圭史郎の共著)
- グリーンコープ生活協同組合ふくおか・グリーンコープ生活再生相談室, 2012, 『生活再生貸付利用者の生活再生支援(家計管理指導等)に関する第2次調査事業報告書』厚生労働省平成23年度社会福祉推進事業. (序章、第1章、第2章、終章を執筆)

〈調査実習の事例報告〉

- 堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究- 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89.

〈事典〉

- 一般社団法人社会調査協会編, 2013, 『社会調査事典』丸善出版. («インフォーマントとアポイントメント」「現地資料の収集」の項を執筆)

〈書評〉

- 堤圭史郎, 2014, 「書評 町村敬志編著『都市空間に潜む排除と反抗の力』明石書店」『日本都市社会学会年報』32:198-201.

〈コラム〉

- 堤圭史郎, 2012, 「私のインターネット活用法」福岡県立大学教養演習テキスト出版会『レポートの書き方入門12年版- 福岡県立大学教養演習テキスト』, pp. 58-59.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

- Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless Issue in Globalization,” ‘The 2nd International Conference on Locality and Humanities--Locality, Beyond the border of Space and Cognition,’ Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

- 青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5章「家族規範とホームレス- 扶助か桎梏か」(妻木進吾との共著)を執筆)
- 堤圭史郎, 2009, 「ホームレスの人々への類型的な理解と『孤立』のリアリティ- 『問題づくり』をめぐって」『ホームレスと社会』1: 50-57.

堤圭史郎, 2006, 『善意』に支えられた『ホームレス支援』『市大社会学』7:46-61.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省、科学研究費補助金（若手研究 B）『旧産炭地における定着・流出・還流—貧困・生活不安定層の移動経験と労働—生活過程』、221 万円、2014～16 年度、研究代表者.
- ・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 B）『「都心回帰」時代の大都市都心における地域コミュニティの限界化と再生に関する研究』、2013～15 年度、研究分担者（研究代表者・鱒坂学・同志社大学）.
- ・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）『社会的排除の地域的顕在と変容—貧困・生活不安定層の地域形成と労働—生活過程』、2012～14 年度、研究分担者（研究代表者：西田芳正・大阪府立大学）.

4. 受賞

一般社団法人社会調査協会より、第 4 回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本都市社会学会（企画委員）、地域社会学会、西日本社会学会、ソシオロジ同人、貧困研究会

6. 担当授業科目

社会学史 I ・ 2 単位 ・ 1 年 ・ 前期	社会病理学 ・ 2 単位 ・ 2 年 ・ 前期
社会調査の設計 ・ 2 単位 ・ 2 年 ・ 後期	社会変動と社会問題 ・ 2 単位 ・ 3 年 ・ 後期
地域社会研究 I ・ 1 単位 ・ 2 年 ・ 前期	地域社会研究 II ・ 1 単位 ・ 2 年 ・ 後期
公共社会学研究 I ・ 1 単位 ・ 3 年 ・ 前期	公共社会学研究 II ・ 1 単位 ・ 3 年 ・ 後期
社会調査実習 ・ 2 単位 ・ 3 年 ・ 通年	卒業論文 ・ 6 単位 ・ 4 年 ・ 通年
日本事情 B ・ 留学生 ・ 前期（分担）	社会貢献論 ・ 2 単位 ・ 1 年 ・ 前期（分担）

7. 社会貢献活動

- ・大阪府同和問題解決のための実態把握検討プロジェクト有識者会議作業部会委員
- ・添田町子ども・子育て会議会長
- ・田川市社会教育委員
- ・田川市生活困窮者自立支援協議会会長
- ・特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構「生活困窮者に対する就労訓練事業に関する調査・研究事業」（厚生労働省平成 26 年度社会福祉推進事業）委員
- ・平成 26 年度添田町立真木小学校学校関係者評価委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立久留米高等学校にて出前講義（2014 年 12 月 6 日。題目『社会学』講座—現代社会と貧困）
- ・熊本県立第二高等学校にて出前講義（2014 年 7 月 12 日。題目「まちに取材にでかけよう—課題発見力とは何か）
- ・「生活困窮者自立支援法」施行直前シンポジウム 「『北九州における就労訓練（社会的就労・ケア付き就労）を考える』～地域・社会の幅広い連携による困窮者支援を目指して～」にてパネリスト（2015 年 3 月 5 日。於北九州市立商工貿易会館）
- ・平成 26 年度筑豊地区市町村社会教育委員研修会にて講演（2014 年 11 月 21 日。題目「貧困研究の立場から社会教育に期待すること」）

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	許 棟翰
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年3月慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。1998年年4月から九州国際大学経済学部経済学科講師，2000年4月に助教授，2005年4月に教授（学部では「労働経済学」，大学院では「企業政策研究」を担当）。2008年3月から韓国明知大学経営学部経営学科副教授（学部では「人的資源管理論」，「労使関係論」，「経営組織論」，大学院では人事・組織関連の科目を担当）。2015年4月より本学に着任。専門分野は，労働経済学，人的資源管理論，労使関係論。

私の初期研究は，満足の高い働き方と効率的な人事管理のあり方について「賃金支給システム」に焦点を当てて行われた。企業の賃金支給システムを「配分の仕方」という観点からアプローチした。いまは「成果主義賃金」をその分析対象とし，どのような合理的基準による配分の仕方であるのか，について研究を行っている。

働き方の変化，すなわち非正規職の増加や雇用形態の多様化によって企業内部の技能養成方式はどう変わっていくのか。また技能伝授は機能しているのか。私に関心を持っている2つ目の研究課題である。雇用形態の多様化が企業内部の技能養成方式や技能伝授の様子をどう変えたのかを究明するため，日本の生産現場の調査を行っている。

2012年に私は，韓国政府によるプロジェクト「社会的企業の実態調査研究」のメンバーとして，社会的企業の5年間の活動や実績を分析する機会があった。ここで私は，「社会的企業の経済的持続可能性」と「大企業の社会的貢献活動と社会的責任」についての分析を担当した。「政府の支援が無くなっても経済的に自立できるのか」の観点から分析してみると，経済的持続可能性はとても低いことが明らかになった。引き続き現在は，社会的企業が収益を出せる組織，雇用を増やせる組織として発展できる条件について，研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

(共著)Youngsik Kang, Changjae Kang, Dongwook Son, Hyungjin Park, Donghan Hur & Pilkyo Seo, “Exploring Process Innovation Knowledge Discovery and Diagnostics based on Process Mining: Electronic Approval Process”, *The Journal of Industrial Innovation*, 28(1), 2012年, pp.55~75.

(単著)「自動車産業における生産方式の変化と技能伝授—NPWを中心として」『*Productivity Review*』27(1), 2013年, pp. 313~335.

(単著)「企業経営管理側面からの休憩制度検討及び運営戦略」『*KEF Compensation Quarterly*』22(1), 2014年, pp. 20~31.

(共著)Gyuchang Yu, Woosung Park, Donghan Hur, Dongbae Kim & Jiyoung Chang, 「労働環境の変化と賃金体系改編」『*KEF Compensation Quarterly*』22(2), 2014年, pp. 20~47.

②その他最近の業績

<学会発表>

- (単著)「自動車産業における生産方式と技能伝授：NPW を中心として」, 韓国生産性学会春季学術大会, 2012年5月18日.
- (単著)「韓国における社会的企業の持続可能性と経済的自立」, 第3回韓国日本研究団体国際学術大会, 2014年8月22日.

<シンポジウム>

- (単著)「Change of the Auto Industry Production System by the Diversification of the employment」, KPA International Conference, 2012年8月24日.
- (単著)「The present Situation and Problem of “Youth Non-standard Employment” in contemporary Korea」, KOCOMA International Symposium, 2013年10月18日.
- (単著)「韓国の労働市場の変化と若者の雇用問題」, アジア共生学会日韓シンポジウム, 2014年11月15日.

<調査報告>

- (共同)「社会的企業の実態調査報告」, 韓国政府雇用労働部・韓国社会的企業振興院, 2012年11月30日.
- (共同)「共同研究事業の成果分析及び活用方案に関する研究報告」, 韓国政府未来創造科学部・基礎技術研究会, 2013年7月27日.

<研究資料>

- (単著)「グローバル人材育成と女性労働力の活用」『人事管理』第281号, 2013年.
- (単著)「同一労働同一賃金原則の適用可能性と現実との乖離」『2013年度版, 人事・賃金事例総覧』(韓国経営者総協会), 2013年.
- (単著)「日本企業の雇用計画:適正人員と適正人件費算定」『人事管理』第283号, 2013年.
- (単著)「家族親和経営としての Work-Life Management」『人事管理』第285号, 2013年.
- (単著)「日本企業における女性労働力の活用とその特徴」『人事管理』第288号, 2013年.
- (単著)「2014年度日本企業のHR展望:ハイブリッドHR」『人事管理』第293号, 2014年.

<コラム>

- (単著)「100歳時代の賃金革命:長期雇用と成果主義の両立模索」『韓経ビジネス』(韓国経済新聞社), 2014年3月19日.
- (単著)「企業の高齢化と望ましい賃金体系」『自動車経済』480号(韓国自動車産業研究所), 2014年10月15日.

③過去の主要業績

- (単著)「同一価値労働同一賃金原則と企業内男女間賃金格差の実証分析」『三田商学研究』第37巻第4号, 1994年, pp. 51~67.
- (単著)「日本における長期雇用慣行の変容と雇用形態の多様化」『九州国際大学経営経済論集』第7巻第3号, 2001年, pp. 89~126.
- (単著)「日本の雇用形態多様化と知的熟練の必要性」『Journal of Knowledge Studies』7(2), 2009年, pp. 113~139.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本労務学会, 日本組織学会, 韓国人事組織学会 (常任理事), 韓国人事管理学会 (理事), 韓国企業経営学会 (理事), 韓国経営教育学会, 韓国生産性学会 (常任理事), 韓国国際地域学会 (理事), 韓国労使関係学会, 韓日経商学会 (常任理事), 韓国日本学会 (常任理事)

6. 担当授業科目

経済学 A・2 単位・1 年・前期, 教養演習・1 単位・1 年・前期, 経済学 B・2 単位・1 年・後期, 国際共生研究 I・1 単位・2 年・前期, 労働経済論 A・2 単位・2 年・前期, 社会保障論 I・2 単位・2 年・前期, 国際共生研究 II・1 単位・2 年・後期, 労働経済論 B・2 単位・2 年・後期, 社会保障論 II・2 単位・2 年・後期, 公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期, 公共性研究 C-I (社会保障論 I)・2 単位・3 年・前期, 公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期, 公共性研究 C-II (社会保障論 II)・2 単位・3 年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

(研究内容)

1. 成果主義賃金の配分の仕方, その合理性に関する研究
2. 企業内部の技能養成方式と技能伝授に関する研究
3. 地域経済の活性化と雇用機会の増大

(保有学位)

商学博士

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・大原孫三郎の研究
- ・地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、2015年2月
- ・「福岡県福智町における地域防災と地域防犯に関する調査研究——福岡県立大学の事例報告」、『社会と調査』第5号、清田勝彦・佐藤繁美、2010年10月
- ・「田川市民意識と防災・防犯行動」、『田川市における地域防災と地域防犯』、2010年3月
- ・「福智町における防犯意識の構造」、『地域防災と地域防犯に関する調査研究』、2009年3月

②その他最近の業績

- ・『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』2011年3月
- ・『福岡県立大学開学記念誌 ひらく夢 筑豊に生まれて』2012年3月
- ・『公共社会学入門「公共性研究A（公共性の社会学）」テキスト』2014年4月

③過去の主要業績

- ・『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005年6月
- ・『香春町史』、香春町資料編纂委員会 編、香春町史料編纂員会、2001.3

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費・基盤研究 (B)
「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」、260万円、2006年度から2009年度、共同研究（研究代表者：細井勇）
- ・ 科研費研究・基盤研究 (A)
「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」、600万円、2010年度から2014年度、共同研究（研究代表者：細井勇）

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本社会学会
- ・ 関西社会学会
- ・ 社会分析学会

6. 担当授業科目

(学部)

- ・ 社会調査実習（補助） 2単位・3年・実習・通年
- ・ データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅱ（補助） 1単位・3年・演習・後期

(大学院)

- ・ フィールドワーク (補助) 2単位・1年・実習・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 「田川市における地域防災と地域防犯—市民意識調査—」

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	住友雄資
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

岩崎香・藏野ともみ・住友雄資編（2012）『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』中央法規出版。

栄セツコ・住友雄資・松本すみ子・森田久美子編（2012）『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版。

江間由紀夫・住友雄資・森田久美子・吉澤豊編（2012）『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規出版。

②その他最近の業績

住友雄資（2015）「書評 赤畑淳『聴覚障害と精神障害をあわせもつ人の支援とコミュニケーション』ミネルヴァ書房」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(2), 87-90.

住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一（2014）「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(1), 59-71.

住友雄資・大谷京子・大塚淳子・木下了丞・鈴木孝典・田崎琢二・竹中秀彦・肥田裕久・松本すみ子・宮本めぐみ（2013）「精神科医療機関における精神保健福祉士の業務実態に関する研究」『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究』平成24年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）報告書, 5-31.

住友雄資（2013）「書評 青木聖久『精神障害者の生活支援 障害年金に着眼した協働的支援』法律文化社」『社会福祉学』54(3), 210-212.

住友雄資（2013）「時代を読む 障害者基本法の成立（1993年）」『ノーマライゼーション』33(9), 日本障害者リハビリテーション協会, 5.

③過去の主要業績

住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版。（単著）

杉本敏夫・住友雄資編（2006）『改訂 新しいソーシャルワーク』中央法規出版。（共編著）

住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版。（単著）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 代議員・査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会 査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

保健医療論・2単位・2年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅰ・3年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅱ・3年・後期
精神保健福祉援助演習・2単位・4年・通年
精神保健福祉援助演習・2単位・3～4年・通年
精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年
精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年
社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期・通年
卒業論文・6単位・4年・後期

(大学院)

ソーシャルワーク研究・2単位・前期
ソーシャルワーク演習・2単位・後期

7. 社会貢献活動

精神保健福祉士試験委員会 副委員長
直方市障害者施策推進協議会 会長
田川市障害者総合自立支援協議会 会長

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井 勇
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、とくに、近代日本におけるキリスト教の受容、その隣人愛に触発された慈善事業に関心がある。これまで、岡山孤児院と石井十次に関する研究を続け、2009年には『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業』、『岡山孤児院関係資料集成全3巻』を、2014年には『史料・岡山孤児院』（機関誌編全5巻）を刊行した。

また、2010年度～2014年度の科研費補助研究（基盤研究A）「岡山孤児院の国際性」を通じて、英国バーナードズ本部等を訪問調査し、2013年8月には、バーナードズ関係者2名を日本に招き、宮崎と東京で国際セミナーを開催することができた。最終的な研究成果報告者にはアメリカン・ボードの側から見た岡山孤児院について書いた。

なお、2014年、日本キリスト教社会福祉学会として『日本キリスト教社会福祉の歴史』を出版することができた。今後は、ドイツ・ペタゴギーを日本の児童ケアに試行的に導入するための取り組み、旧産炭地筑豊の生活保護史等について関係者の証言を含め一冊の著作に纏めること、引揚孤児救済研究の3テーマに取り組んでいきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

細井勇「自由と全体性」杉山博昭編『戦前期における社会事業の展開—自由と全体性の変遷をめぐって—』社会福祉形成史研究会、2015年

菊池義昭、細井勇編・解説『史料・岡山孤児院 機関誌編』全5巻、六花出版、2014年

細井勇「日露戦争後の感化救済事業とキリスト教」日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房、2014年

細井勇「ジョージ・ミュラー —神の恵みの証としてのブリストル孤児院—」室田保夫編『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2013年

〈論文〉

細井勇「アメリカン・ボード宣教師 J. H. ペティーから見た岡山孤児院—The Missionary Heraldの掲載記事より—」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ、2015年

細井勇「児童ケアの目的と方法：アイデンティティーの観点から—バーナードズと岡山孤児院の比較検討を通じて—」『キリスト教社会福祉学研究』46号、2013年

②その他最近の業績

〈書評〉

細井勇「書評：木原活信著『社会福祉と人権』」『キリスト教社会福祉学研究』46号、2015年

細井勇「書評：津崎哲雄著『英国の社会的養護の歴史：子どもの最善の利益を保障する』」『社会福祉研究』54-4、2014年

細井勇「書評：室田保夫著『近代日本の光と影—慈善・博愛・社会事業をよむ—』」『社会事業史研究』44号、2013年

細井勇「書評：姜克實著『近代日本の社会事業思想—国家の「公益」と宗教の「愛」—』」『社会事業史研究』41号、2012年

〈史料紹介・その他〉

細井勇「発刊にあたって」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ（科研費研究「岡山孤児

院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇最終報告書) 2015年

細井勇「結びにかえて」並松秀邦編『福岡県立大学社会福祉学会報告書 平成22年～26年、大会報告』福岡県立大学、2015年

細井勇、菊池義昭、元村智明編『石井十次資料館蒐・所蔵資料仮目録 簿冊文書の部 高鍋図書館所蔵』石井十次研究会、2014年

細井勇 「巻頭言」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅱ(科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇中間報告書) 2014年

細井勇「スウェーデン及び英国出張報告」『石井十次資料館研究紀要』14号、2013年

細井勇、菊池義昭、三上邦彦、高松誠、飛田圭吾『(第16回石井十次セミナー冊子)石井十次に影響を与えたバーナードホームと現在のバーナードズ』石井十次研究会、2013年

細井勇「巻頭言」『石井十次資料館研究紀要』別冊(科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇中間報告書) 2012年

〈学会報告等〉

細井勇「(基調講演)歴史から学ぶ社会的養護実践」日本児童養護実践学会第5回研究大会(於目白大学) 2014年2月15日

細井勇「児童ケア・リーヴァーの出生記録及びケア記録へのオープン・アクセスについてー英国バーナードズの経験からー」日本社会福祉学会第61回秋期大会(於北星学園大学) 2013年9月21日

細井勇「日英の児童保護の比較研究ーバーナードホームと岡山孤児院の実践史の比較を通じてー」日本社会福祉学会第60回秋期大会(於関西学院大学) 2012年10月21日

細井勇・津崎哲雄 Trends in Policy and Practice for vulnerable children:A Comparative Study of Residential Child Care in Japan & Briton:Okayama Orphanage and Banardo's. (於ストックホルム、Joint World Conference on Social Work and Social Development) 2012年7月9日

同内容をBanardo'sでも報告、2012年7月17日。

③過去の主要業績

細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年

細井勇『石井十次と岡山孤児院ー近代日本と慈善事業ー』ミネルヴァ書房、2009年

田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年
共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

3. 外部研究資金

細井勇研究代表・科研費研究(基盤研究A)「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」平成22～26年度、平成26年度の直接経費は590万円

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会(理事)、社会事業史学会、司法福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会(事務局長)

6. 担当授業科目

(学部)

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年前期、社会福祉史入門・2単位・1年後期、児童福祉論／児童家庭福祉・2単位・2年前期、社会福祉発達史・2単位・3年後期、施設養護論・2単位・4年前期、社会福祉相談援助実習指導・3単位・2年～3年、社会福祉相談援助実習・4単位・3年、相談援助演習C・1単位・3年後期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年後期

(大学院)

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
児童養護施設栄光園 評議員

8. 学外講義・講演

細井勇「相談援助演習と実習教育」平成26年度社会福祉士養成校協会九州ブロック研究大会、於福岡教育大学、2015年2月20日

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組むNPO法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動（ソーシャルワークや介護、各種の生活支援）に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の研究テーマとしては、①高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特にNPO法人が提供するサービス）の提供に関する研究、②高齢者の権利擁護に関する研究（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、③高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの今後の展開（特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等等）に関するものがあります。また、研究上意識することとして、社会福祉に関する調査結果等を用いて、現実の福祉課題を抽出・発見し、それを福祉実践にフィードバックしていくことで現実の社会福祉サービスの向上に貢献できればと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文（2012-2014年度）

- 1) 本郷秀和・永田千鶴・鬼崎信好・荒木剛、「調査報告 フィンランド高齢者福祉を巡る動向 I（公的機関編）-2012-2013年度のヒアリング調査結果の紹介-」『福岡県立大学人間社会学部紀要 第23巻第1号』2014年9月。
- 2) 永田千鶴・北村育子・松本佳代・東清巳・松本千晴・本郷秀和、「エイジング・イン・プレイスを果たす認知症高齢者ケアモデルの開発ー小規模多機能事業所併設グループホームにおけるケアサービスの探究ー」『熊本大学医学部保健学科紀要』第10号、熊本大学医学部保健学科、2014年3月（※査読有）。
- 3) 本郷秀和「第14章 社会福祉の相談援助」「第16章 社会福祉を巡る諸問題とこれからの社会福祉援助」、鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論 第2版』、講談社、2014年2月（※2015年3月に重版発行予定）。
- 4) 本郷秀和「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題ー福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識ー」『社会福祉学』第54号第2巻、日本社会福祉学会、2013年8月（※査読有）。
- 5) 田中将太・本郷秀和「主要職歴からみた介護系NPOのマネジメントの課題ー市民性・社会変革性・組織安定性とマネジメント意識-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第20巻第2号、2013年7月。
- 6) 永田千鶴・北村育子・本郷秀和・東清巳・松本千晴・松本佳代「エイジング・イン・プレイスを果たす認知症高齢者ケアモデルの開発ー地域密着型介護老人福祉施設におけるケアサービスの探究ー」『熊本大学医学部保健学科紀要』第9号、熊本大学医学部保健学科、2013年3月（※査読有）。
- 7) 本郷秀和「介護系NPOにおける社会福祉とソーシャルワークの必要性と課題ー2003、2009年度の介護系NPO全国実態調査の比較を通じてー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第1号、福岡県立大学、2012年7月。
- 8) 本郷秀和「第4章-4 障害者虐待」「第12章 社会福祉の相談援助」「第15章 社会福祉を巡る諸問題とこれからの社会福祉援助」、鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2012年4月。

②その他最近の業績（2012-2014年度）

- 1) 共著、科研費調査報告書「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」2015年3月発行予定。
- 2) 共著（編集委員）、『21世紀の現代社会福祉用語辞典』九州社会福祉研究会編（学文社）2013年3月。

- 3) 共著、科研費報告書「エイジング・イン・プレイスを果たす地域密着型事業所別ケアモデルの開発」2013年3月.
- 4) 趙秀眞 (ジョスジン)、本郷秀和「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）における施設社会化の現状と課題」日本社会福祉学会第52回大会九州部会口頭発表（会場：鹿児島国際大学）、2014年6月.
- 5) 本郷秀和「相談援助実習における直前指導の現状と課題～高齢者福祉領域を中心に～」2013年度日本社会福祉士養成校協会九州ブロック研究大会口頭発表（会場：沖縄国際大学）2014年2月.
- 6) 本郷秀和「高齢者虐待のリスク把握に関する介護支援専門員の現状と意識」日本社会福祉学会第54回大会九州部会口頭発表（会場：クローバープラザ）、2013年6月.
- 7) 永田千鶴、本郷秀和、北村育子、東清巳、松本佳代、松本千晴「エイジング・イン・プレイスを果たす認知症高齢者ケアモデルの開発ー地域密着型介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）編ー」日本老年看護学会第17回学術集会口頭発表（会場：石川県金沢市歌劇座、主催：石川県立看護大学）、2012年7月.
- 8) 田中将太・本郷秀和、「介護系NPOにおけるマネジメントの必要性と課題ーエクセレントNPO評価基準を用いた九州・沖縄地域の実態調査を通じてー」日本社会福祉学会第53回大会九州部会口頭発表（会場：久留米大学）、2012年6月

③過去の主要業績 [2011年度以前、3点以内]

- 1) 本郷秀和、「介護保険制度下のNPO法人におけるソーシャルワーク実践の方向性」、『日本の地域福祉』第17巻、日本地域福祉学会、2003年3月.
- 2) 本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄、「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻、日本地域福祉学会、2006年3月.
- 3) 本郷秀和、「第6章 福祉NPOが地域の主体となって取り組む」妻鹿ふみこ編著『地域福祉の今を学ぶー理論・実践・スキルー』ミネルヴァ書房、2010年3月.

3. 外部研究資金（2014年度のみ）

- ①平成26-29年度 科学研究費補助金【基盤研究C】（共同）※研究代表：本郷秀和、テーマ：「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」468万円（総額）
- ②平成25-28年度 科学研究費補助金【基盤研究C】（共同）※研究代表：永田千鶴（山口大学）、テーマ：「エイジング・イン・プレイスを果たす地域密着型事業所別認知症高齢者ケアモデルの開発」370万円（総額）.
- ③平成23-26年度 科学研究費補助金【基盤研究C】（共同）※研究代表：鬼崎信好（久留米大学）、テーマ：「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」380万円（総額）.

4. 所属学会

- ①日本社会福祉学会 ②日本地域福祉学会 ③日本社会福祉士会 ④日本介護福祉学会
- ⑤日本老年看護学会 ⑥日本高齢者虐待防止学会

5. 担当授業科目（2014年度のみ）

〈学部：人間社会学部〉

- ①「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」（2単位・1年後期）
- ②「社会貢献論」（2単位・1年前期・共同）
- ③「相談援助実習指導」（3単位・3年通年・共同） ④「相談援助実習」（4単位、3年通年）
- ⑤「相談援助実習指導」（3単位・2年通年・共同）
- ⑥「相談援助の理論と方法B」（2単位・2年前期）
- ⑦「社会福祉学演習」（4単位・3年後期～4年前期・通年）
- ⑧「卒業論文」（6単位・4年次後期） ⑨「社会貢献論演習」（2単位・1年後期・共同）
- ⑩「福祉経営論」（2単位・3年前期） ⑪「相談援助演習A」（2単位・2年通年）
- ⑫「相談援助演習C」（1単位、3年後期）

〈大学院：人間社会学研究科（社会福祉専攻）〉

- ⑬「高齢者福祉研究」（2単位・1年後期） ⑭「高齢者福祉演習」（2単位・1年前期）
⑮「特別研究」（4単位・1-2年通年） ⑯「フィールドワーク」（2単位・1年後期）

6. 社会貢献活動（2014年度のみ）

- ①福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員
②福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員会 苦情解決小委員会委員
③福岡県社会福祉協議会 外部評価 評価審査委員会（地域密着型外部評価事業）
④福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費審査会審査委員
⑤篠栗町（福岡県粕屋郡） 地域福祉計画策委員会（2015.3～、委員長）
⑥篠栗町社会福祉協議会（福岡県粕屋郡） 地域福祉活動計画策委員会（2015.3～、委員長）
⑦田川市地域包括ケア調整会議 委員
⑧日本社会福祉学会九州部会運営委員（※九州部会研究誌「九州社会福祉学」査読委員）
⑨玉名荒尾地区（熊本県）「障害者児の生活を豊かにする会」（任意団体）会員・会計監査
⑩NPO 法人地域たすけあいの会（訪問介護・通所介護・居宅介護支援・住宅型有料老人ホーム、学童保育、配食サービス、福祉有償運送、就労移行支援事業等を実施）理事代表他。

7. 学外講義・講演（2014年度のみ）

- ①平成26年度 福岡県人権相談従事者研修「高齢者と虐待問題」（主催：福岡県人権啓発情報センター）講師、2014年9月（会場：福岡県人権啓発情報センター他）
②北九州市若松区ケアマネジメント研修「介護サービスのリスクマネジメント」講師、北九州市若松区役所統括支援センター主催、2014年9月。
③平成26年度市町村職員研修「介護支援専門員に対する苦情と対応姿勢」（主催：福岡県国民健康保険団体連合会）講師、2015年3月予定（会場：福岡県自治会館）。

【※資格等】博士（社会福祉学）、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、救急救命士、介護支援専門員、専門社会調査士他。

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私が現在行っている主要な研究分野は、以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の学校教育問題を解決していくためにスクールソーシャルワーカーに課せられた専門的役割や機能について実践研究を行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくための支援方法として、アウトリーチを中心としたソーシャルワークについて研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。ノーマライゼーションの理念普及から知的障害・発達障害（児）者においても地域生活の充実を推進していく動きが高まりを見せていますが、現実的には利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しています。これらの状況から、地域生活の質を向上させる専門的支援方法等の研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編集『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際』、中央法規出版、2014年4月。
- ・奥村賢一「第7章 スクール（学校）ソーシャルワーカーとスーパービジョン」社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『スクール（学校）ソーシャルワーク論』、中央法規出版、2012年4月。
- ・奥村賢一「第7章 3 ミクロ実践の展開過程③スクールソーシャルワークにおけるモニタリング」山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房、2012年4月。

<論文>

- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：「精神保健福祉援助実習指導—新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻，第1号，2014年7月。
- ・奥村賢一「スクール（学校）ソーシャルワーク実習に関する実態調査」『学校ソーシャルワーク研究』第8巻，2013年6月。
- ・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・浜田知美・大門俊樹・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョン体制の動向調査結果の概要」『学校ソーシャルワーク研究』第8巻，2013年6月。

②その他最近の業績

<報告書>

- ・奥村賢一『スクール（学校）ソーシャルワーク現場実習プログラムの構築に向けた基礎研究』科学研究費助成事業（若手研究B）研究報告書，2013年3月。

<学会報告>

- ・奥村賢一「児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する実態調査—活動形態の比較による被虐待児童生徒の状況分析」日本学校ソーシャルワーク学会第8回全国大会自由研究発表（福島大学）2013年7月。
- ・Okumura K, The role of school social workers in preventing child abuse in Fukuoka city -A case study of in-house school social workers, 2012 Joint World Conference on Social Work and Social Development : Action and Impact, Stockholmsmassan,

Sweden, 2012年7月.

- ・奥村賢一「児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する実態調査－福岡県におけるスクールソーシャルワーカーの活動形態に焦点化して」日本社会福祉学会九州部会第53回研究大会自由研究発表（久留米大学），2012年6月.

③過去の主要業績

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと－スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版，2009年9月.

<論文>

- ・奥村賢一「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察－パワー相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻，2009年6月.
- ・奥村賢一「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察－軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号，2009年5月.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費補助金（若手研究B）「ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研究」195万円，平成25年度～平成26年度.
- ・科学研究費補助金（若手研究B）「スクール（学校）ソーシャルワーク現場実習プログラムの構築に向けた基礎研究」182万円，平成23年度～平成24年度.
- ・門田光司（研究代表者）科学研究費（基盤研究C）「スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発」1,289万円，平成23年度～平成27年度，共同研究者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

<学部>「学校ソーシャルワーク論」(1単位、4年、前期)、「学校ソーシャルワーク実習指導」(1単位、4年、前期)、「学校ソーシャルワーク実習」(2単位、4年、後期)、「相談援助の理論と方法C」(2単位、2年、後期)、「相談援助演習B」(4単位、3年、通年)、「社会福祉学演習」(4単位、3年～4年、後期～前期)、「卒業論文」(6単位、4年、後期)、「家族福祉論」(2単位、3年、後期)、「家庭支援論」(2単位、3年、後期)、「精神保健福祉援助実習」(8単位、4年、通年)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位、3・4年、通年)、「不登校・ひきこもり援助論」(2単位、1年、前期)、「不登校・ひきこもり援助応用演習」(1単位、4年、後期)

<大学院>「子ども家庭福祉研究」(2単位、1・2年、前期)

7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会・理事兼事務局長
- ・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

- ・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
- ・北九州市立今町小学校 学校評議員・学校関係者評価委員
- ・福岡市立当仁小学校 学校サポーター会議・委員
- ・福岡県立博多青松高等学校・学校関係者評価委員
- ・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・平成26年度柳川市・みやま市学校警察連絡協議会生徒指導担当者研修会「福祉的視点を用いた問題を抱える児童生徒への支援方法」まいピア高田，2015年2月。
- ・日本学校教育相談学会福岡市支部・福岡市学校教育相談実践研究会合同研修会「精神疾患をもつ保護者への支援―不登校等の課題解決に向けた取り組み」福岡市こども総合相談センター，2015年2月。
- ・平成26年度山口県光市ゲートキーパー研修「構成的グループエンカウンターを活用したストレスマネジメント」光市立島田中学校他，2014年8月～12月。
- ・大牟田市子ども支援ネットワーク研修会「子どもと家庭をチームで支える―機関関係と協働」大牟田市生涯学習支援センター，2014年12月。
- ・2014年度香川スクールソーシャルワークセミナー「こどものニーズ・おとなのニーズ―こども中心の支援を考える」かがわ総合リハビリテーション福祉センター，2014年12月。
- ・福岡市生活補導主事研究会第2回研修会「問題を抱える生徒の効果的支援に向けた機関連携のコツ」福岡市教育センター，2014年11月。
- ・日本学校教育相談学会九州・沖縄地区研修会「問題を抱える子ども・家庭への支援―学校・家庭・地域の関係に向けて」長崎ブリックホール，2014年11月。
- ・平成26年度香川県児童虐待防止講演会「困った子は困っている子―ネグレクト事例にみる学校ソーシャルワーク実践」香川県社会福祉総合センター，2014年11月。
- ・生＝性教育講演会「命の大切さ―つなぐ」八女学院高等学校，2014年10月。
- ・平成26年度豊中市ユースアドバイザー養成講座「若者支援に求められるソーシャルワーカーの視点」豊中市立青年の家いぶき，2014年9月。
- ・平成26年度福岡県人権相談従事者職員研修「子どもと人権」クローバープラザ他，2014年9月9日，11日。
- ・公益法人社団福岡県介護支援専門員協会筑豊支部研修会「相談援助スキルアップ講座」福岡県立大学，2014年8月。
- ・総合的な子ども支援推進リーダー養成研修「リーダーとしてのコミュニケーションスキルの向上」「課題のある子どもとその保護者への対応」やまぐち総合教育支援センターセミナーパーク，2014年8月。
- ・平成26年度長崎県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業運営協議会「関係機関との関係について」長崎県教育センター，2014年8月。
- ・平成26年度子どもの「いのち」を守る研修会「いじめから子どもを守る大人の役割―今、わたしたちにできること」大野城まどかぴあ，2014年8月。

<メディア>

- ・RKBラジオ「スクールソーシャルワーカーの力」『ウイ・ラブ・ヒューマン』2014年8月4日～6日（3日連続）。
- ・有明新報（朝刊）「それぞれの立場に理解を―子ども支援ネットワーク・機能充実と資質向上を図る」，2014年12月19日。

その他多数

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 学校ソーシャルワーク実践に関する研究
2. 児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究
3. 知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	平部 康子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 主な研究分野

【日英の社会保障制度における家族負担】

現在のように、家族形態の変容（核家族、単親家族）および労働市場への女性の参加が進むと、子の養育や家族の介護は、それを担う者にとって2重の負担（労働機会の喪失、養育や介護のための出費）となる。日英の比較を通じて、社会保障法上にちらばっている家族給付や福祉サービス（児童手当、介護手当や各種加算、介護および保育サービス）と負担（所得制限、費用負担）において家族負担がどのように位置づけられてきたかを把握するとともに、アンペイドワークを担う者が適切に評価され、他人の世話を要する者の支援を家族と社会で分担しうる社会保障法制を検討する。

【所得・福祉サービス給付における制度間調整】

介護および障害を事由とした給付が重複した場合に必要な所得・福祉サービス給付間の制度間調整について、個別制度の具体的目的をこえた共通の理念と原則を検討し、あるべき調整措置を考察する。例えば、社会参入の方法の一つである「就労」をどのように扱うべきか（所得保障給付の要件とする、給付ではなく加算の要件にし緩やかな誘引にとどめる、「就労」よりも広く「社会参入」の範囲を定義づける、所得保障とは組み合わせず独立した就労支援サービスを設ける）など、イギリスの積極的社会政策における具体的措置をわが国と比較したい。

2. 研究業績

①著書・論文

<著書>

- ・ 平部康子「虐待・暴力と社会的支援」 社会保障法学会編『新・講座社会保障法（第2巻）地域を支える社会福祉』（2012年、法律文化社）
- ・ 平部 康子「イギリスの介護保障」 増田雅暢編『世界の介護保障』（2014年、法律文化社）

<論文>

- ・ 平部康子「イギリスにおける社会保障給付と財源の統合化」 海外社会保障研究 179号（2012年）

②その他

<学会報告>

- ・ 平部康子「児童虐待法制の課題」 九州法学会2012年（第117回）学術大会（2012年7月）

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会保障法学会・社会保障法学会企画委員
日本労働法学会

6. 担当授業科目

（学部）

教養演習・2単位・1年・前期、公的扶助論・2単位・2年・後期、社会福祉援助技術現

場実習指導・3単位・2年後期～3年通年、権利擁護と成年後見制度・2単位・3年・前期、社会福祉法制論Ⅰ・2単位・3年・前期、3年・前期、外書講読A・2単位・前期、社会福祉法制論Ⅱ・2単位・3年・後期、3年・通年、社会福祉援助技術現場実習・4単位・3年・前期、相談援助演習C・2単位・3年・後期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒論指導・6単位・4年・後期、日本事情Ⅰ・2単位・留学生・後期、(大学院)
社会保障制度研究・2単位・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県職業能力開発審議会・委員
- ・福岡県県営住宅管理審議会・委員
- ・田川市男女共同参画審議会・委員長
- ・香春町次世代育成支援対策協議会・委員長
- ・香春町教育委員会評価委員会・委員長
- ・飯塚市指定管理者選定委員会・委員長

8. 学外講義・講演

救急救命士養成研修 救急救命九州研修所「社会保障と社会福祉」

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	村山 浩一郎
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」、『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月
- ・村山浩一郎「第9章 地域福祉」, 鬼崎信好編著『コメディカルのための社会福祉概論 第2版』, 講談社, 2014年2月 (※2015年3月に重版発行予定)

②その他最近の業績

<調査報告書>

- ・共著、科研費調査報告書『利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究』, 2015年3月発行予定

<学会>

- ・コミュニティ政策学会第12回大会「分科会Ⅱ 迫る超高齢化社会に備える地域福祉を考える」コーディネーター, 2013年7月7日

<実践プログラム開発>

- ・北九州市社会福祉協議会, 村山浩一郎監修『つくってみよう! わたしたちのまちのふくしプラン～小地域福祉活動計画策定の手引き～』, 北九州市社会福祉協議会, 2012年5月

<辞典>

- ・共著(編集委員), 九州社会福祉研究会編『21世紀の現代社会福祉用語辞典』, 学文社, 2013年4月

③過去の主要業績

- ・村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究—北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析から—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号, 2010年
- ・村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」, 『西南女学院大学紀要』第13巻, 2009年
- ・村山浩一郎「非営利組織と社会的監査—英国スコットランドの事例から—」, 『社会福祉学』第41巻2号, 日本社会福祉学会, 2001年

3. 外部研究資金

- ・平成23-26年度 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】(共同) ※研究代表: 鬼崎信好(久留米大学), 研究課題: 「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」

4. 受賞 なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本社会学会, 福祉社会学会, 地域社会学会, リハビリテーション連携科学学会

6. 担当授業科目

<学部>社会貢献論 (2単位・1年・前期), 社会貢献論演習 (2単位・1年・後期), 福祉行財政と福祉計画 (2単位・3年・前期), 社会福祉計画論 (2単位・3年・前期), 地域福祉論Ⅰ (2単位・3年・前期), 地域福祉論Ⅱ (2単位・3年・後期), 相談援助実習指導 (3単位・2年～3年・通年), 相談援助実習 (4単位・3年・通年), 相談援助演習B (2単位・3年・通年), 相談援助演習C (1単位・3年・後期), 社会福祉学演習 (2単位・3年～4年・後期～前期), 卒業論文 (6単位・4年・後期), プレインターンシップ (2単位・1・2年・通年)

<大学院>地域福祉研究 (2単位・1・2年・前期), 地域福祉演習 (2単位・1・2年・後期)

7. 社会貢献活動

- ・大牟田市地域福祉計画推進委員会・委員長
- ・みやこ町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会・委員長
- ・みやこ町障害者計画・第4期障害福祉計画策定委員会・委員
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会・見守り部会・部会長
- ・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会・委員
- ・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議・座長
- ・行橋市営住宅長寿命化計画策定委員会・委員
- ・苅田町地域福祉推進委員会・委員長
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会・委員長
- ・北九州市社会福祉協議会総合企画委員会・委員
- ・北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員会・委員長
- ・志免町社会福祉協議会ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会・委員長

8. 学外講義・講演

- ・福岡県社会福祉協議会・市区町村社会福祉協議会新任職員研修会・講師 (4. 25)
- ・福岡県地域福祉活動職員連絡会・コミュニティワーク研究会・講師 (5. 16, 7. 19, 9. 20, 11. 21)
- ・北九州市社会福祉協議会・小地域福祉活動計画策定研修・講師 (6. 13, 10. 10, 2. 20)
- ・苅田町社会福祉協議会・苅田町地域福祉セミナー・講師 (6. 24)
- ・福岡県地域福祉活動職員連絡会・社会福祉協議会とコミュニティワークについて考える社協中堅職員の集い・講師 (9. 9)
- ・京築地区社会福祉協議会連絡協議会・「福岡県内市町村社協活動指針」研修会・講師 (10. 3)
- ・福岡県母子寡婦福祉連合会・母子自立支援員研修会・講師 (10. 24)
- ・北九州市教育委員会・生涯学習指導者育成セミナー講師 (10. 11, 11. 29, 12. 6)
- ・八女市社会福祉協議会・職員研修会・講師 (12. 11)
- ・筑後市社会福祉協議会・くらしと福祉の学級・講師 (2. 28)
- ・北九州市社会福祉協議会・社協のすすめるサロン活動セミナー・講師 (3. 5)
- ・福智町社会福祉協議会・福祉入門教室・講師 (3. 20)

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所社会貢献・ボランティア支援センター・センター長

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	河野 高志
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。今後は、ソーシャルワーク実践として多分野で活用可能なケアマネジメント方法の構築を目指して研究を進めていきます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

河野高志「日本のケアマネジメント展開の課題 ―英米との比較をとおした今後の展望の考察―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻 第1号、福岡県立大学人間社会学部、2013年

河野高志「ソーシャルワーク・レパトリーとしてのケアマネジメントの意義 ―レパトリー比較からの考察―」『京都府立大学学術報告・公共政策』第4号、京都府立大学、2012年

河野高志『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 ―実践研究による方法の理論的検証―』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2012年3月、pp.1-191

②その他最近の業績

《学会発表》

河野高志「ソーシャルワークからみた日本のケアマネジメントの問題 ―英米との比較をとおした考察―」日本ソーシャルワーク学会 第30回大会、仙台白百合女子大学、2013年6月30日

③過去の主要業績

河野高志「海外のソーシャルワーク事情 - 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 -」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、2010年、pp.12-14

太田義弘編、太田義弘・溝渕淳・長澤真由子・西内章・安井理夫・山口真里・西梅幸治・丸山裕子・伊藤佳代子・小榮住まゆ子・菊池信子・中村佐織・加藤由衣・河野高志・梅木真寿郎著『ソーシャルワーク実践と支援科学 - 理論・方法・支援ツール・生活支援過程 -』相川書房、2009年、pp.178-183

河野高志「ソーシャルワークにおけるケアマネジメント・アプローチの意義 - 先行研究の分析を通して -」『福祉社会研究』京都府立大学福祉社会研究会 第7号、2007年3月、pp.91-105

3. 外部研究資金

平成26～27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究B「多分野で展開可能なケアマネジメント方法に関する基礎的研究」（研究代表者：河野高志）1,300千円

平成25～27年度科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの検討」（研究代表者：中村佐織、研究分担者：菊池信子、丸山裕子、山口真里、加藤由衣、河野高志）2,800千円（H.25：100千円、H.26：100千円）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

相談援助の理論と方法A (2単位・2年・前期)、相談援助の理論と方法D (2単位・3年・前期)、相談援助の基盤と専門職 I (2単位・1年・前期)、社会福祉概論 II (2単位・1年・後期)、日本事情A (2単位・留学生・後期)、相談援助演習A (2単位・2年・通年)、相談援助演習C (1単位・3年・後期)、社会貢献論演習 (2単位・1年・後期)、相談援助実習 (4単位・3年・通年)、相談援助実習指導 (3単位・2～3年・通年)、社会福祉学演習 (4単位・3年・後期)、卒業論文 (6単位・4年・後期)

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画センター運営委員会 委員

田川市地域人づくり事業に係る選考委員会 委員

8. 学外講義・講演

福岡県社会福祉士会 認定社会福祉士基礎研修 II・III (実践評価・実践研究系科目 I) 講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	寺島 正博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないとは言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今の新聞等が大きく報道するように、障害者への虐待は重大な人権侵害である。このような虐待問題の解消に取り組むため、国内外において未だ明らかにされていない障害福祉サービス従事者が行う無意識の虐待等について研究している。具体的には従事者が無意識の虐待等に対してどのような意識であるのか、無意識の虐待等と従事者の個人属性や労働環境がどのような関係にあるか、また従事者が無意識であることから間接手法を用いて観察従事者による加害従事者の無意識の虐待等について明らかとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・（単著）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国アンケート調査における観察従事者の視点－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号，福岡県立大学人間社会学部，2015年，1－16頁。
- ・（単著）「障害福祉サービス従事者による虐待の防止に関する研究－虐待の概念に対する検討－」『東京福祉大学・大学院紀要』（研究ノート）第3巻第1号，東京福祉大学，2013年，57-65頁。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・（単独）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国障害福祉サービス従事者の意識調査から－」『日本社会福祉学会第62回全国大会（会場：早稲田大学，口頭発表）』日本社会福祉学会，2014年11月。

<セミナー>

- ・（単独）「日本・中国・韓国3ヶ国の障害福祉に関するセミナー」主催：韓国障害者開発院「日中韓障害者福祉の現状について」（会場：韓国障害者開発院，口頭発表），2014年5月。

<解説集>

- ・（共著）『2014社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2013年。
- ・（共著）『2014精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2013年。
- ・（共著）『2015社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2014年。
- ・（共著）『2015精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2014年。

③過去の主要業績

<著書>

- ・（単著）『障害者の地域移行への援助－グループホーム従事者の専門職性』文芸社，2012年。

<論文>

- ・（単著）「知的障害者のグループホーム従事者による利用者のコンピテンス評価の課題－全国調査による一人暮らしのニーズに対する阻害要因から－」『東京福祉大学・大学院紀

要』第2巻第2号，東京福祉大学，2012年，133-140頁。

- ・（単著）「知的障害者グループホーム利用者と地域住民の交流に対する意義と促進要因の研究ー地域住民と知的障害者グループホーム従事者のインタビュー調査からー」『社会科学論集』第2号，2010年，27-108頁。

3. 外部研究資金

- ・「障害福祉サービスで起こる『無意識の虐待』の存在と防止モデルに関する研究」平成25年度科学研究費助成事業（基盤研究C）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本社会福祉士会
- ・日本グループホーム学会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・障害学会

6. 担当授業科目

障害者福祉論（2単位・2年・前期）、精神保健福祉論Ⅰ（2単位・2年・後期）、相談援助実習指導（3単位・2年～3年・通年）、社会福祉学演習（2単位・3年～4年・後期～前期）、相談援助演習B（2単位・3年・通年）、相談援助演習C（1単位・3年・後期）、教養演習（2単位・1年・前期）。

7. 社会貢献活動

- ・みやこ町障害福祉施策検討委員会委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学公開講座第3回「介護保険の活用ー申請と利用」

9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター委員

（研究内容）

1. 障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等に関する研究
2. 知的障害者のグループホーム従事者における専門職性に関する研究
3. 障害者の養護者における無意識の虐待等に関する研究

（保有学位）

博士（学術）

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	平林 恵美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

我が国では、精神障害者の社会復帰活動やリハビリテーションは、医療の領域に限定された狭い意味で用いられてきました。近年では精神障害者の就労に対するニーズが高まり、その内容も多様化しています。過去に行った研究結果では、精神障害者の就労支援は、精神保健福祉士が職場開拓を行うとか、授産施設などにおける就労訓練・就労準備を行い、一般就労に向けた仕事を探すことが一般的であり、そのため、退院、社会への適応、就労などを社会復帰と表現していました。またリハビリテーションにおいては、過去の考えから大きく変わったものとして、「全人的復権」の考え方があります。現在では、医学モデルに基づいた治療から反省して、利用者の主体性や尊厳、自己決定権の尊重、自由を基調とするようになり、リハビリテーションには医療だけでなく、福祉的援助が不可欠であることが共通の認識になってきました。

以前より精神科領域で使われてきた「社会復帰」という言葉は、近年ではこの「リハビリテーション」に言い換えられてきているようですが、人が自ら持っている力を活かし、社会参加や自己実現をし、より良い生活をしていくために状況に応じて主体的に対処し、対応していける力を発揮できるように援助することは、ソーシャルワークの役割であるとともに、それはリハビリテーションの技術にも関わるものと考えます。今後めまぐるしく変化する障害者施策の状況に鑑み、精神科リハビリテーションの実践的・理論的発展が喫緊の課題となっています。

今後の私の研究については、当事者の社会参加の方法、就労支援のあり方やその体系化の検討だけでなく、ソーシャルワーカーの役割と実践的課題について検討を深めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・平林恵美「第5章 障害者自立支援法と組織・団体の役割」新版 精神保健福祉士・社会福祉士養成セミナー編集委員会編集 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー『第11巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、へるす出版、2012年5月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- ・入江多津子・平林恵美「精神保健福祉援助演習 I における学生の学びの実際ー演習の意味を考えるー」『健康科学大学紀要』第7号、2011年3月
- ・荒田寛、池田武俊、岩尾貢、内出幸美、大谷のみ子、水井勇一、平林恵美、高村智子、山梨恵子、橋詰清『独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」平成21年度助成事業「認知症グループホームにおける運営推進会議の実態調査・研究事業」』報告書、2010年3月
- ・平林恵美『精神障害者の就労支援における福祉工場の機能に関する研究ー地域生活における「生活者」を重視した支援方法の展開の検討ー』財団法人明治安田こころの健康財団「2005年度研究助成論文集」通巻第41号、2006年10月

5. 所属学会

- ・日本社会福祉学会、日本病院・地域精神医学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、(社)日本精神保健福祉士協会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)・2単位・2年・

前期、精神保健福祉論Ⅰ・2単位・2年・後期、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・2単位・3年・前期、精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助演習・2単位・4年・通年、精神保健福祉援助演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位・3年～4年・3年前期～4年後期、社会福祉学演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、これまで、高齢者の生きがい支援のあり方、高齢者が積極的に社会参加できる地域ケアシステムの課題について研究を進めてきました。今後は、高齢者の権利擁護の必要性を踏まえ、「介護施設内における高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めていきたいと考えています

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育のあり方にも関心を持っています。これまでの具体的な取組みとして、「社会福祉学科学生の実習意識に関する調査」等の調査を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文 [2012(平成24)年度～2014(平成26)年度]

- (1) 松岡佐智「第9章 社会福祉のニーズとサービス」、鬼崎信好(編)、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2012年4月
- (2) 松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題 (1) 一旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題一」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、福岡県立大学、2014年1月
- (3) 松岡佐智「第11章精神保健福祉」、鬼崎信好(編)、『コメディカルのための社会福祉概論 第2版』、講談社、2014年2月

②その他の業績

〈調査報告書〉

- (1) 鬼崎信好(研究代表)編集、本郷秀和、村山浩一郎、松岡佐智、永田千鶴、荒木剛「利用者本位の介護サービス評価手法の開発に関する研究」久留米大学発行、2015年3月。(平成23～26年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書)

〈辞典〉

- (1) 松岡佐智「施設福祉サービス」、「指定介護老人福祉施設」、「指定居宅介護支援」、「指定居宅介護支援事業者」、「シルバー人材センター」、「生活の質(QOL)」、「生活リハビリ」、「成人病」、「前期高齢者」、「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」、「特例居宅介護サービス計画費」、「特例施設介護サービス費」、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」(計13項目を執筆)、九州社会福祉研究会(編)、『現代社会福祉用語辞典』、学文社、2013年3月

③過去の主要業績

- (1) 本郷秀和、荒木剛、松岡佐智、袖井智子「介護系NPOの実態と課題 ー平成21年度制度外サービスを実施するNPO法人全国実態調査における自由回答の分析を中心にー」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第19巻第2号、福岡県立大学、2011年1月
- (2) 松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究 ー福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱー」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第17巻第2号、福岡県立大学、2009年1月
- (3) 松岡佐智「高齢者の生きがいと社会参加に関する調査研究 ー北九州市のアンケート調査をもとにしてー」『九州社会福祉学』創刊号、日本社会福祉学会九州部会、2005年3月

3. 外部研究資金（平成 26 年度）

- (1) 鬼崎信好(研究代表) 平成 23-26 年度 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】、研究課題：「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」（平成 23-26 年度：494 万円）共同研究者

4. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会

所属	人間社会学部社会福祉学科	職名	助教	氏名	畑 香理
----	--------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族の方への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。

近年、我が国の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げています。効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会とをつなぎ、患者や家族の方を支援していく役割を担っています。地域での安寧な生活を継続できる社会が求められる中、今後ますます医療ソーシャルワークの専門的支援方法の向上が必要になってくると考えます。

そのため、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践の課題に対する検討等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』—新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について—」福岡県立大学発行、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号, 2014年9月.
- ・畑香理「第13章 社会福祉の実践事例」鬼崎信好編著『コメディカルのための社会福祉概論』講談社、2012年4月.
- ・今村浩司・本郷秀和・畑香理「成年後見制度に関する一考察 - 北九州成年後見センターの取り組みを参考に -」福岡県立大学発行、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第19巻第2号, 2011年1月.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- 日本社会福祉学会
- 日本保健福祉学会
- 福岡県立大学社会福祉学会
- 日本医療社会福祉協会、日本精神保健福祉士協会

6. 担当授業科目

- 精神保健福祉援助実習指導・3単位・3年・通年
- 精神保健福祉援助演習・2単位・3年・通年
- 精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年
- 精神保健福祉援助演習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

「生命保険実学講座」担当スタッフ

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. ○○に関する研究

2. △△に //

3. □□に //

（保有学位）

○○学博士

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	池田 孝博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

1992-1997 慶應義塾中等部

1997-2009 佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）

2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了

2009.4 本学着任

博士（スポーツ健康科学）

人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている。

①幼児の体力・運動能力の発育発達およびそれらに影響を及ぼす諸要因に関する研究

②日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究

③体育授業のカリキュラム・学習評価に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O., The reliability and validity of toe grip strength as an index of physical development in 4- to 5-year-old children. *Journal of Sports Science* (ISSN2332-7839), (印刷中), 2015.
- ・ 池田孝博・青柳領, 幼児の運動パフォーマンスの二極化傾向と性, 年齢, 体力, 運動スキルおよび発現契機との関連. *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 22(2): 21-34. 2014.
- ・ 池田孝博, 田川市中学校剣道プログラム (TCKP-1) の策定とその評価. *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 21(2): 47-63. 2012.
- ・ 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領, 剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. *武道学研究*, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- ・ 池田知子・池田孝博・長野恵子. 小学生の健康行動, ストレッサーおよび自己統制力とストレス反応の関連. *西九州大学健康福祉学部紀要*, 42: 1-9. 2012.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Ikeda, T. & Aoyagi (Mini oral Session) Item analysis of toe grip on preschool-aged children. 19th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Amsterdam, the Netherland), 2014.
- ・ Ikeda, T. , Aoyagi, Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Motivation for physical activity and learning in late childhood: comparison of factors between Korean and Japanese children. The 18th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Busan University, Korea), 2014
- ・ 池田孝博・青柳領 (口頭発表) 児童期後期における身体活動および学習動機づけの構造的関連. *日本体育学会第 65 回大会 (岩手大学)*, 2013.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi (Poster Session) The validity and reliability of a three-axis pedometer for measuring preschool children's physical activity. *Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science (APCESS) 6th* (Chinese culutur University, Taiwan), 2013.
- ・ 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・神崎浩・前阪茂樹・武藤健一郎・鍋山隆弘・太田順康・高橋健太郎・八木沢誠・吉田泰将・青柳領 (口頭発表) 無塗装の剣道場の床面に対する感覚的評価および物理的条件とスポーツ障害との関連. *日本武道学会第 46 回大会 (筑波大学)*, 2013.
- ・ 池田孝博・青柳領 (口頭発表) 幼児の運動能力の分布パターンの類型化とその性差. 日

本体育学会第 64 回大会 (立命館大学 BK), 2013. (優秀発表賞 受賞)

- Ikeda, T. & Aoyagi (Mini oral Session) Effects of motor play intervention on physical activity in Japanese preschool-aged children and the relationship between the effect and motor ability. 18th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (The National Institute of Physical Education of Catalonia (INEFC), Spain), 2013.
- 池田孝博・青柳領 (ポスター発表) 児童の運動意欲・学習意欲と運動技能, 遊び事, 遊びおよび勉強時間の関連. 日本体育学会第 63 回大会 (東海大学), 2012.
- 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・神崎浩・前阪茂樹・武藤健一郎・鍋山隆弘・太田順康・八木沢誠・吉田泰将・青柳領 (口頭発表) 集成材の剣道場床における機能性評価の因子構造と床面の特性. 日本武道学会第 45 回大会 (東京農工大学), 2012.
- Ikeda, T. & Aoyagi (Poster Session) Analysis of the use of aT-ball in the ball throwing distance test for preschool aged children. The 17th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Kyusyu University, Japan), 2012

③過去の主要業績

- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23. 2009.
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Meta-analytic Study of Gender Differences in Motor Performance and Their Annual Changes among Japanese Preschool-aged Children. School Health 4: 24-39, 2008.

3. 外部研究資金

- 平成 23-26 年 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 C))
「幼児の運動能力の二極化傾向とパフォーマンス特性との関連に関する研究」
(期間延長)

4. 受賞

- 平成 26 年度 日本武道学会優秀論文賞 受賞

5. 所属学会

日本体育学会, 日本発育発達学会, 日本測定評価学会, 日本体育科教育学会, 日本学校保健学会, 日本健康心理学会, 日本レジャー・レクリエーション学会, 身体運動文化学会, 日本武道学会, 日本武道学会剣道分科会, 九州体育・スポーツ学会

6. 担当授業科目

<学 部>

「健康科学実習Ⅰ」: 1単位, 1年前期 「健康科学実習Ⅱ」: 1単位, 1年後期 「体育Ⅰ」: 2単位, 2年通年 「体育Ⅱ」: 2単位, 3年通年 「演習」: 2単位, 3年後期~4年前期 「卒業論文」: 6単位, 4年

<大学院>

「地域教育支援研究ⅡA」: 2単位, 修士1年前期 「地域教育支援演習」: 2単位, 修士1年後期 「特別研究」: 4単位, 修士1年前期~後期 「フィールドワーク」: 2単位, 修士1年後期

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
----	---------------	----	----	----	-------

1. 主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民に対する精神障害の啓発教育（心理教育の方法）、自殺予防対策に取り組んでいる。近年の主な取り組みには、福岡県中間市や福岡市における自殺予防対策事業への参画や、福岡県内を中心とした自殺予防ゲートキーパー研修会講師がある。様々な精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法に興味を持っている。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。これまで心理臨床専攻大学院生は、アルコール依存症・境界性パーソナリティ障害・発達障害・自傷行為等についてのイメージと心理教育の効果、ストレスマネジメント教育の方法等をテーマとして研究調査を実施している。研究の手法として最近では、質的研究法にも興味を持って取り組み始めた。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・権 静香、小嶋秀幹：在日コリアン青年の名のり行動形成に伴う心理的プロセス。福岡県立大学心理臨床研究 7；29 - 40, 2015.（印刷中）
- ・小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34（1）；41-47, 2014.
- ・塚本紀子、小嶋秀幹：公的扶助ケースワーカーのストレスと職務適応プロセス。福岡県立大学心理臨床研究 6；85-91, 2014.
- ・小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22（2）；92 - 105, 2013.
- ・大庭理英、小嶋秀幹：福祉系学部大学生に対する発達障害児への対応についての教育効果—イメージと行動療法的対応の認知的変化—。福岡県立大学心理臨床研究 5；29-36, 2013.
- ・小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32（1）；68-71, 2012.
- ・城戸なぎさ、小嶋秀幹、吉岡和子：福祉系学部大学生が持つ境界性パーソナリティ障害のイメージ。福岡県立大学心理臨床研究 4；27-34, 2012.

②その他の業績

<学会報告>

- ・小嶋秀幹：保健福祉課職員のストレスと職務適応の心理的プロセス。第 21 回日本産業精神保健学会，2014 年
- ・小嶋秀幹：戦略研究 NOCOMIT-J で学んだこと。第 38 回日本自殺予防学会（シンポジスト），2014 年
- ・小嶋秀幹：まずはこころの健康を身近に感じることから—福岡県中間市における寸劇の取り組み—。第 38 回日本自殺予防学会（シンポジスト），2014 年

<その他>

- ・小嶋秀幹：福祉事務所における新人ケースワーカーの職務ストレスとその対処プロセス。日本社会精神医学会雑誌 22（3）；395 - 396, 2013.
- ・小嶋秀幹：向老期にみられるうつ症状や認知症の理解と対応。高齢社会の軟着陸のために 2011 年度のあゆみ（高齢社会をよくする北九州市女性の会編），第 26 号，pp. 50-62, 2012.
- ・小嶋秀幹：民生委員が関わった地域における自殺の 4 事例—インタビュー調査内容の質的分析—。日本社会精神医学会誌 21（3）；450, 2012.

3. 外部研究資金

- ・北九州市職員の心の健康づくりのための計画（第二期）評価及び第三期計画に向けての調査と提言、平成 26 年度北九州市受託研究費、研究代表者、50 万円

4. 受賞 なし

5. 所属学会

- ・九州精神神経学会評議員・編集委員
- ・日本精神神経学会精神科専門医
- ・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本病院地域精神医学会、日本司法精神医学会、日本産業衛生学会、日本依存神経精神科学会、日本臨床精神薬理学会、日本老年精神医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、日本保健福祉学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

精神保健学・2 単位・1 年・前期、精神保健学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、精神医学Ⅰ・2 単位・3 年・前期、老年期医学・2 単位・3 年・前期、精神保健学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、精神医学Ⅱ・2 単位・3 年・後期、演習・2 単位・3～4 年・通年、卒業論文・6 単位・4 年・後期、特別研究・4 単位・大学院 1 年・通年、臨床心理実習（学内）・1 単位・大学院 2 年・通年、臨床心理査定演習・4 単位・大学院 1 年・前期、臨床心理面接特論・4 単位・大学院 1 年・後期、臨床心理基礎実習・2 単位・大学院 1 年・通年、臨床心理実習（施設）・1 単位・大学院 2 年・前期

7. 社会貢献活動

北九州いのちの電話評議員、北九州市役所嘱託産業医、田川市役所嘱託産業医、ホームレス自立支援センター北九州嘱託医、産業医科大学医学部非常勤講師、田川児童相談所虐待カウンセリング医、福岡県自殺対策協議会委員、福岡県ひきこもり連絡協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、田川市青少年問題協議会委員、心神喪失等医療観察法判定医

8. 学外講義・講演

- ・自殺予防の基礎知識：福岡市民生委員ゲートキーパー研修会
- ・パーソナリティ障害の方への対応：筑豊地域保健師研究協議会研修会（宮若市）
- ・自殺の危険が高い方に関わる際の心構え：福岡市生活保護課 CW 研修会
- ・複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャル：第 38 回日本自殺予防学会自殺予防研修会
- ・身近な人がこころの不調になった時の対応：粕屋町役場ゲートキーパー研修会
- ・自殺予防の基礎知識：福岡市ゲートキーパー研修会
- ・精神疾患の理解と対応：北九州いのちの電話相談員全体研修会
- ・ストレスとうつ病について考える：宮若市社会福祉協議会地域福祉ゼミナール
- ・精神医学の基礎知識：北九州いのちの電話相談員養成講座
- ・身近な人のこころの不調に気づき、適切に関わるために（気づき編・関わり編）：川崎町ゲートキーパー研修会
- ・パーソナリティ障害の方への対応：八幡東区統括支援センター研修会
- ・精神疾患と自殺～相談を受けた時の対応：北筑後保健所ゲートキーパー研修会
- ・ストレスとこころの病気について知ろう：久留米高等学校出前授業
- ・認知症とは何か：福岡県立大学公開講座
- ・高齢者のうつ病（講義と啓発劇）：福智町ゲートキーパー研修会
- ・自殺予防の基礎知識：福岡県薬剤師ゲートキーパー研修会（博多・小倉）
- ・相談を受ける時の面接の基本（演習）：北筑後保健所ゲートキーパー研修会

- ・家族の飲酒問題に悩んでいる皆さんへ～関わり方を少し変えてみましょう～（講義と啓発劇）：中間市こころの健康づくり講演会
- ・自殺予防の基礎知識～あなたもゲートキーパー～：築上町ゲートキーパー研修会
- ・うつ病と自殺：下関保健所ゲートキーパー研修会
- ・自傷行為をする若者への関わり方（講義と啓発劇）：京築保健所ゲートキーパー研修会
- ・自殺予防の基礎知識：福岡リハビリテーション病院ゲートキーパー研修会
- ・言う気（勇気）がわく、ほっとけないさん研修：福岡市ゲートキーパー研修会
- ・発達障害の治療と家庭での対応：香春町社会福祉協議会研修会

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	秦 和彦
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は以下の通りです。

(1) 教育行政学、教育制度論、教育政策論

近代国家・社会の特徴を踏まえて、近代公教育の仕組みとそれに関わる教育政策、教育行政、教育制度改革動向などの研究。

(2) 幼児教育・保育論

幼児教育・保育、子育て支援に関する制度、政策、内容に関する研究。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

(1) 秦 和彦・古橋啓介・細井 勇・林ムツミ「田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について―田川地域の子育て意識調査結果からみた課題―」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第15巻第2号、pp. 49-71、2007年3月。

(2) 細井 勇・古橋啓介・秦 和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ『福岡市における子育て意識調査―子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ』、福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター『研究報告叢書』Vol.34, 2008年3月。

(3) 細井勇、古橋啓介、秦 和彦、宮城由美子、吉川未桜、林ムツミ、黄星賀、徐慧全、南 美慶、宋映沃「日韓比較研究「子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ調査から少子化問題とその背景を考える―福岡市と大邱・慶山市との比較調査結果の分析を通じて―」福岡県立大学人間社会学部紀要第19巻第1号、2010年7月。

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・日本教育行政学会
- ・日本保育学会
- ・九州教育学会

6. 担当授業科目

【学部】

教育学概論 A・2 単位・1 年・前期、保育者論・2 単位・1 年・後期、保育学・2 単位・2 年・前期、保育実習指導 I・2 年後期～3 年前期、保育実習 I・5 単位・3 年・前期、幼稚園教育実習事前事後指導・1 単位・3 年後期～4 年前期、幼稚園教育実習 I・2 単位・3 年・後期、幼稚園教育実習 II・2 単位・4 年・前期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2 単位・4 年・前期、演習・2 単位・3 年後期～4 年前期、卒業論文・6 単位・4 年・後期、日本事情 A（留学生、1 回）。

【大学院】

地域と子育て研究Ⅰ・2単位・1～2年・前期、地域と子育て研究Ⅱ・2単位・1～2年・後期、地域と子育て演習・2単位・1～2年・後期、特別研究・4単位・1～2年・通年。

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・オープンキャンパス 学科説明と模擬授業「保育者に必要な専門性」2014年8月9日（土）
- ・教員免許状更新講習会「学校をめぐる近年の状況変化と教育政策の動向」（必修科目）
2014年8月21日（木）

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部/人間形成学科	職名	教授	氏名	福田 恭介
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

現在、2つの研究に従事している。

1つは、目は口ほどにものを言うのかについて研究している。これまで、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じているだけでなく、ヒトの情報処理過程と関連して生じ、瞳孔もまばたきと相互作用しながら動いていることを示してきた。また、視線が固定された瞬間にまばたきが生じやすく眼球運動とまばたきの関係も示してきた。最近では、発達障害と目の動きの関連、あるいは興味・関心と目の動きの関連についても検討している。

もう1つは、ペアレントトレーニング（ペアトレ）による手法が親の子育て支援に役立つかを実践によって検討している。子どもの行動や親（保護者）の行動を記録することにより、親（保護者）の子どもを見る目が変わることによって親の行動が変わり、さらに子どもの行動が変わることによって親（保護者）としての自信を回復している。最近では、このような取り組みが保育士や教師にも有効であることがわかり、保育現場や教育現場の担当者とともに多くの啓発活動を行っている。全ての子どもが自尊感情を持って生活できるようなることを目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

著書

1. 福田恭介「ペアレントトレーニング」『心理学入門』宇津木成介・橋本由里（編著）コラム2, 121-122 ふくろう出版（2012）
2. 福田恭介「情動の認知」『新・知性と感性の心理—認知心理学最前線—』行場次朗・箱田裕司（編著）第9章, 152-166. 福村出版（2014）

論文

1. 江上千代美・近藤美幸・福田恭介・田中美智子（2012）「看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用」福岡県立大学看護学部紀要, 10, 13-20, 査読あり
2. Fukuda, K. (2012). The relationship between blink activity and temporal-spatial attention. *International Journal of Psychophysiology*, 85 (3), 334-335.
3. 金城志麻・森陽二郎・福田恭介・高山恵子・金城正典・針塚進・田中哲（2013）「発達障がい児・者とその保護者への支援」教育心理学年報52, 215-217. 査読なし
4. 福田恭介（2013）「ペアレントトレーニングについて」福岡県立大学心理臨床研究 5, 77-88. 査読あり
5. 中村恵美子・福田恭介（2013）「ペアレントトレーニングを保育・教育現場へ応用するためのボトムアップによる個別型・チーム型支援プログラム」福岡県立大学人間社会学部紀要 22 (1), 41-53.
6. Fukuda, K. (2014). An investigation into the relationship between spontaneous eye blinks and cognitive processing. *International Journal of Psychophysiology*, 94 (2), 162-163. 査読あり
7. 森久美子・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人（2015）「感情語提示時における大学生の瞳孔反応と抑うつ・不安との関連」福岡県立大学人間社会学部紀要, 23(2), 33-44. 査読あり

②その他最近の業績

学会発表

1. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「刺激提示確率と瞬目数」第30回日本生理心理学会大会（北海道大学）2012.05.02
2. K. Fukuda The relationship between blink activity and temporal-spatial attention. Symposium at the 16th World Congress of Psychophysiology. (Pisa, Italy) 2012.09.16

3. 福田恭介 「『幼児期』の発達障がい児とその保護者への支援」日本教育心理学会第 54 回総会 準備委員会企画シンポジウム4 発達障がい児・者とその保護者への支援（琉球大学）2012.11.25
4. 福田恭介 「小児科クリニックでできるペアレントトレーニング」第7回プライマリケア医（小児科医、総合診療医）のための子どもの心の診療セミナー（久留米大学）2013.02.17
5. 福田恭介・林田和菜・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「ビデオ法による瞬目波形の分析」第21回まばたき研究会（神戸大学）2013.03.23
6. 志堂寺和則・福田恭介・松尾太加志・早見武人「OpenCVを用いた瞬目検出システムの開発（2）」第21回まばたき研究会（神戸大学）2013.03.23
7. 福田恭介・森久美子・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「感情語による瞳孔反応と抑うつとの関連」第31回日本生理心理学会大会（福井大学）2013.05.18
8. 福田恭介・鶴田咲季・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「まばたきの数と速度が印象形成に及ぼす効果」第74回九州心理学会（琉球大学）2013.11.17
9. 寧 宇宇・志堂寺和則・福田恭介・松尾太加志・早見武人「ビデオ視聴における興味・面白味による瞬目抑制」第22回まばたき研究会2014.03.29（大宮ソニックシティ）
10. K. Fukuda, The relationship between spontaneous eye blinks & cognitive processing. Symposium “Recent Research Topics on Eye Blink Behavior” at the 17th World Congress of Psychophysiology. (Hiroshima, Japan) 2014.09.26
11. 是永陽子・吉岡和子・中藤広美・福田恭介「ペアレントトレーニングが保育士・教師の特別支援教育スキルアップに及ぼす効果」九州心理学会第75回大会2014.11.15（宮崎県 宮崎公立大学）

シンポジウム

1. 第77回日本心理学会公募シンポジウム「こころの健康・臨床、健康支援、発達障がい者支援に役立つまばたき研究」（2013） 9月20日（金）（札幌コンベンションセンター）指定討論
2. 第78回日本心理学会シンポジウム「瞬目研究の新展開-画像処理によるデータ分析とドーパミンとの関連-」（2014） 9月12日（金）（同志社大学）指定討論

コラム

- 福田恭介「みいつけた！コラム1回目」福岡県保育協会通信（2013）第10号 p.10
福田恭介「みいつけた！コラム2回目」福岡県保育協会通信（2013）第11号 p.6
福田恭介「みいつけた！コラム3回目」福岡県保育協会通信（2013）第12号 p.7

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田富美雄・福田恭介：「まばたきの心理学—瞬目行動の研究を総括する」289頁(1991) 北大路書房（京都）
2. K. Fukuda: Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*. (2001) 40, 239-245.
3. 福田恭介「ペアレントトレーニング実践ガイドブック—きつとうまくいく。子どもの発達支援」258頁（2011）あいり出版（京都）

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究C, 研究課題名「眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント」（課題番号26380893）¥1,950,000

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本生理心理学会, 九州心理学会（理事）, 日本心理学会, Society of Psychophysiological

Research (SPR), 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, International Organization of Psychophysiology (IOP)

6. 担当授業科目

<学部>

実験測定法Ⅰ・2単位・2年・前期, 実験測定法Ⅱ・2単位・2年・後期, 幼児教育心理学・2単位・2年・前期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 知覚心理学・2単位・3年・前期, 認知心理学・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>

臨床心理基礎実習・2単位・修士1年・通年, 心理学研究法特論・2単位・修士1年・前期, 認知心理学特論・2単位・修士1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・修士2年・通年, 臨床心理実習(施設)・1単位・修士2年・前期, 特別研究・4単位・修士1・2年通年

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市就学指導委員会委員長
- ・ 九州心理学会理事
- ・ 査読: 日本生理心理学会, 福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

1. 福岡県立中間高等学校出前講義「心理学入門」6月11日
2. 福岡県立直方養護学校講演「ペアレントトレーニング:現場への応用のポイント」7月6日
3. 福岡嘉穂特別支援学校講演「保護者や教師による発達の気になる子どもへの支援のあり方」8月5日
4. 教員免許状更新講習「ペアレントトレーニングの教育現場への応用」8月22日
5. 苅田町立新津中学校講演「ペアレントトレーニングの手法を取り入れた生徒支援」9月4日
6. 直方市要保護児童対策協議会研修会「直方第二中学校9月19日・植木保育園10月17日・大和幼稚園10月24・31日, 11月21日」
7. 上毛町立西吉富小学校教育講演「家庭でできる子どもへの手助けの仕方」10月26日
8. 田川市子育て支援セミナー「ペアレントトレーニングー家庭でできる子どもへの手助けの仕方ー」田川市民会館11月7日
9. 県立大学とともに歩む会講演「福岡県立大学附属研究所と地域の関わり」11月10日
10. 福岡県立直方聾学校講演「子育てや保育・教育に生かすペアレントトレーニング」11月21日
11. 北九州市障害児施設連盟職員研修会「ペアレントトレーニングについて」北九州市立総合療育センター12月5日
12. 福岡県立三大学公開講座「ペアレントトレーニングによる家族の子育て支援」福岡女子大学12月12日
13. 直方市スキルアップセミナー1月9日・16日・30日, 2月13日・27日直方市公民館
14. 「ペアレントトレーニング」リーダー養成基礎研修会1月24日・25日北九州市立総合療育センター
15. 田川市立後藤寺中学校講演「子どもの自尊感情をはぐくむには」2月24日
16. 田川市役所メンタルヘルス研修会「メンタルヘルスケア研修」3月2日

9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所長

- ・ 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」の企画と運営
- ・ 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」の企画と運営

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 瞬目に関する研究
2. 瞳孔に関する研究
3. ペアレントトレーニングに関する研究

（保有学位）

文学博士

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	岩橋 宗哉
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。(2) どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。(3) 臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

著書

- ・日本人間性心理学会編「日本人間性心理学ハンドブック」
執筆項目 “欲求の階層性” “成長モデル” “間主観性” 創元社 2012年9月

論文

- ・岩橋宗哉「同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へ—よい対象との失われた共通基盤を求めて—」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2015年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅰ）—神武記：万能的思考によるコトへの信念とそれを維持するための三項構造—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅱ）—崇神記：コトと事の乖離による万能的思考の維持—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅲ）—垂仁記：異なる存在を認めるための言を拓く<私>の誕生—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅳ）—景行記：主体的な<私>の誕生と<相手の内側の私の存在>についての問い—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅴ）—仲哀記：コトの吟味のために事の世界を主体的に確認する<私>の誕生—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「境界領域で<私>が形成される物語としての古事記中巻（Ⅵ）—応神記：コトに従わせる道徳と異なる者と交される言への信頼—」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（Ⅰ）—「不在の現実」についての「見るな」の禁止から「居場所」の形成へ—」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月

- ・岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻(Ⅱ)―「私」の形成―」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月
- ・岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻(Ⅲ)―「異類性」についての「見るなの禁止」から「対象喪失」とその乗り越えへ―」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月

② その他最近の業績

- ・村田節子・岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム―ロールプレイ演習のリフレクションによる評価―」第29回日本がん看護学会学術集会 横浜 2015年2月

③過去の主要業績

- ・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号 1998年6月
- ・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試み―抱える環境としてのプレバーバルな関わり―」『心理臨床学研究』第17巻第1号 1999年4月
- ・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚―精神分裂病者との心理療法過程から―」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

6. 担当授業科目

心身科学B・2単位・2年・後期、臨床心理学・2単位・3年・前期、演習・2単位、3～4年、通年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文、6単位、4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年、臨床心理実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習（施設）・1単位・2年・前期、特別研究・4単位・1～2年・通年、臨床心理学特論（看護学研究科）・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・飯塚市子どもなんでも相談事業専門相談員

8. 学外講義・講演

- ・教員免許状更新講習 教育の最新事情 「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」講師 2014年8月21日

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	櫻井 国芳
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1995年上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展、コンクールへの出品を続けている。

授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

<作品発表>

- ・ 2012年4月 2012独立春季選抜展（東京都美術館）
- ・ 2012年4月 独立福岡小品展（村岡屋ギャラリー）
- ・ 2012年5月 福岡独立展（福岡市美術館）
- ・ 2014年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- ・ 2014年10月 MBCサムホール美術展（黎明館）
- ・ 2015年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）

③過去の主要業績

<学術論文>

- ・ 1999年9月 「構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方」
『福岡県立大学紀要』第8巻第1号 81～93p

<作品発表>

- ・ 2004年10月 第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- ・ 2003年10月 第71回独立展（独立美術協会・東京都美術館）

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

- ・ 優秀賞（2015年2月 全日本アートサロン絵画大賞展）

5. 所属学会

独立美術協会会友

6. 担当授業科目

造形Ⅰ・2単位・1年・通年、造形Ⅱ・2単位・2年・通年、保育内容表現Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容表現Ⅱ・1単位・3年・後期、保育実習指導Ⅲ・1単位・3年・後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・1単位・4年・後期、保育内容演習・2単位・4年・後期、演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター運営部会員としての活動

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学、教育制度・政策史、教員史

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』（編著）榕樹書林、2014年

〈論文〉

・「近代沖縄における研究訓導制度史の研究—その運営過程と効果に注目して」（単著）『教育制度学研究』日本教育制度学会、33号、2012年

②その他の業績

・書評：「学問への姿勢—屋嘉比収著『〈近代沖縄〉の知識人—島袋全発の軌跡』から学ぶ」法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』38、2012年

・藤澤健一ほか「復刻版『沖縄教育』にかかわる補遺、ならびに若干の修訂」（共同執筆）『復刻版 沖縄教育』37巻、不二出版、2012年、1—12頁

③過去の主要業績

・『近代沖縄教育史の視角—問題史的再構成の試み』（単著）社会評論社、2000年4月

・『沖縄／教育権力の現代史』（単著）社会評論社、2005年10月

・「教育行政学における権力認識の展望—国民の教育権論をめぐる学説史の基礎的検討を通して」（単著）日本教育行政学会編『教育行政学の課題と展望』教育開発研究所、2006年10月

3. 外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究（C）「沖縄における小学校教員の職歴変化に関する基礎的研究—沖縄戦前後の『連続性』分析」（2011年度～2014年度）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本教育制度学会 日本教育政策学会 日本教育行政学会 日本教育学会各会員

6. 担当授業科目

教育学概論B・2単位・1年前期、教育史・2単位・2年前期、教育思想論・2単位・2年後期、比較教育学・2単位・2年後期、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、国際教育文化交流論・2単位・3年後期、演習・2単位・3年後期、卒業研究・4年、地域と学校教育研究Ⅰ・2単位・大学院、地域と学校教育研究Ⅱ・2単位・大学院、地域と学校教育演習・2単位・大学院

7. 社会貢献活動

田川市教育委員会学力向上にかかわる有識者会議委員

8. 学外講義・講演

〈新聞記事〉

- ・新聞寄稿：「発掘された沖縄教育史料①」『沖縄タイムス』2012年2月14日
- ・新聞寄稿：「発掘された沖縄教育史料③」『沖縄タイムス』2012年2月21日
- ・新聞寄稿：「発掘された沖縄教育史料⑤」『沖縄タイムス』2012年2月28日
- ・新聞寄稿：「発掘された沖縄教育史料⑦」『沖縄タイムス』2012年3月6日
- ・新聞寄稿：「発掘された沖縄教育史料⑨」『沖縄タイムス』2012年3月14日

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島 剛
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害とcatecholamine神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHDを併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHDにおける衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・春木 豊・麦島 剛 (2014) 学習 梅本堯夫・大山正(編著) 心理学への招待 [改訂版] サイエンス社 Pp. 97-132.
- ・麦島 剛 (2013) ADHD (注意欠陥・多動性障害) への臨床応用に向けた行動神経科学的研究の動向 —衝動性の行動分析学を中心にして— 福岡県立大学心理臨床研究, 5, 21-26.
- ・麦島 剛 (2014) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向— 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.
- ・麦島 剛 (2015) アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方向性— 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 印刷中.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・麦島剛・木村裕・小山明子・久保浩明・岩崎留衣子・玉井美紀・榛葉俊一. ADHDモデルラットSHRのミスマッチ陰性電位様反応へのatomoxetine投与の効果：前注意過程の不全の検討. 2012年5月, 日本動物心理学会第72回大会.
- ・久保浩明・木村裕・前田理絵・小山明子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引事象における報酬量の増大がELマウスの衝動的行動に与える効果. 2012年5月, 日本動物心理学会第72回大会.
- ・林奈津美・木村裕・小山明子・久保浩明・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引における環境明瞭度の増大がELマウスの衝動的行動に与える影響. —音と光を用いたADHDモデル動物での検討— 2012年9月, 日本行動分析学会第30回年次大会.
- ・麦島剛・木村裕・久保浩明・林奈津美・市丸有美・後藤瑞貴・中本百合江・吉井光信. 遅延価値割引事象におけるELマウスの衝動的行動と手がかり刺激への注意—音と光を用いたSDHDモデル動物での検討— 2013年7月, 日本行動分析学会第31回年次大会.
- ・久保浩明・木村裕・市丸有美・後藤瑞貴・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題における選択肢間の報酬遅延比がELマウスの衝動的行動に与える影響 —ADHDモデル動物の衝動性と選択方略— 2013年7月, 日本行動分析学会第31回年次大会.
- ・麦島剛・久保浩明・岩崎留衣子・林田今日子・木村裕・榛葉俊一. ADHDモデルラットSHRのミスマッチ陰性電位様反応へのmethylphenidate投与の効果：前注意過程の不全の検討. 2013年9月, 日本動物心理学会第73回大会.
- ・麦島剛・久保浩明・林奈津美・野見山遥・永井友幸・中野昂一・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHD モデル動物EL マウスの衝動的選択行動に対する治療薬atomoxetine 投与の効果. 2014年6月, 日本行動分析学会第32回年次大会.
- ・Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. (2014) Mismatch negativity-like response on stream segregation in spontaneously hypertensive

rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月 The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.

- Kubo, H., Kimura, H., Nakano, K., Nagai, T., Nomiya, H., Hayashi, N., Nakamoto, Y., Yoshii, M., Mugishima, G. (2014) On the subjective equivalence between amount and delay in EL mouse as an animal model of ADHD. 2014年7月 The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- Mugishima, G., Kubo, H., Saka, N., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Sinba, T. (2014) Effects of methylphenidate administration on mismatch negativity-like response in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月 The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.

〈学会シンポジウム〉

- 麦島剛 (2014) ADHDモデル動物による薬物療法と行動療法の理解 山口哲生・高瀬堅吉・柳井修一 (企画) 発達障害の理解に向けて ―基礎研究の役割とその有用性を考える― 2014年9月, 日本心理学会第78回大会.

③過去の主要業績

- Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T.. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*, 20, 1037-1049.
- 麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. *動物心理学研究*, 47, 91-98.
- 麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 ―行動薬理実験への応用― *早稲田心理学年報*, 30, 55-62.
- Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*. 25, 1629-40.
- 麦島 剛. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) をめぐる動向: 新たな研究法の確立に向けて. (2006) *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 14 (2), 51-63.
- 中本百合江・麦島 剛・佐藤弥都子・中山 繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信 (2007) ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. *日本神経精神薬理学雑誌*. 27(5), 297, 11-25.
- Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. *Physica A: Statistical Mechanics and its Applications*, 87 (13), 3145-3154.
- 麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.

3. 外部研究資金

- 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究C (単独取得) 「ADHDマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物療法の統合の試み」 481万円, 2014~2016年度

5. 所属学会

- 日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

6. 担当授業科目

生理心理学 I 2単位, 2年前期、生理心理学 II 2単位, 2年後期、心身科学 A 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年、実験測定法 I 2単位, 2年前期、実験測定法 II 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、教養演習 2単位, 1年前期、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

8. 学外講義・講演

- 職業訓練法人福岡地区職業訓練協会 福祉用具専門相談員養成課程「高齢者等の心理」 2014年9月.
- 福岡県立京都高等学校出前講義 『脳とこころ ―生理心理学入門―』 2014年10月.

9. 附属研究所の活動等

- 生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	吉岡 和子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。2007年2月に博士号（人間環境学）取得。現在の主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた強迫性障害理解のための研究です。現在は、大学院で臨床心理士養成を行う上でケース・カンファレンスの進め方に関する研究も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・富田真弓・吉岡和子・河本 緑（2014）強迫性障害の心理アセスメント 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際－クライアント理解と支援のために』（第3章）金子書房
- ・吉田加代子・吉岡和子（2014）ロールシャッハ法の学び方－研修会が担う役割について 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際－クライアント理解と支援のために』（第8章）金子書房
- ・吉岡和子（2014）社会的スキル 後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野 久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮（編）『新・青年心理学ハンドブック』福村出版

<論文>

- ・吉岡和子（2014）「譚・今野論文「中国人留学生における日本人への信頼感と適応の関連」を読んで」『青年心理学研究』25（2），137-141.
- ・小野田瑠璃・吉岡和子（2014）「家庭における居場所感が思春期の子どもに与える影響：自己肯定感と友人に対する「甘え」との関係に注目して」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号），75-84.
- ・寺嶋 愛・吉岡和子（2014）「母子関係における愛着と依存・自律の関連：情緒的側面に焦点を当てて」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号），93-102.
- ・米倉志穂・吉岡和子（2012）「女子青年の化粧行動と対人恐怖心性の関連」福岡県立大学人間社会学部紀要』21（1），115-125.
- ・高塚人志・中野俊也・白石義光・高橋洋一・入津淑人・黒沢洋一・河合康明・吉岡和子（2012）「鳥取大学医学部におけるヒューマン・コミュニケーション授業の効果：コミュニケーション能力及び自尊感情への自己評価の変化に注目して」『米子医学雑誌』63（3），82-97.
- ・菊浦友美・吉岡和子（2012）「「満たされない自己」、「居場所がない」感覚及びコーピングとアサーションの関連」『福岡県立大学心理臨床研究』4，19-26.
- ・城戸なぎさ・小嶋秀幹・吉岡和子（2012）「福祉系学部大学生が持つ境界性パーソナリティ障害のイメージ」『福岡県立大学心理臨床研究』4，27-34.
- ・吉岡和子（2012）「ヒューマン・コミュニケーション授業の効果研究（2）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』20（2），53-58.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・富田真弓・吉岡和子（2014）強迫症者のロールシャッハ2事例の検討－反応数が多い事例に表れた特徴 日本ロールシャッハ学会第18回大会

③過去の主要業績

- ・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床、現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
- ・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

- ・吉岡和子 (2007) 「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24 (6), 日本心理臨床学会.
- ・吉岡和子 (2002) 「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13, 青年心理学会.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本青年心理学会研究委員会・委員
 九州臨床心理学会 日本人間性心理学会 日本青年心理学会 日本心理臨床学会
 日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 日本パーソナリティ心理学会
 日本精神分析学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部> パーソナリティ論/人格心理学・2単位・1年・後期, カウンセリング・2単位・4年・前期, 家族心理学・2単位・4年・前期, 教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期
 <大学院> 臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年, 臨床心理面接特論・2単位・1年・前期, 臨床心理査定演習・2単位・1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・2年・通年, 臨床心理実習(施設)・1単位・2年・前期, 特別研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 理事
- ・福岡教育大学 心理査定委託相談員
- ・福岡女学院大学 心理査定委託相談員

8. 学外講義・講演

- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 ロールシャッハ研修会講師 7月27日、9月7日、10月19日、12月14日、1月25日、2月15日(計6回)
- ・平成26年度調理師研修会「自分も相手も大切にするコミュニケーション」8月5日
- ・福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」8月11-12日
- ・平成26年度教職免許状更新講習会「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」(岩橋宗哉准教授と共同担当) 8月21日
- ・人権相談従事職員研修カリキュラム「面接技法講座 人権相談Ⅲ(対人援助)」9月25日・9月30日
- ・九州大学心理教育相談室 曜日コンサルテーション「心理アセスメント」10月22日
- ・新宮高校 出前講義「アサーション」10月28日
- ・福岡県市町村職員研修 新規採用職員研修2014年後期「はじめてのメンタルヘルズ講座」10月29日、11月5日、11月19日
- ・平成26年度北九州市社会福祉施設従事者研修 事務員研修「自分も相手も大切にするコミュニケーション」11月4日
- ・小原小学校 特別支援教育研修「ソーシャルスキルトレーニング」11月4日
- ・平成26年度県立学校等副校長・教頭研修会「教職員のメンタルヘルズ:アサーショントレーニングを取り入れて」11月5日
- ・小児慢性ピアカウンセリング研修会「親の思いをどのように子どもに伝えるか~子どもとともに歩むために~」12月17日
- ・北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会「発達障害児がいる家庭が抱えがちな問題について~それぞれが幸せな家族関係に向けて~」2月1日
- ・平成26年度日本学校教育相談学会福岡県支部 第2回研修会「思春期の家族のあり方~保護者

- とともに育むために～」2月14日
・田川市職員のメンタルヘルス研修 3月16-18日

9. 附属研究所の活動等

＜生涯福祉研究センター＞ 地域支援員

- ・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営
- ・特別支援教育を行うためのスキルアップ・プログラムの企画と運営
- ・さわやかな自己表現塾の企画と運営

＜心理教育相談室＞ 相談室委員

所属	人間社会学部／人間社会学研究科	職名	講師	氏名	池 志保
----	-----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

医療（精神科・神経科・心療内科）及び教育（中学・大学）を主な心理臨床のフィールドとして活動してきています。医療では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院、川谷医院などで非常勤心理職として従事してきました。教育では、福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在まで大学の学生相談室にて相談員を務めています。

「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 臨床における創造性の研究－理論生成の試み－、2. 発達と創造性に関する研究、3. 物語分析による女性の心理臨床的理解を主な研究テーマとしています。

2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。2014年より、福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期予定「保育内容人間関係」）など。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

[著書]

- 池志保（共著）「5章4節 心理検査による査定」「事例で臨床心理学を学習する－あなたならどうしますか？－Case4」, 『生きる力を育てる臨床心理学』小林芳郎編著, 他共同執筆者, 保育出版社, pp.65-68, p.73, 2013.

[論文]

- 池志保（単著）「「非創造的」に生きていた芸術活動者－3種に分類した創造性の観点から事例理解を試みる－」, 心理臨床学研究第30巻第6号, pp.899-910, 2013.
- 伊藤俊輔・池志保・佐々木将太・桧田千裕（共著）, 「運動後の食事がヒト身体に及ぼす影響について」, 松山東雲短期大学研究論文第44巻, 2014.
- 池志保・山本斉・伊藤俊輔（共著）「バウムテストによる創造性の特徴－青年期女子を対象にした理論生成の試み－」, 松山東雲女子大学人文科学部紀要第22巻, 2014.

②その他最近の業績

[学会報告]

- 伊藤俊輔・木下かおり・嶋田さおり・佐々木将太・池志保（共同）「効果的なPDCAサイクルの重要性について」, 日本食育学会第7回学術大会, 2013.

③過去の主要業績

[辞典]

- 池志保（共著）「創造」, 『日常臨床語辞典』北山修監督・妙木浩之編, 他共同執筆者, 誠信書房, pp.266-270, 2006.

[論文]

- 池志保（単著）「鬱を呈する引きこもり青年との面接過程」, 精神分析研究第51巻第2号, pp.85-90, 2007.
- 池志保（単著）「心理臨床における芸術と創造性について」, 九州大学心理臨床研究第26巻, pp.217-225, 2007.

[書評]

- 池志保・北山修（共著）「『ウィニコット著作集4 子どもを考える』D.W.ウィニコット

ト著、牛島定信・藤山直樹・生地新監訳」, 精神分析研究第53巻第2号, pp.232-233, 2009.

3. 外部研究資金

[研究助成金]

・福岡県立大学 平成26年度研究奨励交付金（若手奨励研究）、研究課題名「バウムテストによる創造性の特徴－青年期を対象にした理論生成の試み－」、研究代表者：池志保、研究協力者：山本斉、（平成26年度期間、200,000円）。

4. 受賞 なし

5. 所属学会

[学会]

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会（各正会員）

[その他研究会]

日本精神分析学会認定 福岡精神分析研究会、コフート研究会（各正会員）、日本精神分析的自己心理学協会（準会員）。

6. 担当授業科目

[学部]

発達心理学 I -A（2単位・1年・前期）、発達心理学 I -B（2単位・1年・前期）、発達心理学 II（2単位・1年・後期）、発達心理学 III（2単位・2年・前期）、教養演習（1単位・1年・前期）、演習（2単位・3年前期・4年後期）。

[大学院]

臨床心理実習（学内）（1単位・2年・通年）、臨床心理基礎実習（2単位・1年・通年）、発達心理学特論（2単位・1・2年・前期）、臨床心理実習（施設）（1単位・2年・前期）、臨床心理学研究法特論（2単位・1・2年・後期）。

7. 社会貢献活動

- ・（査読）福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

- ・ 社会福祉法人 愛媛いのちの電話 前期公開講座講師「現代社会とところの危機～人が死にたくなるとき～」（2014年6月7日）

9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所社会貢献・ボランティア支援センター運営部会・委員
- ・ 附属研究所調整部会・委員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	伊勢 慎
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

保育者として現場経験が3年あり、授業や研究においてもその時の経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。主な研究分野は、幼児教育、保育の内容に関する事、保育者養成に関する事などです。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

- ・伊勢慎, 森英子:『子育て考ー特に三歳未満児までの大切な育児法ー』, ふくろう出版, 2014
- ・伊勢慎:『保育暦』, ふくろう出版, 2012

②その他最近の業績

- ・Makoto ISE :Laying the Groundwork New Kindergarten Teachers in Career , The 8th KSECE Biennial International Conference, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔:園内研修は保育所から幼稚園に異動した保育者に何をもちたかー「プレッシャー」を緩和する「コミュニケーションの場」としての役割ー, 第67回日本保育学会, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔, 中坪史典:園内研修における対話を促進させる要因ー保育者個々の発言の特徴に着目してー. 第25回日本発達心理学会, 2014
- ・Makoto ISE, Miho KURAMITSU : The Attitude of Nursery School Teachers' Toward Internship Guidance at Nursery Schools: A Research Paper, Pacific Early Childhood Education Research Association 14th Annual Conference, 2013
- ・伊勢慎, 倉光美保:保育土の実習指導姿勢について3. 第66回日本保育学会, 2013
- ・渡邊祐三, 伊勢慎, 横松友義:藍を用いた保育実践開発2ー新たな実践開発とその経営条件ー, 日本保育学会第65回大会, 2012
- ・後藤善友, 仲嶺まり子, 伊勢慎(他3名):保育土養成校における初年次教育の成果と課題ー九州ブロック保育土養成校である大学・短期大学に対する訪問調査をとおしてー, 全国保育土養成協議会第51回研究大会, 2012
- ・阿部敬信, 仲嶺まり子, 伊勢慎(他3名):保育土養成校における初年次教育の実態ー九州ブロック保育土養成校である大学・短期大学に対するアンケート調査をとおしてー, 全国保育土養成協議会第51回研究大会発表, 2012

③過去の主要業績

- ・横松友義, 渡邊祐三, 伊勢慎, (他3名):保育目標のとらえ方と保育実践の両者を質的に向上させる保育実践開発に関する考察,『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第147号, 125-133頁, 2011
- ・横松友義, 安達保雄, 伊勢慎(他2名):異年齢保育に関する体系的研究の重要性,『岡山大学教育学部研究集録』, 第132号, 69-76頁, 2006
- ・伊勢慎, 横松友義:子育ての知恵に基づく和多美知子の保育論構築ー家庭教育研究の成果に基づく保育論構築ー, 日本家庭教育学会誌『家庭教育研究』第9号, 23-31頁, 2004

3. 外部研究資金

なし。

4. 受賞

なし。

5. 所属学会

日本保育学会，日本子ども社会学会，日本質的心理学会，日本発達心理学会，日本乳幼児教育学会

6. 担当授業科目

- ・教養演習・1単位・1年・前期
- ・保育内容総論・2単位・2年・前期
- ・保育課程論・2単位・2年・後期
- ・保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年
- ・保育実習Ⅰ・4単位・3年前期
- ・保育方法論・2単位・3年・後期
- ・保育内容演習・2単位・4年・後期
- ・保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

なし。

8. 学外講義・講演

なし。

9. 附属研究所の活動等

なし。

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	鷺野 彰子
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏を行うかたわら、19世紀の演奏様式を研究している。近年は、20世紀初期の録音と楽譜を照らし合わせることで、当時の人々が楽譜をどのように読み、解釈していたか、そして、19世紀から当時に引き継がれた演奏習慣がどのようなものであったかを解明する研究を行っている。

本学では、ピアノの個人指導の他、楽典や音楽に関連する表現の授業等を担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

[論文]

鷺野彰子 (2013), ブラームスが想定した《Op. 117-1》の演奏はいかなるものであったのか:「ズレ」が表現するもの. 福岡県立大学紀要, 22/1, 55-68.

鷺野彰子 (2014), ブラームスとアルペジオ:当時の演奏から楽譜上に現れた/現れなかったアルペジオの意味合いを読み解く. 福岡県立大学紀要, 22/2, 77-102.

②その他最近の業績

[学会発表]

鷺野彰子, 「ズレ」た書法:「ズレ」からブラームス後期小品集を解釈する, 日本音楽表現学会, 山梨大学, 2012年6月.

鷺野彰子, 「ズレ」た演奏:録音(1900年-1920年頃)からブラームス後期小品集を再考する. 日本音楽表現学会, アイーナ(岩手), 2013年6月.

鷺野彰子, シューマンの書法における「ズレ」の読み方を考える:ブラームス作品における「ズレ」との比較. 日本音楽表現学会, 帝塚山大学, 2014年6月.

[雑誌記事]

鷺野彰子 (2012), 伝統:受け継がれる演奏スタイル. Music Friends (韓国), 56, 16-19.

鷺野彰子 (2012), 演奏空間(空間と音響). Music Friends (韓国), 57, 16-19.

鷺野彰子 (2012), 暗譜・楽譜・譜めぐり. Music Friends (韓国), 58, 16-19.

鷺野彰子 (2012), 作品分析. Music Friends (韓国), 59, 16-20.

鷺野彰子 (2012), 演奏の技術. Music Friends (韓国), 60, 16-19.

鷺野彰子 (2012), アメリカ留学時代の授業. Music Friends (韓国), 61, 18-21.

鷺野彰子 (2012), シューンベルク. Music Friends (韓国), 62, 16-21.

鷺野彰子 (2012), なぜペダルを上手に踏むのはこれほど難しいのか?. ムジカノーヴァ, 11月号, 84-85.

鷺野彰子 (2012), 音の素材. Music Friends (韓国), 63, 17-21.

鷺野彰子 (2012), 反復・繰り返し. Music Friends (韓国), 64, 18-21.

鷺野彰子 (2013), 聴く楽しみ. Music Friends (韓国), 65, 18-21.

鷺野彰子 (2013), 音楽専攻の大学受験. Music Friends (韓国), 66, 18-21.

鷺野彰子 (2013), フォルテピアノを弾くこと. Music Friends (韓国), 67, 17-21.

鷺野彰子 (2013), ウィーンの音楽界に新たな楽器が参入するとき. Music Friends (韓国), 68, 16-21.

鷺野彰子 (2013), フォルテピアノ製作者の現在. Music Friends (韓国), 69, 17-21.

鷺野彰子 (2013), フォルテピアノから見える景色. Music Friends (韓国), 70, 17-22.

鷺野彰子 (2013), 自動演奏ピアノ. Music Friends (韓国), 71, 18-22.

鷺野彰子 (2013), 待つこと、休符. Music Friends (韓国), 72, 18-22.

鷺野彰子 (2013), ズレの存在. Music Friends (韓国), 73, 18-22.

鷺野彰子 (2013), デトレフ・クラウス先生. Music Friends (韓国), 74, 18-22.

- 鷺野彰子 (2013), 作曲家の声. Music Friends (韓国), 75, 18-22.
- 鷺野彰子 (2013), 室内楽. Music Friends (韓国), 76, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 《ラ・ヴァルス》: 幻のバレエ《ウィーン》. Music Friends (韓国), 77, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 教材の選択: ツェルニーの《練習曲》. Music Friends (韓国), 78, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 100年前の演奏. Music Friends (韓国), 79, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 音楽家とサロン. Music Friends (韓国), 80, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 19世紀におけるユダヤ人音楽家の存在. Music Friends (韓国), 81, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 同一曲の出版譜が複数ある理由. Music Friends (韓国), 82, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), チェコ人作曲家ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク. Music Friends (韓国), 83, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 安城男寺党 (アンソン・ナムサダン). Music Friends (韓国), 84, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 和音を同時に弾かない19世紀のピアニスト. Music Friends (韓国), 85, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 味わいある作品。そしてその制作者. Music Friends (韓国), 86, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 間合い. Music Friends (韓国), 87, 18-22.
- 鷺野彰子 (2014), 練習. Music Friends (韓国), 88, 20-23.
- 鷺野彰子 (2015), 魔法的要素と錯覚. Music Friends (韓国), 89, 20-23.
- 鷺野彰子 (2015), 土地に根づいた芸術. Music Friends (韓国), 90, 20-24.
- 鷺野彰子 (2015), ショパン《ワルツ Op.34-1》の楽譜比較. Music Friends (韓国), 91, 20-24.

[演奏会]

- 太田里子 (Fl), 鷺野彰子 (Pf), 松浦宏之 (朗読), 「オーロラの秘密」
榎本福祉会館 (大阪), 2012年7月.
- 金澤攝 (Pf), 鷺野彰子 (Pf), 伊東信宏 (聴き手), 「ショパンと親友たち」
ザ・フェニックスホール (大阪), 2013年12月.

③過去の主要業績

[ラジオ]

- リユーベン・ヘルソン (Bas), 鷺野彰子 (Pf), ライブ録音
北オランダ放送, 2000年6月.

[演奏会]

- 鷺野彰子 (Pf, クラヴィコード), 「クラヴィコードand/orピアノ」
ザ・フェニックスホール, 2009年12月.
- 鷺野彰子 (Pf), 「モーツァルトとショパン〜隠れた水脈〜」
ザ・フェニックスホール, 2008年10月.
衍芸館, 2008年10月.
- 鷺野彰子 (Pf), 「シューベルトとヴォジーシェク」
ザ・フェニックスホール, 2007年2月.
大倉山記念館, 2007年1月.

[主催]

- フォルテピアノ・ワークショップ『楽譜を読むこと』
(伊東信宏大阪大学教授と共同主催)
講師: マルコム・ビルソン (コーネル大学名誉教授)
京都市立芸術大学 2010年9月.
神戸女学院大学 2010年10月.

3. 外部研究資金

平成25年度～平成26年度 科学研究費補助金・若手研究B
「録音から辿る19世紀の演奏様式」（課題番号：25770065），研究代表者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本音楽表現学会，日本音楽学会

6. 担当授業科目

音楽Ⅰ：2単位，1年通年

音楽Ⅱ：2単位，2年通年

保育内容・表現Ⅰ：1単位，3年前期

保育内容・表現Ⅱ：1単位，3年後期

保育実習指導Ⅱ：1単位，3年後期

保育実習：2単位，3年後期

演習：2単位，3年後期～4年前期

保育内容演習：2単位，4年後期

卒業論文：6単位，4年後期

所属	附属研究所・生涯福祉研究センター	職名	准教授	氏名	中村 晋介
----	------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. 若者の意識・世代間ギャップに関する研究
「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、若者や児童・生徒の考え方（就業観、社会観、スポーツ観など）の解説を試みています。
2. ジェンダー論・結婚観に関する研究
日本社会における「女性の社会進出」や「非婚化社会の行く末」について、社会的な観点から研究しています。
3. 社会学理論に関する研究
主にピエール・ブルデュー（フランスの社会学者）の業績や思想について研究をおこなっています。現在は特に、アメリカ極集中や社会的格差の増大と固定化、新自由主義に関するブルデューの批判に関心を寄せています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

1. 『『体育会系』女子学生のジェンダー観——「大学生のスポーツ・価値観に関する調査より」（単著），一般社団法人社会調査協会提出論文（2014年10月，専門社会調査士資格取得）。
2. 「大学生のwebセキュリティ実践——量的調査の結果より」『福岡県立大学人間社会学部紀要』（単著）vol. 21-2, 2012年。

②その他最近の業績

<テキスト・研究ノートなど>

1. 『レポートのかきかた' 14』福岡県立大学, 2014年3月。
2. 『山本作兵衛の炭坑記録画・日記等の保存管理，整理，活用に関する研究(3)』福岡県立大学附属研究所（共著），2014年3月。
3. 『田川市職員のコンピュータ・セキュリティ意識と実践に関する調査研究』福岡県立大学附属研究所（共著），2014年3月。
4. 『大学生の友人関係・恋愛観に関する調査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科（共著），2014年3月。
5. 『山本作兵衛の炭坑記録画・日記等の保存管理，整理，活用に関する研究(2)』福岡県立大学附属研究所（共著），2013年3月。
6. 『福岡県立大学福祉用具研究会の軌跡——15年間のあゆみ』福岡県立大学附属研究所（共著），2013年10月。
7. 『大学生の結婚観・将来像に関する調査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科（共著），2013年3月。
8. 『中学生の生活と価値観に関する調査研究——2011年度調査報告』福岡県立大学附属研究所（共著），2012年3月。
9. 「活動報告・さわやかな自己表現塾を開催して——2011年度活動報告」『福岡県立大学心理臨床研究』（共著）No. 4, 2012年3月。

<学会等発表>

1. 「恋愛への積極性／消極性の規定要因」（単独），日本社会学会第87回大会（神戸大学），2014年11月。
2. 「『若者の恋愛離れ』についての考察——大学生を対象とする量的調査より」（単独）日本社会病理学会第30回大会（下関市立大学），2014年10月。

3. 「福岡県立大学福祉用具研究会——これまでとこれから」(単独)『第16回西日本国際福祉機器展』(西日本総合展示場),2014年10月.
4. 「webセキュリティの実践——大学生対象調査より」(単独)『大学ICT推進協議会2013年度年次大会』(幕張メッセ),2013年12月.
5. 「福岡県立大学福祉用具研究会——15年間のあゆみ」(単独)『第15回西日本国際福祉機器展』(西日本総合展示場),2013年11月.
6. 「非婚/避婚社会における大学生の認識」(単独),西日本社会学会第70回大会(鹿児島大学),2012年5月.

③過去の主要業績

1. 「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木讓編『現代高校生の規範意識(第2版)』九州大学出版会,2005年.
2. 「社会学者と社会参加——ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3,2005年.

3. 外部研究資金

1. (一財)マルボシ酢・アスキー食品技術研究所との共同研究事業.
「産学官市民連携による過疎化地域対策事業のモデルづくりについての先行研究——田川地域における『一村一品運動』の可能性」(研究分担者)
199,992円,2014年11月~2015年3月.

5. 所属学会

日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

- ・教養演習・1単位・1年・前期
- ・社会学B・2単位・1年・後期
- ・プレ・インターシップ・2単位・1~2年・通年
- ・質的調査法・2単位・2年、後期
- ・現代社会論A(ジェンダー・世代)・2単位・2年・前期
- ・社会学の分析法C(マクロ理論)・2単位・3年・後期
- ・日本事情A・2単位・留学生・分担・前期
- ・日本事情B・2単位・留学生・分担・後期
- ・社会学A・2単位・1年・後期
- ・社会学史II・2単位・1年・後期
- ・社会調査法・2単位・2年・前期

7. 社会貢献活動

1. 川崎町子ども・子育て会議 会長
2. 行橋市総合計画審議会 副会長
3. 行橋市湾岸地域観光振興審議会 副会長
4. 福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
5. NPO福祉用具ネット 理事
6. 地域総合型スポーツクラブ EASTクラブたがわ 運営委員・会計監査
7. 筑豊市民大学 アドバイザー
8. 日本語くらぶ・たがわ アドバイザー

8. 学外講義・講演

1. 「『ニュースの裏読み』教えます——メディア・リテラシーをきたえよう」,2014年8月22日,九州工業大学.
2. 「『社会』って何だろう——社会学入門」,2014年12月13日,筑豊市民大学.
3. 「科学とニセ科学」,2015年3月19日,福岡県立嘉穂高等学校.

9. 附属研究所の活動等

1. 附属研究所全体の管理運営に関する活動
附属研究所調整部会員
『附属研究所事業報告書』編集委員長
「附属研究所リーフレット（新版）」作成委員長
2. 公開講座の運営に関する活動：公開講座小部会副会長
公開講座Ⅲ「年齢（とし）なんかに負けないぞ」の企画・運営責任者
福岡県立三大学連携県民講座「食べる・噛む・生きる」の企画／運営に参加
2014年度公開講座報告書の編集・印刷公開講座小部会副部会長
3. 産学官連携に関する活動：産学官連携ワーキンググループ長
福岡県産学連携新生活産業促進事業への参加（大学側責任者）
産学官連携メールマガジン発行責任者
2014年度知的財産セミナー運営責任者
飯塚研究開発機構、九州ヘルスケア産業推進協議会、民間事業所との連携（本学研究者のシーズ紹介、民間事業所とへの紹介など）
西日本国際福祉機器展への出展
医工学連携推進フォーラムへの出展
4. 生涯福祉研究センターの運営に関する活動
生涯福祉研究センター運営部会・副部会長
5. 生涯福祉研究センター研究プロジェクトへの参加
「山本作兵衛の炭坑記録画・日記等の保存管理・整理・活用に関する研究」プロジェクト研究分担者
「産学官市民連携による過疎化地域対策事業のモデルづくりについての先行研究」プロジェクト研究分担者
6. 生涯福祉地域支援事業・教育研修事業への参加
「福岡県立大学福祉用具研究会」代表
「さわやかな自己表現塾」運営責任者
「生命保険実学講座」運営責任者
「PCスキル養成講座2014」運営責任者
「日本語くらぶ・たがわ」アドバイザー
「筑豊市民大学」アドバイザー
「山本作兵衛絵画展」運営担当者
7. 社会貢献・ボランティア支援センターの運営に関する活動
社会貢献・ボランティア支援センター運営部会・副部会長
8. 就業力向上支援プログラム推進会議 委員

所属	附属研究所 生涯福祉研究センター	職名	助教	氏名	二見妙子
----	------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学の立場から、インクルーシブ教育（保育）を研究しています。

特に、現在作成している博士論文では、イギリス障害学の視点を援用し、1970年代に日本各地で展開された、障害児教育運動の分析を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>・・・（共著）

- (1) 「『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』2012年 第6章
- (2) 「子どもの声をどのように聞き、どのように伝えるか」堀正嗣編『子どもアドボカシー実践講座』2013年 158-161頁。
- (3) 「特別支援学級で問題視されている障害児自身の声を聴こう」堀正嗣編『子どもアドボカシー実践講座』2013年 182-185頁。

<論文>

- (1) 「インクルーシブ教育を再活性化する要因－大阪府豊中市1970年代の運動における条件整備論の分析から」公教育計画学会編『公教育計画研究4』2013年76-91頁。
- (2) 「大阪府豊中市における障害児優先入園(所)運動の経緯－保育者の加配をめぐる」公教育計画学会編『公教育計画研究5』 2014年

②その他最近の業績

<学会発表>

- (1) 第4回公教育計画学会「共に生きる教育運動における条件整備の意味－大阪府豊中市ひろがり学級設置運動における条件整備をめぐる言説分析」2012年
- (2) 第5回公教育計画学会「大阪府豊中市における障害児優先入所獲得論理－障害児教育における加配の意味」2013年
- (3) 第6回公教育計画学会「大阪府豊中市における原学級保障成立期の障害児教育運動と条件整備」2014年。

③過去の主要業績

- (1) 「熊本県の教育に見る障害児者観の変遷と特別支援教育」熊本学園大学大学院社会福祉学研究科修士論文 2005年

3. 外部研究資金 （なし）

4. 受賞 （なし）

5. 所属学会 障害学会、公教育計画学会

6. 担当授業科目 障害児保育論2単位・2年次・通年

7. 社会貢献活動 障害学研究会九州沖縄部会事務局

8. 学外講義・講演 （なし）

9. 附属研究所の活動等 アンビシャス広場担当その他

所属	附属研究所 生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	中藤広美
----	------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

キーワード；発達障がい児・乳幼児の発達支援、玩具、お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）、子どもの足と靴の問題性

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育に携わった経験を基盤とした研究活動です。生涯福祉研究センター事業「おもちゃとしょかん・たがわ」では、障がい児が遊ぶ意欲をかき立てるような玩具を提供し、インタラクティブな環境の中で心身の発達を促す方法を研究するなど、子どもの発達支援と玩具について関心を持っています。また、「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」では、保護者の思いに十分寄り添いながらも客観的なデータに基づいた子育て支援のあり方を探り、保護者が子どもの発達に確かな手ごたえを感じられるような実践と研究を目指しています。さらには、子ども時代からの外反母趾等をはじめ、日本人の足の問題が指摘されている昨今、子どもを取り巻く環境が足の成長にどのような影響を及ぼすのか、また望ましい足の成長を守るための靴や歩き方、遊び方など生活様式との関連についても研究を進めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・ 中藤広美「1部-4, 2部-1, 4, 5, 6, 3部-8」福田恭介編, 『ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きょうまくいく子どもの発達支援-』, あいり出版, 2011年

②その他最近の業績

・ FPU（福岡県立大学）ブランド子ども用靴の開発

③過去の主要業績

- ・ 田川地域における保育所・幼稚園の変遷と課題（旧産炭地の産業と生活の変遷と地域福祉の課題） 2000年3月15日
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価（2）」福田恭介、中藤広美、本多潤子、興津真理子 2005年3月17日
- ・ 西原尚之、中藤広美、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本保育学会、日本発達心理学会

6. 担当授業科目

幼児教育心理学（補助）

7. 社会貢献活動

NPO福祉用具ネット理事 福岡県保健所運営協議会委員

8. 学外講義・講演

- ・特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム（福岡県立大学）-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生向け- 講師
- ・保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」（直方市）講師
- ・直方市保育士協会統合部会研修会 講師
- ・直方市内3保育園 保育アドバイザー
- ・北九州LD等発達障害親の会 「すばる」 学習会講師
- ・平成25年度柳川市学童保育所指導員研修会 講師『子どもの望ましい行動を育てるには～ペアレントトレーニングの視点より～』
- ・田川市主任児童委員会研修会 講師 『ペアレントトレーニングの紹介』
- ・田川郡主任児童委員会研修会 講師 『子育てに生かすペアレントトレーニング』
- ・「保健・医療・福祉職対象 足と靴の健康・実践講座」講師
- ・北九州市社会福祉施設研修所 研修事業 領域「健康」講師 『足の健康と成長を考える』
- ・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ 講師『健康を考える足と靴』

9. 附属研究所の活動等

- ・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）
- ・特別支援教育スキルアッププログラム
- ・足と靴の相談室
- ・おもちゃとしゃかん・たがわ 代表
- ・福祉用具研究会
- ・アンビシャス 親子広場運営 その他

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	田中 美智子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年千葉大学大学院医学研究科博士課程修了。1992年～鹿児島純心女子短期大学講師、鹿児島純心女子大学看護学部講師として勤務。1998年～宮崎県立看護大学に講師、助教授、准教授として勤務し、2009年4月本学に着任。

- ・ 高齢者の健康維持増進と慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸法
高齢者の健康維持増進に向けて、意識的に横隔膜を使用して行なう呼吸法が循環動態や自律神経系にどのような影響を与えるかについて検討している。
- ・ 睡眠の簡易評価システム開発と高齢者における睡眠の質改善
日常的な睡眠状態の測定・評価を可能にするためのシステム開発と高齢者に見られる睡眠に関する問題を解決するために、睡眠の質改善のための援助について考えている。
これらの研究の他に身体を温めることの効果についても検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

田中美智子,1章1節,4章1・2・4章,呼吸機能障害/循環機能障害,健康の回復と看護①,ナーシンググラフィカ.佐伯由香・田中美智子 編集.メディカ出版,2014年1月.第3版.

<論文>

- ・ 田中美智子、江上千代美、近藤美幸、長坂 猛. : 日中の活動状況に影響された入眠時の自律神経機能と睡眠の関連. 看護人間工学研究誌, 12, 27-31, 2012.
- ・ 加藤京里、菱沼典子、田上恭子、加藤木真史、細野恵子、田中美智子、留畑寿美江、丸山朱美、酒井礼子、井垣通人、塚本紀子、野月千春、加藤祥子、山崎好美. : 4週間の排便記録による排便パターンの実態調査. 日本看護技術学会雑誌, 11(2), 28-37, 2012.
- ・ 田中美智子、長坂 猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一. : 日常生活環境下における第1夜効果の有無の評価. 看護人間工学研究誌, 13, 25-27, 2013.
- ・ 田中美智子、長坂 猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一. : センサーマット型睡眠計と睡眠日誌による高齢者の睡眠評価～一事例の検討～, 看護人間工学研究誌, 14, 29-34, 2014.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ M. Tanaka, M. Nagasaka, C. Egami, M. Kondo, Y. Sakakibara.(2012). Comparison of sleep during the follicular and luteal phases of the menstrual cycle. 第89回日本生理学会. 松本.
- ・ 田中美智子、江上千代美、近藤美幸、長坂 猛、榊原吉一.(2012). 女性における睡眠前後の唾液ホルモンと睡眠の主観的評価. 第38回日本看護研究学会学術集会. 那覇.
- ・ 田中美智子、江上千代美、近藤美幸、長坂 猛. (2012). 高齢者における入眠時の自律神経反応. 第11回日本看護技術学会学術集会. 福岡.
- ・ M. Tanaka, M. Nagasaka, C. Egami, M. Kondo, Y. Sakakibara.(2013) The effect of the first night on sleep parameter measured in the home of subjects. 第90回日本生理学会. 東京.
- ・ M. Tanaka, M. Nagasaka, C. Egami, M. Kondo, Y. Sakakibara.(2013) Autonomic nervous response and subjective evaluation about sleep quality for sleep in the menstrual cycle. 37th International Union of Physiological Sciences. Birmingham.
- ・ 田中美智子、長坂 猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一.(2013) 眼への温熱刺激による自律神経反応及び主観的評価. 第39回日本看護研究学会学術集会. 秋田
- ・ 田中美智子、長坂 猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一. (2014) 性周期における睡眠前半の自律神経反応と睡眠評価. 第40回日本看護研究学会学術集会. 奈良

- ・田中美智子、江上千代美、近藤美幸、長坂猛。(2014) 高齢者 1 事例のライフイベントと睡眠状態. 第 13 回日本看護技術学会学術集会.京都

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・Tanaka M., Masuda A., Honda Y., et al.: Estimation of CO₂ chemosensitivity from the carotid body in humans. Oxygen Sensing: Molecule to Man, edited by S. Lahiri et al. Kluwer Academic / Plenum Publishers. 663-670, 2000.
- ・Tanaka M., Nagasaka M., Honda Y., et al.: Improved O₂ transport and utilization capacity following intermittent hypobaric hypoxia in rats. Adv. Exp. Med. Biol. 499, 375-379, 2001.
- ・Tanaka M., Kusuda(Takeshita) M., Abe K. and Nagasaka M. Effects of iron deficiency anemia on growth rate of rats. Structure and Function. 7(2), 67-75, 2009.

3. 外部研究資金

- ・研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)「高齢者を対象とした日常生活下での睡眠評価と睡眠改善ケアの効果に関する研究」、933,000 (平成 26 年度)、平成 23 年度～26 年度
- ・研究分担者：文部科学省、科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「目もとと後頸部のどちらを暖めるとよく眠れるのか」、50,000(平成 26 年度)、平成 26 年度～29 年度

5. 所属学会

日本看護研究学会 (査読委員)、日本看護研究学会九州地方会 (地方会役員、地方会会計、奨学金選考委員)、日本生理学会 (評議員)、日本臨床生理学会、日本呼吸器学会、日本病態生理学会、看護人間工学部会 (編集委員長)、日本登山医学会 (評議員)、コメディカル形態機能学研究会(学術委員)、日本看護技術学会 (査読委員、評議員、研究活動推進委員)、日本看護科学学会 (代議員、和文誌編集委員、英文誌査読委員)

6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年・後期、病態・生態看護学演習・1 単位・2 年・前期、専門看護ゼミ・2 単位・4 年 (3 年)・前期 (通年)、卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

実験看護学特論・2 単位・1 年・前期、実験看護学演習・2 単位・1 年・後期、Advanced 生理学・病態生理学・2 単位・1 年・前期、基盤看護学特別研究・8 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県准看護師試験委員

8. 学外講義・講演

北海道温電法研究会「温めることの効果～睡眠を促すために～」H27.2.14.

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、看護技術の熟達化と思考の関係性に関する研究である。この研究は、平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択され、引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))に採択され、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択され、平成 24 年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。平成 25 年度は本実験を実施し、一部興味深い結果をえることができた。平成 26 年度は、新たに科研(平成 26 年度～平成 28 年度挑戦的萌芽研究)が採択され、引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証についてこれまでの検証結果を踏まえ、研究を進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

三原博光,松本百合美編著,永嶋由理子,湊野由夏,加藤法子,於久比呂美ほか,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,第 1 章高齢者の健康,関西学院大学出版会, p9-15, 2013.

<論文>

- ・ 於久比呂美,永嶋由理子,宮崎千尋,藤野靖博,湊野由夏,加藤法子,津田智子. 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), p39-46, 2012.
- ・ 藤野靖博,加藤法子,於久比呂美,湊野由夏,津田智子,永嶋由理子. 清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), p33-38, 2012.

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・ 永嶋由理子,津田智子,湊野由夏,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美. 頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証,平成 24 年度研究奨励交付金成果報告書,p118-119,2012.
- ・ 永嶋由理子,津田智子,湊野由夏,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美. 看護技術の安楽に関する科学的検証,平成平成 25 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2013.

<学会発表>

- ・ 森田愛璃香,於久比呂美,永嶋由理子.頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較.第 28 回日本看護研究学会 中国・四国地方会学術集会,島根,2016.
- ・ 山名栄子,田中美智子,永嶋由理子,照屋典子, 當山裕子,清水かおり,中嶋恵美子,斉藤ひさ子,末永陽子,日高艶子,石橋通江.九州沖縄看護系大学8大学の共同連携による科目の統一コード化.第 40 回日本看護研究学会学術集会,奈良, 2015.
- ・ 於久比呂美,永嶋由理子,藤野靖博,湊野由夏,加藤法子,津田智子. 病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 第 26 回近畿・北陸地方会学術集会,和歌山,2013.
- ・ 加藤法子,湊野由夏,藤野靖博,於久比呂美,加藤洋司,木村幸生,井上誠,永嶋由理子. ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察(第一報)ー清拭による皮膚表面の ATP の変化からー. 第 17 回日本看護研究学会 東海地方会学術集会,神奈川,2013.
- ・ 湊野由夏, 加藤法子,於久比呂美, 藤野靖博,加藤洋司,木村幸生,井上誠,永嶋由理子. ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察(第二報)ー清拭温度の違いによる皮膚表面の ATP の変化からー. 第 17 回日本看護研究学会 東海地方会学術集会,神奈川,2013.
- ・ 加藤法子,湊野由夏,永嶋由理子:ディスプレイタブレットによる清拭の効果に関する検討, 第 33 回日本看護科学学会学術集会,大阪,2013.
- ・ 湊野由夏,加藤法子,永嶋由理子:訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討, 第 33 回日本看護科学学会学術集会,大阪,2013.

③過去の主要業績

- ・永嶋由理子,山川裕子. 血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2), p1-8, 2005.
- ・永嶋由理子. 看護過程の考え方と進め方(基礎編). 月刊看護きろく,17(1), p75-84, 2007.
- ・永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識. 臨床看護臨時増刊号,34(4), p433-454, 2008.

3. 外部資金獲得

研究代表者, 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(挑戦的萌芽研究), 「看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究」, 3,510,000円(3年間), 1,950,000円(平成26年度),平成26年度~28年度

4. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

5. 担当授業科目

〈学部〉

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, ケアリング論・1単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・後期, 看護研究・1単位・3年・後期, 統合実習・2単位・4年・前期

〈大学院〉

看護理論・2単位・1年・前期, 看護心理学特論・2単位・1年・前期

6. 社会貢献活動

- ・日本看護学会学術集会(看護管理)準備委員
- ・平成26年度看護職員確保対策連絡協議会委員
- ・福岡県田川保健所運営協議会委員
- ・田川市国民保護協議会委員
- ・田川市住宅政策審議会委員

7. 学外講義・講演・その他

- ・永嶋由理子. 「実習指導の原理」福岡県看護協会 看護師研修会, 2014年6月,7月
- ・永嶋由理子. 「看護理論」「看護過程」福岡県看護協会 看護師研修会, 2014年7月,8月
- ・永嶋由理子. 「フィジカルアセスメント」「看護過程の展開」脳神経センター大田記念病院 看護師研修会, 2014年7月,8月
- ・永嶋由理子. 「フィジカルアセスメントの構成と基本技術、観察法」,北九州総合病院 卒後3年目看護師研修会, 2014年8月
- ・永嶋由理子. 「看護組織管理論(看護ケア提供方式の構築)」福岡県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修会, 2014年10月
- ・永嶋由理子. 「看護管理」せき損センター 看護師研修会, 2014年11月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	森 礼子
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

英語教師がスピーキングを教えているとき、どのような信念に基づいて学習者の間違いを直すかについて調査している。一番最近の調査では、スピーキングクラスで教師が間違いを直すときは、教師の経験、置かれたコンテクスト、そして個人的な好みや生まれつきの傾向が大きな影響を与えているということが分かった。

2. 研究業績

②その他の業績

〈学会報告〉

- ・ Mori, R. (2012). Role of reflection on experience in enacting teacher agency. TESOL 2012. 3月、米国、フィラデルフィア.
- ・ 森礼子. (2014). 英語資格試験の導入と教員の考え方についての認識の変化に関する調査. 大学英語教育学会・九州沖縄支部大会、8月、鹿児島大学.
- ・ Mori, R. (2014). Teacher belief, personal propensities, and corrective feedback. AILA 2014, 8月、オーストラリア、ブリスベン.
- ・ Mori, R. (2015). Including teachers' personal perspectives in research: The case of corrective feedback. AAAL 2015, 3月、カナダ、トロント.
- ・ Mori, R. (2015). Examining changes in one EFL teacher's awareness about teaching. TESOL 2015, 3月、カナダ、トロント.

③過去の主要業績

- ・ Mori, R. (2002). Corrective feedback and teachers' beliefs. *JALT Journal*, 24, 48-69.
- ・ Mori, R. (2004). Staying-in-English rule revisited. *System*, 32 (2), 225-236.
- ・ Mori, R. (2004). Personal growth in teacher development: A case study. *Proceedings of JALT 2003*, 155-161.
- ・ Mori, R. (2011). Teacher cognition in corrective feedback in Japan. *System*, 39, 451-467.

5. 所属学会

TESOL, AAAL, 全国英語教育学会、全国語学教育学会、大学英語教育学会、外国語教育メディア学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、リーディングⅠ・1単位・1年・前期、ライティング・1単位・1年・後期、リーディングⅡ・1単位・2年・前期、スピーキングⅢ・1単位・2年・後期、英語Ⅴ・1単位・4年・前期、英語文献講読特講・大学院1年・前期

7. 社会貢献活動

- ・ 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部紀要 編集委員
- ・ *English Teaching & Learning* 査読員
- ・ スキルアップゼミ「初級日本語教授法講習会」開催 (2015年1月・全4回)

8. 学外講義・講演

平成26年9月11日. 福岡県立三池高校における出前講義、タイトル：最新の研究結果からみる英語の勉強法.

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	田中 洋子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2013年4月赴任。九州大学病院に看護師として就職し、佐賀大学医学部附属病院で定年を迎えるまでそのほとんどを臨床の場で過ごした。主に、脳神経系疾患看護、集中治療看護、救急看護に携わり、後半は看護管理に従事した(脳神経疾患看護については、カナダマギル大学脳神経疾患看護卒後コースを修了した)。一方、学生教育は、長崎県立シーボルト大学(現長崎県立大学シーボルト校)、福岡女学院看護大学から現在に至っている。また、佐賀大学医学部附属病院勤務時に学部学生および大学院生にそれぞれ「看護管理論」を教授した。

〈研究分野〉

臨床の経験から、「病院感染制御」、「看護サービス提供」、「個人情報管理」、「患者安全」などについて関心を持ち研修の機会を得て学修を重ねてきた。特に患者安全に関しては、医療者の注意義務に着目して医療事故事例(患者の療養上の世話における事故)の発生要因分析に関する事項をテーマにしている。また、昨今話題である看護師の特定医行為に関して、看護師の責任範囲、看護管理上の問題などについても研究をしている。

2. 研究業績

②その他の最近の業績

- ・2011年 「個人情報保護の取扱」および「事故発生時の対応」のガイドラインを2009年より担当責任者として作成し、全教員が教材として活用した。本ガイドラインを一部修正の上、「ガイドライン 2011—個人情報の取扱、事故発生時の対応、健康管理—」を担当責任者として整備し、教材として「医療安全管理論」および臨地実習において活用した。
- ・2012年 「ガイドライン 2011」を一部修正のうえ、「ガイドライン 2012—個人情報の取扱、事故発生時の対応、健康管理—」として整備した。

③過去の主要な業績

- ・田中洋子 事故報告からみた事故発生要因の一考察、日本医療マネジメント学会第8回九州・山口連合大会(福岡市)、2009年9月、
- ・田中洋子 パネルディスカッション：医療の現場で看護の専門性を発揮できているのか—看護管理者の立場から、就業の安全と健康を考える会秋季セミナー(福岡市)、2007年10月、
- ・田中洋子 病院における医療情報活用に関する研究 - カルテ等診療情報の活用に関する医療消費者の課題 -、県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要2巻、2001年
- ・田中洋子 病院における情報活用に関する研究 - カルテ等診療情報の提供・開示に関する課題 -、九州産業大学大学院経営研究第4号、2001年
- ・田中洋子 病院情報システムの研究—看護情報を中心に—、修士論文、1997年

5. 所属学会

日本看護学会、日本環境感染学会(評議員)、日本医療の質・安全学会、日本医療マネジメント学会、日本看護研究学会、日本科学看護学会、九州地区看護研究学会、九州山口医療マネジメント学会、九州病院管理研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、看護実践論・1単位・2年・前期、
専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、看護管理論(必修)・2単位・4年・後期、卒業研究・2単位・4年・後期、統合実習(必修)・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護管理学・1単位・後期、基盤看護学特別研究(看護教育学)・2単位・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市特別職報酬審査委員会委員 (2013年)
- ・ 筑豊ブロック看護生涯教育委員会委員 (2013年～現在)
- ・ メディカ出版「ブレインナーシング」編集同人 (2000年～現在)

8. 学外講義・講演

- ・ 田中洋子、「医療安全(6 コマ)」「脳神経疾患(8 コマ)」、下関看護リハビリテーション学校、2013年、2014年
- ・ 田中洋子、「神経内科学(15 コマ)」下関看護リハビリテーション学校、2014年
- ・ 田中洋子、「医療におけるリスクマネジメントの実際」、長崎県看護協会リスクマネージャー養成研修会、2013年、2014年、
- ・ 田中洋子、「ヘルスケアサービス管理」、長崎県看護協会看護管理者養成講習会2ndレベル、2013年、2014年
- ・ 田中洋子、「病院感染看護」福岡地区ビルメンテナンス講習会 2013年、2014年
- ・ 田中洋子、「業務改善計画の立案および計画書の作成指導」「組織論」佐賀県看護協会看護管理者養成講習会2ndレベル 2014年、
- ・ 田中洋子、出前講義「看護の仕事」、田川東鷹高校、2014年7月
- ・ 田中洋子、出前講義「人体がもつ感染制御の力」、久留米信愛女学院高校、2014年11月

9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護実践教育センター教員会委員および入試委員会委員、2013年、2014年
- ・ 看護実践教育センター講義「看護管理論」「医療安全論」、2014年

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	石田 智恵美
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一貫として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネージメント研修を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

中野榮子, 安酸史子, 郝曉卿, 山住康恵, 東あゆみ, 原田直樹, 佐藤香代, 石田智恵美, 清水夏子, 王婷婷, 鄔継紅, 牛慧君, 艾華, 蘇春香, 候曉妮, 東洋医療の健康観に基づく健康意識の日中比較研究, 福岡県立大学看護学研究紀要 10(1) pp.21-31. 2012年12月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・石田智恵美, 梅崎淳子, 山根理恵子, 看護の優先度決定のためのタスクマネージメントー思考訓練のための課題研究一, 第13回日本赤十字看護学会学術集会 2012年6月, 長野
- ・安酸史子, 北川明, 山住康恵, 小野美穂, 松浦江美, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 石田智恵美, 生駒千恵, 松井聡子, 武田飛呂城, 慢性疾患患者の自己管理支援について考える～慢性疾患セルフマネージメントプログラムの評価研究～ 第32回日本看護科学学会学術集会 2012年11月 東京
- ・山住康恵, 北川明, 小野美穂, 江上千代美, 松浦江美, 生駒千恵, 石田智恵美, 松井聡子, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 安酸史子, セルフマネージメントプログラム参加者のベースラインデータによるストレス対処能力(SOC)に関する研究 第32回日本看護科学学会学術集会 2012年11月 東京
- ・児玉裕美, 石田智恵美, 安酸史子, 中堅看護師の新人看護師への教育的役割に関する研究ー自己効力感の視点からー 第33回日本看護科学学会学術集会 2013年12月 大阪
- ・清水夏子, 石田智恵美, 松井聡子, 安酸史子, 看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討 第33回日本看護科学学会学術集会 2013年12月 大阪
- ・小野美穂, 安酸史子, 北川明, 山住康恵, 松浦江美, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 湯川慶子, 石田智恵美, 生駒千恵, 松井聡子, 武田飛呂城, 千脇美穂子, 慢性疾患患者の自己管理支援を考える～慢性疾患セルフマネージメントプログラムとは?～ 第33回日本看護科学学会学術集会 2013年12月 大阪
- ・石田智恵美 看護基礎教育における看護学生の知識の獲得に関する研究 日本教授学習心理学会 第10回年会 2014年7月 宮城
- ・生駒千恵 石本佐和子 石田智恵美 看護実践経験豊富な学生の学習経験-糖尿病認定看護師教育課程で最も困難を感じた学習経験について- 日本看護学教育学会第24回学術集会 千葉
- ・石田智恵美 稲留由紀子 中山晃志 秦野環 照屋典子 木村弘江 佐藤千春 原田直樹 松浦賢長 看護学生を対象とした, 国際活動実施施設における短期研修プログラムに関する研究 第34回日本看護科学学会学術集会 2014年11月 名古屋

③過去の主要業績

- ・石田智恵美, 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.

- ・石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教授学習心理学会, 日本赤十字看護学会 日本教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

ケアリングと教育・2単位・人間社会学部2年&看護学部4年・後期, 看護研究・2単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 国際看護論・2単位・4年・前期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

看護教育学特論・2単位・1年・前期, 看護教育学演習・2単位・1年・後期, 看護教育学・2単位・1年・後期, 基盤看護学特別研究・8単位・1~2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡赤十字病院 卒後教育(卒後1年目, 2年目の看護職者を対象とした, タスクマネージメント研修の開催) 卒後1年目:5月, 10月, 3月 卒後2年目:1月
- ・嘉麻赤十字病院 卒後教育(卒後1年目, 2年目, 3年目の看護職者を対象とした, タスクマネージメント, 実習指導のための研修) 卒後1年目:6月, 12月 卒後2年目・3年目:2月
- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 6月~3月まで1回/月

8. 学外講義・講演

- ・純真学園大学 非常勤講師 「看護教育論」
- ・ウエストジャパン看護専門学校 非常勤講師 「国際看護論」
- ・産業医科大学 非常勤講師 「診療援助技術演習」
- ・糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師 「文献検索・文献購読」「指導」
- ・「学習者の意欲を育てる指導方略」講演 関門医療センター
- ・「看護教育課程・実習指導・看護過程」講演 JCOH九州病院

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	芋川 浩
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992 年名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。その後、日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構 ERATO プロジェクト・グループリーダー、University College London(UCL)上級研究員、理化学研究所・発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005 年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリという動物やマウスを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器を失うと、元通りに再生させることはできないが、アカハライモリという有尾両生類は、手足やレンズ、各臓器を失っても、完全に再生できるのである(イモリはヤモリとは違います!)。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる重要な遺伝子群もよくわかってきた。その結果、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を利用して手足を形成する。では、同じ遺伝子を持っているにもかかわらず、ヒトは再生できないのみ、どうしてイモリは手足を再生できるのか? 現在その難問を遺伝子レベルで解明しようと研究を進めている。これを解決できれば、ヒトもイモリと同じように手足を再生できる可能性が高くなる。なぜなら、手足を形作る生体のメカニズムは、ヒトもイモリも全く同じなのだから!!

しかし、ES 細胞や iPS 細胞を使っても、3 次元的な生体臓器器官の作成をイモリのように再生することまだ誰も成功していない。このような夢の医療の実現をめざしたいと考えている。

また、このような再生医学的アプローチばかりではなく、看護学に関わる研究なども精力的に行っており、独自開発した「スキนครーム」が現在産学官連携プロジェクトとして特許出願及び商品化として進行中である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

芋川 浩、今浪 愛里、『精油(ティートリーとラベンダー)の抗菌効果の検討 その1』、福岡県立大学看護学研究紀要 vol.11, p63-p70 (2014)

②その他最近の業績

- ・芋川 浩、『緑茶効果の看護技術応用のための検討 1』日本看護研究学会 第 39 回学術集会(2013 年 秋田)
- ・芋川 浩、『ミョウバンを用いた看護技術開発のための解析 その1』日本看護研究学会 第 40 回学術集会(2014 年 奈良)
- ・芋川 浩、講演会『生命誕生の神秘』 粕屋東中学校(2014 年 2 月 28 日)

③過去の主要業績

- ・Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds Proc. Natl. Acad. Sci. USA **94**, 9159-9164 (1997).
- ・Y. Imokawa & J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration. Curr. Biol. **13**, 877-881 (2003).
- ・Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration. Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci., **359**, 765-776 (2004).
- ・Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes. Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells. Int. J. Dev. Biol., **48**, 285-291 (2004).
- ・再生一甦るしくみー 吉里勝利編(第2-3章) 羊土社

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、生態病態看護学実験・2単位・2年生・前期、化学・2単位・1年・後期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、日本事情(科学事情I&II)・2単位・交換留学生・後期、がん病態学・2単位・大学院修士1年・前期

7. 社会貢献活動

- ・産学連携による新生活産業創出として、田川地区の企業であるサンヨー工機(株)と共同研究
- ・宗像市・福津市による青少年育成事業として、海とマリンスポーツに親しむ奨励事業とその指導活動

8. 学外講義・講演

- ・平成26年07月22日 海星女子学院高等学校(高校訪問)
- ・平成26年09月19日 St Andrews C Of E Primary School(イギリスの小学校3~4年生への講義)
- ・平成26年10月23日 嘉穂東高等学校(高校訪問)

9. 附属研究所の活動等

- ・特許審査請求(平成27年01月20日)
- ・商品化に向けた共同研究(サンヨー工機(株)、ホーリン(株))
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	江上 千代美
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

発達障害児・者の認知機能評価である CogHealth を用いて、①健常児の発達、②注意欠陥多動性障害の特徴、③行動療法および薬物療法の効果等について検討しています。これらの知見をもとに、注意欠陥多動性障害をもった人および保護者への生活支援につなげる取り組みを行っています。

「冷えは万病のもと」ともいわれますが、この冷え体質の解明や分類、看護援助にかかわる研究を行っています。特に、「温める」ことの生理的反応をさまざまな角度から検討し、冷え症の QOL 向上に向けた日常生活支援につながる基礎研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子.下腹部と腰部の温罨法が生体に及ぼす効果の検討,福岡県立大学看護学研究紀要.
- ・Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. Brain Dev. 36(3), 241-7, 2014.
- ・江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子.温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果,日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- ・田中美智子,江上千代美.日常生活環境下における第1夜効果の有無の評価,看護人間工学研究誌 13,25-27,2013.
- ・江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他.看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20,2012.
- ・江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他.看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係.看護人間工学研究誌,12:15-20,2011.
- ・Yushiro Yamashita , Akiko Mukasa , Chizuru Anai , Yuko Honda , Chie Kunisaki ,Junichi Koutaki, Yahuihiro Tada, Chiyomi Egami, Naoko Kodama, Masayuki Nakashima, Shin-ichiro Nagamitsu , Toyojiro Matsuishi:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 山下裕史朗, 松石豊次郎. 笑顔図の探索眼球運動から類推される対人性視覚認知機能の発達,脳と発達 42(5):340-5,2010.
- ・江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 大矢崇志, 山下裕史朗, 松石豊次郎. アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討, 臨床神経生理学,38:63-70,2010.
- ・Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

- ・江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 山下裕史朗, 松石豊次郎. 探索眼球運動評価による小児期の視覚認知機能の特徴, 臨床神経生理学 35 (6), 479-486, 2008.

②その他最近の業績

- ・江上千代美, 田中美智子他, 医療安全教育の有用性—眼球運動から解析した危険認知の変化—, 第12回日本看護技術学会 (浜松)
- ・江上千代美, 田中美智子他, 看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較, 第39回日本看護研究学会(秋田)
- ・江上千代美, 長坂猛, 田中美智子他, 温罨法除去後の生体反応, 第20回看護人間工学部会, 横浜, 2012.
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴. 日本看護研究学会, 沖縄, 2012.
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性—看護師の危険認知—, 福岡, 2012.
- ・Yamashita Y, Egami C, et.al . Effects of a Summer treatment program in Japan: used for ADHD battery assessment, The 1st Asian Congress on ADHD, Seoul, 2012
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 眼球運動指標を用いた看護学生の臨地実習体験と危険認知との関係. 第10回日本看護技術学会, 東京, 2011.
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 危険認知と眼球運動との関係. 第19回看護人間工学部会, 東京, 2011.
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 眼球運動指標を用いた看護学生の臨地実習体験と危険認知との関係, 日本看護技術学会, 東京, 2011.
- ・江上千代美, 田中美智子, 近藤美幸, 福田恭介. 危険認知と眼球運動との関係, 看護人間工学部会, 東京, 2011.
- ・江上千代美, 近藤美幸, 長坂 猛, 井垣 通人, 田中美智子. 下腹部温罨法と腰部温罨法が生理的反応に及ぼす効果の検討, 日本看護技術学会, 名古屋, 2010.

3. 外部研究資金

- ・奨励研究 (プロジェクト研究)
- ・科学研究費(基盤 C)

4. 所属学会

日本臨床神経生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本LD学会会員、日本看護学教育学会、会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、日本人間工学会、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

5. 担当授業科目

<学部>

実験看護学演習・1単位・2年次・前期, 生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 教養演習・1単位・1年次・前期, 総合実習・2単位・4年次・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年次・前期, 卒業研究・2単位・4年次・前期

<大学院>

実験看護学特論・2単位・大学院1年次・前期, 実験看護学演習・2単位・大学院1年次・後期

6. 附属研究所の活動等

- ・久留米大学小児科学
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校・引きこもりサポートセンター

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

田中哲也編著、四戸智昭著. ”第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー”. 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方2014年度版』. (2014). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.

②その他の業績

〈調査報告書〉

- ・四戸智昭, 内閣府『困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体研修報告書』, 全A4版 200頁, 「ひきこもりとその家族ー家族グループ・ミーティングの運営の実際」 pp.175-200, (2012).
- ・四戸智昭, 北九州市立精神保健福祉センター「北九州市一般救急における自殺未遂者調査結[概要]」, A4版2頁, (2012).

〈学会発表〉

- ・四戸智昭. 「ひきこもりの子を抱えた親の共依存的特徴と親のグループミーティングの効果に関する一考察」. 日本嗜癡行動学会第23回学術集会. 秋田. (2012,11).
- ・四戸智昭. 長谷川智子. 門口美由起. 江上千代美. 梶原由紀子. 本田和人. 黒岩達也. 大場綾沙美. 山崎怜. 奥村賢一. 原田直樹. 小嶋秀幹. 松浦賢長. 「不登校・ひきこもりへの訪問支援活動の効果に関する一考察」. 日本嗜癡行動学会第23回学術集会. 秋田. (2012,11).
- ・四戸智昭. 「不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究」. 日本嗜癡行動学会第25回学術集会. 鳥取. (2014,11).

〈シンポジウム〉

KHJ 全国大会 (福岡)、シンポジウム「ひきこもりの回復をめざして」座長、2013年9月29日
 〈新聞連載〉

- ・西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」
 2013年8月13日～12月24日 (全19回)
- ① 「共依存」を抜け出す (西日本新聞朝刊) 2013年8月13日掲載
- ② 昼夜逆転の原因は・・・ (西日本新聞朝刊) 2013年8月20日掲載
- ③ 子どもと社会をつなぐ (西日本新聞朝刊) 2013年8月27日掲載
- ④ 親が変わることから (西日本新聞朝刊) 2013年9月3日掲載
- ⑤ 感情を共有する一歩 (西日本新聞朝刊) 2013年9月10日掲載
- ⑥ 親子に必要な境界線 (西日本新聞朝刊) 2013年9月17日掲載
- ⑦ 選択肢増やす生き方 (西日本新聞朝刊) 2013年9月24日掲載
- ⑧ 条件付きの愛情では (西日本新聞朝刊) 2013年10月1日掲載
- ⑨ 自助グループが力に (西日本新聞朝刊) 2013年10月8日掲載

- ⑩ 原因は親や親族にも (西日本新聞朝刊) 2013年10月22日掲載
- ⑪ 「登校拒否」僕の理由 (西日本新聞朝刊) 2013年10月29日掲載
- ⑫ 外に助け求め新風が (西日本新聞朝刊) 2013年11月5日掲載
- ⑬ 「良い子」の落とし穴 (西日本新聞朝刊) 2013年11月12日掲載
- ⑭ 街から消える居場所 (西日本新聞朝刊) 2013年11月19日掲載
- ⑮ 一冊の本と出会って (西日本新聞朝刊) 2013年11月26日掲載
- ⑯ 生き延びるための回避 (西日本新聞朝刊) 2013年12月3日掲載
- ⑰ いじめでPTSDに (西日本新聞朝刊) 2013年12月10日掲載
- ⑱ 地域での役割があれば (西日本新聞朝刊) 2013年12月17日掲載
- ⑲ まず親が変わる勇気を (西日本新聞朝刊) 2013年12月24日掲載

<書評>

- ・ 本田良一著『ルポ生活保護—貧困をなくす新たな取り組み』(中公新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』28巻3号. (2012,5)
- ・ 福岡女性学研究会著『性別役割分業は暴力である』(現代書館) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』28巻3号. (2012,5)
- ・ 斎藤環、畠中雅子著『ひきこもりのライフプラン—「親亡き後」をどうするか』(岩波ブックレット) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』28巻4号. (2012,9)
- ・ 加藤忠史著『動物に「うつ」はあるのか—「心の病」がなくなる日』(PHP新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』28巻4号. (2012,9)
- ・ 雄山真弓著『心の免疫力を高める「ゆらぎ」の心理学』(祥伝社新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻1号.(2013,3)
- ・ 諸富祥彦著『人生を半分あきらめて生きる』(幻冬舎新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻1号.(2013,3)
- ・ 内藤朝雄著『いじめの構造—なぜ人が怪物になるのか』(講談社現代新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻2号.(2013,5)
- ・ 茂木健一郎著『幸福になる「脳の使い方」』(PHP新書) . 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻2号.(2013,5)
- ・ 橋本俊昭、迫田さやか著『夫婦格差社会—二極化する結婚のかたち』(中公新書) 日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻3号.(2014,1)
- ・ 武内徹著『お前はうちの子ではない 橋の下から拾った来た子だ』日本嗜癡行動学会学会誌『アディクションと家族』29巻3号.(2014,1)

<エッセイ>

- ・ 福岡市楠の会会報 32、「今の私をつくっているものとは？」(2014,4)
- ・ 福岡市楠の会会報 33、「回復への旅路」(2014,5)
- ・ 福岡市楠の会会報 34、「機能不全家族の修復は可能か」(2014,6)
- ・ 福岡市楠の会会報 35、「どうしてその家族に「ひきこもりの子」が必要なのか？」(2014,7)
- ・ 福岡市楠の会会報 36、「ひきこもりは社会の窓」(2014,12)
- ・ 福岡市楠の会会報 37、「人生の選択史を増やす」(2015,1)
- ・ 福岡市楠の会会報 38、「子どもに話しかけるといこと」(2015,2)

③過去の主要業績

- ・ 四戸智昭著. (単著) . 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- ・ 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. ”第14章家族の孤立という危機—ディスコミュニケーションが生む家族の苦悩—”. 『21世紀の心の処方学—医学・看護学・心理学からの提言と実践—』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金（若手研究 B）H25～27「不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究」（研究代表者 四戸智昭）

4. 所属学会

日本嗜癡行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

5. 担当授業科目

情報処理演習・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癡・2単位・1年・後期、看護学研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉政策論・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院家族社会学特論・2単位・1年・後期

6. 社会貢献活動

- ・福岡県北九州市地域薬物関連問題連絡会議・委員
- ・福岡県ひきこもり支援者等ネットワーク会議・アドバイザー
- ・嘉穂鞍手保健福祉環境事務所「ひきこもり個別相談会」・相談員
- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会委員
- ・田川市教育委員会審議会委員

7. 学外講義・講演

- ・みやま市役所福祉事務所、民生委員・児童委員協議会総会、講師、2014年4月15日
- ・福岡県地域精神保健協議会筑豊ブロック総会講師、2014年5月16日
- ・NPO 法人日本交流分析協会九州支部大会講師、2014年5月25日
- ・福岡県南区保健センター講師、2014年7月16日
- ・福岡市教育センター養護教諭研修講師、2014年7月22日
- ・福岡県人権同和教育研究会講師、2014年8月5日
- ・福岡市市町村研修所ディベート研修講師、2014年9月1～2日
- ・福岡県人権啓発センター講師、2014年9月6日
- ・福岡県人権情報啓発センター県民講座講師、2014年9月27日
- ・佐賀県アディクションフォーラム講師、2014年10月4日
- ・北九州市教育委員会生涯学習課講演講師、2014年10月14日
- ・北九州LD等発達障害親の会すばる講演講師、2014年10月19日
- ・田川市同和教育研究会講演、2014年10月31日
- ・福岡市精神保健福祉センターひきこもり家族教室講師、2014年11月20日
- ・直方市社会福祉協議会不登校支援講師、2014年12月13日
- ・大分県日出町社会福祉協議会生活困窮者自立支援福祉セミナー講師、2014年12月18日
- ・福岡市こども総合相談センター講師、2015年1月31日
- ・水巻看護助産学校特別講義講師、2015年2月23日
- ・熊本県児童相談所講演講師、2015年3月9日

8. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。細菌学演習を中心とした授業改善・教材開発、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist 取得）など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用（文部科学省科学研究費）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 杉野浩幸、明日から使える PC テクニック PowerPoint-3：スライド内画像の加工・調整 2012年1月、月刊ナーシング、vol.32 no.2、pp122-123
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための細菌学実験①、手指常在菌の検出と消毒効果（*Staphylococcus* 属）、2012年1月、看護実践の科学、vol.37 no.2、pp52-55
- ・ 杉野浩幸、デイサービスをPRする！ ホームページの作り方 より多くの方にホームページを見てもらうには、2012年1月、通所介護&リハ、vol.9 no.5、pp82-84
- ・ 杉野浩幸、明日から使える PC テクニック PowerPoint-4：100MB 以上のファイルを小さくする方法、2012年2月、月刊ナーシング、vol.32 no.2、pp142-143
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための細菌学実験②、咽頭常在菌の検出（*Staphylococcus* 属、*Neisseria* 属）、2012年2月、看護実践の科学、vol.37 no.3、pp56-59
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための細菌学実験③、口腔常在菌の検出（*Streptococcus* 属、*Haemophilus* 属）、2012年3月、看護実践の科学、vol.37 no.4、pp46-50
- ・ 杉野浩幸、デイサービスをPRする！ ホームページの作り方 ホームページ管理、更新について、2012年3月、通所介護&リハ、vol.9 no.6、pp92-94
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼンテーション資料作成テクニック、2012年3月、月刊ナーシング、vol.32 no.4、pp126-127
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための基礎細菌学実験④、口腔常在菌（真菌類）の検出（*Candida* 属）、2012年4月、看護実践の科学、vol.37 no.5、pp54-57
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第2回、ファイル間でのスライドの移動、2012年4月、月刊ナーシング、vol.32 no.6、pp130-131
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための基礎細菌学実験⑤、抗生物質耐性試験、2012年5月、看護実践の科学、vol.37 no.6、pp52-56
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第3回、箇条書きの書式設定、2012年5月、月刊ナーシング、vol.32 no.7、pp114-115
- ・ 杉野浩幸、看護研究のための基礎細菌学実験⑥、細菌のグラム染色、2012年6月、看護実践の科学、vol.37 no.8、pp56-60
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第4回、段落番号の書式設定、2012年6月、月刊ナーシング、vol.32 no.8、pp132-133
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第5回、テキストボックスの利用、2012年7月、月刊ナーシング、vol.32 no.9、pp150-151
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第6回、図形の挿入、2012年8月、月刊ナーシング、vol.32 no.10、pp96-97
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第7回、2012年9月、表の挿入、月刊ナーシング、vol.32 no.11、pp144-145

- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第8回、ビデオの挿入、2012年10月、月刊ナーシング、vol.32 no.13、pp114-115
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第9回、SmartArt グラフィックを使いこなす-1、2012年11月、月刊ナーシング、vol.32 no.14、pp142-143
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第10回、SmartArt グラフィックを使いこなす-2、2012年12月、月刊ナーシング、vol.33 no.1、pp132-133
- ・ 杉野浩幸、感染対策の弱点克服！レベルアップのための特別講義、第14回 感染対策活動でこんなに使える！携帯カメラ活用術、2013年1月、INFECTION CONTROL、vol.22 no2、pp78-82
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第11回、わかりやすい配付資料の準備、2013年1月、月刊ナーシング、vol.33 no.2、pp140-141
- ・ 杉野浩幸、ナースのためのカンタンすぐできるプレゼン資料作成テクニック、第12回、スライドショーの活用テクニック、2013年2月、月刊ナーシング、vol.33 no.3、pp114-115
- ・ 杉野浩幸、感染対策の弱点克服！レベルアップのための特別講義、第15回 感染対策活動でこんなに使える！プレゼン資料作成術、2013年3月、INFECTION CONTROL、vol.22 no4、pp88-92
- ・ 杉野浩幸、学会発表、院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第1回：効率的な編集作業-1、2013年3月、臨牀看護、vol.39 no5、pp751-753
- ・ 杉野浩幸、学会発表、院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第2回：効率的な編集作業-2、フォトアルバムの活用、2013年4月、臨牀看護、vol.39 no.6、pp880-883
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第3回：効率的な編集作業-3、SmartArt グラフィックの活用、2013年5月、臨牀看護、vol.39 no.7、pp1022-1025
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第4回：効率的な編集作業-4、図の変更、2013年6月、臨牀看護、vol.39 no.8、pp1143-1147
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第5回：効率的な編集作業-5、テキストボックスの活用、2013年7月、臨牀看護、vol.39 no.9、pp1275-1279
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第6回：効率的な編集作業-6、ハイパーリンクの活用、2013年8月、臨牀看護、vol.39 no.10、pp1430-1435
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第7回：効率的なプレゼンテーションの管理-1、スライドの再利用、2013年9月、臨牀看護、vol.39 no.11、pp1572-1575
- ・ 杉野浩幸、もう一度学ぶ臨床検査のキーワード 補体のはたらき①、2013年10月、看護実践の科学、vol.38 no.12 pp64-67
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第8回：効率的なプレゼンテーションの管理-2、セクションの活用、2013年10月、臨牀看護、vol.39 no.12、pp1906-1911
- ・ 杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第9回：効率的なプレゼンテーションの管理-3、目的別スライドショーの活用、2013年11月、臨牀看護、vol.39 no14、pp2060-2065
- ・ 杉野浩幸、もう一度学ぶ臨床検査のキーワード 補体のはたらき②、2013年11月、看護実践の科学、vol.38 no.13 pp42-44
- ・ 杉野浩幸、イベント・研修のプランニングに欠かせない！ 医療安全情報を検索するコツ&お役立ちサイト情報、2015年2月、病院安全教育、vol.2 no.4、pp21-28
- ・ 松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子、視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～ eラーニングシステムを使用して～、福岡県立大学看護学研究紀要、2015

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 杉野浩幸、看護学部学生の情報機器活用能力と学習意欲：細菌学演習において PowerPoint 資料をダウンロードさせた事例、日本看護学教育学会・学術集会、2012年8月、熊本県立劇場
- ・ 杉野浩幸、看護学部教育におけるデジタル資料活用と学習意欲：微生物学演習における電子ブック形式テキストの活用事例、日本看護学教育学会・学術集会、2013年8月、仙台国際センター

③過去の主要業績

- ・ H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492
- ・ H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967
- ・ H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having β -1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

3. 外部研究資金

平成 23 年度文部科学省科学研究費助成事業、科学研究費補助金（基盤（C））、看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、2,400 千円、平成 23 年度～平成 26 年度、研究代表者

5. 所属学会

日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、感染・免疫看護学演習・1 単位・1 年・後期、生態・病態看護学演習・1 単位・2 年・前期、看護研究・1/15 単位・3 年・前期

7. 社会貢献活動

田川地区対象 PC 講習会、すぐに使える PC テクニック（全 10 回）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	津田 智子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護の実践方法論としての看護技術、殊に、看護基本技術の教育方法を主な研究分野としている。具体的には、学生との教授－学習過程における効果的な教育方法（主に演習・実習における個別指導）や、学生の看護技術の自己評価力を高める教育方法、看護基本技術の科学性の検証が主な研究テーマである。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

津田智子、佐藤香代（安酸史子編集）「ケアリングに基づく看護技術支援マニュアル」、メヂカルフレンド社、172－185、2013年3月。

〈論文〉

津田智子、山岸仁美「看護基本技術の修得初期段階における初学者の自己評価の特徴」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第11巻1号、2014年。

②その他最近の業績

〈学会報告〉

津田智子、佐藤香代、安河内静子、田中美樹、檜橋明子、生野繁子、北川明、松浦賢長、安酸史子「大学が行う新人看護師を対象とした看護技術支援とその評価」、第39回日本看護研究学会学術集会（秋田）、2013年8月。

〈その他〉

- ・メディカコンクール 2013年度必修問題トレーニングテスト 一部作成、メディカ出版、2013年。
- ・第102回看護師国家試験問題解説 一部解説、メディカ出版、2013年。
- ・第103回看護師国家試験問題解説 一部解説、メディカ出版、2014年。
- ・第103回看護師国家試験追加試験問題解説 一部解説、メディカ出版、2014年。

③過去の主要業績

- ・津田智子、中野榮子、永嶋由理子、瀧野由夏、加藤法子、山名栄子「口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻2号、2008年。
- ・津田智子、東サトエ、松崎敏男、山口さおり、松成裕子、柳川育美、宮菌夏美「体温の経時的変化からみた洗髪技術の科学的根拠－サーモグラフィと深部温モニターによる分析－」、『Biomedical THERMOLOGY』第26巻3号、2007年。
- ・津田智子「看護技術修得の初期段階にある学生の指導過程に関する研究－学内演習の個別指導を通して－」、鹿児島大学医学部保健学科紀要、第15巻、鹿児島大学、2005年。

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、看護科学研究学会、日本看護学会、日本サーモロジー学会（評議員） 各会員

6. 担当授業科目

〈学部〉

『教養演習・1単位・1年・前期』『基礎看護学概論・2単位・1年・前期』『基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期』『基礎看護技術論・2単位・1年・後期』、『フィジカルアセスメント論・

2単位・2年・前期』『看護過程・1単位・2年・前期』『基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期』、『シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期』、『統合実習・2単位・4年・通年』、『専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期』、『卒業研究・2単位・4年・後期』

<大学院>

『看護理論・2単位・1年・前期』『基礎看護学特論・2単位・1年・前期』『基礎看護学演習・2単位・1年・後期』

7. 学外講義・講演

津田智子 (2014.10) 出前授業、熊本県立宇土高校、熊本県

津田智子 (2015.2) 社会保険田川病院看護研究講評

8. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	加藤 法子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は特に、気管内吸引の吸引圧、吸引時間の調整指標の開発に向けた研究を行っています。

①最近の著書・論文

<著書>

加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

<論文>

- ・ 藤野靖博,加藤法子,於久比呂美,瀧野由夏,津田智子,永嶋由理子:清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検証.福岡県立大学看護学部研究紀要,10(1),pp33-38,2012.
- ・ 於久比呂美, 永嶋由理子,宮崎千尋,藤野靖博,瀧野由夏,加藤法子,津田智子:病室環境が生体反応にもたらす影響への検討.福岡県立大学看護学部研究紀要,10(1),pp39-46,2012.
- ・ 木村幸生,井上誠,加藤法子,瀧野由夏,加藤洋司:精神科病棟における口腔ケアの検討ー電動歯ブラシを用いた検討ー, P188-192,55(3), 日本精神科看護学会誌,2012.
- ・ 井上誠,木村幸生,加藤洋司,加藤法子,橋本真治,井上セツ子:精神科病棟での足浴の活用方法についてー温度設定による足浴 の影響ー, P320-324,55(3), 日本精神科看護学会誌,2012.

<学会報告>

- ・ 於久比呂美,永嶋由理子,藤野靖博,瀧野由夏,加藤法子,津田智子:病室内のにおい環境と生体反応に関する検討,日本看護研究学会第 26 回近畿・北陸地方会学術集会,2012.
- ・ 加藤法子,瀧野由夏,永嶋由理子:ディスポーザブルタオルによる清拭の効果に関する検討,第 33 回日本看護科学学会学術集会,2013.
- ・ 瀧野由夏,加藤法子,永嶋由理子:訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討,第 33 回日本看護科学学会学術集会,2013.

<調査研究報告書>

- ・ 瀧野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子:看護技術教育における視覚的教示方法の教育効果の検証.
- ・ 平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書, p.83-84, 2013.
- ・ 永嶋由理子, 津田智子, 瀧野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美:寝床内環境変化と生体反応についての実験的検証.平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書,p.64-65,2013.
- ・ 永嶋由理子, 津田智子, 瀧野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美:頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証.平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書, p.118-119, 2013.

<その他>

- ・ 加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学(第 101 回看護師国家試験問題解答・解説),一部分担,メディカ出版,2012.
- ・ 加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学(第 102 回看護師国家試験問題解答・解説)一部分担,メディカ出版,2013.
- ・ 加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学(第 103 回看護師国家試験問題解答・解説),一部分担,メディカ出版,2014.
- ・ 加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学(第 103 回看護師国家試験 追加試験 問題解答・解説),一部分担,メディカ出版,2014.

- ・加藤法子:看護師国家試験合格パブリ,基礎看護学,98-101回看護師国家試験問題解答・解説(一部分担),2012.

③過去の主要業績

- ・加藤法子,佐藤友美,高橋清美,永嶋由理子,中野榮子:基礎看護実習 I における実習内容の検討 実習レポートの分析から.福岡県立大学看護学部紀要,1(1),pp71-78,2003.
- ・加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.
- ・加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34(4),457-490.2008.
- ・加藤法子,瀧野由夏,永嶋由理子,津田智子,山名栄子,中野榮子:基礎看護実習 I における教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から.福岡県立大学看護学研究要,5(2),52-60.2008.
- ・瀧野由夏,永嶋由理子,加藤法子:在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態.福岡県立大学看護学部紀要,3(1),p.33-37,2005.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金,挑戦的萌芽研究,気管内吸引の吸引圧・吸引時間調整指標の開発(課題番号:25670922),平成25年度:91万円(直接経費70万円,間接経費21万円)平成26年度:65万円(直接経費50万円,間接経費15万円)平成25~26年度,研究代表者.

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、基礎看護実習 I ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護実習 II ・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、統合実習・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・田川市男女共同参画委員会委員
- ・第46回日本看護学会学術集会抄録選考委員

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

②その他の業績

- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。
- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。

③過去の主要業績

- ・小出昭太郎・田村誠、「1991年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、保健社会調査論・2単位・3年・前期、看護研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉政策論・2単位・4年・前期、日本事情B・2単位・留学生・前期

〈大学院〉

データ解析特論・2単位・修士1年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	浏野 由夏
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・ 基礎看護学教育に関する研究
 - ①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し、看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている。
 - ②基礎看護学実習の実習前後の思考動機、看護師イメージ、学習意欲などの変化の比較から基礎看護学実習の教育効果の検証および評価を行っている。
- ・ 看護職の職業性ストレスに関する研究
 - ①訪問看護師の職業性ストレス測定尺度を開発し、活用法等について検討を行っている。
 - ②看護職の職業性ストレスおよび職場環境等について、法律学的アプローチを加えながら検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

浏野由夏：健康な生活を送るための生活の工夫；高齢者が起こしやすい問題とその管理－嚥下障害－，三原博光，松本百合美編，豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援－保健医療福祉の連携より－，関西学院大学出版会，2013.

<論文>

- ・ 藤野靖博，加藤法子，於久比呂美，浏野由夏，津田智子，永嶋由理子：清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検証，福岡県立大学看護学研究紀要，10(1)，p.33-38，2012.
- ・ 於久比呂美，永嶋由理子，宮崎千尋，藤野靖博，浏野由夏，加藤法子，津田智子：病室環境が生体反応にもたらす影響への検討，福岡県立大学看護学研究紀要，10(1)，p.39-46，2012.
- ・ 木村幸生，井上誠，加藤法子，浏野由夏，加藤洋司：精神科病棟における口腔ケアの検討－電動歯ブラシを用いた検討－，日本精神科看護学会誌，55(3)，p.188-192，2012.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 浏野由夏，加藤法子，永嶋由理子：訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討，第33回日本看護科学学会学術集会，2013.
- ・ 加藤法子，浏野由夏，永嶋由理子：ディスプレイタブレットによる清拭の効果に関する検討 第33回日本看護科学学会学術集会，2013.
- ・ 於久比呂美，永嶋由理子，藤野靖博，浏野由夏，加藤法子，津田智子：病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 日本看護研究学会 第26回近畿・北陸地方学術集会，2013.

<報告書>

- ・ 浏野由夏，永嶋由理子，加藤法子：看護技術教育における視覚的教示方法の教育効果の検証. 平成23・24年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.83-84，2013.
- ・ 永嶋由理子，津田智子，浏野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：寝床内環境変化と生体反応についての実験的検証. 平成23・24年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.64-65，2013.
- ・ 永嶋由理子，津田智子，浏野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証. 平成23・24年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.118-119，2013.

<その他>

- ・ 浏野由夏：看護師国家試験対策 e-learning Nプラス，基礎看護学・必修問題 [一部] (第100回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2011.
- ・ 浏野由夏：看護師国家試験対策 e-learning Nプラス，基礎看護学・必修問題 [一部] (第101回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2012.

- ・ 澁野由夏：看護師国家試験対策 e-learning Nプラス，基礎看護学・必修問題 [一部] (第 102 回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2013.
- ・ 澁野由夏：看護師国家試験対策 e-learning Nプラス，基礎看護学・必修問題 [一部] (第 103 回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2014.
- ・ 澁野由夏：看護師国家試験対策合格パブリ 基礎看護学・必修問題 [一部] (第 98～103 回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2014.

③過去の主要業績

- ・ 澁野由夏，永嶋由理子，加藤法子：在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要，3(1)，p.33-37，2005.
- ・ 澁野由夏：リフレイミング. 安酸史子編著，目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術，メディカ出版，2007.
- ・ 澁野由夏：健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者. 安酸史子，奥祥子編，患者がみえる成人看護の実践，メディカ出版，2007.
- ・ 澁野由夏，永嶋由理子，中野榮子，山名栄子，加藤法子，津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要，4(2)，p.82-87. 2007.
- ・ 澁野由夏，加藤法子，中野榮子，永嶋由理子，津田智子，山名栄子：基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)，p.89-96, 2008.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究，看護師業務における業務上精神障害予防のための教育プログラムの開発 (課題番号：25671023)，平成 25 年度：78 万円 (直接経費 60 万円，間接経費 18 万円)，平成 26 年度：65 万円 (直接経費 50 万円，間接経費 15 万円)，平成 27 年度：65 万円 (直接経費 50 万円，間接経費 15 万円)，平成 25～27 年度，研究代表者。

5. 所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生学会，日本産業衛生学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期，基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期，フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期，看護過程・1 単位・2 年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期，シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，統合実習・2 単位・4 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市男女共同参画センター運営委員会委員 (平成 25 年 4 月～平成 27 年 1 月)
- ・ 福岡県看護学会研究発表支援員 (平成 26 年 7～9 月)
- ・ 福岡県看護協会学会委員会委員 (平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月)
- ・ ゆめっせフェスタ実行委員会委員 (平成 25 年 10 月～平成 27 年 1 月)
- ・ 第 48 回 田川市立病院看護研究発表会講評 (平成 26 年 10 月 18 日)
- ・ 平成 26 年度福岡県看護実習指導者講習会講師 (平成 26 年 7 月 10 日)
- ・ 第 46 回日本看護学会学術集会 [看護管理] 抄録選考委員会 (平成 27 年 3～9 月)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	増満 誠
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後、名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部）、医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として6年、鹿児島大学医学部保健学科、国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての9年を経て、平成25年4月より本学に着任しました。また平成22年に本学看護学研究科を修了しました。

主な研究は、看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか、演出するのか、とくに沈黙を中心に探究しています。また、教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書(分担執筆)〉

渡辺多恵子、渡辺裕一、安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集：保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践（第4章6節 いじめ防止に向けた取り組み担当）、北大路書房、2015

〈論文〉

梶原由紀子、原田直樹、三並めぐる、増満 誠、松浦賢長：特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究，日本保健福祉学会誌，20(1)，21-34，2013.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ Makoto Masumitsu : Reactions of junior high school students to a lecture on “life and the mind” using a single photograph, International Hiroshima Conference on Caring and Peace, Hiroshima(Japan), 2012.
- ・ 上田智之、脇崎裕子、増満 誠：精神看護学実習における学生の精神障がい者観，日本看護研究学会第38回学術集会，沖繩，2012.
- ・ 増満 誠、脇崎裕子、上田智之：精神看護学実習を迎える学生の不安解決に焦点をあてたプロジェクト学習の活用による授業デザイン，日本看護教育学会第22回学術集会，熊本，2012.
- ・ 上田智之、脇崎裕子、増満誠：精神科看護師のバーンアウト傾向とコーピングとの関連，第2回国際医療福祉大学学会学術大会，栃木，2012.
- ・ 脇崎裕子、上田智之、増満 誠：精神看護学臨地実習における実習指導能力育成プログラム開発に向けての基礎的研究「実習指導を初めて実施する指導者の期待と不安について」，第2回国際医療福祉大学学会学術大会，栃木，2012.
- ・ 増満 誠：精神科看護師が語った沈黙の意味解釈とプレゼンスとの関連性，第2回国際医療福祉大学学会学術大会，栃木，2012.
- ・ 藤野靖博、増満 誠、谷多江子、小手川良江、児玉裕美、塚原ひとみ、當山裕子、嘉手苺英子、金城祥教、松浦賢長：「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果，日本看護教育学会第24回学術集会，千葉，2014.
- ・ 増満 誠：統合失調症患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討，第34回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.
- ・ 増満 誠、山崎不二子、田出美紀、二重作清子、一原由美子、金城祥教、生野繁子、岡村純、北川 明、安酸史子、松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討ーメンター制導入に対する教員の展望と懸念ー，第34回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.
- ・ 山崎不二子、増満 誠、田出美紀、二重作清子、一原由美子、金城祥教、生野繁子、岡村純、北川 明、安酸史子、松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築

の検討—教員が捉えた卒業生が求める交流とその対応—、第 34 回日本看護科学学会学術集会、名古屋、2014.

- ・二重作清子、一原由美子、増満 誠、山崎不二子、田出美紀、金城祥教、生野繁子、岡村純、北川 明、安酸史子、松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討—卒業 1 年目看護師が教員と行っている交流状況—、第 34 回日本看護科学学会学術集会、名古屋、2014.
- ・増満 誠：看護大学生がプレゼンテーションをぴあレビューするという試み、第 19 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会、熊本、2014.

〈交流集会〉

- ・増満 誠、金城祥教、砂川洋子、嘉手苺英子、下條三和、佐藤亜紀、日高艶子、姫野稔子、原田直樹、永嶋由理子、松浦賢長：躍進する「ナーシング・キャリアカフェ」しなやかな使命感育成のための交流の場を創るということ、日本看護学教育学会第 24 回学術集会、千葉、2014.
- ・原田直樹、江上千代美、小出昭太郎、増満 誠：共同教育推進事業「しなやかな使命感」育成プロジェクトの取組 多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築、第 8 回日本慢性看護学会学術集会、福岡県久留米市、2014.

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・増満 誠：看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題、国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要、6, 21-29, 2010.
- ・増満 誠、堀尾良弘：児童期の学校ストレスの実態と学校心理的ストレス尺度の作成. 鹿児島大学医学部保健学科紀要 (17) , 55-63, 2007.

〈翻訳〉

増満 誠：小林奈美監訳 はじめて学ぶ質的研究 第 10 章翻訳. 医歯薬出版株式会社, 55-63, 2007.

〈学会報告〉

- ・増満 誠：精神看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第一報）沈黙の意味の解釈と対応、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌、2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第二報）沈黙の解釈と対応の変化要因、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌、2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第三報）～場に規定される沈黙の意味と対応の相違～、第 15 回日本看護研究学会九州沖縄地方会学術大会、福岡、2010.
- ・増満 誠、脇崎裕子、福原百合：精神科看護師のリーダーとしての困りごとの分析 リーダーシップ研修におけるグループワークテーマ設定を通して、第 36 回日本精神科看護学会福岡大会、福岡、2011.
- ・上田智之、脇崎裕子、増満 誠：精神科看護師の感情労働とバーンアウト傾向との関連、第 1 回国際医療福祉大学学術大会、栃木、2011.
- ・増満 誠、脇崎裕子、上田智之：精神看護方法論における「ポートフォリオとプロジェクト学習」展開の試み、第 1 回国際医療福祉大学学術大会、栃木、2011.
- ・橋本里絵、今村直子、林由香、宗加奈子、増満 誠：CDE を有する助産師の妊娠糖尿病 (GDM) 指導に関する実践の現状、第 49 回日本糖尿病学会九州地方会. 福岡、2011.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B), うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討, 平成 26～28 年度, 研究代表者.

- ・ 文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(B)，看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究，平成 25～27 年度，研究分担者（研究代表者：安酸史子）。
- ・ 文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(A)，卒後 1 年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究，平成 24～27 年度，研究分担者(研究代表者：松浦賢長)。

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本精神保健看護学会、日本心理学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

社会貢献論・2 単位・1 年・前期、不登校ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期、看護情報学・1 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・3 単位・4 年・通年、保健医療福祉政策論・2 単位・4 年・前期、疫学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

データ解析演習・2 単位・1 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会看護の進路・進学支援委員会委員
- ・ ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム・戦略連携室教員
- ・ 日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員
- ・ 日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・査読委員
- ・ 九州思春期研究会 幹事
- ・ 介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー
- ・ 鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長

8. 学外講義・講演

- ・ 増満 誠：社会福祉法人年長者の里（北九州市）研修「職員間のコミュニケーション」講師，平成 26 年 4 月 10 日。
- ・ 増満 誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部研修「看護研究基本の『き』」講師，平成 26 年 5 月 25 日。
- ・ 増満 誠：福岡県県立大学出前講義「看護師を目指すキャリアデザインと模擬授業『看護情報学』」、福岡県立東鷹高等学校、平成 26 年 7 月 14 日。
- ・ 増満 誠：福岡県看護協会出前講義「看護師を目指すというキャリアデザインといのちのところに寄り添うことを考える、福岡県立春日高等学校、平成 26 年 7 月 15 日
- ・ 増満 誠：社会福祉法人年長者の里（北九州市）研修「高齢者虐待について」講師，平成 26 年 7 月 22 日。
- ・ 増満 誠：相談支援事業所共生の里（行橋市）研修「コミュニケーション能力の向上」講師，平成 26 年 7 月 23 日。
- ・ 増満 誠、大塚まり子：マイナビ主催「九州夢大学」看護師ブース講師、福岡国際センター、平成 26 年 7 月 28 日。
- ・ 増満 誠：社会福祉法人共生の里グループホーム心の駅折尾研修「コミュニケーション能力の向上」講師，平成 26 年 7 月 29 日。
- ・ 増満 誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ほ』」講師，平成 26 年 8 月 17 日。

- ・増満 誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ん』」講師，平成 26 年 11 月 22 日
- ・増満 誠：シルバーメディカル研修会「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，平成 26 年 9 月 25 日.
- ・増満 誠：介護老人保健施設若杉の里研修「介護職のメンタルヘルス」講師，平成 26 年 12 月 5 日.
- ・増満 誠：第 43 回嘉飯山地区高等学校人権・同和教育研究集会基礎講座「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，平成 26 年 12 月 25 日.
- ・増満 誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部北九州地区研修「看護研究発表会」講評，平成 27 年 2 月 14 日.
- ・増満 誠：河野名島病院職員研修「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，平成 27 年 2 月 19 日

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ（家族交流会・訪問支援尺度開発担当）
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・看護実践教育センター兼任講師（糖尿病認定看護師課程情報管理担当）

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	於久 比呂美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

永嶋由理子, 湊野由夏, 於久比呂美, 加藤法子, 島野麻里子, 佐藤三矢, 民安和宏, 松永美輝恵, 吉村淳子, 國定美香, 富田川智志, 小口将典, 勝見吉彰, 笹原義昭, 石田加奈子, 小林美和: 三原博光, 松本百合美編集: 豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援—保健医療福祉の連携より—. 関西学院大学出版会, 2013.

<論文>

- ・ 於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 湊野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (1), 39-46, 2012.
- ・ 藤野靖博, 加藤法子, 於久比呂美, 湊野由夏, 津田智子, 永嶋由理子: 清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検証. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (1), 33-38, 2012.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・ 於久比呂美, 永嶋由理子, 藤野靖博, 湊野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 日本看護研究学会 第 26 回近畿・北陸地方会学術集会, 2013 年 3 月.
- ・ 森田愛璃香, 於久比呂美, 永嶋由理子: 頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較. 日本看護研究学会 第 28 回中国・四国地方会学術集会, 2015 年 3 月.

3. 外部研究資金

於久比呂美, 文部科学省 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C), 臨床看護師の「自分磨きの極意」と「伝授法」に関する検討. 総額 247 万円 (2014 年: 91 万円、2015 年: 78 万円、2016 年: 78 万円), 2014~2016.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習 I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, 基礎看護学実習 II・2 単位・2 年・前期, シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

8. 学外講義・講演

出前講義 (福岡県立香住丘高等学校, 看護の「技」について, 平成 27 年 2 月 3 日)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	近藤 美幸
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

現在、清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法による援助技術の解明を主な研究分野としている。その中でも清潔援助については、対象が清潔援助を受けた前後での皮膚組織への影響を、顕微鏡を用いて観察し、清潔援助を行っている施行者の動きをさまざまな実験器具を用いて数値化・画像化している。罨法については、温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子.(2014.1)温罨法が末梢と心臓の自律神経に及ぼす影響.日本看護技術学会誌,12(3),34-39.
- ・田中美智子,長坂猛,江上千代美,近藤美幸,榊原吉一,(2013.3)日常生活環境下における第1夜効果の有無の評価.看護人間工学研究誌,13,25-27.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,東あゆみ,坂田志保路,室弥雅子,続米佳子,松本佐登弥,松林史恵,福田恭介.(2012,12)看護場面における看護学生の危険認知力の評価—眼球運動指標の活用—,福岡県立大学看護学研究紀要,10(1),13-20.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,室弥雅子,続米佳子,松本佐登弥,松林史恵,福田恭介.(2012,3)看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係.看護人間工学研究誌,12,15-20.
- ・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛.(2012,3)日中の活動状態に影響された入眠時の自律神経機能と睡眠の関連.看護人間工学研究誌,12,27-31.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・近藤美幸,江上千代美,田中美智子.(2014.8)月経時随伴症状に対する温罨法の効果—月経開始から3日間の唾液アミラーゼの変化—.看護研究学会,奈良.
- ・近藤美幸,江上千代美,田中美智子,長坂猛.(2013.8)月経随伴症状に対する温罨法の効果.第看護研究学会,秋田.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介.(2013.8)看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較.看護研究学会,秋田.
- ・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛,榊原吉一.(2013.8)眼への温熱刺激による自律神経反応及び主観的評価.看護研究学会,秋田.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸.(2013.9)医療安全教育の有用性—眼球運動から解析した危険認知の変化—.日本看護技術学会,浜松.
- ・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛.(2013.10)高齢者1事例の睡眠評価—センサーマット型睡眠計と睡眠日誌との比較—.看護人間工学部会,滋賀.
- ・近藤美幸,江上千代美,田中美智子.(2013.10)月経随伴症状に対する腹部温罨法の効果—唾液アミラーゼ活性の検討—.看護人間工学部会,滋賀.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸.(2012,9)危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性—看護師の危険認知—.日本看護技術学会,福岡.
- ・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛.(2012,9)高齢者における入眠時の自律神経反応,日本看護技術学会,福岡.
- ・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛,榊原吉一.(2012,6)女性における睡眠前後の唾液ホルモン濃度と睡眠の主観的評価.看護研究学会,沖縄.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介.(2012,6)看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴.看護研究学会,沖縄.
- ・近藤美幸,古田祐子,江上千代美,田中美智子.(2012,6)皮膚洗浄法の効果の検討—湿疹範囲の違いによる落屑量の変化について.看護研究学会,沖縄.

- ・ 江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介 (2012.3) 危険認知と眼球運動との関係.第 20 回看護人間工学部会研究会,東京.

5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会、看護人間工学部会

6. 担当授業科目（補助）

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期、フィジカルアセスメント論・1単位・1年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・前期、病態看護学Ⅰ・2単位・1年・後期、生態・病態看護学実験・1単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、実験看護学演習Ⅰ・1単位・1年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	清水 夏子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。現在は、看護学生に対する東洋医学概論の試みに関する研究や教育方法の検討などを行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<報告書>

文部科学省，科学研究費補助金（基盤研究B），「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」，平成21年度～平成24年度，（研究代表者：安酸史子），研究成果報告書。2013.4

<大学紀要>

中野榮子，安酸史子，郝曉卿，山住康恵，東あゆみ，原田直樹，佐藤香代，石田智恵美，清水夏子，王婷婷，鄔継紅，牛慧君，艾華，蘇春香，侯曉妮：東洋医療の健康観に基づく健康意識の日中比較研究。福岡県立大学看護学研究紀要。10（1）．pp21-31. 2012

<その他の執筆>

- ・中野榮子，小野美穂，清水夏子，松枝美智子．安酸史子監修：経験型実習教育の研修プログラム事例ビデオ教材（成人看護編）．2013.4
- ・清水夏子．第102回看護師国家試験 学習支援ツール．放送大学．2013
- ・清水夏子．第103回看護師国家試験問題 解説．大阪．メディカ出版．2014
- ・清水夏子．第103回追試看護師国家試験問題 解説．大阪．メディカ出版．2014

②その他最近の業績

<国内：学会発表>

- ・松枝美智子，安酸史子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，中野榮子，渡邊智子，楳直美，小森直美，吉田恭子，江上史子，清水夏子，小野美穂（2012）．経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較．第32回日本看護科学学会学術集会．東京
- ・楳直美，安酸史子，吉田恭子，中野榮子，渡邊智子，松枝美智子，安永薫梨，小森直美，江上史子，浅井初，坂田志保路，清水夏子，小野美穂（2012）．経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討ーポータルフォリオの活用による実習の不安の軽減ー．第32回日本看護科学学会学術集会．東京
- ・小森直美，安酸史子，安永薫梨，江上史子，中野榮子，松枝美智子，渡邊智子，楳直美，小野美穂，吉田恭子，浅井初，坂田志保路，清水夏子（2012）．経験型実習教育における有効性の検討ー卒業生を対象としたグループ・フォーカス・インタビューからー．第32回日本看護科学学会学術集会．東京
- ・松枝美智子，安酸史子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，中野榮子，渡邊智子，楳直美，小森直美，吉田恭子，江上史子，清水夏子，小野美穂（2013）．経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較．日本教師学学会第14回大会．秋田
- ・浅井初，江上史子，坂田志保路，安酸史子，渡邊智子，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，楳直美，吉田恭子，清水夏子，小森直美，小野美穂（2013）．経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討ー実習の中間にポータルフォリオを活用した学習による体験からー．日本教師学学会第14回大会．秋田
- ・坂田志保路，浅井初，江上史子，安酸史子，渡邊智子，小森直美，松枝美智子¹⁾，安永薫梨，中野榮子，楳直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂（2013）．経験型実習教育の有効性の検討

—4年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—。日本教師学学会第14回大会。秋田

- ・江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂 (2013). 経験型実習教育の有効性の検討—3年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—。日本教師学学会第14回大会。秋田
- ・清水夏子, 安酸史子, 田原英一. (2013). 看護大学生に対する“東洋医学概論”の試み—看護学生の東洋医学に対する考えの変化と看護観に与える影響—。第64回日本東洋医学会学術総会。鹿児島
- ・清水夏子, 安酸史子. (2013). 新たな分野の授業を受講しての学生の傾向と講義のあり方の検討—看護学生に向けた東洋医学概論を通して—。第23回日本看護学教育学会学術集会。仙台
- ・清水夏子, 石田智恵美, 松井聡子, 安酸史子. (2013). 看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討。第33回日本看護科学学会学術集会。大阪
- ・江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 榎直美, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 松枝美智子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 中野榮子, (2014.3). 経験型実習教育における学生の学びの内容(第2報)—3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—。日本教師学学会第15回大会。岡山
- ・清水夏子. (2014). 必修科目化された東洋医学概論の授業の在り方についての検討—受講前後の看護大学生の考えから—。第24回日本看護学教育学会。千葉
- ・清水夏子, 田原英一, 矢野博美, 土倉潤一郎. (2014). 看護大学生に対する東洋医学概論の試み—選択科目から必修科目への履修変更—。第65回日本東洋医学会学術総会。東京
- ・中嶋恵美子, 塚原ひとみ, 原田直樹, 清水夏子, 松浦賢長. (2014) 新人看護師の早期離職予防—卒後2年目看護師へのインタビューから—。第34回日本看護科学学会学術集会。名古屋

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究A), 「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域支援プログラムの開発研究」平成24年度~平成28年度, (研究代表者: 松浦賢長) 研究分担者

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教師学学会, 日本東洋医学会

6. 担当授業科目

<学部>

専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年, 東洋医学概論・1単位・2年・前期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 看護教育学・2単位・3, 4年・前期, 教師論・2単位・3, 4年・前期, 基礎看護技術論・1単位・1年・後期, 看護管理論・2単位・4年・後期, ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部2年, 看護学部4年・後期

<臨地実習>

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・後期, 統合実習・3単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

ケアリング・アイランド九州沖縄構想 大学コンソーシアム戦略連携室メンバー

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	藤野 靖博
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護技術がひとの体に及ぼす影響について、生理学的指標などを用い明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・藤野靖博, 加藤法子, 於久比呂美, 瀧野由夏, 津田智子, 永嶋由理子: 清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検証. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 33-38. 2012.
- ・於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 瀧野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 39-46. 2012.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・於久比呂美, 永嶋由理子, 藤野靖博, 瀧野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 日本看護研究学会 第26回近畿・北陸地方会学術集会. 2013.
- ・藤野靖博, 増満誠, 谷多江子, 小手川良江, 児玉裕美, 塚原ひとみ, 當山裕子, 嘉手苺英子, 金城祥教, 松浦賢長: 「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果. 日本看護学教育学会第24回学術集会. 2014.

〈その他〉

- ・永嶋由理子, 津田智子, 瀧野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美: 看護師国家試験対策合格パプリ, 基礎看護学, メディカ出版. 2012.
- ・永嶋由理子, 津田智子, 瀧野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美: 看護師国家試験対策合格パプリ, 基礎看護学, メディカ出版. 2013.
- ・永嶋由理子, 津田智子, 瀧野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美: 看護師国家試験対策合格パプリ, 基礎看護学, メディカ出版. 2014.
- ・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」: 平成24年度年次報告書. 2013.
- ・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」: しなやかだより Vol.2. 2013.
- ・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」: 平成25年度年次報告書. 2014.
- ・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」: しなやかだより Vol.4. 2014.

③過去の主要業績

- ・藤野靖博: ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響. 日本人間工学会看護人間工学会誌 (8), 15-20. 2007.
- ・藤野靖博: 心不全下巻(看護の要点). 日本臨床社. 2007.

5. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本人間工学会看護人間工学会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・1単位・1年・後期, 看護過程・1単位・2年・前期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4

年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期，統合実習・3単位・4年・通年
担当授業科目（補助）

基礎看護学概論・2単位・1年・前期，ケアリング論・1単位・1年・前期，看護研究、2単位・3年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	赤司 千波
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、認知症高齢者の看護、高齢者の口腔ケア、終末期看護、介護、循環器疾患の看護等に関する研究を行い、教育や現場への活用を検討してきました。現在は、慢性疾患を有する患者の「自己管理行動」の獲得プロセスに関する研究、終末期ケアと看取りケアに関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・吉田裕次郎、赤司千波：病棟における看護において男性看護師が感じる困難とその対応、第41回日本看護論文集（看護総合）、2011
- ・赤司千波、大島操、中山晃志：介護付有料老人ホームにおける終末期ケアおよび看取りケアの実態、第41回日本看護学会論文集（老年看護）、2011
- ・高比良祥子、大重育美、堀内啓子、堂下陽子、藤丸知子、山崎不二子、松本幸子、長峰卓也、吉田恵理子、赤司千波、大塚一徳、定森直樹、立石憲彦、李節子、氏田美知子、河口朝子、島田友子、中尾八重子、林田りか、片穂野邦子、吉原真由美、家永愛子、岩永洋子、稗圃砂千子、山口多恵：看護技術学習ノート第2版を使用した縦断的な看護技術到達度の評価と学習支援の検討、長崎県立大学栄養学部紀要第11巻、2011
- ・大島操、赤司千波、柴北早苗：高齢者ケア施設における終末期ケアに関する研究－終末期ケア及び看取りの現状と看護師の思い、日本看護研究学会誌35（1）、2012
- ・Shinichi Tanihara, Chinami Akashi, Junichi Yamaguchi, Hiroshi Une, Effects of family structure on risk of institutionalization of disabled older people in Japan. Australasian Journal on Ageing, 2013
- ・赤司千波、田中理恵：終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるもの-訪問看護師の思いを分析して-、第45回日本看護論文集、慢性期看護、2015

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・手嶋無限、坂本仁美、北市清幸、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、中嶋幹郎、畑山範：在宅療養支援における多職種連携の実際を学ぶ大学間連携早期体験学習の展開～長崎薬学・看護学連合コンソーシアムでの取り組み～、第16回日本緩和医療学会、2011/7、札幌市
- ・手嶋無限、坂本仁美、麓神太郎、北市清幸、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、中嶋幹郎、畑山範、中山守雄：長崎薬学・看護学連合コンソーシアムにおける大学間連携在宅ケア実習～多職種チーム在宅支援を学ぶ～、第19回日本ホスピス・在宅ケア研究会、2011/7、那覇市
- ・赤司千波、大島操、柴北早苗：介護付有料老人ホームにおける終末期ケアと看取りケアに関する研究－アンケート調査の自由記述の分析－、第37回日本看護研究学会、2011/8、横浜市
- ・柴北早苗、赤司千波、大島操：在宅で看取りを支える連携の検討－遺族が満足感を得ることができた事例から－、第37回日本看護研究学会、2011/8、横浜市
- ・田口翔、赤司千波：看護師が患者と信頼関係を構築していくプロセス、第42回日本看護学会（看護総合）、2011/9、幕張市
- ・坂本仁美、手嶋無限、北市清幸、大磯茂、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、麓神太郎、中嶋幹郎、畑山範、中山守雄、在宅療養支援施設での薬学部との大学間合同チーム医療実習、第42回日本看護学会（看護教育）、2011/10、松山市
- ・赤司千波、川口淳、畝博：介護老人保健施設入居者の口腔健康状態と認知症およびQOLとの関連、第70回日本公衆衛生学会、2011/10、秋田市

- ・水野恭伸、中嶋幹雄、坂本仁美、浦田秀子、大町いづみ、榊原隆三、北市清幸、松本幸子、赤司千波、正木基文、畑山範：薬剤師と看護師のそれぞれの立場からみた多職種連携の問題点～ワークショップでのアンケート調査結果から～、日本薬学会第 130 年会全国大会、2012/3、岡山市
- ・馬場由美子、赤司千波：転棟した高齢者と看護師が捉える転倒要因、第 38 回日本看護研究学会、2012/7、那覇市
- ・福井一菜、赤司千波：新人看護師が看取りケアで感じる困難と看取りケアからの学び、第 43 回日本看護学会全国大会（看護総合）、2012/8、静岡市
- ・高橋かおり、赤司千波：間仕切りカーテンへの患者と看護師の思い、第 43 回日本看護学会全国大会（看護総合）、2012/8、静岡市
- ・馬場由美子、赤司千波：転棟した高齢者と看護師が捉える転倒リスクーインシデントレポート、カルテ、転棟現場の調査、インタビューを通してー、第 43 回日本看護学会全国大会（老年看護）、2012/9、広島市
- ・馬場由美子、赤司千波：特定機能病院における転倒高齢者患者の特徴ーベッドサイドでの転倒高齢者の分析からー、第 17 回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学会、2012/11、長崎市
- ・田中理恵、赤司千波：自宅での看取り目的で退院した終末期患者に対する病棟看護師の退院支援の現状ー訪問看護師の視点からー、第 40 回日本看護研究学会、2014/8、奈良市
- ・赤司千波、田中理恵：終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるものー訪問看護師の思いを分析してー、第 45 回日本看護学会 慢性期看護、2015/9、徳島市

③過去の主要業績

- ・赤司千波、永井あけみ、グループホームにおける痴呆性高齢者に関する情報収集の現状ー情報収集担当者を対象とした質問紙調査ー、九州大学医学部保健学科紀要 1 号、89-97、2003
- ・赤司千波、豊澤英子、三重野英子、桶田俊光：グループホームにおける痴呆性高齢者の情報収集に関する研究ー入居適応に焦点をあててー、日本看護研究学会誌 26 (2)、73-88、2003
- ・川上千普美、松岡緑、樗木晶子、長家智子、赤司千波、篠原純子、原頼子：冠動脈インターベンションを受けた虚血性心疾患患者の自己管理行動に影響する要因ー家族関係および心理的側面に焦点をあててー、日本看護研究学会誌 29 (4)、33-40、2006

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本循環器看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護概論 (1 単位/2 年前期)、成人慢性看護学 (2 単位/2 年後期)、成人看護実践論 (1 単位/3 年通年)、成人看護学演習 I (1 単位/3 年前期)、成人看護学演習 II (1 単位/3 年前期)、成人看護実習 (4 単位/3 年通年)、成人慢性看護学実習 (3 単位/3 年後期、4 年前期)、専門看護学ゼミ (2 単位/4 年前期)、専門看護学ゼミ (2 単位/3 年通年)、卒業研究 (2 単位/4 年後期)、統合実習 (2 単位/4 年前期)

〈大学院〉

成人看護学特論 (2 単位/1 年前期)、成人看護学演習 (2 単位/1 年後期)、臨床看護学特別研究 (8 単位/1~2 年通年)

7. 社会貢献活動

村田節子、赤司千波、中井裕子、山名栄子、八尋陽子、政時和美、松井聡子：福岡県立大学主催 平成 26 年度がん看護勉強会

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	佐藤 香代
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1996年九州大学大学院法学研究科修了（修士：法学）2005年北里大学大学院看護学研究科修了（博士：看護学）

九州大学医療技術短期大学部勤務後、英国テームズバリー大学大学院（Midwifery Practice）留学、帰国後九州看護福祉大学に勤務。2005年、本学に着任。

女性の一生の健康をサポートする研究を一貫して行っており、特に身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関するものが中心である。身体経験を基盤にした身体感覚活性化の健康ケアモデルは、女性が本来持っている産み育てる力や自己治癒力を最大限に引き出していく健康ケアへの新たな試みである。主な研究は以下の通りである。

- ①「身体感覚活性化マザークラス」の実践とその評価
 - ・妊婦の身体感覚と内面的変容過程
 - ・女性に寄り添う女性（ドゥーラ）研究
 - ・看護職・学生への教育とその評価・プログラム作成
- ②身体感覚に基づく女性の健康－身体とのコミュニケーションのとり方
- ③性教育

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・佐藤香代. 第101回看護師国家試験問題 解説, 大阪:メディカ出版, 2012年.
- ・佐藤香代. 第102回看護師国家試験問題 解説, 大阪:メディカ出版, 2013年.
- ・佐藤香代. ケアリングに基づく看護技術マニュアル:メヂカルフレンド社, 2013年.
- ・佐藤香代. V 女性の健康と基本理論 2. エンパワーメント. 村本淳子・高橋真理編「ウイメンズヘルスナーシング概論」第2版2刷, 92-94, 東京:ヌーヴェルヒロカワ, 2012年.
- ・佐藤香代. V 女性の健康と基本理論 2. エンパワーメント. 村本淳子・高橋真理編「ウイメンズヘルスナーシング概論」第2版4刷, 92-94, 東京:ヌーヴェルヒロカワ, 2014年.

<論文>

- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内面的変容. 福岡県立大学看護学研究紀要, 9 (2), 53-70.
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドゥーラ体験. 福岡県立大学看護学研究紀要, 9 (2), 43-52.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2012). 助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 9 (2), 53-61.
- ・中野榮子, 安酸史子, 郝曉卿, 山住康恵, 東あゆみ, 原田直樹, 佐藤香代, 石田智恵美, 清水夏子, 王婷婷, 鄔継紅, 牛慧君, 艾華, 蘇春香, 侯曉妮. (2012). 東洋医療の健康観に基づく健康意識の日に比較研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 21-31.
- ・中野榮子, 安酸史子, 山住康恵, 東あゆみ, 八尋陽子, 佐藤香代. (2012). 看護基礎教育における漢方医療教育の実態, 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (2).
- ・佐藤香代, 森山沾一. (2013). 日本初世界記憶遺産・山本作兵衛コレクションと福岡県立大学附属図書館の取り組み. 看護と情報 20:45-52.
- ・佐藤香代, 安河内静子. (2013). 「身体感覚活性化マザークラスの哲学と実践—妊婦の力を引き出すわざ—」. 秋田県母性衛生学会雑誌 27 : 52-53.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. (2015). 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究 —その要因と回復の促進—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 13-24.

- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 鄔 継紅, 王 琦, 侯 小妮. (2015). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 25-36.
- ・安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. (2015). 大学院における助産師教育に対するニーズ調査. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 53-62.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 鄔 継紅, 王 琦. (2015). 中国における中国伝統医療の現状 -北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して-. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 73-84.
- ・小林絵里子, 佐藤香代. (2015). 本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 85-94.

〈報告書〉

- ・佐藤香代. 妊婦における飲用効果. 乳酸菌生成エキス 研究・臨床データ集 ver.4 . 2012年5月.
- ・佐藤香代. 妊婦における飲用効果. 乳酸菌生成エキス 研究・臨床データ集 ver5. 2013年5月.
- ・佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 郝曉卿, 侯小妮, 鄔継紅. 日本と中国における妊婦の食の比較調査研究. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 郝曉卿, 石田智恵美, 原田直樹, 清水夏子, 山住康恵, 生駒千恵, 東あゆみ, 石本佐和子. 東洋医療の健康観に基づく健康意識の日中比較研究. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・安河内静子, 佐藤香代. 看護学生の喫煙防止・禁止支援に関する研究. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」におけるドゥーラ体験の評価. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・安河内静子, 佐藤香代. 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開モデルに関する研究. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 増田匡裕. 子どもを喪失した両親に携わる看護者の語り. 平成 23~24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 2013年7月.
- ・佐藤香代. 助産師育成をめぐる現状と動向(キャリアパス・クリニカルラダー/助産師出向システム/助産師の適正配置/産科混合病棟におけるユニットマネジメント). 助産実践能力強化支援事業報告書. 2013年12月.
- ・佐藤香代, 長谷川まどか, 松尾則子, 濱寄真由美, 石田麗子, 栗屋和枝, 藤原裕美子, 岩隈裕美子, 林田郁. 平成24年度院内助産システム推進研修報告書. 福岡県看護協会. 2014年3月.
- ・佐藤香代. 平成 25 年度助産師職能だより. 福岡県看護協会助産師職能委員会. 2014年6月.
- ・佐藤香代. 平成 26 年度助産実践能力強化支援事業「院内助産システムのさらなる推進」: 院内助産スキルアップ研修報告書. 2015年1月.
- ・佐藤香代. からだの智慧で産み育てる. 妊婦における「乳酸菌生成エキス」飲用の効果. すこやかメッ No.53. 2015年3月.

②その他最近の業績

〈学会講演〉

- ・佐藤香代. 日本における出産の状況と助産の現状. 北京中医薬大学・首都医科大学附属北京婦産産院招聘講演. 北京. 2012年9月.
- ・佐藤香代. 「産み育てる力を高める助産のわざー身体感覚活性化マザークラスの実践をとおして」. 第53回日本母性衛生学会総会 教育講演, 福岡. 2012年11月.
- ・佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス」の哲学と実践ー妊婦の力を引き出すわざー. 第28回秋田県母性衛生学会 特別講演, 秋田. 2013年6月.

- ・佐藤香代. 妊婦の産み育てる力を育む妊婦教育—身体感覚活性化マザークラスの哲学と実践—. 北京中医薬大学講演. 北京. 2013年12月.
- ・佐藤香代. 将来の助産師教育を考える—あるべき卒業時の到達像と教育—. 助産師教育コロキウム. 全国助産師教育協議会. 基調講演. 福岡. 2014年8月.
- ・佐藤香代. 日本における妊娠・出産・育児の現状. 天津中医薬大学招聘講演. 天津. 2015年3月.
- ・佐藤香代. 身体は答を知っている—女性の身体に備わった賢い仕組みを学ぼう!—. 天津体育大学招聘講演. 天津. 2015年3月.

<学会発表>

- ・吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」におけるドゥーラ体験の評価. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・迫利枝, 小林絵里子, 佐藤香代. 分娩第1期のケアにおける産婦の受け止め方と助産師の意識の違い—産婦が印象に残っている場面に着目して—. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・林美晴, 小林絵里子, 佐藤香代. 出産に対する心理的満足感と児が泣くことに対する母親の情動変化の関連性. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・迫利枝, 小林絵里子, 佐藤香代. 分娩第1期のケアにおける産婦の受け止め方と助産師の意識の違い—産婦が印象に残っている場面に着目して—. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・田中里美, 佐藤香代, 佐藤繭子, 乙須怜奈. 母乳育児を1か月間継続した母親の体験 第1報—母親が安心感を得た助産師のケア—. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・乙須怜奈, 佐藤香代, 佐藤繭子, 田中里美. 母乳育児を1か月間継続した母親の体験 第2報—母乳育児継続に関わった要因の分析—. 第53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・松村香代子, 佐藤香代, 吉田静. 「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」に参加した初産婦の変化. 53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 佐藤繭子, 左座祥子, 藤田起代美, 東田江実, 熊丸真理. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の変容過程—サポーターとの相互作用—. 53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 米倉圭介. 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果 第2報—便秘傾向妊婦と非便秘妊婦との比較—. 53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・木原奈奈, 佐藤香代, 吉田静. 第一次反抗期にあたる子どものしつけの実態と母親の心理. 53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・松本加絵, 小林絵里子, 佐藤香代. キャベツ湿布に関する基礎的研究—キャベツ湿布の安楽度、皮膚の表面温度の低下状況—. 53回日本母性衛生学会, 福岡. 2012年11月.
- ・小林絵里子, 佐藤繭子, 佐藤香代. 母乳育児支援学習コース受講者による評価. 第27回日本助産学会, 金沢. 2013年5月.
- ・田嶋比紗乃, 吉田静, 佐藤香代. 日本におけるおむつの変遷. 第27回日本助産学会, 金沢. 2013年5月.
- ・長谷川まどか, 藤原裕美子, 佐藤香代, 石田麗子, 本田しのぶ, 松尾則子, 濱寄真由美, 栗谷和枝, 乾文枝. 平成24年度福岡県助産師職能委員会「超音波による胎児画像技術研修」報告. 第22回福岡母性衛生学会, 福岡. 2013年7月.
- ・田中里美, 津田佳代子, 清田哲子, 小林絵里子, 佐藤香代. 母親の心身に影響する要因の分析—産後10ヶ月間を通して—. 第22回福岡母性衛生学会, 福岡. 2013年7月.

- ・津田智子, 佐藤香代, 安河内静子, 田中美樹, 檜橋明子, 生野繫子, 北川明, 松浦賢長, 安酸史子. 大学が行う新人看護師を対象とした看護技術支援とその評価. 日本看護研究学会第39回学術集会, 秋田. 2013年8月.
- ・石田麗子, 本田しのぶ, 佐藤香代, 乾史枝, 栗谷和枝, 濱寄真由美, 長谷川まどか, 藤原裕美子, 松尾則子. 新人助産師への継続教育—第1回新人助産師合同研修の評価—. 第54回日本母性衛生学会, 埼玉. 2013年10月.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレスとその要因. 第54回日本母性衛生学会, 埼玉. 2013年10月.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」の実践報告. 第70回助産師学会, 福岡. 2014年5月.
- ・松尾則子, 濱寄真由美, 石田麗子, 岩隈真由美, 栗屋和枝, 長谷川まどか, 林田郁, 藤原裕美子, 佐藤香代. 『院内助産システム推進研修』の評価. 第70回助産師学会. 2014年5月.
- ・長谷川まどか, 佐藤香代, 藤原裕美子, 石田麗子, 岩隈真由美, 栗屋和枝, 林田郁, 濱寄真由美, 松尾則子. 平成25年度福岡県助産師職能委員会「助産師管理者リフレッシュ研修&交流会」報告. 第23回福岡母性衛生学会, 福岡. 2014年7月.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子. 看護学生のマザークラス企画による学び—身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して—. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. 「身体感覚活性化マザークラス」参加経験が、病産院のマザークラス運営への意識に及ぼす影響について. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」展開時の課題—A 病院助産師へのアンケート調査より—. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・林田郁, 栗屋和枝, 佐藤香代, 長谷川まどか, 石田麗子, 松尾則子, 藤原裕美子, 濱寄真由美, 岩隈真由美. 助産実習教育者研修の評価と今後の展望. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子. 子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究—企画プログラムの検討とその有用性の検証—. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・林千会, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子. 死産を経験した母親の次子妊娠の体験. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・林千会, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子. 死産を経験した母親の次子出産・育児の体験. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・藤木久美子, 佐藤香代, 母親が出産施設で受けた母乳育児支援—産後4ヶ月の母親の調査から—. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・藤木久美子, 佐藤香代, 母親が医療者に望む母乳育児支援(産後4ヶ月時の調査から) 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・佐藤繭子, 小林絵里子, 佐藤香代. 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. 中国における女子大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—. 第55回日本母性衛生学会, 千葉. 2014年9月.
- ・石田麗子, 岩隈真由美, 佐藤香代, 栗屋和枝, 濱寄真由美, 林田郁, 長谷川まどか, 藤原裕美子. 新人助産師への継続教育—第2回新人助産師合同研修 実践報告. 第29回日本助産学会. 東京. 2015年3月.

<座談会・シンポジウム>

- ・佐藤香代, Kaufman P, Johnson BL, 山内直樹. 今求められている図書館経営, Power of Library～大学図書館のパワー, 九州大学図書館/ エルゼビア図書館セミナー, 福岡. 2012年7月.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 小林絵里子, 鳥越郁代, 吉田静, 石村美由紀, 松岡百子. 福岡県立大学第4回健康大使セミナー, 福岡, 2012年9月.
- ・佐藤香代, 小林絵里子, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代, 松岡百子. 第8回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス医療者向けセミナー, 福岡, 2013年2月.
- ・佐藤香代, 施設をこえて助産師のキャリア up を考える, シンポジウム座長, 第22回福岡母性衛生学会, 福岡, 2013年7月.
- ・佐藤香代, 一般演題「地域・国際助産2」座長, 第28回日本助産学会学術集会, 長崎, 2014年3月.
- ・鳥越郁代, 佐藤香代, 小林絵里子. アメリカの助産師教育と妊婦ケア講演会, 平成25年度福岡県立大学招聘事業, 2014年3月.
- ・佐藤香代, テーマフォーラム「分娩介助の本質を紐解く」ファシリテーター, 第70回日本助産学会, 福岡, 2014年5月.
- ・佐藤香代, 川嶋朗, 藤田紘一郎, 姫野友美, 水上治, 山口貴子. 共創の医学への発表. 体の智慧で産み育てる. 乳酸菌生成エキスシンポジウム, 東京, 2014年11月
- ・佐藤香代. 一般演題「助産師の体験1」座長, 第29回日本助産学会学術集会, 東京, 2015年3月
- ・佐藤香代. 子どものあたたかい心を育む(羽ぐくむ)のために今私たちにできること, コーディネーター, 母と子を護る多職種の会, 福岡. 2015年3月.

<出版物>

- ・佐藤香代. (2012). 第16回日本看護サミット福岡'11 看護新時代 分科会Ⅲ「新人研修から生涯教育へ」よかナースふくおか, vol.6, p7.
- ・佐藤香代. (2012). 看護学部 今年の1年を振り返る, 福岡県立大学広報, No.12, p4.
- ・佐藤香代. (2012). 運命の女神が微笑むとき-大学院修士課程(助産師教育)開設決定までの道のり-. 助産師教育. No.72, p1. 全国助産師教育協議会.
- ・佐藤香代. (2012). 「Power of Library～大学図書館のパワー」. 九州大学附属図書館/エルゼビア図書館セミナー. LibraryConnect10(2)1, p11. ELSEVIER.
- ・佐藤香代. (2012). 今年の目標は開かれた図書館づくりを目指すことです. 福岡県立大学広報 No.13, 11.
- ・佐藤香代. (2012). 女性の産み育てる力を引き出す. テレビ神奈川「水上治の健康増進バイブル」.
- ・佐藤香代. (2012). がん医療を担う看護専門職育成を目指して. 平成19年度～23年度 九州がんプロフェッショナル養成プラン 福岡県立大学事業報告書, 4-5.2012年3月.
- ・佐藤香代. (2012). 「助産師職能委員会」. よかナースふくおか, vol.1, 99, p4.
- ・佐藤香代. (2013). 図書館だより. 福岡県立大学広報, No.14.
- ・佐藤香代. (2013). 妊婦さんの悩みが乳酸菌で改善!, ニュースリリース.
- ・佐藤香代. (2013). 妊婦における飲用効果, 乳酸菌生成エキス, NPO法人レックス・ラボ.
- ・佐藤香代. (2014). 体の智慧で産み育てる. 乳酸菌生成シンポジウムスライドデータ抄録集.
- ・佐藤香代. (2015). 日本の助産師教育の行方. 福岡県助産師会ニュースレターNo57, P4-5.

<教材開発>

- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). DVD: 監修 制作 編集, 身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践, フムフムネットワーク.

- ・佐藤香代, 安藤由加利, 藤原裕美子. (2015). リーフレット: 妊娠・出産に関する啓発. 若いみなさんに今、知っておいてほしいこと. 地域少子化対策強化事業「妊娠・出産等に関する正しい知識の普及啓発事業」. 福岡県. 福岡県看護協会.

〈新聞記事等〉

- ・世にも珍しいマザークラス. 毎日新聞, 2012年8月
- ・第8回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 西日本新聞, 2012年8月
- ・第8回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 西日本新聞, 2012年9月
- ・世にも珍しいマザークラス. 広報たがわ, 2012年9月
- ・出産・育児講座. 読売新聞, 2012年12月
- ・第17回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 読売新聞, 2013年1月
- ・第17回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 毎日新聞, 2013年1月18日
- ・第17回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 毎日新聞, 2013年1月23日
- ・第17回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 読売新聞, 2013年1月
- ・第17回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 毎日新聞, 2013年1月
- ・第9回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 読売新聞 2013年9月13日
- ・第9回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 毎日新聞 2013年10月2日
- ・第9回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 毎日新聞 2013年10月4日
- ・第9回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 毎日新聞 2013年10月6日
- ・第9回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 毎日新聞 2013年10月8日
- ・第18回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 毎日新聞 2013年12月
- ・第10回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 毎日新聞 2014年9月
- ・第10回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」. 読売新聞 2015年1月
- ・第19回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 毎日新聞 2015年1月
- ・第19回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」. 読売新聞 2015年1月
- ・大切な方を亡くした方に寄り添う看護師さんのお茶会. 毎日新聞 2015年1月
- ・母と子どもを護る多職種の会 特別講演・シンポジウム. 毎日新聞 2015年3月
- ・医師、助産師、保育士・・・、家庭支援への連携考えるシンポジウム. 西日本新聞 2015年3月

③過去の主要業績

- ・佐藤香代. 性ってなにに, 西日本新聞社, 福岡, 1992年.
- ・佐藤香代. 日本助産婦史研究, 東銀座出版社, 東京, 1997年.
- ・佐藤香代. 母と子の絆は地球を救う, 絆, 京都アカデミア叢書, 京都, 2008年.
- ・佐藤香代, 高橋真理. マザークラスにおける妊婦の身体感覚活性化の効果測定—これからのよりよい家族支援に向けて—, 家族看護学研究, 10(2), 2-9, 2004年
- ・佐藤香代. 新しい Know-How を学ぶこれからの出産準備教室 妊婦に寄り添う「参加型」クラスのすすめかた, 世にも珍しいマザークラス. ペリネイタルケア増刊号, 219-230, 2005年.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費(基盤研究(C))研究代表者, 女性の産み育てる力を高める教育プログラムの検証と構築に関する研究. 500万円. 平成25年~29年度.
- ・日本看護協会 助産実践能力強化支援事業 周産期関連の研修事業等 研究代表者, 助産実践能力段階(クリニカルラダーや評価方法に関する研修) エンパワメントのために. 10万円. 平成25年度.
- ・日本看護協会助産実践能力強化支援事業研究代表者. 院内助産スキルアップ研究. 10万円. 平成26年度.

5. 所属学会

日本助産学会 査読委員, 日本助産師学会 査読委員, 日本母性衛生学会 査読委員, 福岡県母性衛生学会 理事, 日本看護研究学会 評議員 学会誌査読委員, 日本看護科学学会 代議員 専任査読委員, 日本家族看護学会, 日本母乳哺育学会, 日本母乳の会, 日本ラクテーション・コンサルタント協会

6. 担当授業科目

〈学部〉

ホリスティック人間論・1単位・1年・前期, 女性看護学概論・1単位・2年・前期, 女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護実践論・1単位・3年・通年, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 基礎助産学Ⅰ・2単位・4年・前期, 基礎助産学Ⅱ・1単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅰ・4単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅱ・1単位・4年・前期, 助産実習Ⅰ・7単位・4年・通年, 助産実習Ⅱ・2単位・編入4年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

看護研究法・2単位・修士1年・前期, 看護倫理・2単位・修士1年・前期, 助産学特論・2単位・修士1年・前期, 助産学演習・2単位・修士1年・後期, 臨床看護学特別研究・8単位・修士1・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス：福岡市, 田川市
- ・フムフム（Fukuoka Midwives Female & Male=FM²）ネットワーク主宰
- ・田川市福祉部所管計画評価委員会副会長
- ・福岡県立嘉穂高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員
- ・全国助産師教育協議会 理事
- ・福岡県看護協会 職能理事 助産師職能委員長
- ・田川市市民生活部所管計画評価委員会委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員
- ・NPO 法人 患者の権利オンブズマン会議メンバー

8. 学外講義・講演

- ・佐藤香代. (2014.8). 子どもに性を伝える ―性の考え方から実践まで―. 福岡県看護協会看護の出前授業. 福岡市立若久特別支援学校 夏期校内研修会, 福岡.
- ・佐藤香代. (2014.8). NBN (Narrative Based Nursing) の実践 ―ナラティブの世界はどうですか？. 第1回臨床指導者研修会, JCHO 九州病院, 福岡
- ・佐藤香代. (2014.9). 助産師の倫理. 新人助産師研修会. 福岡県看護協会助産師職能委員会研修会, 福岡.
- ・佐藤香代. (2014.9). 助産師管理者交流会～助産師の未来を考える～. 福岡県看護協会助産師職能委員会研修, 福岡.
- ・佐藤香代. (2014.9). 第6回健康大使セミナー 間違いだらけの食の常識 - あなたは子どもに何を食べさせますか? -. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・佐藤香代. (2014.10). 助産師の現状と動向・助産師クリニカルダラー・目標とする助産師像. 新人助産師研修会. 福岡県看護協会助産師職能委員会, 福岡.
- ・佐藤香代, 小林絵里子. (2014.10). 第9回世にも珍しいマザークラス in たがわ同窓会.

- ・佐藤香代, 小林絵里子, 石村美由紀, 佐藤繭子, 鳥越郁代 (2014.10) 第 10 回世にも珍しいマザークラス in たがわークラス 1 息を感じる触って感じる【呼吸、出会いゲーム】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代, 小林絵里子, 石村美由紀, 佐藤繭子, 鳥越郁代 (2014.10) 第 10 回世にも珍しいマザークラス in たがわークラス 2 食で感じるわたしのからだ【クイズ、食の話】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代, 鳥越郁代, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2014.10) 第 10 回世にも珍しいマザークラス in たがわークラス 3 アロマで感じる私のからだにおいとふれるで快を感じる【アロママッサージ】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代. (2014.10). 助産師の現状と動向, 新人助産師合同研修会, 福岡.
- ・佐藤香代, 小林絵里子, 石村美由紀, 佐藤繭子, 鳥越郁代 (2014.11) 第 10 回世にも珍しいマザークラス in たがわークラス 4 からだの智慧で産み・育てる【お産体験】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 小林絵里子, 鳥越郁代 (2014.11) 第 10 回世にも珍しいマザークラス in たがわークラス 5 音に響くからだでわたしを知る【癒しの音色・修了式】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代. (2014.11). 性とともに生きる. 福岡県看護協会. 看護の出前授業. 福岡市立箱崎中学校 2 年生.
- ・佐藤香代. (2014.11). 性とともに生きる. 福岡県看護協会. 看護の出前授業. 福岡市立箱崎中学校 3 年生.
- ・佐藤香代. (2014.11). 性とともに生きる. ~人はなぜ性を選んだの?~福岡県看護協会. 看護の出前授業. 福岡市立多々良中学校 3 年生.
- ・佐藤香代. (2014.11). 体の智慧で産み・育てる. 乳酸菌生成エキスシンポジウム, 東京.
- ・佐藤香代. (2014.12). 産科混合ユニットマネジメントの提案. 院内助産スキルアップ研修. 福岡県看護協会研修, 福岡
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤繭子, 鳥越郁代. (2014.12). 第 18 回世にも珍しいマザークラス in 福岡同窓会. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・吉田静, 佐藤香代. (2014.12). 大切な人を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会. 福岡県立大学研究奨励交付金事業, 福岡
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 佐藤繭子. (2015.1). 「身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス」の哲学と実践. 医療者セミナー, 久留米大学病院.
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代. (2015.1). 第 19 回世にも珍しいマザークラス in 福岡ークラス 1 息を感じる触って感じる【呼吸、出会いゲーム】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 佐藤繭子, 吉田静, 鳥越郁代. (2015.2). 第 19 回世にも珍しいマザークラス in 福岡ークラス 2 食で感じるわたしのからだ【クイズ、食の話】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・佐藤香代. 大学院での助産教育開設. アメリカでのホリスティック医療の現状と母と子のヒーリングタッチセミナー招聘講演, 福岡
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 佐藤繭子, 吉田静, 鳥越郁代. (2015.2). 第 19 回世にも珍しいマザークラス in 福岡ークラス 3 アロマで感じる私のからだにおいとふれるで快を感じる【アロママッサージ】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・佐藤香代, 石村美由紀, , 佐藤繭子, 吉田静, 鳥越郁代, 小林絵里子. (2015.2). 第 19 回世にも珍しいマザークラス in 福岡ークラス 4 からだの智慧で産み・育てる【お産体験】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・吉田静, 佐藤香代. (2015.2). 大切な方を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会. 平成 26 年度福岡県立大学研究奨励交付金事業, 福岡.

- ・佐藤香代. (2015.2). 教育方法・教育評価・実践教育の原理, 助産師教育研修, 福岡県看護協会助産師職能委員会研修, 福岡.
- ・佐藤香代. (2015.3). 助産師のキャリアパス -助産実践能力習熟段階クリニカル・ラダー, これからの助産師像 助産師に求められるリーダーシップ. 助産師の自分と向き合う 自分の目指す助産師像を分かち合う. 福岡県看護協会助産師職能委員会研修, 福岡.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 石村美由紀, 鳥越郁代, 小林絵里子. (2015.3). 第10回マザークラス医療者向けセミナー「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」の哲学と実践. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・佐藤香代. (2015.3). 妊婦教育: 女性脳から母性脳への変換. 第10回マザークラス医療者向けセミナー, 福岡.
- ・佐藤香代, 石村美由紀, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子. (2015.3). 第19回世にも珍しいマザークラス in 福岡ークラス5 音に響くからだでわたしを知る【癒しの音色・修了式】. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター事業
 - ①「身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究」プロジェクト研究 (研究代表者)
 - ②身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 福岡・田川
 - ③身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー
 - ④健康大使セミナー
 - ⑤女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	村田 節子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 21 年より当大学に就任。主な研究分野はがん患者の身体的ケアや社会復帰に関する研究で、特にがん患者のスキンケア、排泄と排泄環境に関する研究を行っている。又、ケア技術選択の根拠となる看護アセスメント過程に関心を持ち、看護過程・看護診断に関する研究を行っている。

ケアは、単に身体機能の回復を助けるだけでなく、患者という立場になった人々の生活の再構築を支援していく役割がある。そのためには、国や地域の慣習や伝統を考慮する必要がある。今後は「排泄環境」を通して、アジアの看護についても検討していきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- 資料：松井聡子，政時和美，杉野浩幸，村田節子，中井裕子「視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～」福岡県立大学紀要（2015）
- 政時和美，松井聡子，笹野莉奈，村田節子，中井裕子「A 地区における AED の配置に関する調査研究」福岡県立大学紀要（2015）

〈著書〉

- 村田節子：分担部分単独執筆（共著者：加來 恒壽、渡辺 美子、他）各論 1.副作用IV,排便障害（ストーマ・ケア）、婦人科がん患者の臨床と看護,Pp104-110,医学出版,2013
- 村田節子「皮膚症状・ストーマ(P243-247)」、根拠がわかるがん看護ベストプラクティス 第IV章 各論 がん患者へのケアとエビデンス、がん看護 第17巻第2号、南江堂,2012.
- 村田節子「皮膚症状・皮疹(P248-252)」、根拠がわかるがん看護ベストプラクティス 第IV章 各論 がん患者へのケアとエビデンス、がん看護 第17巻第2号、南江堂,2012.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 村田節子、岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム - ロールプレイ演習のリフレクションによる評価 - 」第29回日本がん看護学会（2015）
- 岩崎玲奈、村田節子、櫛直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」第29回日本がん看護学会（2015）
- 岩崎玲奈、村田節子、櫛直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」第29回日本がん看護学会（2015）
- Sumiko Watanabe¹, Tsunehisa Kaku², Maki Kusaba³, Natsuki Eguchi³, Kazunori Nishimura³, Setsuko Murata⁴, Setsuo Sugishima⁵, Tsuyoshi Iwasaka⁶ 「Formation Mechanism of Binucleated HeLa Cells」38th European Congress of Cytology（2014）
- 政時和美，松井聡子，村田節子，中井裕子「A 地区における AED 設置調査」,第40回日本看護研究学会（2014）
- 政時和美，松井聡子，村田節子，中井裕子「過疎地域における AED 設置の問題点」,第34回日本看護科学学会（2014）
- 岩崎玲奈、村田節子、櫛直美、新垣亮太「治療が困難になったがん患者への療養上の意思決定に必要な看護支援」第33回日本看護科学学会（2013）
- Sumiko Watanabe, Tsunehisa Kaku, Masafumi Ohki, Sadafumi Tamiya, Setsuo Sugishima, Setsuko Murata, Yoshihiro Ohishi, Masatoshi Yokoyama, Yoshiko Kashimura, Masamichi Kashimura, Tsuyoshi Iwasaka 「Correlation between nuclear chromatin pattern and cell cycle 」International congress of Cytology 2013 (web)
- 村田 節子、長家 智子（2013）「本邦における看護過程の教授方法の工夫に関する文献検討」、日本看護学会誌 VOL18, No2, pp130-131, 2013

- ・村田節子、長家智子「看護学生のアセスメント過程における教授方法の工夫と思考過程の特徴の変化―急性期事例を通して―、第18回日本看護診断学会（2012）
- ・長家智子、村田節子「看護学生のアセスメント過程における教授方法の工夫と思考過程の特徴の変化―慢性期事例を通して―、第18回日本看護診断学会（2012）

③過去の主要業績

- ・村田節子 「ターミナル期における自己尊重の障害への介入について―子宮頸癌Ⅲb 期再発の47歳の症例を通して―」、日本看護診断学会学会誌 vol 1.No1、p 66-76、1996.
- ・村田節子 「ネパールにおける看護教育とケアシステムの現状と課題」、九州大学医療技術短期大学部紀要第28号 p 45-62、2001.
- ・村田節子、熊谷秋三、平田伸子、平野祐子 「トイレ弱者の立場からみた公的空間の排泄環境整備と基準化に関する研究」、社会福祉事業助成金「第34回三菱財団 事業報告書」三菱財団発行、2002.

5. 所属学会

日本看護診断学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会（評議委員）、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本ネパール協会、国際看護研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・2単位・2年・前期、成人急性期看護論・2単位・2年・後期、成人看護実践論Ⅳ・1単位・3年・通年、成人看護実習・4単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期。

〈大学院〉

成人看護学特論・1年・通年、成人看護学演習・1年・通年、がん看護学特論Ⅰ・2単位・1年・前期、がん看護学特論Ⅱ・2単位・1年・後期、臨床心理学特論・1年・後期、がん看護学実習Ⅰ・4単位・2年・前期、がん看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期、課題研究・4単位・1-2年・通年、臨床看護学特別研究・8単位・2年・通年。

7. 社会貢献

- ・九州がんプロフェッショナル養成協議会 福岡県立大学代表コーディネーター
- ・第1回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2015.1.31）
- ・日本オストミー協会社会適応訓練事業相談員
- ・第22回看護診断学会 企画委員会実行委員長（H26～H28）
- ・福岡県立大学がん看護セミナー企画・主催（「がん患者さんの口腔ケアのコツとポイント」 講師：白田千代子；東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 地域福祉口腔保健衛生学分野教授、2013.7.20）
- ・福岡県立大学がん看護勉強会（1回/2か月 福岡県立大学内）
- ・平成25年度 福岡県立大学 教員・実習指導者研修会、講師（2013.9.20）
- ・平成25年度 福岡県立大学 オープンキャンパス「キズはどうやって治るの？～創傷治癒のメカニズム～」（2013.8.10）
- ・川崎町立病院評価委員会委員
- ・田川市政治倫理審査委員
- ・第10回 看護診断セミナー ファシリテーター（H26.3.8、9 淡路市）

8. 学外講義・講演

- ・ 村田節子 (2014.08.23/24) 熊本医療センター 第3回ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー (ELNEC-J コアカリキュラム)
- ・ 村田節子 (2013.8.1) 九州厚生年金病院 臨床指導者フォローアップ研修「看護教育課程、実習指導、卒業時の看護実践能力《看護学教育》」

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	榎 直美
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は「高齢者とその家族の心身の健康支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の健康支援において、多職種が協働した効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護アドバイザーや介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

榎直美「科目7第3章－自立に向けた介護過程の実践的展開－」p234-248、『MINERVA 福祉資格テキスト：介護福祉士介護編』小櫃芳江、鈴木知佐子監修、ミネルヴァ書房、2012.

<論文>

- ・博士論文；家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究－家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討－. 北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程, 2015.
- ・榎直美・尾形由起子・田淵康子・横尾美智代「家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学紀要、第11巻2号,2013.
- ・榎直美・尾形由起子・田淵康子・横尾美智代「家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」日本看護研究学会雑誌 Vol36,No3, 2013.

<報告書>

- ・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 B), 「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」報告書、共同研究(研究代表者：安酸史子).
- ・榎直美、尾形由起子、江上史子「高齢家族介護者の介護力向上のための協同ケアモデル構築に関する研究」平成23年度研究奨励交付金成果報告書、2013年.
- ・榎直美、尾形由起子、「家族介護者への協同的介入支援ネットワークモデル構築に関する研究」平成22年度研究奨励交付金成果報告書、2012年.
- ・尾形由起子、山下清香、榎直美「在宅医療推進におけるケアシステム構築に関する研究」平成22年度研究奨励交付金成果報告書、2012年.
- ・榎直美、渡邊智子、尾形由起子「家族介護者を支援するための効果的介入方法に関する研究」平成21年度研究奨励交付金成果報告書、2012年.

<解説>

看護師国家試験学習支援ツールの解説「老年看護学」ICT活用遠隔教育センター、メディカ出版、2012.

<学会報告>

- ・岩崎玲奈・村田節子、榎直美、小出昭太郎. 治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討. 第29回日本がん看護学会、横浜、2015年2月.
- ・岩崎玲奈・村田節子、榎直美、小出昭太郎. 治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討. 第29回日本がん看護学会、横浜、2015年2月.
- ・尾形由紀子、岡田麻里、野口忍、榎直美. がんの終末期療養者配偶者が行った「在宅看取り」に向うセルフマネジメントプロセス. 第19回日本在宅ケア学会、福岡、2014年11月.

- ・ 榎直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美智代「家族介護者の介護力向上における看護支援の検討」第18回日本在宅ケア学会, 東京, 2014年3月.
- ・ 榎直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美智代「家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連」第33回日本看護科学学会, 大阪, 2013年12月.
- ・ 岩崎玲奈, 村田節子, 榎直美, 新垣亮太「治癒が困難になったがん患者への療養上の意思決定に必要な看護支援」第33回日本看護科学学会, 大阪, 2013年12月.
- ・ 榎直美・尾形由起子・田渕康子・横尾美智代「家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」第39回日本看護研究学会, 秋田, 2013年8月.
- ・ 尾形由起子, 岡田麻里, 山下清香, 榎直美, 林さやか, 松尾和枝「地域住民へのエンド・オブ・ライフ選択のための支援方法の検討」第72回日本公衆衛生学会, 三重県, 2013年10月.
- ・ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野栄子, 渡邊智, 榎直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. 経験型実習教育研修プログラムの効果: 研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較. 日本教師学会第14回自由研究発表, 秋田市, 2013年3月.
- ・ 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野栄子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂, 経験型実習教育における学生の学びの内容-3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから-日本教師学会第14回大会, 2013年3月.
- ・ 榎直美, 安酸史子, 吉田恭子, 中野栄子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 小森直美, 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小野美穂「経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討-ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減-」第32回日本看護科学学会, 東京, 2012年11月.
- ・ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野栄子, 渡邊智子, 榎直美, 小森直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小野美穂「経験型実習教育の研修プログラムの効果: プロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較から」第32回日本看護科学学会, 東京, 2012年11月.
- ・ 小森直美, 安酸史子, 安永薫梨, 江上史子, 中野栄子, 松枝美智子, 渡邊智子, 榎直美, 小野美穂, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路「経験型実習教育における有効性の検討-卒業生を対象としたグループ・フォーカス・インタビューから」第32回日本看護科学学会, 東京, 2012年11月.
- ・ 安酸史子, 渡邊智子, 笹熊友美, 福本優子, 元山敦子, 瓜生知桂子, 中野栄子, 松枝美智子, 榎直美, 浅井初, 坂田志保路, 江上史子, 吉田恭子, 小森直美, 小野美穂「経験型実習教育プログラムの有効性の検討-教員・指導者・看護学生が力を合わせるには-」第32回日本看護科学学会, 東京, 2012年11月.
- ・ 榎直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美千代「介護肯定感形成における家族介護者の対処行動の特徴」第16回日本在宅ケア学会, 東京, 2012年3月.

<座長>

第12回福岡県看護学会「ケアの実践・ケアの実証」, 福岡市, 2012年12月.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C（平成26～28年）「認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究」研究代表者（2,549千円）
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C（平成26～28年）「地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発」研究分担者（代表；尾形由紀子）
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C（平成23～26年）「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」研究代表者（2,340千円）
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C（平成25～27年）「地域在住高齢者による睡眠改善教育プログラムの生活機能低下及び虚弱の効果」研究分担者（代表；田中美加）（4,915千円）

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

老年看護概論・1単位・2年・前期, 老年看護学・2単位・2年・後期, 老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 老年看護学演習Ⅱ, 1単位・3～4年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年, 老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年, 老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 老年看護学特論・2単位・修士1年, 老年看護学演習・2単位・修士1年

7. 社会貢献活動

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会理事
- ・ 「老いを支える北九州家族の会」介護アドバイザー
- ・ NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動
- ・ 平成26年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事

8. 学外講義・講演

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」介護研修会講師, 「BPSD に対応する排泄援助」, 直方, 2014年9月.
- ・ 北九州市介護従事者研修会講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウエル戸畑, 2014年9月、10月.
- ・ 職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催, 福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護の知識、介護概論」職業訓練法人福岡地区職業訓練協会, 2014年8月、9月.
- ・ NPO 法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いる」行橋, 2014年8月.

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.
- ・ 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「食事と健康法」, 福岡県立大学. 2014年6月.
- ・ 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「笑いヨガ」, 福岡県立大学. 2015年1月.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	鳥越 郁代
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学病院で看護師、助産師としての勤務経験を経たあと、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のテームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了（2002年）。2003年本学看護学部に着任。2010年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士課程修了（博士：看護学）。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・鳥越郁代.(2015).「第2章 助産師が行うケアの概念,3.女性の意思決定を支えるしくみ」.山本あい子編『助産師基礎教育テキスト第1巻, 助産概論』(第1版 2015年版),42-54.日本看護協会出版.
- ・鳥越郁代.(2012).「正常な産褥の看護ケア」.村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』(第2版1刷), 197-214, 221-227,ヌーヴェルヒロカワ.

<論文>

- ・吉田静,佐藤香代,鳥越郁代,安河内静子,小林絵里子,佐藤繭子, 郭继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要, 12. 25-35.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 郭继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要, 12. 73-84.
- ・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. Journal of Midwifery & Women's Health,59 (5),551.2014
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀.(2012).助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察.福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 53-61.
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代,小林絵里子, 藤木久美子.(2011).「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドーラ体験. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 43-52.
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代.(2011).「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内的変容. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 63-70.

②その他最近の業績

<セミナー>

鳥越郁代, 吉田静,小林絵里子,藤木久美子,佐藤繭子,古田祐子,佐藤香代. 帝王切開後の出産選択について考えるセミナー～看護職としての意思決定支援とは～(平成 23 年度 採択 科学研究費助成事業), 企画・運営総括, 福岡, 2012.3.4.

<国家試験問題解説>

- ・鳥越郁代. (2010). 第 99 回看護師国家試験解説 母性看護領域 (必修問題) 国家試験対策 e-Learning NPlus,佐藤香代監修,<http://m-nplus.jp/>.
- ・鳥越郁代. (2011). 看護師国家試験過去問題 2012. Vol 1,2. 第 98 回,99 回,100 回の看護師国家試験問題解説 母性看護領域. Vol.1: p.126,232,233,234. Vol. 2:371,427,439,447. MC メディカ出版.

＜教材開発＞

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体活性化(世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践 (DVD) ,2012.

＜学会発表＞

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 藤木久美子, 米倉圭介. 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果, 第 52 回日本母性衛生学会, 京都, 2011.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 藤木久美子. 身体感覚活性化マザークラス医療者セミナーにおけるドゥーラ体験の評価, 第 52 回日本母性衛生学会, 京都, 2011.
- ・ 鳥越郁代. 帝王切開分娩を経験した女性のための次子の分娩方法選択への支援: 決定援助プログラムの介入評価. 第 2 回(第 26 回)一般社団法人日本助産学会, 札幌, 2012.
- ・ 鳥越郁代, 藤木久美子, 佐藤繭子, 古田祐子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. 助産師学生の分娩期助産診断の到達状況と課題, 第 52 回日本母性衛生学会, 京都, 2011.
- ・ 鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査, 第 53 回日本母性衛生学会, 福岡, 2012.
- ・ 鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開後の出産選択を考えるセミナーの開催と評価～参加者の視点から～, 第 53 回日本母性衛生学会, 福岡, 2012.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 米倉圭介. 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果 第 2 報- 便秘傾向妊婦と非便秘妊婦との比較. 第 53 回日本母性衛生学会, 福岡, 2012.
- ・ 鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査, 第 3 回 (27 回) 日本助産学会学術集会, 金沢, 2013
- ・ 吉村昭子, 山口佳子, 鳥越郁代. 女子大学生の出産に対するイメージと陣痛・産痛緩和方法についての意識に関する調査, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013
- ・ 藤木久美子, 佐藤香代, 鳥越郁代. 生後 4 カ月児をもつ母親の授乳への満足感と育児困難感, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 松岡百子, 安河内静子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 小林絵里子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. 中国における妊婦の食生活の現状 (第 1 報), 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. 中国における妊婦の食生活の現状 (第 2 報), 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013
- ・ Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. The American College of Nurse-Midwives' 59th Annual Meeting. USA., 2014.5
- ・ Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean. ICM 30th Triennial Congress, Prague, Czech Republic, 2014.6.2
- ・ 山名栄子, 江上千代美, 田中美智子, 鳥越郁代, 松浦賢長, 松尾ミヨ子, 照屋典子, 清水かおり, 中嶋恵美子, 小池秀子, 石橋通江, 正野逸子. 九州沖縄看護系大学 8 大学の統一コード化からみた慢性看護の現状, 第 8 回日本慢性看護学会学術集会, 2014.7.5-6

③過去の主要業績

- ・ 鳥越郁代. (2000) . 「第 10 章子どもを産む」, 成山文夫, 石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』, 163-178, 北樹出版.
- ・ 鳥越郁代. (2002) . 「第 6 章 対一の助産実践を提供して満足感を得る (Providing one-to-one practice and enjoying it)」 翻訳, Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』, 鈴木江三子監修『新助産学』, 129-149, メディカ出版.

- ・鳥越郁代. (2009) .シンポジウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して」,助産雑誌,63(1),54-58.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費(基盤研究 C) (研究代表者) ,帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択への支援:看護職者による決定援助の評価,直接経費 400 万円,平成 23 年~27 年度
- ・科学研究費 (基盤研究 C) (研究分担者) 、横手直美:緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを用いた介入研究,平成 24 年度~28 年度

5. 所属学会

日本母性衛生学会,日本助産学会,日本看護科学学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期,女性看護実践論・2単位・2年・前期,通年,国際看護論・2単位
4年・前期,女性看護実習・2単位・3年・通年,助産診断・技術学ⅠⅡ・6単位・4年・前期,助産
実習Ⅰ・7単位・4年・前期,助産実習Ⅱ・2単位・4年・前期,専門看護学ゼミ・2単位・4年・
前期,卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

助産学特論・2単位・1年・前期,助産学演習・2単位・1年・後期,臨床看護学特別研究・8単
位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・日本看護科学学会和文誌専任査読委員
- ・第28回日本助産学会学術集会一般演題査読

8. 学外講義・講演

- ・性教育 (いのちの奇跡) 講演.福岡市立片江中学校(2013.11)
- ・看護職を目指す高校生へ向けての講演. 鹿児島県立鹿児島中央高校「好学舎」(2013.11)
- ・Midwifery in Japan: Historical viewpoints and current issues. Special Lecture for graduate students, and CNM .Yale School of Nursing, Yale University West Campus, USA(2014.9.8)
- ・助産診断過程の展開, 福岡県看護協会助産師職能研修会. 福岡県看護協会 (2015.3.6)
- ・帝王切開を経験した女性の次子のお産選択における情報提供:共有意思決定の支援の視点から.シンポジストとして, 帝王切開分娩の情報提供のあり方:女性はいつ、どのような情報を必要としているか?. 中部大学名古屋キャンパス、名古屋 (2015.3.8)

9. 附属研究所の活動等

- ・看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員
- ・第6回健康大使セミナー (2014.9.19)
- ・「世にも珍しいマザークラス in 田川」同窓会~産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃん~ (2014.10.7)
- ・「世にも珍しいマザークラス in 福岡」同窓会~産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃん~ (2014.12.18)
- ・第10回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス in 田川 (2014.10~11)
- ・第19回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2015.1~2015.3)
- ・第8回身体感覚マザークラス医療者向けセミナー (2015.3.1)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古田 祐子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

肌トラブルを有する新生児・乳児の皮膚バリア機能及び皮膚洗浄法に関する研究や助産教育、特に、助産技術・健康教育到達度に関する研究を主な研究分野としている。また、月経に関心を持ち、ヘルスプロモーション実践研究センターでは“性の健康に関する事業”の責任者として、月経に関するなんでも相談、月経に関連した研修会（布ナプキン作成講座・マンズリービクス講座等）を開催している。その他、地域貢献活動の一環として、中・高校生や養育者・教育者を対象とした性教育や子育て講演活動を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 古田祐子. 乳児の肌トラブル発症に影響を及ぼす沐浴教育要因, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, p1-11. 2015.
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究—その要因と回復の促進—, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, p13-23. 2015.
- 安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, p53-62. 2015.
- 古田祐子. 『2015年受験者対象第1回看護師国家試験対策テスト解答・解説』. メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2014.
- 古田祐子. 第1部第3節「乳児の表皮PH・水分量・皮膚温の測定」, 技術情報協会監修『皮膚の測定・評価法バイブル』初版, 技術情報協会, 東京, 417-427, 2013.
- 古田祐子. 『2014年受験者対象第1回看護師国家試験対策テスト解答・解説』. メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2013.
- 古田祐子, 安河内静子. 乳児の皮膚トラブルに対する皮膚洗浄法の有用性—ある助産師の皮膚洗浄技術の効果から—, 日本看護技術学会誌, 11(3), 35-45. 2013.
- 村田千代子, 古田祐子. 達人に学ぶ看護の技—トラブルを有する乳児の肌を蘇らせる皮膚洗浄法—, 日本看護技術学会誌, 11(1), 38-41. 2012.
- 古田祐子. 『2013年受験者対象看護師国家試験対策テスト解答・解説』. メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, p46-47, 69-70. 2012.
- 鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. 助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要 9(2), 福岡県立大学, p53-61. 2012.
- 古田祐子. 『2012年基礎学力到達度チェックテスト』. メディカコンクール委員会編集(分担執筆), メディカ出版, 大阪, p68-71. 2012.
- 古田祐子. 「正常な産褥の看護ケア」. 村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』(第2版1刷), 169-196, 215-220, ヌーヴェルヒロカワ. 2012.

②その他最近の業績

<報告書>

- 古田祐子. 十代妊婦の子育て力育成に関する研究—十代妊婦の家事遂行能力に影響を及ぼす要因—. 平成 23-24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 73-74 頁. 2013.7.
- 小林絵里子, 古田祐子. 精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究. 平成 23-24 年度研究奨励交付金研究成果報告書. 138-139 頁. 2013.7.

<学会発表>

- 古田祐子, 村田千代子. 病産院での沐浴教育が要因と考えられる乳児の肌トラブル事例報告. 日本助産師学会. 福岡. 2014.5.24
- 古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. ICM, Prague Congress center. 2014.6.2

- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代.助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因. 日本母性衛生学会.千葉. 2014.9.14
- ・古田祐子, 安河内静子. S 皮膚洗浄法の試みが実施者と乳児に及ぼす影響—皮膚トラブルを有する日齢 60 日未満の乳児を対象として—.日本母性衛生学会. 埼玉. 2013.10.5
- ・安河内静子,古田祐子. 生後 60 日未満の乳児を対象とした沐浴法が実施者に及ぼす影響・疲労度・身体症状・困難性・状態不安について-.日本母性衛生学会. 埼玉. 2013.10.5
- ・小林絵里子,古田祐子,佐藤香代. 精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究.日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.5
- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代.助産実習における学生のパワーレスとその要因. 日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.4
- ・田中智美,古田祐子.女子大学生の冷え症に関する研究—夏季における皮膚温・月経不順との関連—.日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.4
- ・古田祐子, 安河内静子. 洗顔法が日齢60日未満の乳児に及ぼす影響—皮膚症状・表皮pH・水分・油分について—.日本看護技術学会. 静岡.2013.9.14.
- ・安河内静子. 古田祐子. 沐浴法が日齢 60 日未満の乳児に及ぼす影響—体重・深部温・授乳回数・排便回数・睡眠時間について—.日本看護技術学会. 静岡.2013.9.14.
- ・古田祐子, 吉田静. 十代妊婦の家事遂行能力への影響要因. 日本母性衛生学会. 福岡. 2012.11.16
- ・新友子, 古田祐子, 佐藤繭子. 布ナプキンワークショップが女子大学生の月経観に及ぼす影響について.日本母性衛生学会. 福岡. 2012.11.16
- ・村田千代子, 古田祐子. 自死願望を持つ小学生の親に対する開業助産師のかかわり(症例報告). 日本母性衛生学会. 福岡. 2012.11.16

<座長>

- ・一般演題：第一群. 福岡母性衛生学会,2014.7.6.福岡市
- ・一般演題(ポスター)：子育て支援. 日本助産学会,2014.3.22.長崎県
- ・一般演題：性周期・月経. 日本母性衛生学会,2012.11.16.福岡市

<査読>

- ・第 70 回日本助産師学会 査読者 2014.2~3
- ・第 29 回日本助産学会学術集会 査読者 2014.7~10
- ・第 28 回日本助産学会学術集会 査読 2013.7.

<小冊子作成>

- ・古田祐子.『知っとお?月経のこと』.2013.12
- ・古田祐子.『布ナプキン』.2014.8

③過去の主要業績

- ・古田祐子, 安河内静子. 皮膚トラブルを有する生後 3 ヶ月未満児の表皮 pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前後の変化.母性衛生 51 (2), 320-328, 2010.
- ・村田千代子, 古田祐子.『Baby エステ』, 樺歌書房. 全 124 頁. 2008.
- ・古田祐子, 分娩介助技術指導において助産師学生に「わかった」と認識させる指導者の言語的教育技法, 『母性衛生』, 45 (2), 2004.

3. 外部研究資金

平成 26 年度文部科学省科学研究費助成事業, 科学研究費補助金(基盤(C)), 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究-S 洗浄法の母子に及ぼす影響-, 5,200,000 円(平成 26 年度交付金 500,000 円), 平成 24 年度~平成 27 年度, 研究代表者 古田祐子.

5. 所属学会

日本母性衛生学会，日本助産学会，日本思春期学会，福岡県母性衛生学会（評議員），日本看護科学学会，日本看護技術学会，日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論・1単位・2年・前期，女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期，女性看護学実習・2単位・3年・後期，助産診断・技術学・4単位・4年・前期，地域母子保健学・1単位・4年・前期，助産実習Ⅰ・7単位・4年・前期，助産実習Ⅱ・2単位・4年・通年，統合実習・2単位・4年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，助産管理・1単位・4年・後期，卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

助産学特論・2単位・1年・前期，助産学特論演習・2単位・1年・後期，臨床看護学特別研究・8単位・1，2年・通年。

7. 社会貢献活動

- ・福岡県母性衛生学会評議員
- ・0歳期からの親子教室企画運営委員.田川市教育委員会.2014.5～2015.3

8. 学外講義・講演

- ・「乳がんの体験をとおして」. 公明新聞 2014.5.4
- ・「子育て一人で悩まずに」. 西日本新聞 2014.9.9
- ・福岡県看護実習指導者講習会「助産師養成課程」講師，福岡県看護協会.2014.6.23.福岡市.
- ・0歳期教育親子教室「妊娠・出産・子育て 至福の季節」講師.田川市青少年育成連絡協議会.2014.9.6.田川市
- ・性の健康に関する事業「マンスリービクス 月経のブルーな気分になら」講師.2014.7.10.田川市.
- ・性の健康に関する事業「布ナプキンって？」講師.附属研究所,2014.10.15.田川市
- ・出前講義「乳がんなんて怖くない！乳がんの体験を通して」講師.2015.3.7.糟屋郡

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・月経の健康に関する事業（責任者）

〈企画・運営事業〉

- ・マンスリービクス. 田川市,2014.7.10.
- ・布ナプキンワークショップ. 田川市.2014.10.15.
- ・不妊に悩む女性のホットスポット. 田川市.2014.11.20.
- ・第2回親子性教育セミナー「親子で聞きたいのちの話」. 田川市.2014.9.28.
- ・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」（運営メンバー）

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	松枝 美智子
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 16 年に福岡県立大学看護学部に着任。看護学部、大学院看護学研究科看護学専攻で研究コースと専門看護師コース(精神看護学,26 単位)で精神看護学を担当。平成 28 年度に専門看護師コース(精神看護学,38 単位)を開講予定。主な研究分野は次のとおりである。

- 1)精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発
- 2)モジュール型精神障害者社会復帰援助研修プログラムの作成
- 3)安酸史子教授が提唱する経験型実習教育の精神看護学実習における展開
- 4)臨床と専門看護師教育課程の連携による高度実践看護師のキャリア形成支援システムの構築に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・川野雅資編.(2015).*精神看護学II:臨床精神看護学*第6版,東京:ヌーヴェルヒロカワ.(第1章の2分担・共同執筆)
- ・川野雅資編.(2012).*精神症状のアセスメントとケアプラン:32の症状とエビデンス集*.東京:メヂカルフレンド社.(分担執筆)

<学会発表>

- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連 第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から看護したいと思うことに関連する要素.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・池田智,松枝美智子.(2014).大学病院に勤務する新卒看護師の Sense of Coherence と職業性ストレス・精神健康度の関連.*産業精神保健*,22, 72.
- ・松枝美智子,安酸史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路,中野榮子,渡邊智,楳直美,吉田恭子,江上史子,清水夏子,小森直美,小野美穂. 経験型実習教育研修プログラムの効果:研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較.日本教師学会第14回自由研究発表,秋田市,2013年3月.
- ・松枝美智子,安酸史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路,中野榮子,渡邊智子,楳直美,小森直美,吉田恭子,江上史子,清水夏子,小野美穂. 経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較.第32回日本看護科学学会学術集会,東京,2012年12月.
- ・小森直美,安酸史子,安永薫梨,江上史子,中野榮子,松枝美智子,渡邊智子,楳直美,小野美穂,吉田恭子,浅井初,坂田志保路,清水夏子. 経験型実習教育における有効性の検討:卒業生を対象としたグループ・フォーカス・インタビューから. 第32回日本看護科学学会学術集会,東京,2012年12月.
- ・楳直美,吉田恭子,安酸史子,中野榮子,渡邊智子,松枝美智子,江上史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路,清水夏子,小森直美,小野美穂.経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討:ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減. 第32回日本看護科学学会学術集会,東京,2012年12月.
- ・安酸史子,渡邊 智子,笹隈 友美,福本優子,元山敦子,瓜生知佳子,中野榮子,松枝美智子,楳直美,浅井初,坂田志保路,江上史子,吉田恭子,小森直美,小野美穂.「経験型実習教育」教育プログラムの有効性の検討-教員・指導者・看護学生が力をあわせるには. 第32回日本看護科学学会学術集会交流集会,東京,2012年12月.

②その他の最近の業績

- ・安酸史子,中野榮子,楳直美,小森直美,松枝美智子,渡邊智子,小野美穂,安永薫梨,浅井初,江上史子,清水夏子,吉田恭子,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研

究.平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B)研究成果報告書(研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)

- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,松枝美智子監,安酸史子,松枝美智子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(精神看護学編).平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B) (研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)
- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,中野榮子監,安酸史子,中野榮子,小野美穂,清水夏子,松枝美智子.経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(成人看護学編).平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B) (研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)

③過去の主要業績

- ・松枝美智子,坂田志保路,安永薫梨,浅井初,梶原由紀子,北川明,中野榮子,安酸史子,安田妙子,政時和美,松井聡子.(2011).精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討:因子分析と信頼性の検証.福岡県立大学看護学研究紀要,9(1),1-10.
- ・松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,大見由紀子.(2008).精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因.福岡県立大学看護学研究紀要,5(2),66-79.
- ・松枝美智子.(2005).精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功するシステム上の要因 日本版治療共同体の実践の分析から.福岡県立大学看護学部紀要,2(2),80-91.
- ・松枝美智子.(2003).精神科超長期入院患者の社会復帰への援助が成功する要因:日本版治療共同体における看護師の変化.日本精神保健看護学会誌,12(1),45-57.

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会、日本集団精神療法学会、日本老年看護学会、日本看護学会、日本精神科看護学会、日本認知療法学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

精神看護学概論・2単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期~4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

精神看護学特論・2単位・1年・前期、精神看護学演習・2単位・1年・後期、精神看護対象論・1年・前期・2単位、精神看護援助論・4単位・1年・通年、精神看護セラピー・4単位・1年・通年、精神看護関連法規・制度政策論・2単位・通年、精神看護直接ケア実習Ⅰ・1年・通年・2単位、精神看護専門看護師役割実習Ⅰ・2単位・1年・通年、精神看護直接ケア実習Ⅱ・2単位・2年・通年、精神看護専門看護師役割実習Ⅱ・4単位・2年・通年、臨床看護学特別研究 8 単位・1-2 年・通年、課題研究・4 単位・1-2 年・通年

7. 社会貢献活動

日本看護学会誌(精神看護)の論文選考委員.

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.
- ・永嶋由理子,村田節子,松枝美智子,田中洋子,渡邊智子,江上史子,松井聡子,坂田志保路,安藤愛,奥公美.高度実践看護師のキャリア形成支援のためのワークショップ.田川市,2014年11月.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	宮城 由美子
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として小児病棟での臨床経験を経て、看護教育、保育士養成に携わり、2006年より本学に着任。現在行っている研究は、子どもの日常的な疾患（common disease）の看護である。そのため外来における看護が中心であり、外来ケアモデルに関する研究を行っている。現在小児医療において、特に小児救急問題などは保護者の家庭看護力の低下が指摘されている。そのため日常的な疾患における家庭療養や、アレルギー疾患を有している子どもの日常生活管理を有効に行うことができる育児支援活動、外来を訪れる発達障がい等気になる子どもへの対応などの研究を行っている。また私の行っている研究活動は、子どもの健康支援であり、医療職だけでなく、保育の現場、そして家庭、地域との協働で行うことに重点をおいている。そのため、「子どもの健康見守り隊」として幼児・保育者・保護者を対象にした健康教育を展開している。これらの実践により幼児期における自己の健康を維持増進するための方法及び有効性について研究している。

2. 研究業績

①著書・論文

<論文>

- ・ 橘則子、宮城由美子、：「診療所で小児外来看護に携わる看護職の「子どもの権利」に対する認識と幼児への採血方法の実態に関する研究」小児看護学会誌 23(2)p34-40、2014年
- ・ 吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」．福岡県立大学看護学部紀要 12（1）

②その他の業績

<解説>

- ・ 宮城由美子、「小児看護学」担当：『看護師国家試験対策合格アプリ』メディカ出版、2012年
- ・ 宮城由美子、「小児看護学」担当：『メディカコンクール 2013 看護師国家試験対策テスト』メディカ出版、2012年
- ・ 宮城由美子、「小児看護学」担当：『メディカコンクール 2014 看護師国家試験対策テスト』メディカ出版、2013年
- ・ 宮城由美子、「小児看護学」担当：『メディカコンクール 2015 看護師国家試験対策テスト』メディカ出版、2014年

<報告>

宮城由美子、田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ：「子どもの健康見守り隊システムの構築」、新生活産業くらぶ FUKUOKA シーズ発表会、2012年1月、福岡市

<学会報告>

- ・ 吉川未桜、田中美樹、宮城由美子：「看護学生が絵本の読み聞かせを通して学ぶ子どもの発達～保育所実習を通して～」第18回日本保育園保健学会、2012年11月、東京
- ・ 吉川未桜、田中美樹、柏原やすみ、宮城由美子：「小児看護実習で絵本の読み聞かせを行った学生の学び-保育所実習のレポートから-」第32回日本看護科学学会、2012年12月、東京
- ・ 宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、柏原やすみ：「保育士と看護職と協働で行う健康教育-保育士からみた健康教育の効果-」第14回日本子ども健康科学学会、2012年12月
- ・ 田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ、宮城由美子：「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」第14回日本子ども健康科学学会、2012年12月
- ・ 橘則子、宮城由美子：「診療所の看護職のプレパレーションに対する認識と、幼児への採血の実態」第23回日本小児看護学術集会、2013年7月、高知県
- ・ 宮城由美子、横尾美智代：「小児科外来看護師による感染性胃腸炎時の教育的支援」第60回日本小児保健協会学術集会、2013年9月、東京

- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子：「赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討」日本看護研究学会第19回九州・沖縄地方学術大会、2014年11月、熊本県
- ・青野広子、吉川未桜、田中美樹、宮城由美子：「小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討」日本看護研究学会第19回九州・沖縄地方学術大会、2014年11月、熊本県
- ・宮城由美子、柏原やすみ、吉川未桜、青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究」第16回日本子ども健康科学学会学術大会、2014年12月京都

③過去の主要業績

宮城由美子：「下痢症に罹患した乳幼児に対する保護者の家庭療養行動」小児保健研究 Vol.70 (5)2011年

3. 外部研究資金

1. 平成26-28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金）基盤研究（C）「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」平成26-28(3500千円)、研究代表者
2. 平成26-28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金）基盤研究（C）「児へのワクチン接種を拒否する保護者のリスクコミュニケーションに関する研究」平成26-28年（4160千円）、研究分担者
3. 平成26-28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金）基盤研究（C）「食物アレルギー乳幼児の家族エンパワメントと看護師エンパワメント教育モデルの開発」平成26-28年（2100千円）、研究分担者

5. 所属学会

日本小児看護学会、小児保健研究会、日本看護研究学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、全国保育園保健師看護師連絡会、日本子ども学会 会員

6. 担当授業科目

「小児看護学概論」1単位・2年生・前期、「小児看護学」2単位・2年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」2単位・3年・通年、「小児看護学演習Ⅱ」1単位・3年・通年、「小児看護実習Ⅰ」1単位・3年・通年、「小児看護実習Ⅱ」1単位・3年・通年、「小児看護学実習」2単位・3年・通年、「統合実習」2単位・4年・前期、「専門看護学ゼミ」2単位・4年・前期、「専門看護学ゼミ」2単位・3年・通年、「卒業研究」2単位・4年・後期、「小児看護学特論」2単位・大学院1年・通年、「小児看護学演習」2単位・大学院1年・通年

7. 社会貢献活動

北九州市児童福祉施設等第三者評価委員

8. 学外講義・講演

宮城由美子（2014.9.3）保護者会研修会「子どもの心の育ち」井堀保育園

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・宮城由美子（2014.12月16日）保育看護学習会「予防接種今一度復習しましょう」
- ・宮城由美子（2014.6月）外来看護師さんの井戸端会議
- ・宮城由美子（2014.5～2015.2）健康保育「自分のからだ大切に！（年長）5回実施」三萩野保育園・北方保育園

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	宮園 真美
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 26 年度より当大学に就任した。主な研究テーマは、地域療養者の QOL 向上とソーシャルサポート活用、温熱刺激を活用した看護介入、がん看護研究である。がんプロフェSSIONAL養成に関わる教育にも携わっている。

2. 研究業績

①著書・論文

<論文>

- ・病院から地域へのシームレスなケア構築を目指して 植込み型除細動器患者の現状とメンタルケアの必要性, 宮園真美, Nursing Business, 2014 年 5 月号
- ・Gender Disparities in Quality of Life and Psychological Disturbance in Patients With Implantable Cardioverter-Defibrillators, Anita Rahmawani, Akiko Suyama Chishaki, Hiroyuki Sawatari, Miyuki Tsushihashi-Makaya, Yuko Ohtsuka, Mori Nakai, Mami miyazono, Nobuko Hashiguchi, Harumizu Sakurada, Masao Takemoto, Yasushi Mukai, Inoue Shujiro, Kenji Sunagawa, Hiroyuki Chishaki Circulation Journal Vol.77, No5, 2013.6.22
- ・循環器ナースのための！ガイドライン読解塾～ガイドラインを理解し、看護支援に活かす～心臓突然死の予知と予防法のガイドライン, 宮園真美, Heart, 2013 年 2 月
- ・下部直腸がんに対し内肛門括約筋部分切除を受けた後の Quality of Life の変化が顕著であった対象の事例研究, 木下由美子, 川本利恵子, 樗木晶子, 宮園真美, 金岡麻希, 富岡明子, 孫田千恵, 潮みゆき, 中尾 久子, 壬生隆一, インターナショナル Nursing Care Research 第 12 巻 第 4 号, 2013 年
- ・倫理 看護管理者の倫理 第 5 回 倫理を問われる事例に対しての看護管理者の役割とは何か事例の展開②: 宮園真美, 中尾久子, 師長主任業務実践 看護リーダーのための専門情報誌 No.388
- ・地域で生活する統合失調書患者の QOL を維持・向上するソーシャルサポート, 宮園真美, 岩瀬信夫, 岩瀬貴子, インターナショナル Nursing Care Research 第 11 巻第 4 号, 2012 年
- ・多疾患を有する虚血性心疾患患者への退院後介入の検討, 宮園真美, 日本循環器看護学会誌 第 8 巻 第 1 号, 2012 年

<学会発表>

- ・脚部サウナ継続使用が高齢女性の血管内皮機能, 寒冷感および睡眠状態へ及ぼす影響: 宮園真美, 澤渡浩之, 小野淳二, 橋口暢子, 孫秀英, 三上聡美, 孫田千恵, 豊福佳代, 山崎啓子, 伊豆倉理恵子, 大草知子, 栃原裕, 樗木 晶子, 第 2 回看護理工学会, 2014
- ・下肢加温療法は、睡眠呼吸障害を合併した慢性心不全患者の心機能を改善する: 澤渡浩之, 細川和也, 宮園真美, 西坂麻里, 安藤眞一, 竹本真生, 井上修二郎, 坂本隆史 2, アニタ・ラハマワティ, 橋口暢子, 樗木浩朗, 大草知子, 砂川賢二, 樗木晶子, 循環器制御学会, 2013
- ・睡眠呼吸障害を合併した慢性心不全患者における下肢加温療法による睡眠改善が及ぼす心機能への効果: 澤渡浩之, 細川和也, 宮園真美, 西坂麻里, 安藤眞一, 竹本真生, 井上修二郎, 坂本隆史, アニタ・ラハマワティ, 橋口暢子, 樗木浩朗, 大草知子, 砂川賢二, 樗木晶子, ホルター・ノンインベンシブ心電学研究会, 2013
- ・Leg Thermal Therapy Improved Cardiac Function in the Patients with Heart Failure and Sleep Disordered Breathing—Novel Analysis of polysomnography—澤渡浩之, 細川和也, 宮園真美, 西坂麻里, 安藤眞一, 竹本真生, 井上修二郎, 坂本隆史, アニタ・ラハマワティ, 橋口暢子, 樗木浩朗, 大草知子, 砂川賢二, 樗木晶子, 第 78 回日本循環器学会学術集会, 2013

- ・ 植込み型除細動器(ICD)治療が及ぼす気分障害および心的外傷後ストレス障害(PTSD)における性差：宮園真美，眞茅みゆき，樗木晶子，アニタラハマワティ，澤渡浩之，石川勝彦，宮島健，大塚祐子，仲井盛，櫻田春水，第7回日本性差医学・医療学会学術集会，2013
- ・ ダウン症者における睡眠呼吸障害の実態とその発生要因に関する全国調査：小野淳二，黒田裕美，澤渡浩之，宮園真美，橋口暢子，西坂麻里，安藤眞一，樗木晶子，日本看護科学学会，2013
- ・ 脚部サウナ使用時の高齢者の生理・心理反応：宮園真美，澤渡浩之，小野淳二，橋口暢子，前野有佳里，木下由美子，金岡麻希，梶原弘平，潮みゆき，孫田千恵，中尾久子，樗木晶子，日本看護科学学会，2013
- ・ 慢性心不全患者における下肢加温療法による不眠の改善：澤渡浩之，宮園真美，西坂麻里，竹本真生，井上修二郎，坂本隆，安藤眞一，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，樗木浩朗，砂川賢二，樗木晶子，第70回日本循環器心身医学会総会，2013
- ・ 心不全患者における遠赤外線下肢加温療法の血行動態および血管内皮機能への効果：澤渡浩之，宮園真美，橋口暢子，樗木晶子，第1回日本看護理工学会，2013
- ・ 脚部サウナによる若年者と高齢者の生理心理反応：宮園真美，第1回日本看護理工学会，2013
- ・ 夏季および冬季室内における高齢者の生理・心理反応に及ぼす除湿・加湿の影響：橋口暢子，宮園真美，澤渡浩之，樗木晶子，第1回日本看護理工学会，2013
- ・ 心疾患を有するダウン症者における眠気と身体的特性に関する検討：小野淳二，澤渡浩之，黒田裕美，宮園真美，橋口暢子，安藤眞一，樗木晶子，第10回日本循環器看護学会学術集会，2013
- ・ Leg Thermal Therapy Improved Sleep Structure in Patients with Congestive Heart Disease, Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando, Mari Nishizaka, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Takafumi Sakamoto, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki., 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, 2013
- ・ A Small Device for Topical Leg Warming Improved Vascular Endothelial Function in Patients with Chorionic Heart Failure without Any Harmful Hemodynamic Changes : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando, Mari Nishizaka, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Takafumi Sakamoto, Hiroyuki Tsutsui, Daisuke Goto, Tomoo Furumoto, Shintaro Kinugawa, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki., 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, 2013
- ・ Cross-sectional general survey on the relationship between congenital heart diseases and sleep disordered breathing in patients with Down syndrome, Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Mari Nishizaka, Fumio Matsuoka, Hiromi Kuroda, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Junji Ono, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando., European Society of Cardiology Congress, 2013
- ・ The abnormal sleep postures that are frequently observed in people with Down syndrome indicated high prevalence of the sleep disordered breathing in Japanese cross-sectional studies, Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Hiromi Kuroda, Fumio Matsuoka, Anita Rahmawati, Junji Ono, Nobuko Hashiguchi, Mami Miyazono, Mari Nishizaka, Shin-ichi Ando, SLEEP 2013
- ・ Leg thermal therapy improved sleep structure and subjective sleep quality in chronic heart failure : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Mari Nishizaka, Shin-ichi Ando, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki, 5th World Congress on Sleep Medicine, 2013

- ・ 下肢加温療法は、慢性心不全患者の睡眠を改善する：澤渡浩之，宮園真美，竹本真生，井上修二郎，坂本隆史，西坂麻里，アニタ・ラハマワティ橋口暢子，安藤眞一，樗木浩朗，砂川賢二，樗木晶子，日本睡眠学会第 38 回定期学術集会，2013
- ・ Leg thermal therapy improves sleep quality with amelioration of vascular endothelial function in patients with chronic heart failure : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Mari Nishizaka, Tomomi Ide, Shin-ichi Ando, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki, 第 77 回日本循環器学会学術集会，2013
- ・ The first national survey of the relationship between sleep disordered breathing and heart diseases in Down syndrome Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Hiromi Kuroda, Fumio Matsuoka, Anita Rahmawati, Junji Ono, Nobuko Hashiguchi, Mami Miyazono, Mari Nishizaka, Shin-ichi Ando, 第 77 回日本循環器学会学術集会，2013
- ・ ICD 患者の QOL と患者属性との関係：宮園真美，澤渡浩之，橋口暢子，アニタ・ラハマワティ，石川勝彦，竹本真生，向井靖，井上修二郎，砂川賢二，眞茅みゆき，大塚祐子，櫻田春水，仲井盛，樗木浩朗，樗木晶子，第 77 回日本循環器学会学術集会，2013

③過去の主要業績

- ・ サウナによる生理・心理反応と看護への応用，九州大学（博士論文） 2011
- ・ 頸部下ドーム型サウナ使用時の生理・心理反応，人間と生活環境， 17 巻 1 号，31-37，2010
- ・ 頸部下ドーム型サウナ使用時の高齢者の生理・心理反応，日本循環器看護学会誌，5 巻 1 号，43-51，2009

3. 外部研究資金

〈研究責任者〉

地域における循環器病患者の再発予防に向けた脚温サウナ看護プログラムの開発，文部科学省学術研究費補助金（基盤 C），1560 千円，2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

〈研究分担者〉

- ・ 直腸がん患者の QOL 向上を目指した排便障害セルフケア支援のための介入研究，文部科学省学術研究費補助金（基盤 C），1560 千円，2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日，寄託者，木下由美子
- ・ 精神障害者の地域生活を支援する市町村保健師のケアマネジメント指標の開発，文部科学省学術研究費補助金（基盤 C），2340 千円，2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日，寄託者：前野有佳里
- ・ 睡眠時無呼吸を配慮した心疾患患者における睡眠障害に対する看護ケアの開発，文部科学省学術研究費補助金(挑戦的萌芽)，910 千円 2011 年 4 月 28 日～2014 年 3 月 31 日，寄託者：樗木晶子
- ・ フットサウナを用いた心疾患患者における QOL と予後の改善を目指した看護ケアの構築，文部科学省学術研究費補助金（基盤 B），2470 千円，2010 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日，寄託者：樗木晶子
- ・ がん医療・看護における倫理症例集作成の試み，文部科学省学術研究費補助金（基盤 B），1690 千円，2009 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日，寄託者：中尾久子

4. 受賞

第 77 日本循環器学会学術集会学会賞（コメディカル部門奨励賞）ICD 患者の QOL と患者属性との関係：宮園真美，澤渡浩之，橋口暢子，アニタ・ラハマワティ，石川勝彦，竹本真生，向井靖，井上修二郎，砂川賢二，眞茅みゆき，大塚祐子，櫻田春水，仲井盛，樗木浩朗，樗木晶子

5. 所属学会

日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本循環器病予防学会, 日本循環器学会, 日本循環器看護学会, 日本生理人類学会, 人間-生活環境系学会, STTI : Sigma Theta Tau International, 日本精神保健看護学会, 日本応用心理学学会, 日本運動器看護学会, 日本性差学会,

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人慢性期看護論・2 単位・2 年・後期, 成人看護実践論・1 単位・3 年・通年, 成人看護実習・4 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期.

〈大学院〉

成人看護学特論・1 年・通年, 成人看護学演習・1 年・通年, がん看護学実習Ⅰ・4 単位・2 年・前期, がん看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期, 課題研究・4 単位・1-2 年・通年, 臨床看護学特別研究・8 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 第1回キャンサー・ナーシング・カフェ企画, 開催 (2015.1.31)
- ・ 看護ブロッサム開花プロジェクト (厚労省 GP) 九州大学病院看護研究指導 (人工関節術後看護, ステロイド療法中小児看護, 婦人科術後イレウスについて)
- ・ 福岡県立大学がん看護勉強会 (1 回/2 か月 福岡県立大学内)

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県看護協会主催「教員養成講習会」外部講師
- ・ 九州大学病院における現任教育: 臨床指導者講習会 講師

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	渡邊 智子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

筑豊地区は、老年看護のエッセンスが詰まった魅力的な地域である。人生の先輩である皆さんと学生と出逢い、繋がり、支えられ、自らの生き方について問い、「高齢者の叡智発掘活動」と題して、ヘルスプロモーション活動を継続して9年になる。共に老いていることを実感するこの頃である。自ら健康的に老いること、健康的に老いる支援について探究していきたいと考えている。主な関心は、老年看護学領域の看護職者の実践知の言語化による看護技術の開発やシステムの構築、看護学教育方法、具体的には、①「生活リズムを整える」②「高齢者のみかたと臨床判断」③「高齢者の喜びや楽しみ」④「老年看護学教育方法」⑤「看護職へのナラティブアプローチ」⑥「高齢者の健康長寿活動」⑦「老年看護分野での倫理調整」である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・安永浩子, 渡邊智子. (2012). がん患者と家族成員のパートナーシップと QOL との関連およびパートナーシップの影響要因, 日本がん看護学会誌 26(3), 61 - 70.
- ・吉本照子, 茂野香おる, 渡邊智子, 八島妙子, 井上映子, 杉田由加里, 酒井郁子 (2013). 介護老人保健施設における看護職、介護職、リハビリテーション職、および支援相談員の在宅支援行動, 日本老年看護学会誌 18 (1) , 45-55.

〈報告書〉

- ・国武和子, 有田久美, 岩下法子, 渡邊智子, 吉田恭子 (2012). 平成 23 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康推進等事業 地域包括ケアシステム推進のための地域ごとの課題の整理分析・解決方法等に関する調査研究事業報告書.
- ・国武和子, 渡邊美保, 福田和美, 渡邊智子, 吉田恭子, 芳賀慶一郎, 塩田悦仁 (2012). 平成 23 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活課題とその支援方策に関する調査研究事業 「シニア世代の健康と生活に関する実態調査」報告書.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永 薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. (2013). 経験型実習教育における学生の学びの内容—3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—, 日本教師学学会第 14 回大会, 秋田.
- ・浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永 薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2013). 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から—, 日本教師学学会第 14 回大会, 秋田.
- ・坂田志保路, 浅井初, 江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永 薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. (2013). 経験型実習教育の有効性の検討—4年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—, 日本教師学学会第 14 回大会, 秋田.
- ・松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 榎直美, 小森直美, 吉田恭子, 江上史子, 小野美穂. (2013). 経験型実習教育研修プログラムの効果：研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較, 日本教師学学会第 14 回大会, 秋田.
- ・廣瀬理絵, 伊福セツ子, 渡邊智子. (2013). がん看護専門看護師のコーディネーション〜チーム医療の実践内容からの分析〜, 日本看護倫理学会第 6 回年次大会, 鹿児島.

- ・吉本照子, 杉田由加里, 八島妙子, 茂野香おる, 渡邊智子. (2013). 介護老人保健施設の在宅支援に対する利用者の家族介護者による評価, 第17回日本地域看護学会学術集会, 徳島.

<シンポジウム>

渡邊智子. (2013). 「地域で支え合うために私たちができること 専門職と地域（インフォーマルサービス）との連携について考えよう—学生ボランティア花満会活動の取組. 福岡県介護支援専門員協会筑豊ブロック 筑豊地域ケアネットワーク研究協議会, 直方市・飯塚市後援, 1月27日.

<資格>

End-of-Life Nursing Education Consortium Trainer 【ELNEC - G179】2013年8月.

③過去の主要業績

- ・渡邊智子. (2001). 痴呆症高齢者ケアの場における判断の構造. 兵庫県立看護大学大学院修士論文.
 - ・渡邊智子. (2001). 中西睦子監修, 水谷信子編著「老人看護学」(担当箇所「閉じ困りがちな高齢者」), 62-71. 建帛社
 - ・八島妙子, 渡邊智子, 木村寿美, 山幡信子. (2004). 高齢者と学生の対話による学習効果. 愛知医科大学看護学部除要, 第3巻, p81-p84.
 - ・渡邊智子, 八島妙子, 茂野香おる, 井上映子, 杉田由加里, 酒井郁子, 吉本照子. (2006). 介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ—高齢者の生活リズムに調整に関して—, 第36回日本看護学会論文集—看護管理—, p392-p394.
 - ・渡邊智子. (2010). 中西睦子監修, 安酸史子編著「実践成人看護学—慢性期」(担当箇所「第3部V肝硬変—希望を持って生きるための支援」), 143-154. 建帛社.
3. 外部研究資金
研究奨励交付金：研究課題「高齢者の生活行動維持に向けた M-Test の活用によるセルフ・マネジメントに関する研究」, 交付金額：100,000 円, 研究期間：平成 26 年 4 月～平成 26 年 3 月.

4. 所属学会

日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本老年社会学会, 日本認知症ケア学会, 日本末病システム学会, 日本看護倫理学会, 日本教師学学会, 日本地域看護学会 各会員

5. 担当授業科目

<学部>

社会貢献論・2単位・1年・前期, 老年看護論・2単位・2年・通年, 老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年, 老年看護学概論・1単位・2年・前期, 老年看護学・2単位・2年・後期, 老年看護実践論・1単位・3年・通年, 老年看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1単位・3年・通年, 老年看護実習Ⅱ・2単位・3年・通年, 老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 看護研究・2単位・3年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 統合実習・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期

<大学院>

臨床看護学特別研究・8単位・修士2年・通年, 看護倫理・2単位・修士1年・前期

6. 社会貢献活動

- ・老人クラブ・花満会で、学生と共に、高齢者関係地域活動（神興祭、七夕会、高齢者宅訪問）
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」にアドバイザー
- ・福岡ヘルシー・エイジングケア研究会企画・準備・開催
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会 委員
- ・田川市高齢者保健福祉計画（第7次）有識者会議 委員

7. 学外講義・講演

- ・ 大学出張講義「認知症高齢者の体験世界と看護」 県立糸島高校.
- ・ 「認知症の方の身体管理」 平成 26 年度福岡県認知症医療センター第 2 回研修会, 宗像市.

8. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践教育センター研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	石村 美由紀
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

特に不妊支援、妊婦教育、助産教育に関する研究に取り組んでいる。不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊のおしゃべり会主催や行政の不妊相談員として活動している。妊婦教育においては、身体感覚活性化マザークラスの企画・運営に携わり、その効果を広く報告している。助産教育においては、助産実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行っている。また性教育も積極的に行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・鳥越郁代，藤木久美子，古田祐子，佐藤繭子，安河内静子，吉田静，小林絵里子，佐藤香代，石村美由紀．（2012）．助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要 9（2），53-61．
- ・石村美由紀．（2014）．不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待—看護職の立場から—．日本生殖看護学会誌 11（1），73-77．
- ・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2015）．助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究—その要因と回復の促進—．福岡県立大学看護学部紀要 12（1）．

②その他最近の業績

- ・石村美由紀．（2013）「不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待」—看護職の立場から—．日本生殖看護学会学術集会，シンポジスト．京都．2013.9．
- ・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2013）．助産実習における学生のパワーレスとその要因．第54回日本母性衛生学会学術集会，埼玉．2013.10．
- ・吉田静，佐藤香代，松岡百子，安河内静子，鳥越郁代，石村美由紀，小林絵里子．（2013）．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験．第54回日本母性衛生学会学術集会，埼玉．2013.10．
- ・石村美由紀，佐藤香代，小林絵里子．（2014）．看護学生のマザークラス企画による学び—身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して—．第55回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9．
- ・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2014）．助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因．第55回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9．
- ・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．（2014）．死産を体験した母親の次子妊娠の体験．第55回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9．
- ・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．（2014）．死産を体験した母親の次子出産・育児の体験．第55回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9．

③過去の主要業績

- ・石村美由紀，浅野美智留，佐藤香代．（2009）．不妊女性における苦悩とその克服—女性の語りから考察する—．母性衛生 49(4)，592 - 601．
- ・石村美由紀，佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子．（2009）．第3回「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要．
- ・石村美由紀．（2009）．不妊支援を目的とした「子どもの有無を越えた共感型フォーラム」の試みと意義．こころの健康，24(2)，68-74．
- ・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2009）．分娩介助技術の習得過程—本学での分娩介助技術評価調査より—．福岡県立大学看護学研究紀要，7(1)，18 - 28．

5. 所属学会

日本母性衛生学会，日本助産学会，日本不妊カウンセリング学会，日本精神衛生学会，日本生殖看護学会，日本思春期学会，日本看護科学学会ほか

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学(2)・2年後期，女性看護学演習Ⅰ(1)・3年前期，女性看護学演習Ⅱ(1)・3年前期～4年後期，女性看護学実習(2)・3年後期～4年前期，基礎助産学Ⅰ(2)・4年前期，助産診断・技術学Ⅰ(4)・4年前期，助産診断・技術学Ⅱ(1)・4年前期，助産実習Ⅰ(7)・4年前期，助産実習Ⅱ(2)・編入4年生通年，統合実習(2)・4年通年，専門看護ゼミ(2)・4年前期，卒業研究(2)・4年後期

〈大学院〉

助産学特論(2)・1年前期，助産学演習(2)・1年後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県香春町男女共同参画審議会委員
- ・北九州市不妊専門相談センター 不育症相談担当
- ・福岡県助産師会 相談業務

8. 学外講義・講演

- ・性教育「いのちの誕生ー大切なあなたー」．下関市立安岡小学校 教養部主催 教養講座．(2014.7)
- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ” と “からだ” を正しく知ろうー」．福岡市立多々良中学校2年生．(2014.11)

9. 附属研究所の活動等

- ・健康大使への継続教育：「健康大使セミナー」開催、福岡（2014.9）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（田川）レッスン1（2014.10）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（田川）レッスン4（2014.11）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（田川）レッスン5（2014.11）
- ・性の健康に関する事業：不妊のおしゃべり会【ホットスポット】（2014.11）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）同窓会（2014.12）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）レッスン1（2015.1）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）レッスン2（2015.2）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）レッスン3（2015.2）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）レッスン4（2015.2）
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）レッスン5（2015.3）
- ・身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2015.3）
- ・不妊のおしゃべり会開催（子どもがいてもいなくても、大切なわたし*大切なあなた）（2015.3）

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護看護学系	職名	講師	氏名	大島 操
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、終末期看護やさまざまな場で働く看護師の役割について研究してきました。現在は、糖尿病や高血圧など生活習慣病に対する看護師の患者指導について関心をもっています。特にクリニックなどで慢性疾患を有する患者にかかわる看護師の役割は重要と考えています。

2. 研究業績

①過去の主要業績

- ・大島操, 新居富美, 安部恭子(2015): 診療所における看護師の役割に関する文献的検討,九州看護福祉大学紀要,15,81-89.
- ・大島操, 藤本明日香, 新居富美, 安部恭子(2014): 一般診療所における看護師による糖尿病患者指導,日本医学看護学教育会誌,23(1), 7-11.
- ・大島操, 赤司千波, 柴北早苗(2012): 介護付有料老人ホームと認知症グループホームにおける終末期ケアおよび看取りの現状と看護職者の思い,日本看護研究学会雑誌,35(1), 175-181.

③過去の主要業績

赤司千波, 大島操, 中山晃志(2011): 介護付有料老人ホームにおける終末期ケアおよび看取りケアの実態,日本看護学会論文集 (老年看護) 41号,121-124.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、日本医学看護学教育学会、看護経済・政策研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	田中 美樹
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

「子どもの健康見守り隊」として、地域で子どもたちが安全・安楽に成長発達できるための研究を行っています。具体的には、小児科外来・クリニックにおける家族向けプレパレーションツールの開発や、子どもや家族に対する健康教育、保育士さんなどに対する保育看護などを通して、子どもと子どもに関わる家族や専門職者の方への支援などを行っています。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・田中美樹、「保育所における食物アレルギーをもつ子どもと保護者に対する看護職の取り組み」、保育と保健、vol.19 no.1.pp45-48、2013年
- ・田中美樹、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」 保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013年
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.12 no.1、2015年 掲載予定 (2014年1月7日受理)

②その他の業績

<学会発表>

- ・吉川未桜、柏原やすみ、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学実習で絵本の読み聞かせを行った学生の学び - 保育所実習のレポートから -」、第32回日本看護科学学会学術集会、2012年12月、東京
- ・田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ、宮城由美子、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」、第14回日本子ども健康科学学会学術集会、2012年12月、東京
- ・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、柏原やすみ、「保育士と看護職と協働で行う健康保育 - 保育士から見た健康保育の効果 -」、第14回日本子ども健康科学学会学術集会、2012年12月、東京
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、第15回九州・沖縄小児看護教育研究会、2014年8月、熊本
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、青野広子、池隅好乃、山田智子、岡田久美子、柿木里香、「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター」、第24回日本外来小児科学会年次集会、2014年8月、大阪
- ・青野広子、田中美樹、吉川未桜、宮城由美子、「小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討」、日本看護研究学会第19回九州・沖縄地方学術集会、2014年11月、熊本
- ・宮城由美子、柏原やすみ、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「『保育園におけるアレルギー対応の手引き』導入後の食物アレルギーの認知に関する研究」、第16回日本子ども健康科学学会学術大会、2014年12月、京都

<報告>

宮城由美子、田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ：「子どもの健康見守り隊システムの構築」、新生活産業くらぶ FUKUOKA シーズ発表会、2012年1月、福岡市

<その他執筆>

- ・田中美樹、小児看護学問題、放送大学 看護師国家試験学習支援ツール、放送大学、2012年
- ・田中美樹、看護師国家試験基礎学力到達度チェックテスト (小児看護学)、大阪、メディカ出版、2012年

- ・田中美樹、小児看護学問題、放送大学 看護師国家試験学習支援ツール、放送大学、2013年
- ・田中美樹、看護師国家試験基礎学力到達度チェックテスト（小児看護学）、大阪、メディカ出版、2013年

③過去の主要業績

- ・山本浩世、田中美樹、高野政子、「『母乳が不足している』という母親の母乳育児に関する認識」、母性衛生、vol.50 no.1.pp110-117、2009年
- ・田中美樹、布施芳文、高野政子、「『父親になった』という父性の自覚に関する研究」、母性衛生、vol.52 no.1.pp71-77、2011年
- ・柏原やすみ、吉川未桜、田中美樹、宮城由美子、「卒業前に実施した小児看護技術の演習効果」、第12回九州・沖縄小児看護教育研究会、2011年8月、大分県
- ・吉川未桜、田中美樹、宮城由美子、「看護学生が絵本の読み聞かせを通して学ぶ子どもの発達 - 保育所実習を通して -」、第18回日本保育園保健学会、2012年10月、東京

3. 外部研究資金

文部科学省研究費助成事業・研究分担者、「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」2014～2016

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

6. 担当授業科目

「小児看護学概論」・1単位・2年前期、「小児看護学」・2単位・2年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」・1単位・3年、「小児看護学演習Ⅱ」・1単位・3年、「小児看護学実習」・2単位・3年、「専門看護学ゼミ」・2単位・3年、4年前期、「統合実習」・2単位・4年、「卒業研究」・2単位・4年、「小児看護特論」・2単位・大学院1年・前期、「小児看護学演習」・2単位・大学院1年・後期

7. 社会貢献活動

家族の子どもの検査・処置に対する理解向上のための活動：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスターの吸入編と採血編を作成し、実習病院・クリニックおよび希望された全国の病院・クリニックに配布し普及に努めた。

8. 学外講義・講演

- ・田中美樹、福岡県立育徳館高等学校出前講義「子どもの世界～遊びを通して看護しよう！～」講師／研究発表会コメンテーター、2014年8月
- ・田中美樹、平成24年度田川市子育てボランティア養成講座「事故防止の基礎知識」講師、2014年11月
- ・田中美樹、吉川未桜、宮城由美子、青野広子、平成24年添田町保育士会、子どもの心と体～乳幼児の心と体の発達～「子どもの事故予防と応急手当」講師、2014年6月
- ・田中美樹、宮城由美子、平成24年度川崎町保育士会、「子どもの食物アレルギーとアナフィラキシーショックへの対応」講師、2014年10月

9. 付属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・田中美樹、健康保育「自分のからだ大切に！」三萩野保育園年少クラス3回実施
 - ① テーマ「もっともっと大きくなろうね！」2014年5月
 - ② テーマ「ほねほねくんを元気に！」2014年7月
 - ③ テーマ「たっぷり、ぐっすり眠って元気なからだ！」2014年11月
- ・田中美樹、健康保育「自分のからだ大切に！」北方保育園年少クラス3回実施
 - ① テーマ「もっともっと大きくなろうね！」2014年5月
 - ② テーマ「ほねほねくんを元気に！」2014年7月
 - ③ テーマ「たっぷり、ぐっすり眠って元気なからだ！」2014年12月
- ・田中美樹、青野広子、宮城由美子、保育看護学習会「いざというときの応急手当～誤飲/誤嚥・窒息事故に遭遇したら～」北九州市保育士対象3回実施
 - ① 北九州市立井堀保育園、2014年9月
 - ② 北九州市立北方保育所、2014年10月
 - ③ 田川市郡保育士対象、福岡県立大学2014年9月
- ・青野広子、吉川未桜、田中美樹、宮城由美子、看護技術支援「“今”学んでおきたい小児の看護技術」2回シリーズ、福岡県立大学
 - ① 「注射を受ける子どもへの援助（採血・点滴・抗生剤の取り扱い）」2014年9月
 - ② 「ひよこ看護師さんからたまご看護師さんへ」2015年3月
- ・田中美樹、吉川未桜、青野広子、宮城由美子、外来看護師さんの井戸端会議第7回学習交流会「外来でつかえるプレパレーションツールの開発」2015年3月福岡県立大学

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	中井 裕子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院内科系病棟での臨床勤務の後、2001年に千葉県立衛生短期大学助手として着任。2010年4月に本学講師として着任し、成人看護学（急性期）の教育に携わっています。主な研究分野は周手術期看護、高齢者看護、看護教育です。主な研究テーマは周手術期患者のニーズ、高齢者に対する急性期看護、臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: A地区におけるAEDの配置に関する調査研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2014.
- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子: 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2014.
- ・八尋陽子, 中井裕子, 東あゆみ: 外来がん化学療法を受ける患者の心理的側面に関する文献検討—対象論文を和文に限定して—, 日本看護研究学会雑誌, 35(5), 129-136, 2012.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: 過疎地域におけるAED設置の問題点, 第34回日本看護科学学会学術集会, 愛知, 2014.
- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: A地区におけるAED設置調査, 第40回日本看護研究学会学術集会, 奈良, 2014.
- ・八尋陽子, 中井裕子, 東あゆみ: 外来がん化学療法患者の心理的側面への看護に関する文献検討, 第38回日本看護研究学会学術集会, 沖縄, 2012.

③過去の主要業績

- ・中井裕子, 比田井理恵, 小林繁樹: 1看護アセスメント 患者の安全の確保と精神的援助, 小林繁樹編集, 新看護観察のキーポイントシリーズ 脳神経外科, 中央法規出版, 2011.
- ・中井裕子, 榎本麻里, 三枝香代子, 堀之内若名: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討(第二報), 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 143-151, 2009.
- ・三枝香代子, 榎本麻里, 中井裕子, 堀之内若名: クリティカルケアの演習における教育方法の検討—患者急変時デモンストラーションの有効性についての分析—, 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 109-115, 2009.
- ・中井裕子, 堀之内若名, 三枝香代子, 榎本麻里: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討, 千葉県立衛生短期大学紀要, 26(2), 105-112, 2008.
- ・大谷則子, 堀之内若名, 中井裕子, 榎本麻里: 手術室見学実習における学び—二つの実習形態の比較検討による考察—, OPE NURSING, 21(6), 98-108, 2006.

5. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本看護技術学会, 日本老年社会科学会

6. 担当授業科目

成人急性看護学・2単位・2年・後期, 成人看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期, 成人急性看護学実習・3単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・後期, 成人看護学特論・2単位・修士1年・2単位・前期, 成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

九州がんプロフェッショナル養成プランに関する活動，村田節子，宮園真美，赤司千波，中井裕子，山名栄子，政時和美，松井聡子．福岡県立大学主催．第32回～第36回福岡県立大学がん看護勉強会，福岡県立大学．

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	安河内 静子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1990年から5年間、九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務(助産師)、1996年より8年間、福岡市保健福祉センター(保健師)で勤務。2004年3月国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻修了後、4月より本学に着任、現在に至る。

女性がエンパワーメントしていく過程を支援する身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの開催やリカレント教育、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究、妊産婦の禁煙プログラムに関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 古田祐子, 安河内静子. (2012). 乳児の皮膚トラブルに対する皮膚洗浄法の有用性. 日本看護技術学会誌, 11(3), 35-45.
- 佐藤香代, 安河内静子. (2013). 「身体感覚活性化マザークラスの哲学と実践—妊婦の力を引き出すわざ—」. 秋田県母性衛生学会雑誌 27 : 52-53.
- 安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. (2014). 大学院における助産師教育に対するニーズ調査. 福岡県立大学看護学部紀要
- 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要
- 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要

②その他最近の業績

<報告書>

- 安河内静子, 和田恵子, 坂元真理子, 舘英津子, 渡辺愛, 磯村毅, 磯貝恵美, 鈴木茜, 梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 竹末加奈, 原田正平, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2012). 妊娠から育児期の喫煙に関する研究—4か月児健診時調査の結果—厚生労働省科学研究費補助金, 成育疾患克服など次世代育成基盤研究事業, 平成23年度総括・分担研究報告書. 全11頁.
- 安河内静子, 和田恵子, 坂元真理子, 舘英津子, 磯村毅, 磯貝恵美, 鈴木茜, 梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 竹末加奈, 原田正平, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2013). 妊娠から育児期の喫煙に関する研究—4か月児健診時調査の結果(第2報), 厚生労働省科学研究費補助金, 成育疾患克服など次世代育成基盤研究事業, 平成24年度総括・分担研究報告書. 全7頁.
- 安河内静子, 佐藤香代. (2013). 看護学生の喫煙防止・禁止支援に関する研究. 平成23~24年度研究奨励交付金研究成果報告書.
- 安河内静子, 佐藤香代. (2013). 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開モデルに関する研究. 平成23~24年度研究奨励交付金研究成果報告書.

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. DVD作成.

<学会報告>

- Sanae Tsuruta, Yoko Setoguchi, Kana Takesue, Emi Matsuura, Kayo Sato, Tomoko Tsuda, Shizuko Yasukouchi, Miyoko Uza, Yoko Sunagawa, Yumiko Endo, Noriko Teruya, Masae Oda, Kimiyo Shimomai, Teruyuki Nakayama, Takako Ando, Itsuko Shono, Kazuko Muroya, Yasue Yamazumi, Akira Kitagawa, Kencho Matsuura, Fumiko Yasukata. The benefit of coaching and its future in nursing education – An Evaluation of the Caring Island Kyushu-Okinawa Project. International Hiroshima Conference on Caring and Peace. 2012, 3.

- Kayo Sato, Tomoko Tsuda, Shizuko Yasukouchi, Tomoaki Shinohe, Sanae Tsuruta, Yoko Setoguchi, Kana Takesue, Emi Matsuura, Masae Oda, Kimiyo Shimomai, Teruyuki Nakayama, Takako Ando, Miyoko Uza, Yoko Sunagawa, Yumiko Endo, Noriko Teruya, Itsuko Shono, Kazuko Muroya, Yasue Ymazumi, Akira Kitagawa, Naomi Komori, Kencho Matsuura, Fumiko Yasukata. Faculty Development Project: Assessment of a “Portfolio Workshop” and Challenges for the Future-An Evaluation of the Caring Island Kyushu- Okinawa Project. International Hiroshima Conference on Caring and Peace. 2012, 3.
- Rimiko Ishikawa, Tsuyako Hidaka, Mako Shirouzu, Kazuko Maeda, Tomohiro Tokuyama, Shinobu Makiuchi, Hitomi Takemoto, Junko Oga, Yasuko Kinjo, Kinuyo Inagaki, Yoshinori Knjo, Shizuko Yasukouchi, Hong Yan, Yasue Yamazumi, Kencho Matsuura, Fumiko Yasukata. An Attempt to Conduct Mutually Attended Classes for Graduate School Education at Different Locations through Information and Communication Technology(ICT)-An Evaluation of the Caring Island Kyushu-Okinawa Project. International Hiroshima Conference on Caring and Peace. 2012, 3.
- 安河内静子, 佐藤香代, 佐藤繭子, 藤田起代美, 西川路祥子, 熊丸真理. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の変容過程～サポーターとの相互作用～, 第 53 回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- 鶴安澄, 安河内静子. (2012). 大学生が過去に受けた性教育と性意識の現状, 第 53 回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- 佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 米倉圭介. (2012). 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果 第 2 報, 第 53 回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- 安河内静子, 古田祐子. (2013). 沐浴時間が日齢 60 日未満の乳児に及ぼす影響—体重・深部温・授乳回数・排便回数・睡眠時間について—, 第 12 回日本看護技術学会学術集会, 静岡.
- 古田祐子, 安河内静子. (2013). 洗顔法が日齢 60 日未満の乳児に及ぼす影響—皮膚症状・表皮 pH・水分・油分について—, 第 12 回日本看護技術学会学術集会, 静岡.
- 安河内静子, 古田祐子. (2013). 生後 60 日未満の乳児を対象とした沐浴法が実施者に及ぼす影響—疲労度・身体症状・困難性・状態不安について—, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉.
- 古田祐子, 安河内静子. (2013). S 皮膚洗浄法の試みが実施者と乳児に及ぼす影響—皮膚トラブルを有する日齢 60 日未満の乳児を対象として—, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉.
- 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. (2013). 中国における妊婦の食生活の現状(第 1 報), 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉.
- 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. (2013). 中国における妊婦の食生活の現状(第 2 報), 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉.
- 吉田静, 佐藤香代, 松岡百子, 安河内静子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 小林絵里子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験, 第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉.
- Yuko Furuta, Shizuko Yasukouchi, Ikuyo Torigoe. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. International Confederation of Midwives. 2014, 6.
- 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開時の課題—A 病院助産師へのアンケート調査より—. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 「身体感覚活性化マザークラス」参加経験が、病産院のマザークラス運営への意識に及ぼす影響について. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.

- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. (2014). 中国における女子大学生の食文化ー中国の文化・教育と食の実態との関連ー. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.

③過去の主要業績

- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果-体験録の分析から-. 福岡県立大学看護学部紀要 7 (2), 63-71.
- ・古田祐子, 安河内静子. (2010). 皮膚トラブルを有する生後 3 か月未満児の表皮 pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前・後の変化. 母性衛生, 51(2), 320-328.
- ・安河内静子, 佐藤香代. (2008). 田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 6 (1), 55-63.

5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本禁煙科学会、日本家族看護学会、日本思春期学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅱ・3~4年・通年, 女性看護学実習・2単位・3~4年・通年, 助産診断・技術学Ⅰ・4単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅱ・1単位・4年・前期, 基礎助産学Ⅱ・1単位・4年・前期, 地域母子保健学・1単位・4年・前期, 助産実習Ⅰ・7単位・4年・前期, 助産実習Ⅱ・2単位・編入4年生・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

<大学院>

助産学特論・2単位・修士1年・前期, 助産学演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 小林絵里子. 第6回健康大使セミナー, 田川市. (2014. 9)
- ・田川市男女共同参画審議会委員

8. 学外講義・講演

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 石村美由紀. (2015.3). 第10回「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナー, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	江上 史子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これからも取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。

2. 研究業績

①最近の著書

安酸史子, 中野榮子, 榎直美, 小森直美, 松枝美智子, 渡邊智子, 小野美穂, 安永薫梨, 浅井初, 江上史子, 清水夏子, 吉田恭子, 坂田志保路. 経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究. 平成21年度～24年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B))課題番号: 2139057) 研究成果報告書, 2013年3月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・江上史子. 精神科看護師によるBPSDを有する認知症高齢者への関わり. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・渡邊智子, 吉田恭子, 江上史子. 看護学生の「老いの叡智」発掘ボランティア活動体験の意味. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・小森直美, 安酸史子, 安永薫梨, 江上史子, 中野榮子, 松枝美智子, 渡邊智子, 榎直美, 小野美穂, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路. 経験型実習教育における有効性の検討—卒業生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・榎直美, 安酸史子, 吉田恭子, 中野榮子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 小森直美, 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小野美穂. 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—ポートフォリオの活用による実習の不安の軽減—. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 榎直美, 小森直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小野美穂. 経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・安酸史子, 渡邊智子, 笹隈友美, 福本優子, 元山敦子, 瓜生知佳子, 中野榮子, 松枝美智子, 榎直美, 浅井初, 坂田志保路, 江上史子, 吉田恭子, 小森直美, 小野美穂. 交流集会「経験型実習教育」教育プログラムの有効性の検討—教員・指導者・看護学生が力をあわせるには—. 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月.
- ・江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. 経験型実習教育における学生の学びの内容—3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 日本教師学会第14回大会, 2013年3月.
- ・浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から—. 日本教師学会第14回大会, 2013年3月.

- ・江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 楳直美, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 松枝美智子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 中野榮子. 経験型実習教育における学生の学びの内容(第2報) -3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから-. 日本教師学学会第15回大会, 2014年3月.

③過去の主要業績

- ・平林美保, 江上史子, 梅垣順子, 松岡千代, 水谷信子. 高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性-「高齢者もの忘れ看護相談」を通して-, 兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1, p39-45, 2003年3月.
- ・南裕子(主任研究者), 水谷信子(分担研究者), 松岡千代, 平林美保, 江上史子, 梅垣順子(研究協力者). 「高齢者もの忘れ看護相談」の効果・継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成17年3月厚生労働科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業、平成16年度総括・分担研究報告書 p31-51, 2005年3月.
- ・江上史子. 精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-, 兵庫県立大学大学院 修士論文, 2007年3月.

5. 所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会、日本教師学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

老年看護学概論・1単位・2年・前期、老年看護学・2単位・2年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3~4年・後期~前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・老人クラブ・花満会で、学生とともにボランティア活動(神幸祭)
- ・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程での講義(相談・1単位・前期)
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参加(通年・11回)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	小林 絵里子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年 市立名寄短期大学(現 名寄市立大学)看護学科卒業。

1999年 神戸大学医学部保健学科看護学専攻卒業。

2008年 北海道札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士前期課程修了。

現在 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻看護学領域母性看護学分野博士課程後期課程在籍中。

大学病院で11年間看護師、助産師として臨床(外科領域(皮膚科・形成外科)、小児科、産科周産期科)を経験後、2010年4月より本大学に着任。

臨床では医療的ケアを必要としながら在宅療養へ移行する児とその家族に関するケアや、先天性の疾患を持ち、出生直後から手術までのコントロール目的に入院する児とその家族に対するケア、口唇裂・口蓋裂などの児の術前術後のケアを通じた母乳育児支援、小児科病棟や、外来での母乳育児支援を重点的に取り組んできた。NICU(新生児集中治療室)やGCUで母乳育児支援の啓蒙に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、医療スタッフが正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児支援ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・小林絵里子, 佐藤香代. (2014). 本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践. 福岡県立大学看護学部紀要予定

②その他最近の業績

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践, 2012.

<学会発表>

- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. (2013). 中国における女子大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子. (2014). 看護学生のマザークラス企画による学び—身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して—, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉.
- ・佐藤繭子, 小林絵里子, 佐藤香代. (2014). 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉.
- ・小林絵里子, 佐藤繭子, 佐藤香代. (2013). 母乳育児支援学習コースの受講者による評価, 第27回日本助産学会学術集会, 石川.
- ・小林絵里子, 古田祐子, 佐藤香代. (2013). 精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究, 第54回日本母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・松本加絵, 小林絵里子, 佐藤香代. (2012). キャベツ湿布に関する基礎的研究—キャベツ湿布の安楽度、皮膚の表面温度の低下状況—, 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- ・林美晴, 小林絵里子, 佐藤香代. (2012). 出産に対する心理的満足感と児が泣くことに対する母親の情動変化の関連性, 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.

- ・迫利枝, 小林絵里子, 佐藤香代. (2012). 分娩第1期のケアにおける産婦の受け止め方と助産師の意識の違い～産婦が印象に残っている場面に着目して～, 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.

③過去の主要業績

- ・小林絵里子. (2009). コメディカルセッションシンポジスト 循環器領域におけるアロマセラピー. 第57回日本心臓病学会. 北海道
- ・瀬尾智子, 小林絵里子, 山岸映子, 多田香苗 (2007) 「新イノチェンティ宣言」翻訳
- ・小林絵里子. (2005). 「アロマセラピーの及ぼすリラクゼーション効果(担当部分単独執筆)」. 『Aromatopia Vol.14 No.2』, フレグランス・ジャーナル社.

5. 所属学会

日本助産学会／日本新生児看護学会/日本母性衛生学会/日本母性看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期, 女性看護実習・2単位・3年後期～4年前期, 助産実習・3単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 助産診断・技術学Ⅰ・4単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅱ・2単位・4年・前期

7. 社会貢献活動

- ・NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会理事・広報事業部員
- ・母乳育児支援を学ぶ北海道教室事務局
- ・母乳育児支援を学ぶ九州教室事務局
- ・九州母乳育児支援セミナー 代表

〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉

- ・コミュニケーションスキルトレーニング in 福岡(2014.4.5-6)
- ・平成26年度第1期20時間基礎セミナー (2014.5月～7月)
- ・平成26年度第2期20時間基礎セミナー (2014.9月～11月)
- ・第36回母乳育児学習会 in 仙台(2014.6.21-22)
- ・第10回医師のための母乳育児支援セミナーin つくば (2014.10.11-10.12)
- ・第10回母乳育児支援を学ぶ九州教室 (2014.10.18)
- ・第37回母乳育児学習会 in 東京(2015.1.25)
- ・第4回母乳育児支援20時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科 (2014.7.19～7.21)
- ・第12回IBCLCのための母乳育児カンファレンス in 京都 (2015.3.7-8)
- ・第11回母乳育児支援を学ぶ九州教室 (2015.2.7)

8. 学外講義・講演

- ・小林絵里子他. (2014). クリニカルスキル・ワークショップ ファシリテーター. 第10回医師のための母乳育児支援セミナーin つくば
- ・小林絵里子他. (2014). 第4回母乳育児支援20時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科 ファシリテーター
- ・小林絵里子. (2014). 第1回～第4回東野産婦人科医院新生児蘇生法講習会「専門」コース インストラクター
- ・小林絵里子. (2014). 第3回～第5回福岡県立大学新生児蘇生法講習会「専門」コース インストラクター

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・母乳育児支援 20 時間基礎セミナー（第 1 期：2014.5～7, 第 2 期：2014.9～11）
- ・第 5 回健康大使セミナー（2014.9.19）
- ・第 10 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 田川（2014.10～11）
- ・第 10 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2015.3.1）
- ・第 19 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2014.1～3）
- ・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」主催 第 3 回、第 4 回新生児蘇生法講習会（2014.9.4,2015.3.3～4）

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	坂田 志保路
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は「自殺と自殺予防に関する研究」に取り組んでいます。現在は、特に‘自殺問題を抱えている患者さんやご家族の方々が、病院内だけではなく退院後の地域生活においても、安心して少しでも自分らしく生活していくことができるような、継続的、実践的、具体的な看護ケアを通じた自殺予防’について探究しています。自殺問題やこの問題の解決に向けた取り組みに関心のある方々などと共に交流し、意見交換をはかりながら検討していきたいです。

2. 研究業績

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 櫛直美, 安酸史子, 吉田恭子, 中野榮子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 小森直美, 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小野美穂. (2012.12). 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 第 32 回日本看護科学学会学術集会プログラム集.
- ・ 小森直美, 安酸史子, 安永薫梨, 江上史子, 中野榮子, 松枝美智子, 渡邊智子, 櫛直美, 小野美穂, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子. (2012.12). 経験型実習教育における有効性の検討—卒業生(現役看護師)に対するグループインタビュー調査に実施と結果: 第 1 報. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 第 32 回日本看護科学学会学術集会講演集, 78.
- ・ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 櫛直美, 小森直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小野美穂. (2012.12). 経験型実習教育研修プロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 第 32 回日本看護科学学会学術集会講演集, 78.
- ・ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 櫛直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2012.3). 経験型実習教育研修プログラムの効果: 研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較. 第 14 回日本教師学学会, 秋田, 日本教師学学会第 14 回大会発表要旨集, 54.
- ・ 浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 櫛直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2012.3). 経験型実習教育研修プロジェクト学習の有効性の検討—実習の中間ポートフォリオを活用した学習による体験から—. 第 14 回日本教師学学会, 秋田, 日本教師学学会第 14 回大会発表要旨集, 24.
- ・ 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 櫛直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. (2012.3). 経験型実習教育における学生の学びの内容—3 年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 第 14 回日本教師学学会, 秋田, 日本教師学学会第 14 回大会発表要旨集, 20.
- ・ 坂田志保路, 浅井初, 江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 清水夏子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 櫛直美, 吉田恭子, 小野美穂. (2012.3). 経験型実習教育の有効性の検討—4 年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 第 14 回日本教師学学会, 秋田, 日本教師学学会第 14 回大会発表要旨集, 22.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 坂田志保路. (2014.11). 経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授 - 学習活動との関連. 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 第 34 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 31.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 坂田志保路. (2014.11). 経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由. 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 第 34 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 31.

- ・松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 坂田志保路. (2014.11). 経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思うことに関連する要素. 第34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 第34回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 31.

〈著書〉

坂田志保路、精神看護学執筆分担. 看護師国家試験過去問題 2013 年. メディカ出版.

③過去の主要業績

- ・坂田志保路、西片久美子. (2007.7). 「老人の自殺や自殺予防に関する文献レビュー」. 第33回日本看護研究学会, 岩手, 日本看護研究学会会誌, 30 (3), 127.
- ・坂田志保路. (2009.6). 「自殺企図を繰り返す患者に対する病棟・外来での看護ケアに関する文献レビュー」. 日本精神保健看護学会第19回学術集会, 東京, 第19回総会・学術集会プログラム・抄録集, 38.
- ・坂田志保路(2011). 自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟での予防的看護介入の検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文.
- ・坂田志保路. 自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟での予防的看護介入の検討. (2011.8). 第37回日本看護研究学会学術集会. 横浜, 日本看護研究学会雑誌34(3), 220.

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究補助金(若手研究B), 「自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟での予防的看護介入の検討」, 平成25年度～平成27年度, 研究代表者: 坂田志保路

4. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本精神保健看護学会, 日本看護協会, 日本教師学学会

5. 担当授業科目

精神看護学概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期、精神看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

6. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	佐藤 繭子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了（看護学修士）し、現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、母親が正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内的変容. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 63-70.
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドゥーラ体験. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 43-52.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2012). 助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 53-62.

②その他最近の業績

〈教材開発〉

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践. 2012年 (DVD)

〈学会発表〉

- ・佐藤繭子. (2015). 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題, 第12回IBCLCのための母乳育児カンファレンス, 京都.
- ・佐藤繭子, 小林絵里子, 佐藤香代. (2014). 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題, 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・新友子, 古田祐子, 佐藤繭子. (2012). 布ナプキンワークショップが女子大学生の月経観に及ぼす影響について. 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 米倉圭介. (2012). 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果 第2報: 便秘傾向妊婦と非便秘妊婦との比較. 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- ・安河内 静子, 佐藤香代, 佐藤繭子, 左座祥子, 藤田起代美, 東田江実, 熊丸真理. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の変容過程: サポーターとの相互作用. 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- ・田中里美, 佐藤香代, 佐藤繭子, 乙須怜奈. (2012). 母乳育児を1か月間継続した母親の体験 第1報: 母親が安心感を得た助産師のケア. 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.
- ・乙須 怜奈, 佐藤香代, 佐藤繭子, 田中里美. (2012). 母乳育児を1か月間継続した母親の体験 第2報: 母乳育児継続に関わった要因の分析. 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡.

- ・小林絵里子, 佐藤繭子, 佐藤香代. (2013). 母乳育児支援学習コースの受講者による評価, 第27回日本助産学会学術集会, 石川.

③過去の主要業績

〈学術論文〉

佐藤繭子. 助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2011年3月.

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(若手研究B), 「布製ナプキン使用による女子学生の心身への影響」416万円(平成24年~26年度)

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母乳哺育学会, 日本助産師会, 思春期学会, 日本母性衛生学会, 日本ラクテーション・コンサルタント協会 IBCLC 会員 出版・販売事業部員

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護実践論・1単位・3年・通年, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 基礎助産学Ⅱ・1単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅰ・4単位・4年・前期, 助産診断・技術学Ⅱ・4単位・4年・前期, 助産実習Ⅰ・7単位・4年・前期, 助産実習Ⅱ・2単位・編入4年・通年

〈大学院〉

助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員
- ・母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営
- ・子育てサークル「手作りママの会 in 福岡」主宰
- ・〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉
- ・平成26年度第1期20時間基礎セミナー(2014.5月~7月)
- ・平成26年度第2期20時間基礎セミナー(2014.9月~11月)
- ・第10回母乳育児支援を学ぶ九州教室,アクロス福岡,2014.10.18,福岡市
- ・第11回母乳育児支援を学ぶ九州教室,あいろん福岡,2015.2.7,福岡市

8. 学外講義・講演

- ・平成26年度第1期20時間基礎セミナー(2014.5月~7月) ファシリテーター,福岡市
- ・平成26年度第2期20時間基礎セミナー(2014.9月~11月) ファシリテーター,福岡市
- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2014.9.7,福岡市
- ・「補完食(離乳食)・断乳&卒乳どうすればいい?」講師.博多大丸,2014.9.28,福岡市
- ・「仕事やお出かけする時はどうする?母乳育児中の職場復帰&外出時の工夫」講師.博多大丸,2014.10.5,福岡市
- ・「布ナプキンワークショップ」講師,2014.10.11,北九州市
- ・ふくおか結婚応援リーダー養成セミナー「出産・子育ての現実と課題」講師,北九州市立商工貿易会館,2014.10.14,北九州市.
- ・性の健康に関する事業「布ナプキンって?」講師.附属研究所,2014.10.15.田川市

- ・ふくおか結婚応援リーダー養成セミナー「出産・子育ての現実と課題」講師, イイツカコモン, 2014.10.23, 飯塚市.
- ・ふくおか結婚応援リーダー養成セミナー「出産・子育ての現実と課題」講師, アクア福岡, 2014.10.25, 福岡市.
- ・「母乳育児のお悩み相談室～乳腺炎・ビタミンD・鉄・虫歯～」講師.博多大丸,2014.10.26,福岡市
- ・ふくおか結婚応援リーダー養成セミナー「出産・子育ての現実と課題」講師, 久留米ホテルエスプリ, 2014.11.10, 久留米市.
- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2014.11.30, 福岡市
- ・「断乳&卒乳（職場復帰）&外出時の工夫」講師.博多大丸,2014.12.14,福岡市
- ・「補完食（離乳食）どうすればいい？&ビタミンD・鉄・虫歯」講師.博多大丸,2014.12.21,福岡市
- ・「断乳&卒乳（職場復帰）&外出時の工夫」講師.博多大丸,2015.1.25,福岡市
- ・「補完食（離乳食）どうすればいい？&ビタミンD・鉄・虫歯」講師.博多大丸,2015.2.8,福岡市
- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2015.2.15, 福岡市
- ・「断乳&卒乳（職場復帰）&外出時の工夫」講師.博多大丸,2015.3.15,福岡市

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・母乳育児支援 20 時間基礎セミナー（第 1 期 2014.5～7, 第 2 期 2014.9～11）
- ・第 5 回健康大使セミナー（2014.9.19）
- ・第 10 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 田川（2014.10～11）
- ・第 19 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.1～3）
- ・第 10 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2015.3.1）
- ・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」
- ・月経の健康に関する事業

所属	看護学部／臨床看護看護学系	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了し、12月にがん看護専門看護師を取得しました。その後、超高齢社会である筑豊地域にある医療機関で5年間、がん看護専門看護師として活動してきましたが、「がん」と共に生きるだけでなく、「若い」を生きる人、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの必要性と困難さを痛感するとともに、ケアの喜びを実感してきました。高齢者が尊厳をもって生を全うするためには、家族や医療者の代理意思決定だけでなく、たとえ認知機能が低下していても、高齢者自身を尊重し、安心して意志を表現できるように過程を支えることが必要です。

今後も若いや病をもちながらも高齢者がその人らしく生活できるようにどのような支援が必要であるか、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフに関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①過去の主要業績

<学会報告>

- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊 智子. (2012). 終末期がん患者の意思決定への支援 意思決定内容とプロセスからの考察, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根.
- ・ 廣瀬 理絵, 伊福 セツ子, 藤本 弘美, 渡邊 智子. (2012). 医療チームとしての課題～がん相談内容からの分析～, 日本看護倫理学会 第5回年次大会, 東京.
- ・ 廣瀬 理絵, 伊福セツ子, 渡邊智子. (2013). がん看護専門看護師のコーディネーション～チーム医療の実践内容からの分析～, 日本看護倫理学会第6回年次大会, 鹿児島.

<過去の業績>

- ・ 廣瀬 理絵. (2009). 乳癌術前後化学療法中の患者に対する心理・社会的グループ療法の有効性—前向きな療養態度を獲得していく契機とその要因—. 福岡県立大学大学院 修士論文.
- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊智子, 小島リヨ子, 浦田真澄美, 藤本弘美. (2010). 一般病棟における緩和ケアに携わるリンクナースのサポートシステムづくり リンクナースへの教育と啓発にむけての現状分析, 第40回日本看護学会論文集:看護管理, 51-53.
- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊 智子, 藤本 弘美, 安永 一美, 伊福 セツ子, 小島リヨ子. (2010). リンクナースの教育と啓蒙に向けたサポートシステムの構築, 看護展望, Vol35 (9), 0842-0847.
- ・ 廣瀬 理絵. (2010). がん看護専門看護師としての活動, 福岡県病院協会, ほすびたる (No. 630), 4-6.

5. 所属学会

公益社団法人福岡県看護協会, 公益社団法人日本看護協会, 一般社団法人日本がん看護学会, 特定非営利活動法人日本緩和医療学会, 日本 CNS 看護学会, 日本看護倫理学会, 日本健康支援学会, 日本老年看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

老年看護学概論・1単位・2年・前期、老年看護学・2単位・2年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1単位・2年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3~4年・後期~前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

コンサルテーション論・2単位・修士1年・前期, 終末期高齢者看護論・2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅰ・2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅱ・3単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・一般財団法人福岡県社会保険医療協会 社会保険田川病院 がん看護研修会企画・実地責任者
- ・「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会 ELNEC-J IN 筑豊」

8. 学外講義・講演

- ・LNEC-J 看護師教育プログラム研修会, 福岡大学病院 講師・ファシリテーター
- ・LNEC-J 看護師教育プログラム研修会, 聖マリア病院 講師・ファシリテーター
- ・LNEC-J コアカリキュラム看護師プログラム研修会, 国家公務員共済組合連合会 浜ノ町病院 講師・ファシリテーター
- ・第31回筑豊地区看護研究発表会、座長

9. 附属研究所の活動等

- ・筑豊市民大学 ヘルシー・エイジングゼミ
- ・福岡ヘルシー・エイジングケア研究会
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	政時 和美
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学領域の教育に携わっている。主な研究分野は教育に関する研究で、特にがん教育やリンパ浮腫に関する研究を行っている。2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、リンパ浮腫に関する知識と技術を取得した。

今後は、「リンパ浮腫」を通じて、弾性ストッキングや退院指導などの研究も行う予定である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・伊藤紗弥香,百瀬華子,宮下幸恵,越由香里,加藤祐美子,橋本みづほ,政時和美,北條佐智子：平成22年度当院看護師のがん看護学習ニーズに関する調査,信州大学医学部附属病院看護研究集録,2010
- ・松枝美智子,坂田志保路,安永薫梨,浅井初,梶原由紀子,北川明,中野榮子,安酸史子,安田妙子,政時和美,松井聡子：精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討：因子分析と信頼性の検証,福岡県立大学紀要,2011
- ・政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子：A地区におけるAEDの配置に関する調査研究,福岡県立大学看護学部紀要,2015
- ・松井聡子,政時和美,杉野浩幸,村田節子,中井裕子：視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～,福岡県立大学看護学部紀要,2015

②その他最近の業績

<示説>

- ・山崎章恵,橋本みづほ,政時和美,北條佐智子,青柳美恵子,篠原弘恵,高橋良恵,塩原真弓：学生のピア学習とユニフィケーションを生かした学生支援による卒業前技術研修の効果,第41回日本看護学会,2010
- ・政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子：A地区におけるAED設置調査,第40回日本看護研究学会,2014
- ・政時和美,笹野莉奈,村田節子,中井裕子：過疎地域におけるAED設置の問題点,第34回日本看護科学学会,2014

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護論・2単位・2年・後期、成人急性看護学実習・3単位・3年～4年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年～4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学がん看護勉強会（リンパ浮腫）
- ・西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム分科会（乳がん担当）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉川 未桜
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護職による子育て支援に関する研究を行っている。子どもと家族が心身共に健康に過ごし、健やかな成長発達へと結びつぐための看護職によるよりよい子育て支援に向け、現代の子育てを取り巻く環境や現象・養育者の方々のニーズ、地域子育て支援の現場における看護職の役割や専門性、望ましい役割モデルを探究している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み。福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号。2014。

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討。第 19 回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会。熊本。2014。
- ・青野広子・田中美樹・吉川未桜・宮城由美子：小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討。第 19 回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会。熊本。2014。
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み。第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会。熊本。2014。
- ・宮城由美子・柏原やすみ・吉川未桜・田中美樹・青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究。第 16 回日本子ども健康科学学会。京都。2014。
- ・田中美樹・青野広子・吉川未桜・宮城由美子：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション。第 24 回日本外来小児科学会。大阪。2014。
- ・吉川未桜・田中美樹・宮城由美子：看護学生が絵本の読み聞かせを通して学ぶ子どもの発達 - 保育所実習を通して -。第 18 回日本保育園保健学会。東京。2012。
- ・吉川未桜・田中美樹・宮城由美子：小児看護実習で絵本の読み聞かせを行った学生の学び - 保育所実習のレポートから -。第 32 回日本看護科学学会。東京。2012。
- ・宮城由美子・吉川未桜・田中美樹・柏原やすみ：保育士と看護職と協働で行う健康保育～保育士からみた健康保育の効果～。第 14 回日本子ども健康科学学会学術集会。東京。2012。
- ・田中美樹・吉川未桜・柏原やすみ・宮城由美子：保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援。第 14 回日本子ども健康科学学会学術集会。東京。2012。

<報告>

宮城由美子・田中美樹・吉川未桜・柏原やすみ：「子どもの健康見守り隊システムの構築」。新生活産業くらぶ FUKUOKA シーズ発表会。福岡市。2012。

<その他執筆>

- ・吉川未桜。小児看護学執筆分担。2014 年度 必修問題トレーニングテスト メディカコンクール解答・解説集。メディカ出版。2013 年。
- ・吉川未桜。小児看護学執筆分担。第 102 回 看護師国家試験問題解説。メディカ出版。2013 年。
- ・吉川未桜。小児看護学執筆分担。第 101 回 看護師国家試験問題解説 iOS/android アプリ。メディカ出版。2012 年。
- ・吉川未桜。小児看護学執筆分担。2013 年受験者対象 基礎学力到達度チェックテスト。メディカ出版。2012 年。
- ・吉川未桜。小児看護学執筆分担。2013 年受験者対象 第 1 回看護師国家試験対策テスト。メディカ出版。2012 年。

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（若手研究 B）研究代表者，「看護職の専門性を効果的に発揮する子育て支援者コンピテンシーに関する研究」，156 万円，平成 24 年度～平成 26 年度。

5. 所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

6. 担当授業科目

小児看護学・2 単位・2 年・後期、小児看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1 単位・3～4 年・後期～前期、小児看護学実習・2 単位・3～4 年・後期～前期、統合実習（小児）・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・後期

8. 学外講義・講演

- ・吉川未桜. 出前講義「子どもへの看護について」講師. 博多高等学校. 2014 年 9 月 6 日
- ・吉川未桜. 平成 26 年度田川市子育てボランティア養成講座「乳幼児の心と身体の発達」講師、田川市. 2014 年 11 月 13 日
- ・吉川未桜. 健康保育(年中クラス). 三萩野保育園年 5 回、北方保育所年 5 回. 北九州.
- ・田中美樹・青野広子・吉川未桜・宮城由美子. 小児科外来看護師さんの井戸端会議. 2015 年 3 月 14 日. 田川.
- ・宮城由美子・田中美樹・青野広子・吉川未桜: 保育看護学習会. 「不慮の事故への対応 - 誤飲と誤嚥を中心に」2014 年 9 月 16 日. 北九州.
- ・宮城由美子・田中美樹・青野広子・吉川未桜: 保育看護学習会 in 田川. 「慌てないで・・・アナフィラキシーが起こったら」2014 年 7 月 17 日, 「不慮の事故への対応 - 誤飲と誤嚥を中心に」2014 年 9 月 17 日. 田川.
- ・宮城由美子・田中美樹・青野広子・吉川未桜: 保育士学習会. 「不慮の事故への対応 - 事故防止・救急・アナフィラキシー」2014 年 6 月 28 日. 田川.

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員
- ・不登校ひきこもり・サポートセンター運営部会員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 静
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている。

特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。今後は対象を日本人を含むアジアなど視野を広げてグリーフケアを模索していきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要予定
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドゥーラ体験. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 43-52.
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内的変容. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 63-70.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2012). 助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 53-61.

〈その他執筆〉

- ・仲道由紀, 川口弥恵子, 吉田静, 松原まなみ. (2014). 助産師が認識した自己の現状と課題・未来像 ワールド・カフェ形式ワークショップ後のKPT法を用いた振り返りから. 助産雑誌, 68(9), 808-816.
- ・松原まなみ, 菱川和江, 西本サチ子, 田中啓子, 大牟田智子, 澁谷貴子, 仲道由紀, 吉田静, 阿部聖子, 浜崎ヨシ子, 平田伸子. (2014). 参加型ワールドショップ「ワールド・カフェ」から得られたもの. 助産雑誌, 68(8), 700-706.
- ・吉田静. 助産師としてグリーフプログラムに参加して, 助産師教育ニュースレター第77号, 東京: 公益社団法人全国助産師教育協議会発行, 2012年.

②その他最近の業績

〈教材開発〉

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年.

〈学会発表〉

- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子. 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究—企画プログラムの検討とその有用性の検証—. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」展開時の課題—A病院助産師へのアンケート調査より—. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・林千絵, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子. 死産を体験した母親の次子妊娠の体験. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・林千絵, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子. 死産を体験した母親の次子出産・育児の体験. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.

- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. 中国における女子大学生の食文化ー中国の文化・教育と食の実態との関連ー. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten .Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean. ICM30th Triennial Congress, Prague.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」の実践報告. (2014). 第70回日本助産師学会, 福岡.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 増田匡裕. 子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りーアンケート調査結果よりー. (2013). 第54回母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・吉田静, 佐藤香代, 松岡百子, 安河内静子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 小林絵里子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験. (2013). 第54回母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. 中国における妊婦の食生活 (第1報). (2013). 第54回母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子. 中国における妊婦の食生活 (第2報). (2013). 第54回母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・川口弥恵子, 仲道由紀, 吉田静, 松原まなみ. 助産師自身が認識した自己の現状と課題ーワールド・カフェ形式のワークショップ後の振り返りの分析ー. (2013). 第54回母性衛生学術集会, 埼玉.
- ・鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査ー産科を標榜する病院・診療所を対象としてー. (2013). 第27回日本助産学会学術集会, 石川.
- ・田嶋比紗乃, 吉田静, 佐藤香代. 日本におけるおむつの変遷. (2013). 第27回日本助産学会学術集会, 石川.
- ・吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」におけるドゥーラ体験の評価. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・松村香代子, 佐藤香代, 吉田静. 「身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス」に参加した初産婦の変化. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 佐藤繭子, 吉田静, 小林絵里子, 鳥越郁代, 米倉圭介. 妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果 第2報ー便秘傾向妊婦と非便秘妊婦との比較ー. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・古田祐子, 吉田静. 十代妊婦の家事遂行能力への影響要因. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・木原杏奈, 佐藤香代, 吉田静. 第一次反抗期にあたる子どもへのしつけの実態と母親の心理. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・鳥越郁代, 吉田静. 帝王切開後の出産選択を考えるセミナーの開催と評価ー参加者の視点からー. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.

③過去の主要業績

- ・吉田静, 佐藤香代. 子どもを喪失した夫婦に携わる看護者の学習ニーズ. (2011). 第52回母性衛生学術集会, 京都.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 藤木久美子. 身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナーにおけるドゥーラ体験の評価. (2011). 第52回母性衛生学術集会, 京都.
- ・吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

3. 外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金（若手研究 B），「東アジアにおける子どもを喪失した夫婦へのケアの検討」，351 万円，平成 23 年度～平成 26 年度.

5. 所属学会

日本助産学会、日本母性衛生学会、日本家族看護学会、日本死の臨床研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2 単位・2 年・後期，女性看護実践論・1 単位・3 年・通年，女性看護実習・2 単位・3 年・通年，女性看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1 単位・3～4 年・通年，女性看護学実習・2 単位・3～4 年・通年，基礎助産学Ⅱ・1 単位・4 年・前期，助産診断・技術学Ⅰ・4 単位・4 年・前期，助産診断・技術学Ⅱ・1 単位・4 年・前期，助産実習Ⅰ・7 単位・4 年・通年，助産実習Ⅱ・2 単位・編入 4 年・通年

7. 社会貢献活動

- ・平成26年公益社団法人度日本助産師会通常総会、第70回日本助産師学会（2014.5.22～5.24）
- ・第 6 回健康大使セミナー（2014.9.19）
- ・第 15 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2012.1～3）
- ・久留米大学病院病院医療者セミナー（2015.1.24）
- ・アメリカでのホリスティック医療の現状と母と子のヒーリングタッチセミナー（2015.2.17）
- ・大切な人を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会 わたしの大切な想いを語る（2015.2.28）
- ・第 10 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2015.3.1）
- ・母と子どもを護る多職種の会シンポジウム（2015.3.15）

8. 学外講義・講演

福岡県公立古賀竟成館高校同窓会設立 50 周年記念事業 ようこそ先輩（2015.9.20）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	青野 広子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として小児医療センター、小児歯科等において小児看護に携わったのちに看護学修士を取得し、2014年度より本学に着任する。血友病をはじめとした、慢性疾患をもつ子どもの生活支援に関する研究に取り組んでいる。慢性疾患をもつ子どもとその家族が、体調をコントロールしながら日常生活を送り、社会参加に取り組むための支援について探究したいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・青野広子：血友病をもつ思春期の子どもの病気に伴う体験・九州大学大学院保健学
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み.福岡県立大学看護学部紀要 12 (1) .2014

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・茂順子・長葵・請島美紀・小山直美・江頭うらら・宮下愛・青野広子・河口麻美・稲光まゆみ(医)・稲光毅(医)：乳幼児健診・安全指導を通して考える-小児外来看護師としての役割-第23回日本外来小児科学会.福岡.2013
- ・青野広子・濱田裕子・藤田紋佳：血友病をもつ思春期の子どもの病気に伴う体験.第24回日本小児看護学会学術集会.東京.2014
- ・青野広子・田中美樹・吉川未桜・宮城由美子：小児看護学外来実習で“受け持ち親子制”を取り入れた学習効果の検討.日本看護研究学会.2014
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討.日本看護研究学会.2014
- ・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・青野広子・池隅好乃・山田智子・岡田久美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター.第24回日本外来小児科学会.2014
- ・宮城由美子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究.第16回日本子ども健康科学会.2014

〈研究会報告〉

- ・津々浦里美・青野広子・井ノ口美和：血友病指導マニュアル改訂とその効果.第54回日本小児血液がん学会学術集会看護セッション・血友病看護フォーラム.神奈川.2012
- ・青野広子・斎藤里香・井ノ口美和：血友病患者の口腔ケアに対する支援-歯科衛生士と協働した患者指導の取り組み-.第53回日本小児血液がん学会学術集会看護セッション・血友病看護フォーラム.群馬.2012

〈学会セッション司会など〉

- ・第23回日本外来小児科学会・コメディカルミーティング司会.福岡.2013
- ・第11回日本小児がん看護学会ワークショップ・ファシリテーター.福岡.2013

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費助成事業・研究分担者、「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」,2014～2016

5. 所属学会

日本小児看護学会・日本小児がん看護学会・日本看護研究学会・小児保健協会・障害者歯科学会・血友病看護研究会

6. 担当授業科目（補助）

小児看護学概論・小児看護学演習ⅠⅡ・小児看護学実習ⅠⅡ・小児看護学ゼミ

7. 社会貢献活動

- ・九州血友病患者サマーキャンプ医療スタッフ
- ・NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト正会員

〈イベント・講演会スタッフ〉

- ・第1回ひつじのわ（家族の体験に学ぶカフェセミナー）
- ・第2回ひつじのわ（家族の体験に学ぶカフェセミナー）
- ・ダンスワークショップ「不思議な世界への旅」
- ・上智大学名誉教授アルフォンスデーケン先生講演会「いのちの教育」

8. 学外講義・講演

- ・九州血友病患者会サマーキャンプ「血友病をもちながらの生活」熊本
- ・保育看護学習会「子どもの”けいれん”への対処とは？」北九州
- ・保育看護学習会「慌てないで・・・アナフィラキシーが起こったら」北九州市・田川市2か所で開催
- ・保育看護学習会「40年間子どもの死因トップ！不慮の事故への対処“誤飲”と“誤嚥”を中心に」北九州市・田川市・田川郡3か所で開催
- ・高等学校出前講義「子どもへの看護」豊前市

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	松井 聡子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学病院内科系病棟で7年間勤務する。2009年から2年間本学にて臨時職員として勤務する。2013年3月に福岡県立大学大学院修士課程修了後、同年4月より本学に着任し、成人看護学領域の教育に携わっている。

演習での看護技術習得に加え、臨地実習での実践スキル向上を目指し、eラーニングシステムを活用して自宅や実習場所で学習が行えるような環境づくりを進めています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子. 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～. 福岡県立大学紀要, 2015.
- ・政時和美, 松井聡子, 笹野莉奈, 村田節子, 中井裕子. A地区におけるAEDの配置に関する調査研究. 福岡県立大学紀要, 2015.

<報告書>

平成 21 年度採択「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想プロジェクト 平成 23 年度中間報告書, 177-178 頁, 2012. 3.

<その他執筆>

放送大学看護師国家試験学習支援ツール, 放送大学, 2012 年.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. (2014). A地区におけるAED設置調査. 日本看護研究学会第40回学術集会. 奈良県民文化会館. 奈良.
- ・清水夏子, 石田智恵美, 松井聡子, 安酸史子. (2013). 看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討. 第33回日本看護科学学会学術集会. 大阪国際会議場. 東京.
- ・北川明, 山住康江, 小野美穂, 江上千代美, 松浦江美, 生駒千恵, 石田智恵美, 松井聡子, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 安酸史子. (2012). 慢性疾患セルフマネジメントプログラム参加者のベースラインデータによる不安抑うつ状態に関する研究. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京国際フォーラム. 東京.
- ・山住康江, 北川明, 小野美穂, 江上千代美, 松浦江美, 生駒千恵, 石田智恵美, 松井聡子, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 安酸史子. (2012). 慢性疾患セルフマネジメントプログラム参加者のベースラインデータによるストレス対処能力(SOC)に関する研究. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京国際フォーラム. 東京.
- ・安酸史子, 北川明, 山住康江, 小野美穂, 松浦江美, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 上野治香, 石田智恵美, 生駒千恵, 松井聡子, 武田飛呂城. (2012). 慢性疾患患者の自己管理支援について～慢性疾患セルフマネジメントプログラムの評価研究～(交流集会). 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京国際フォーラム. 東京.
- ・中嶋恵美子, 塚原ひとみ, 吉武美佐子, 松岡緑, 稲垣絹代, 横川裕美子, 石川幸代, 坂井邦子, 樫本和代, 生野繁子, 嘉手苺栄子, 宮里智子, 砂川洋子, 照屋典子, 儀間継子, 松井聡子, 北川明, 松浦賢長, 安酸史子. (2012). 臨地実習指導者研修会参加後の認識・行動の変化—九州沖縄看護系14大学によるケアリングCSD実践—. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京国際フォーラム. 東京.

<その他>

安酸史子監修, 北川明編集, 松井聡子. (2012). 看護師国試対策 合格パプリ 2013 (iOS/Android版). メディカ出版株式会社

③過去の主要業績

<著書>

松枝美智子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，松井聡子：精神看護学. 安酸史子，北川明編，佐藤香代監修：看護師国家試験過去問題「できる」「できない」カード式仕分け Book2012 年. メディカ出版，2011.

<論文>

松枝美智子，坂田志保路，安永薫梨，浅井初，梶原由紀子，北川明，中野榮子，安酸史子，安田妙子，政時和美，松井聡子：精神科超長期入院患者の復帰援助レディネス尺度の検討：因子分析と信頼性の検証. 福岡県立大学紀要，2011.

5. 所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護学教育学会

6. 担当授業科目(補助)

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年前期，成人急性看護学・2単位・2年後期，成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期，成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年前期，成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期，専門看護学ゼミ・2単位・4年前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年通年，卒業研究・2単位・4年後期

7. 社会貢献活動

福岡県立大学がん看護勉強会（補助）

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形 由起子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了。保健師として福岡県庁に勤務後、2004年、本学看護学部地域看護学領域に着任。2009年看護学部ヘルスプロモーション看護学教授に就任。

現在、少子高齢化の進展において、高齢者の地域における療養をささえる地域看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には、①介護予防サービスの質の評価方法②保健師による介護予防のケアシステム構築の検証③医療依存度の高い人々が在宅療養継続のための地域づくりと多職種連携について、主な研究テーマとしている。

わが国の進展化する高齢社会における地域において、独居でねたきりになっても安心して、住み慣れた地域で暮らし続けることができるためのシステムを看護職や福祉職の方々と一緒に検証し、実践的な研究をふまえ、地域での健康課題の解決方法を明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・尾形由起子, 北林恭子, 内山弘子, 阿部久美子, 香月進, 他, 保健所モデルから医師会主導へバトンタッチ在宅医療推進から地域包括ケアシステム構築を目指してー, 地域保健, 第45巻2号, 2014
- ・榎直美, 尾形由起子, 田淵康子, 横尾美智代, 家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学紀要、第11巻2号,2014
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和, 地域と協働で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価, 福岡県立大学看護学部紀要11(2),2014
- ・山口のり子, 尾形由起子, 樋口善之, 松浦賢長, 「子育ての社会化」についての研究 ソーシャル・キャピタルの視点を用いて 日本公衆衛生学会誌 60(2),2013
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和 A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討ー「保健師教育の記述項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価からー, 福岡県立大学看護学部紀要10(2), 2013
- ・石飛マリ子, 越田美穂子, 尾形由起子, 地域で親と同居している男性統合失調患者が「自立」に向かうプロセス, 日本看護研究学会38(5), 2013
- ・尾形由起子, 山下清香, 檜橋明子, 地域在宅医療推進における保健師の調整技術の検討 福岡県立大学看護学部紀要 10(2),2013
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討 10(2),2013
- ・尾形由起子, 井上千津子・澤田信子・白澤政和・本間昭編著「介護を必要とする人々への理解」および「介護課題解決のための方法論」第2章～第3章. ミネルウァ書房, 『介護課程』2012

②その他最近の業績

<報告書>

- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 本郷秀和, 村山浩一郎, 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究, 平成26年度福岡県立大学研究奨励交付金プロジェクト研究報告, 2014
- ・尾形由起子, 福津市健康に関する市民意識調査報告書, 2013
- ・榎直美, 尾形由起子(研究分担者), 通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究(基盤C)2013
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 福智町日常生活圏域ニーズ調査報告書, 2012

<シンポジウム>

- ・尾形由起子, 香月進, 座長「地域包括ケアシステムにむけて」- 在宅医療を推進するためのこれまでの取り組みと展望 -, 第19回日本在宅ケア学会, 2014

<学会発表>

- ・尾形由起子, 岡田麻里, 櫛直美, 野口忍, がんの終末期療養者配偶者が行った「在宅看取り」に向かうセルフマネジメントプロセス, 第19回日本在宅ケア学会, 2014
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, 在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師調整プロセスの検討, 第2回日本公衆衛生看護学会, 神奈川, 2014
- ・小野順子, 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—, 第2回日本公衆衛生看護学会, 神奈川, 2014
- ・櫛直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美智代, 家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連」第18回日本在宅ケア学会, 東京, 2014.
- ・櫛直美, 尾形由起子, 田渕康子・横尾美智代, 家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」第39回日本看護研究学会, 秋田, 2013
- ・石飛マリ子, 越田美穂子, 尾形由起子, 地域で親と同居している男性統合失調症患者が「自立」に向かうプロセス, 日本看護研究学会, 秋田, 2013
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, 保健師教育の技術項目と卒業時の到達度に対する自己評価と到達率, 日本公衆看護学会, 東京, 2013
- ・尾形由起子, 岡田麻里 山下清香 櫛直美 林さやか, 地域住民へのエンドオブライフ選択のための支援方法の検討, 第72回日本公衆衛生学会, 三重, 2013
- ・四元照美, 笠島健一, 尾形由起子, 施設での看取り教育の取り組み - 地域在宅推進における保健所の役割機能 -, 第72回日本公衆衛生学会, 三重, 2013
- ・林真二, 三徳和子, 真崎直子, 岡本和士, 尾形由起子, 軽度介護保険認定者の疾患と介護度悪化に関する研究, 第72回日本公衆衛生学会, 三重, 2013
- ・岡田麻里, 尾形由起子, 野口忍, 在宅看取りを望む終末期がん患者と家族を支援した訪問看護師のケア内容 - 満足な看取りをした2事例の分析, 第33回日本看護科学学会, 大阪, 2013
- ・櫛直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美智代, 家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連, 第33回日本看護科学学会, 大阪, 2013.
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 木村てるみ. 産後の母親の育児に対する気持ちと支援の必要性—乳幼児健診結果から—. 第1回日本保健師学術集会. 2012
- ・尾形由起子, 檜橋明子, 山下清香, 伊藤順子, 地域医療推進における保健所保健師の会議企画運営技術の検討, 日本公衆衛生学会, 山口, 2012,

3. 外部研究資金

- ・地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発, 文科省科学研究(基盤C) 2013, 研究代表者
- ・通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究(基盤C) 2013, 研究分担者

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本学校保健学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、公衆衛生看護アセスメント論・1単位・3年・後期、地域看護実践論・4年編入生・1単位・通年、地域看護実習A-II・2単位・4年・前期、地域看護実習B・4年・後期

〈大学院〉

地域看護学特別研究・2単位・修士1年・前期、地域看護学特別演習・2単位・修士1年・後期、看護研究法・2単位・修士1年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員（H20年～現在に至る）
- ・地域在宅医療推進協議会会員（2ヶ所：京築保健福祉環境事務所、嘉穂保健福祉環境事務所、）
- ・福岡県地域保健従事者人材育成検討会委員（～平成26年度）
- ・宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会（平成24年度～現在に至る）
- ・グループホーム外部評価審査員（平成18年度～現在に至る）
- ・公益社団法人福岡県看護協会複合型サービス準備・運営委員会委員（平成25年度～現在に至る）
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成25年度～現在に至る）

8. 学外講義・講演

- ・嘉穂管内多職種研修会・京築管内施設看取り研修会・宗像医師会在宅医療連携拠点事業シンポジウム・福岡県看護実習指導者講習会・遠賀中間医師会在宅医療研修会・京築地域多職種研修会・豊前地域多職種研修会・福岡県公衆衛生看護指導者研修会・九州労災病院研修会
- ・出前講義（古賀竟成館高等学校，八幡高等学校）

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター事業
- ・地域在宅医療多職種研修会（2014.12.25，2015.1.24）

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦 賢長
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度からは，不登校・ひきこもりサポートセンター長。

母子保健学：学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（平成22年）の委員を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画した。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の場から得られる情報の利活用システムの新規開発についても，グランドデザインから関わっている。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を拝命した。現在は，福岡市のこども子育て審議会副委員長，北九州市の思春期保健連絡会会長を拝命している。

※平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催した。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の政策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査を担当した。

※平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

- ・ 荒堀憲二，松浦賢長（編著）．（2012.4）．性教育学（初版）．東京：朝倉書店．

- ・山縣然太朗, 松浦賢長, 山崎嘉久 (編著) . (2011.7) . 学校における思春期やせ症への対応マニュアル (初版) . 東京 : 少年新聞社.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築 : 6,600 万円. (取組代表者 : 柴田洋三郎) . 申請書作成メンバー&戦略連携室長.
- ・日本学術振興会「科学研究費補助金基盤研究 (A)」, 卒後 1 年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究 : 962 万円. 研究代表者.
- ・厚生労働省「厚生労働科学研究費補助金」, 平成 24 年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診, 乳幼児健診データの利活用に関する研究」班 : 80 万円, (主任研究者 : 山梨大学教授 山縣然太朗) . 分担研究者.
- ・北九州市「思春期保健連絡会委託事業」, 北九州の子どもを知るためのファクト・シート作り : 50 万円, 受託研究者.

5. 所属学会

日本思春期学会 (理事) , 日本看護科学学会, 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会, 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本保健福祉学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感染症学会, 日本ヘルスプロモーション学会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学 (1 年生) , 公衆衛生学 (4 年生) , 疫学, 学校保健, 性教育学, 教育方法論, 養護実習 (教育実習) , 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 専門看護ゼミ, 卒業研究, 不登校ひきこもり援助論, 不登校ひきこもり援助演習

<大学院>

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会・理事
- ・財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・九州思春期研究会・会長
- ・北九州市思春期保健連絡会・会長
- ・福岡市こども子育て審議会・副委員長
- ・ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム・担当代表教員

8. 学外講義・講演

- ・松浦賢長. (2013.10) . 性教育の現状と課題. 平成 25 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研修会, 福岡市.
- ・松浦賢長. (2013.1) . 子どもの健康課題とネットワーク作り ~養護教諭に期待されること~. 平成 24 年度 福岡県高等学校養護教諭研究会・福岡県教育委員会 学校保健課題解決支援事業研修会, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	山下 清香
----	---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、住民参加やエンパワーメント、地域ケアシステム、保健師教育について研究している。障害児の療育、地域における生活習慣病予防対策等に関心をもっている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 山下清香・鳩野洋子・前野有佳里・久保善子. (2012). 自治体における特定保健指導の質の管理システム導入の意義に関する検討—保健師の認識の変化から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第9巻第2号
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和. (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に関する学生の自己評価から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻第2号
- ・ 尾形由起子・山下清香・檜橋明子・伊藤順子. (2013). 地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討—保健所での多職種連携会議に焦点をあてて—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻第2号
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・野見山美和. (2014). 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第11巻第2号

②その他最近の業績

<報告書>

尾形由起子・山下清香・小野順子 (2012). 福智町日常生活圏域ニーズ調査報告書.

<学会発表>

- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子 (2012). 在宅療養神経難病患者を支援する保健師の調整技術. 第71回日本公衆衛生学会総会学術集会. 山口.
- ・ 尾形由起子・山下清香・小野順子・檜橋明子・木村てるみ (2012). 産後の母親の育児に対する気持ちと支援の必要性—乳幼児健診結果から—. 第1回日本保健師学術集会.
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和 (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—3年次・4年次の地域看護実習を通して—. 第1回日本公衆衛生看護学会, 東京
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子 (2014). 在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討. 日本公衆衛生看護学会学術集会. 小田原.
- ・ 小野順子・尾形由起子・山下清香・手島聖子・檜橋明子 (2014). 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—. 日本公衆衛生看護学会学術集会. 小田原.

③過去の主要業績

- ・ 山下清香 (2005). 経過観察児の母親のエンパワーメントに関する研究—乳幼児健診のフォロー事業の参加者を通して—. 修士論文
- ・ 有原一江, 安齋由貴子, 伊井久美子, 右京信治, 尾崎米厚, 山下清香他6名 (2005). 「平成17年度地域保健総合推進事業：市町村保健活動体制強化に関する検討会」報告書.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 野見山美和, 野口藍子 (2008). (平成18～19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発—保健師エンパワーメントモデル—」

5. 所属学会

日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本糖尿病教育・看護科学学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位，2年後期），専門看護学ゼミ（2単位，3年通年），地域看護実践論（1単位，3年通年），家族看護学（1単位，3年前期），在宅看護学演習（1単位，3年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位，3年後期），地域看護実習A-II（2単位，4年通年），地域看護実習B（4単位，4年通年），専門看護ゼミ（2単位：4年前期），統合実習（2単位，4年後期），地域看護実習B（4単位，4年後期），卒業研究（2単位，4年後期），地域看護学特論（2単位，大学院），ヘルスプロモーション看護学特別研究（2単位，大学院）

7. 社会貢献活動

- ・福岡県「福岡県感染症の診査に関する協議会」委員
- ・田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・田川市「田川市防災会議」委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学看護実践教育センター糖尿病認定看護師教育課程講師「指導計画案の作成」「糖尿病ケアシステム立案技術」2014年8月、2015年1月
- ・出前講義「地域の人々への看護活動」福岡県立鞍手高等学校 2014年10月
- ・「子どもたちのがんばりを支える親支援・地域支援に関する実践交流会」講師 2015年1月

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任教員
- ・オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	特任講師	氏名	阿部 真理子
----	---------------------	----	------	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

小学校、高等学校での 38 年間の養護教諭の実務経験をもとに、養護教諭養成教育を担当しています。

- ・学校看護婦廣瀬ますの実践に関する研究
- ・養護教諭のメンタルヘルスに関する研究
- ・健康教育（性・薬物）実践に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・学校現場から見た医療機関との関係づくり，平成 24 年 3 月，思春期学，VOL.30 No.1，日本思春期学会
- ・性教育学，平成 24 年，朝倉出版（pp58-60, pp77-81），荒堀憲二，松浦賢長，阿部真理子，尼崎光洋，石走知子，梅澤彩，オズジャン日香理，笠井直美，川端壮康，久保田英助，榊原秀也，坂口菊恵，助川明子，鈴木茜，竹原健二，劔陽子，當山紀子，永田雅子，仁木雪子，納富貴，服部律子，針間克己，平原史樹，細井陽子，松本亜紀，丸岡里香，三國和美，宮原春美，茂木輝順，森慶恵，山口幸伸，山崎明美，渡辺多恵子
- ・保健福祉学，平成 27 年 3 月，北大路書房（pp83-86）安梅勅江，田中笑子，富崎悦子，渡辺多恵子，住居広士，狩谷明美，藤林慶子，宣 賢奎，澤田優子，信原弘章，芳賀 博，松浦賢長，望月由紀子，藤原亮次，原田直樹，増満 誠梶原由紀子，野坂洋子，阿部真理子，新鞍真理子，井上智代，渡辺裕一，佐藤美由紀，斎藤恭平，植木章三，益満孝一，佐藤秀紀，徳田律子，八重田淳，佐藤繭美，志水田鶴子，磐田美香，大迫正晴，白男川尚，栗田修司，山本博之，助友裕子，黒木保博，松田正巳，清田明宏
- ・修学旅行を控えた事前指導について，平成 26 年 12 月，心とからだの健康，2014 年 12 月号，健学社

②その他の最近の業績

〈学会発表〉

- ・「養護教諭の専門性の探求，第二報，養護教諭の役割の視点から『廣瀬ます』の先駆的实践をみる」第 59 回日本学校保健学会（兵庫県神戸市）平成 24 年 11 月
- ・「養護教諭の役割の再考—廣瀬ますの先駆的实践から」第 26 回日本保健福祉学会（福岡県北九州市）平成 25 年 12 月
- ・「養護教諭の実践に影響する心理的要因」第 17 回日本学校メンタルヘルス学会，（帝京大学八王子キャンパス）平成 26 年 年 1 月
- ・「大学生対象の「いのちの教育」の 実践報告」第 15 回日本いのちの教育学会，（東海大学代々木校舎），平成 26 年 3 月

③過去の主要業績

- ・エイズ教育普及及び高校生のエイズ予防啓発活動に対する指導・支援等の取り組み，高校生エイズフォーラムの開催、教員対象の研修会の開催、HIV/AIDS 予防教育教材を自主制作し、神奈川県内の教育機関や保健所及び全国の関係機関に活用の実践事例集と共に配布する等の予防教育の推進を図る活動（平成 6 年～26 年 3 月），平成 13 年，神奈川レッドリボン賞授賞
- ・性教育推進等の教員としての業績を評価され文部科学大臣（平成 21 年 1 月）、神奈川県知事（平成 20 年 12 月）神奈川県教育長（平成 20 年 10 月）から優秀教員として表彰
- ・厚生労働省，平成 18 年度たばこ・アルコール対策担当者講習会，講師，平成 18 年 11 月
- ・アルコール関連問題予防研究会，講師，平成 20 年 3 月，「高校生の飲酒実態と県立大和西高等学校の薬物（アルコール）教育」

- ・精神科看護協会「薬物依存看護Ⅱ」講師地域連携への取り組み「学校保健室における取り組み」平成20年10月，高校生の飲酒実態と県立大和西高等学校の薬物（アルコール）教育」，平成22年10月

7. 社会貢献活動

福岡県立小郡特別支援学校，高等部生徒対象「性教育」プログラム開発，実践，平成27年3月

8. 学外講義・講演

- ・福岡中央特別支援学校「保健研修」職員研修講師，平成26年11月10日
- ・神奈川県保健福祉部保健医療部健康機器管理課，平成25年AIDS文化フォーラム内研修，講師，平成25年8月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	原田 直樹
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業，同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士，精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後，2008年より福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し，2010年8月に看護学部ヘルスプロモーション看護学系学校保健領域の教員として着任しました。

主な研究分野は，①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究，②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究，③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では，個人因と環境因との関係性に焦点を当て，様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます。学校保健福祉の視点から，学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

原田直樹. (2015). 第4章4節. 非行立ち直り支援の取り組み，第4章5節. 思春期における不登校児童生徒の支援，保健福祉学，日本保健福祉学会編著，北大路書房. 65-73

<論文>

- ・三並めぐる，福山聡美，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，岡多枝子. (2014). 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する考察. 福岡県立大学看護学部紀要，第11巻第1号，11-20
- ・原田直樹. (2013). 幼児健康度調査における発達に関する項目の通過率についての検討. 保健の科学，第55巻第8号，杏林出版. 535-542
- ・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満誠，松浦賢長. (2013). 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. 日本保健福祉学会誌，第20巻第1号，21-34
- ・原田直樹，野見山晴佳，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長. (2012). 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要，第10巻第1号，1-12
- ・中野榮子，安酸史子，郝曉卿，山住康江，東あゆみ，原田直樹，石田智恵美，清水夏子，佐藤香代，王婷婷，鄒継紅，牛慧君，艾華，蘇春香，侯曉妮. (2012). 東洋医療の健康観に基づく健康意識の日中比較. 福岡県立大学看護学研究紀要，第10巻1号，21-32

<報告書>

- ・渡辺多恵子，樋口善之，原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，鈴木茜，仁木雪子，秋山有佳，篠原亮次，市川香織，玉腰浩司，松浦賢長，山縣然太郎. (2014). 7.EPDSによる産後うつ頻度の把握に関する研究～健やか親子21最終評価に向けて～. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『『健やか親子21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究』 分担研究報告書，470-475
- ・樋口善之，三並めぐる，原田直樹，梶原由紀子，阿部眞理子，森慶恵，豊田菜穂子，福島由美子，土井智子，香田由美，内田郁美，徳永久美子，椿松真紀子，渡辺多恵子，北村喜一郎，鈴木茜，仁木雪子，磯田宏子，三國和美，丸岡里香，笠井直美，中野貴博，秋山有佳，篠原亮次，松浦賢長，山縣然太郎. (2014). 8.思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『『健やか親子21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究』 分担研究報告書，476-481

- ・安河内静子, 和田恵子, 坂元真理子, 舘英津子, 渡辺愛, 磯村毅, 磯貝恵美, 鈴木茜, 梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 竹末加奈, 原田正平, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2012). 妊娠から育児期の喫煙に関する研究～4か月健診時調査の結果～. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業, 「健やか親子21を推進するための母子保健情報利活用に関する研究」平成23年度総括・分担研究報告書, 91-101
- ・梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 宮城雅也, 山崎嘉久, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2012). 特別支援学校における特定行為に関する研究～全国の特別支援学校へのアンケート調査の結果～. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業, 「健やか親子21を推進するための母子保健情報利活用に関する研究」平成23年度総括・分担研究報告書, 102-107

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長(2013)特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題ー全国調査の結果からー. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・三並めぐる, 梶原由紀子, 原田直樹, 松浦賢長(2013)喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響についてー大学生の調査からー. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・梶原由紀子, 三並めぐる, 原田直樹, 松浦賢長(2013)学童期の子どもの空腹感の時間帯と生活習慣の関連について. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 中学校における生徒指導と生徒の発達障害に関する研究. 第31回日本思春期学会総会・学術集会, 長野.
- ・松浦賢長, 三並めぐる, 梶原由紀子, 原田直樹. (2012). 高校生の体型認識と家族との関わりについての研究. 第31回日本思春期学会総会・学術集会, 長野.
- ・三並めぐる, 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 不登校児童生徒のきょうだいの経験と振り返り. 第31回日本思春期学会総会・学術集会, 長野.
- ・梶原由紀子, 三並めぐる, 原田直樹, 松浦賢長. (2012). 特別支援学校における教員の特定行為に関する不安感と期待感. 第31回日本思春期学会総会・学術集会, 長野.
- ・岡本浩美, 原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 総合型地域スポーツクラブへの障がい児等の受け入れ実態と支援について. 第31回日本思春期学会総会・学術集会, 長野.

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究ー家庭支援へ向けての考察ー. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 11-18
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 1-9
- ・原田直樹, 松浦賢長. (2010). 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第16巻第2号, 13-22

3. 外部研究資金

- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 C), 不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査ー大学生の関わりを中心にー, 208万円, 平成26年度～平成28年度
- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 C), 学習面・行動面の困難を抱える不登校の高校生への社会的自立支援ツールの開発, 182万円, 平成23年度～平成25年度(期間延長:26年度まで)

5. 所属学会

日本保健福祉学会, 日本思春期学会, 日本学校ソーシャルワーク学会, 日本地域福祉学会, 日本学校保健学会, 日本看護学会, 福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・1単位・1年・前期, 情報処理演習Ⅱ・1単位・1年・前期, 不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期, 社会貢献論・2単位・1年, 統計学・2単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 保健統計学・2単位・2年・前期, 養護概説・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・2・3年・後期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・1単位・4年・前期, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 公衆衛生学・1単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期, 不登校・ひきこもり援助応用演習・1単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 思春期ヘルスプロモーション特論・2単位・大学院1年・前期, 思春期ヘルスプロモーション演習・2単位・大学院1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本保健福祉学会幹事
- ・九州思春期研究会幹事
- ・赤村子ども・子育て会議会長
- ・特定非営利活動法人ひこうせん理事長
- ・田川市立鎮西小学校 学校評議員・学校関係者評価委員
- ・田川総合型地域スポーツクラブ EAST クラブ実行委員

8. 学外講義・講演

- ・築城特別支援学校. 保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業講師, 2014年
- ・添田町立落合小学校. 薬物乱用防止教室講師, 2014年
- ・朝倉市立秋月中学校. 薬物乱用防止教室講師, 2014年
- ・朝倉市立比良松中学校. 薬物乱用防止教室講師, 2014年
- ・平成26年度糸田町青少年健全育成推進会議「いとだっ子の健全育成講演会」講師, 2015年

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	吉田 恭子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みと同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。そのため、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています。また、病歴が長い糖尿病を抱える高齢者への関わりを検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 吉田恭子, 渡邊智子. (2014). 10年後もその先も、住みたいところに住み続ける互助・共助—地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題—, 認知症ケア事例ジャーナル, 第6巻第4号, 391-396
- ・ 吉田恭子, 勝田和典, 酒井出, 井上俊孝, 権藤美和子, 堤素子. (2012). 韓国大田広域市における高齢者福祉の現状—大田広域市の現地調査を通して—, 九州社会福祉研究, 第37号, 15-26
- ・ 榎直美, 吉田恭子, 江上史子, 福田和美, 安酸史子. (2011). 地域住民の主体的健康活動の質を高める支援に関する検討—参加・共同型看護ゼミでの体験を通して得られた効果の検証—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第8巻第2号, 75-82
- ・ 清水夏子, 吉田恭子, 永嶋由理子, 渡邊智子, 江上千代美, 小森直美, 安永薫梨, 尾形由紀子, 中野榮子, 石川フカユ, 鳥越郁代, 宮城由美子, 野口藍子. (2011). 助教・助手を対象とした経験型実習教育での直接的経験の教材化に関する研修会実践報告—ロールプレイを活用した学びの検討—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第8巻第1号, 37-45

〈調査研究報告書〉

- ・ 吉田恭子, 渡邊智子. (2012). 「認知症高齢者のためのご近所相談員育成プログラムの開発—高齢者どうしの共助による地域ケア再生を目指して—」平成23年度田川市と福岡県立大学との共同研究報告書(中間)
- ・ 吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子. (2011). 「小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームへの教育プログラムの検討」平成22年度看護系学会等社会保険連合研究助成報告書

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 勝田和典, 吉田恭子, 在宅医療推進時代における退院調整の困難の現状, 第27回日本看護福祉学会学術大会, 2014年7月.
- ・ 吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活かした認知症高齢者の支援プログラム 第2報, 第14回日本認知症ケア学会大会, 2013年6月.
- ・ 吉田恭子, 岡崎美智子, 平木尚美, 岡部由紀夫, 中島洋子, 小規模多機能型居宅介護における看取りケア, 第26回日本看護福祉学会学術集会, 2013年7月.
- ・ 吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活用した認知症高齢者の支援プログラム 第1報, 第13回日本認知症ケア学会大会, 2012年5月.
- ・ 吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子, 小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームの教育プログラムの検討, 第25回日本看護福祉学会学術集会, 2012年7月.

- ・梅木美恵, 迎田直美, 土谷祐子, 樋口絹代, 吉田恭子, 独居や高齢者世帯が多い地域での在宅サービス調整を困難にしている現状—介護支援専門員が苦悩している事例から—, 第 43 回日本看護学会 地域看護, 2012 年 9 月.
- ・榎直美, 吉田恭子, 安酸史子, 中野榮子, 渡邊智子, 松枝美智子, 江上史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減—, 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 2012 年 11 月.
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子, 小規模多機能型居宅介護における看護・介護への思い, 第 12 回日本認知症ケア学会大会, 2011 年 9 月.
- ・石本佐和子, 吉田恭子, 生きがいを見出せない維持透析患者の気持ちが前向きに変化した支援—家族エンパワーメントモデルを用いての看護の振り返り—, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.
- ・桑原京子, 吉田恭子, 「看護の教育的関わりモデル Ver.6.1」に基づく看護過程の検討—高齢糖尿病患者への関わりを振り返っての考察—, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.
- ・松崎ふみ, 吉田恭子, 緩徐進行1型糖尿病患者の学ぶ気持ちへの支援における視点—成人教育論を用いて—, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.

〈商業誌掲載〉

吉田恭子 (共著). (2012). 患者さん・スタッフの質問にナースが答える糖尿病ケア Q&A200. 糖尿病ケア 2012 年春季増刊, 209-213

③過去の業績

吉田恭子. (2010). 2 年課程通信制看護教育「在宅看護論」における新聞記事を用いた教育方法の検討—成人教育学モデルの観点から—, 九州社会福祉研究, 第 35 号, 59-72

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金 (基盤研究 C), 「小規模多機能型居宅介護における看取りケアに関する研究」, 平成 26 年～平成 28 年度, 4,030,000 円

5. 所属学会

日本看護福祉学会, 日本認知症ケア学会, 日本老年看護学会, 日本社会福祉学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期, 在宅看護学・2 単位・2 年, 在宅看護学演習 I・1 単位・3 年・前期, 在宅看護学演習 II・1 単位・3~4 年・通年, 在宅看護学実習・2 単位・3~4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程で「ライフステージに応じた生活調整・療養支援」「患者及び家族・重要他者などの対象理解」を担当
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」に通年で参加

8. 学外講義・講演

田川市社会福祉協議会, いきいき福祉大学, 「食べることを考える」, 2015 年 3 月

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	梶原 由紀子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

「特別支援学校における特定行為に関する調査研究」

医療技術の進歩や在宅医療の推進、ノーマライゼーション理念の普及や重度の障害をもちながら地域で暮らす子どもの増加に伴い、医療的ケアを必要としながら特別支援学校に通学する子どもたちも増加しています。また、社会福祉士および介護福祉法の一部改正に伴い、喀痰吸引等の医療的ケアを特別支援学校教員も制度上実施することができるようになったことから、特別支援学校における特定行為に関する調査を行っています。特別支援学校において医療的なケアを必要とする児童生徒一人一人が安全に、そして安心したケアを受けるために研究を深めていきたいと思っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

梶原由紀子他. 保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践、第4章7節 医療的ケアを必要とする子どもと親の支援、日本保健福祉学会 編集、北大路書房. 77-80、2015.

〈論文・報告書〉

- 梶原由紀子、原田直樹、三並めぐる、宮路雅也、山崎喜久、松浦賢長、山縣然太郎. 特別支援学校における特定行為に関する研究 ～全国の特別支援学校へのアンケート調査の結果～厚生労働科学研究（育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業）健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究. 平成23年度総括・分担研究報告書、査読無、102-107、2012.
- 原田直樹、野見山晴香、三並めぐる、梶原由紀子、松浦賢長. 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部研究紀要 2012、査読あり、1-9、2012年12月号.
- 安河内静子、和田恵子、坂元真理子、館英津子、渡辺愛、磯村毅、磯貝恵美、鈴木茜、梶原由紀子、原田直樹、三並めぐる、竹末加奈、原田正平、松浦賢長、山縣然太郎. 妊娠から幾世紀の喫煙に関する研究—4か月児健診時調査の結果— 厚生労働科学研究（育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業）健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、平成23年度総括・分担研究報告書、査読無、91-101、2012.
- 梶原由紀子、原田直樹、三並めぐる、増満誠、松浦賢長. 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. 日本保健福祉学会誌、2013.Vol.20、No. 1、査読有、21-34、2013.
- 三並めぐる、福山聡美、原田直樹、梶原由紀子、松浦賢長、岡多枝子. 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する研究. 福岡県立大学看護学研究紀要 11(1)、11-20、2014.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 梶原由紀子、三並めぐる、原田直樹、松浦賢長（2012、9）特別支援学校における教員の特定行為に関する不安感と期待感.第31回日本思春期学会総会・学術集会、長野.
- 原田直樹、三並めぐる、梶原由紀子、松浦賢長（2012、9）中学校における生徒指導と生徒の発達障害に関する研究.第31回日本思春期学会総会・学術集会、長野.
- 三並めぐる、原田直樹、梶原由紀子、松浦賢長（2012、9）不登校児童生徒きょうだいの経験と振り返り.第31回日本思春期学会総会・学術集会、長野.
- 松浦賢長、三並めぐる、梶原由紀子、原田直樹（2012、9）高校生の体型認識と家族との関わりについての研究.第31回日本思春期学会総会・学術集会、長野.

- ・岡本裕美、原田直樹、三並めぐる、梶原由紀子、松浦賢長（2012、9）総合型地域スポーツクラブへの障がい児等の受け入れ実態と支援について。第31回日本思春期学会総会・学術集会、長野。
- ・梶原由紀子、三並めぐる、原田直樹、松浦賢長（2013、9）学童期の子どもの空腹感の時間帯と生活習慣の関連について。第32回日本思春期学会総会・学術集会、和歌山。
- ・原田直樹、三並めぐる、梶原由紀子、松浦賢長（2013、9）特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題-全国調査の結果から-。第32回日本思春期学会総会・学術集会、和歌山。
- ・三並めぐる、梶原由紀子、原田直樹、松浦賢長（2013、9）喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について-大学生の調査から-。第32回日本思春期学会総会・学術集会、和歌山。
- ・梶原由紀子。（2013、9）特別支援学校養護教諭の特定行為実施におけるリスク認識に関する研究、第26回日本保健福祉学会学術集会、福岡。
- ・樋口善之、三並めぐる、原田直樹、梶原由紀子、松浦賢長、山縣然太郎。（2014、8）思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究、第62回九州学校保健学会、福岡。

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本思春期学会、日本学校保健学会、九州学校保健学会、日本精神保健看護学会、日本母性衛生学会、九州思春期研究会。

6. 担当授業科目（補助）

教養演習・2単位・1年・前期、公衆衛生学・2単位・1年・後期、養護概説・2単位・2年・後期、保健統計学・2単位・2年・後期、教育方法論・2単位・看護2年編入3年／人社3年・後期、疫学・2単位・2年・後期、性教育学・2単位・看護4年／人社3年・前期、養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期、学校保健・1単位・4年・前期、養護実習・4単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、公衆衛生学・1単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期、卒業研究・2単位・4年・後期、教職実践演習（養護教諭）・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・九州思春期研究会、幹事
- ・久留米市思春期保健ファクトシート開発会議メンバー
- ・田川総合型地域スポーツクラブ EAST クラブ実行委員

8. 学外講義・講演

伊田校区活性化協議会・伊田校区自主防災会主催「伊田校区救急救命講習会」

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターキャンパススクール担当教員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	手島 聖子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2000年から乳幼児健康診査を通じた養育者の育児ストレスと育児支援システムについて研究を進めています。本研究は、乳幼児虐待問題という最も先鋭化されたかたちで現れている子育ての危機の内実とその援助のあり方を、乳幼児健康診査を手がかりにしながら理論面と実践面での両面からのアプローチを目指したものです。具体的には、養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、心理的・社会的に困難な状況におかれている養育者の育児不安や育児ストレスを早期に把握するための調査を実施しています。作成した尺度の有用性や育児不安の縦断的变化についての検討、養育者へのインタビューなどから、母子保健システムに虐待の視点を取り入れた多層的な育児支援システムのあり方について考察しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和. (2014). 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学部紀要, 11 (2).
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和. (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から—. 福岡県立大学看護学部紀要, 10 (12).

<報告書>

尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 本郷秀和, 村山浩一郎. (2014). 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子. (2015). 保健師のリカレント教育を考える—卒業生への新人保健師交流会を開催して(第一報)—. 第3回日本公衆衛生看護学会, 2015年1月.
- ・小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 手島聖子, 檜橋明子. (2014). 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—. 第2回日本公衆衛生看護学会, 2014年1月.
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和. (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—3年次・4年次の地域看護実習を通して—. 第1回日本公衆衛生看護学会, 2013年1月.

③過去の主要業績

- ・手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通じた子育て支援と児童虐待の予防について. (財)安田生命社会事業団 2001年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通じた育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2004). 育児不安の構造. 久留米大学心理学研究, 3, 83-88.

5. 所属学会

日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本地域看護学会, 日本心理学会, 日本発達心理学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・後期，地域看護活動論・2単位・2年・後期，家族看護学・1単位・3年・前期，公衆衛生看護学Ⅱ・1単位・3年・後期，在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，地域看護実践論・1単位・3年 編入4年・通年，地域看護実習A-Ⅱ・4年・2単位・通年，地域看護実習B・4年・4単位・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	檜橋 明子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

保健師として保健所に勤務し、主に難病対策、感染症対策に関わった後、2009年に本学に着任した。2012年、福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士号(看護学)を取得した。

病気や障害を持って自宅でも生活できる地域づくりに興味を持っており、具体的に取り組んでいる研究内容は、難病患者の療養支援に関する事、災害における保健師活動に関する事、保健師教育に関する事である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 檜橋明子. 在宅で療養する神経難病患者の支援ネットワーク形成に対する保健師の調整技術. 福岡県立大学看護学研究科 修士論文 2012
- ・ 檜橋明子, 西上あゆみ, 深谷真智子. 新燃岳噴火災害初動調査報告. 日本災害看護学会誌, 13巻3号, p28-29, 2012
- ・ 尾形由起子, 山下清香, 檜橋明子, 伊藤順子. 地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討ー保健所での他職種連携会議に焦点をあててー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻2号, p53-63, 2013
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和. A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討-「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から-. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻2号, p73-82, 2013
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和. (2014). 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学部紀要, 11(2), 2014.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 木村てるみ. 産後の母親の育児に対する気持ちと支援の必要性ー乳幼児健診結果からー. 第1回日本保健師学会. 2012年1月, 東京.
- ・ 檜橋明子, 西上あゆみ, 深谷真知子. 新燃岳噴火災害における避難所生活の特徴, 第14回日本災害看護学会, 2012年7月, 名古屋.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 在宅療養神経難病患者を支援する保健師の調整技術, 第71回日本公衆衛生学会 2012年10月, 山口.
- ・ 尾形由起子, 山下清香, 檜橋明子, 伊藤順子. 地域医療推進における保健所保健師の会議企画運営技術の検討第71回日本公衆衛生学会 2012年10月, 山口.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和. A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討ー3年次・4年次の地域看護実習を通してー, 第1回日本公衆衛生看護学会学会学術集会 2013年1月, 東京.
- ・ 津田 智子, 佐藤 香代, 安河内 静子, 田中 美樹, 檜橋 明子, 生野 繁子, 北川 明, 松浦 賢長, 安酸 史子. 大学が行う新人看護師を対象とした看護技術支援とその評価. 第39回看護研究学会学術集会 2013年8月, 秋田.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 在宅療養神経難病患者支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会 2014年1月, 小田原.
- ・ 小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 手島聖子, 檜橋明子. 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会 2014年1月, 小田原.

- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子. 保健師のリカレント教育を考えるー卒業生への新人保健師交流会を開催して(第1報)ー. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会 2015年1月, 神戸.

③過去の主要業績

<報告書>

伊東愛, 檜橋明子. (2009). 本学教員における災害看護支援活動の調整～新潟中越沖地震(2007年7月16日)への本学教員の派遣調整活動. 兵庫県立大学大学院看護学研究科 21世紀COEプログラム ユビキタス社会における災害看護拠点の形成 看護専門家支援ネットワークプロジェクト活動(平成15～19年度) 27-30.

<学会発表>

- ・大塚純子, 檜橋明子. 特定疾患患者へのアンケート. 第63回日本公衆衛生学会. 2004年10月, 島根
- ・檜橋明子, 牛尾裕子, 岩佐真也, 伊東愛, 井伊久美子. (2007). 地域看護実習における大学と現地保健師との共同～実習終了後の会議を通して～. 第66回日本公衆衛生学会. 2007年10月, 松山
- ・檜橋明子, 牛尾裕子, 松田宣子, 岩本里織, 柏葉三千子, 菅野夏子, 富永真己, 大井美紀, 伊東愛, 岩佐真也. 県内保健所, 保健センターにおける地域看護実習指導の現状と保健師の認識(第2報). 第67回日本公衆衛生学会. 2008年10月, 福岡

5. 所属学会

日本公衆衛生学会・日本地域看護学会・日本災害看護学会・日本看護教育学会・日本看護科学学会・日本看護研究学会・日本看護歴史学会・日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目(補助)

<学部>

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期, 家族看護学・1単位・3年・前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期, 専門看護学ゼミ・3年・2単位・通年, 地域看護実習A-II・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・4年・2単位・前期, 統合実習・4年・2単位・後期, 地域看護実践論・1単位・編入4年・後期, 地域看護実習B・4単位・編入4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本ALS協会 福岡県支部 運営委員
- ・田川市老人ホーム入所判定委員

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	吉村 美奈子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

温罨法が心地よさ感じられる看護技術として多くの医療現場や在宅で簡便に取り入れられるよう、その効果、手技について検証することに取り組めます。

2. 研究業績

③過去の主要業績

- ・ 前腕部温罨法と密閉式足浴法が皮膚温、皮膚血流量、皮膚血流脈波形および主観的反応に及ぼす影響：日本生理人類学会誌 vol.14 No.2 p39-48
- ・ 嚔下障害患者に対する NOC5 段階尺度における基準化の取り組み：看護診断 Vol.11No.1 p40-47

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、在宅看護学演習Ⅱ(補助)・1単位・3年・後期～4年・前期、在宅看護学実習・2単位・3年・後期～4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	杉本 みぎわ
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

介護保険導入以前より在宅看護にかかわり、介護保険制度の変遷の中で訪問看護の果たす役割について実践の中で常に考えてきました。また、超高齢化を迎える時代の中で、高齢者や、がんのターミナル期の方々が、安心して在宅で最期まで暮らせるための在宅医療・介護の連携のあり方について、厚生労働省のモデル事業として開設した東京、新宿区にある「暮らしの保健室」での活動を通して研究してきました。地域包括ケアシステムにおける要ともなる訪問看護の展望について、さらに研究を重ねるとともに、それぞれの地域に即した地域包括ケアシステムの実現に向けての研究を継続します。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 杉本みぎわ、がん治療が点在する新宿区に「暮らしの保健室」が存在する意義”、看護管理、医学書院、2015年2月
- ・ 杉本みぎわ、地域から発信する「暮らしの保健室」の地域包括ケア、他職種連携のハブ的役割、高齢者ケア実践事例集、第一法規、2014年9月

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	中村 美穂子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、癌を患い、癌による症状および治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす人、そして、残された時間、最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者、家族の想いに触れてきた。しかし、現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者、家族の願いを叶えるためには、地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。本学において、在宅での看取りをサポートしていくためへの課題や支援についてを、保健師の視点も合わせながら探究していきたいと思っている。

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、家族看護学・1単位・3年、前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年、通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員